

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第186集

白山遺跡群 下原遺跡

長野県佐久市三河田・横和

下原遺跡発掘調査報告書

2011. 3

佐 久 市

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第186集

白山遺跡群 下原遺跡

長野県佐久市三河田・横和

下原遺跡発掘調査報告書

2011. 3

佐 久 市

佐久市教育委員会



弥生時代中期の住居 (H10号住居址)



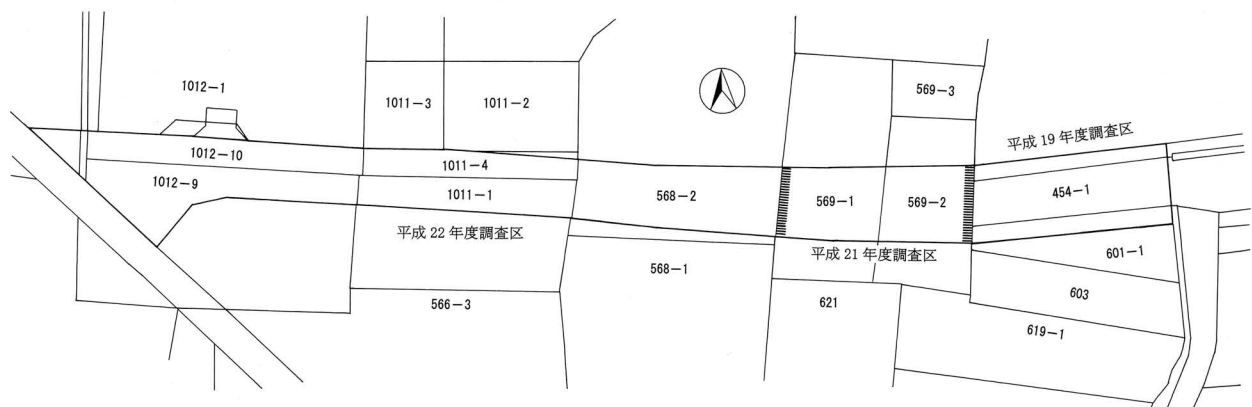
古墳時代前期の土器 (H1号住居址)

例 言

1. 本書は、佐久市建設部高速交通課における平成19年度地方道路整備交付金事業、平成21年度地域活力基盤創造交付金事業、平成22年度社会資本整備総合交付金事業による市道S14-18号線(今井北線)道路改良工事に伴う白山遺跡群下原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 佐久市(建設部高速交通課)
3. 調査主体者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名 白山遺跡群下原遺跡(略称 MHS)
5. 所在地 佐久市三河田字下原454-1、569-1、569-2、568-2
横和字下原1011-1、1011-4、1012-9、1012-10
6. 調査期間 現場調査 平成20年1月25日～2月21日
平成21年11月6日～11月30日
平成22年6月3日～8月31日
整理調査 平成20年2月22日～3月24日
平成21年12月1日～平成22年3月15日
平成22年8月10日～平成23年3月25日
7. 調査面積 1,733.42㎡(平成19年度360㎡、平成21年度369.82㎡、平成22年度1003.6㎡)
8. 本書の編集・執筆は上原・須藤が行った。
9. 出土遺物および調査に関する記録類は一括して、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略称 H-竪穴住居址、Ta-竪穴状遺構、F-掘立柱建物址、M-溝址、D-土坑、P-ピット
2. 挿図の縮尺 遺構の縮尺は図中に明記 遺物の縮尺はキャプションに明記
3. 遺物写真の番号と縮尺 実測図・表と一致
4. 挿図の色・スクリーン・記号 赤-赤色塗彩、断面黒-須恵器、斜線-地山断面、編目-炉、細編目-粘土、S-礫、●-遺物出土地点・番号は挿図・表に対応、点線-堀方
5. 表の記号 △推定値 *現存値
6. 基準点座標 平成19年度調査区は旧測地系、平成21・22年度調査区は世界測系による。
7. 土層の色調 1995年版『新版 標準土色帖』



調査位置・公図 (1 : 1,250)

目 次

巻頭カラー
例言
凡例
目次

| | |
|---------------------------|----|
| 第 I 章 発掘調査の概要 | 1 |
| 第 1 節 調査の経過 | 1 |
| 第 2 節 調査体制 | 2 |
| 第 3 節 検出遺構・遺物の概要 | 2 |
| 第 II 章 遺跡の環境と周辺遺跡 | 4 |
| 第 1 節 自然環境 | 4 |
| 第 2 節 周辺遺跡 | 5 |
| 第 III 章 遺構と遺物(平成19年度調査) | 7 |
| 第 1 節 竪穴住居址 | 7 |
| 第 2 節 竪穴状遺構 | 8 |
| 第 3 節 土坑 | 15 |
| 第 4 節 掘立柱建物址 | 18 |
| 第 5 節 溝址 | 18 |
| 第 6 節 ピット | 19 |
| 第 IV 章 遺構と遺物(平成21・22年度調査) | 23 |
| 第 1 節 竪穴住居址 | 23 |
| 第 2 節 竪穴状遺構 | 49 |
| 第 3 節 井戸址 | 49 |
| 第 4 節 掘立柱建物址 | 52 |
| 第 5 節 溝址 | 52 |
| 第 6 節 土坑 | 55 |
| 第 7 節 ピット | 55 |

写真図版

第 I 章 発掘調査の概要

第 1 節 調査の経過

白山遺跡群は、北方の湯川と南方の千曲川及び滑津川に挟まれた東西に長い台地上に位置する。弥生時代から中世の複合遺跡で、標高は668m内外を測る。調査区周辺には北方の寄塚遺跡群、東方の今井西原遺跡、南東に今井宮の前遺跡、今井城跡等多くの遺跡群が存在し、近年では、平成17年に北東の寄塚遺跡群寄塚遺跡において県道拡幅工事に伴う発掘調査が行われ、弥生時代中期後半を主体とする遺構・遺物が発見されている。また調査区の東方ではいくつかの遺跡群を南北方向に貫くように高速道路建設工事が行われており、平成18年に県埋蔵文化財センターによる事前の発掘調査によって、弥生時代中期の竪穴住居址等の遺構及び遺物が発見されている。

今回、佐久市建設部高速交通課による道路改良工事が白山遺跡群内に計画されたため、遺構の確認を目的とした試掘調査を平成19年4月と平成22年4月に実施した。結果、住居址等の遺構が認められたことから、遺跡の記録保存を目的として、佐久市教育委員会が主体となり、平成19年度・平成21年度・平成22年度の3年度に渡る発掘調査を実施した。



第 1 図 白山遺跡群下原遺跡 (●) 位置図 (1 : 50,000)

第2節 調査体制

平成19年度

調査主体者 佐久市教育委員会 教育長 木内 清
事務局 社会教育部長 柳沢義春
社会教育部次長 山崎明敏
文化財課長 中山 悟(4月～6月) 森角吉晴(7月～)
文化財調査係長 三石宗一
文化財調査係 林 幸彦 並木節子 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也
富沢一明 神津 格 上原 学 出澤 力

調査担当者 上原 学

調査員 浅沼勝男 安藤孝司 岩崎重子 江原富子 土屋武士 中嶋フクジ 萩原宮子
比田井久美子 細萱ミスズ 武者幸彦 横尾敏雄 依田美穂 依田三男 渡邊久美子 渡辺長子

平成21年度

調査主体者 佐久市教育委員会 教育長 木内 清(4月～5月) 土屋盛夫(5月～)
事務局 社会教育部長 内藤孝徳(4月～6月) 工藤秀康(7月～)
社会教育部次長 金澤英人(4月～5月)
文化財課長 森角吉晴
文化財調査係長 三石宗一
文化財調査係 林 幸彦 並木節子 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也
富沢一明 神津 格(4月～9月) 上原 学
井出泰章(10月～) 出澤 力

調査担当者 須藤隆司

調査員 浅沼ノブ江 安藤孝司 岡村千代美 菊池喜重 小林百合子 土屋武士
中嶋フクジ 日向昭次 細萱ミスズ 渡邊久美子 渡辺 学

平成22年度

調査主体者 佐久市教育委員会 教育長 土屋盛夫
事務局 社会教育部長 工藤秀康
文化財課長 森角吉晴
文化財調査係長 三石宗一
文化財調査係 林 幸彦 並木節子 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也
富沢一明 上原 学 井出泰章 出澤 力

調査担当者 須藤 隆司

調査員 浅沼ノブ江 飯塚一男 市川明子 碓氷知子 岡村千代美 小幡弘子 狩野小百合
菊池喜重 小林百合子 堺 益子 里見理生 清水律子 田中ひさ子 中澤 登 広瀬梨恵子
細萱ミスズ 本田慶二 柳澤孝子 渡邊久美子

第3節 検出遺構・遺物の概要

遺 構 竪穴住居址18軒:弥生時代9軒・古墳時代6軒・奈良時代3軒
竪穴状遺構27基:中世、掘立柱建物址7棟:古墳・中世、土坑97基:中世、
井戸址1基:中世、溝址5条:奈良・中世、ピット529基:古墳・中世

遺 物 弥生土器・土師器・須恵器・中世陶磁器、石器・石製品(石鏃・磨製石斧・敲石・砥石・編物石・硯
等)、金属器(釘等)、古銭、貝殻

第Ⅱ章 遺跡の環境と周辺遺跡

第1節 自然環境

佐久地域は、周辺を山地に囲まれた盆地を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には雄大な浅間山、南には蓼科山が存在する。東には群馬県との境を成す北関東山脈の北端が延び、西は御牧ヶ原・八重原といった小高い台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。

佐久地域における水系の代表は、南方の川上谷に源を発す千曲川であり、北流しながら支流を集めつつ水量を増して佐久平に入る。その後野沢付近から流れを北西に変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間の麓に源を発す湯川、関東山地からの支流を集めた滑津川といった河川と合流し、蛇行しながら上田、長野方面に流れる。



空から見た下原遺跡

この山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地の佐久平は、地質学的に見ると大きく二分することができ、志賀川と滑津川が合流し、さらに千曲川と川筋を一つにする東西線を境として、河川の北側段丘上と南側では20m前後の比高差が認められる。この北部地域は北方の浅間山麓部の緩やかな台地で、浅間の噴出物である火砕流(軽石流)が厚く堆積している。この堆積物は雨水による浸食に弱く長い年月の間に深く削り取られ、浅間の麓から放射状に幾筋もの垂直に切り立った浸食谷(田切り地形)を形成している。

これに対し南部地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地等で、河床礫層と沖積粘土層地帯が主で地下水位も高く、地盤の安定した土地である。このため南部一帯は広く水田として利用されていた。

今回調査を実施した下原遺跡は、北部台地の南端、湯川と千曲川・滑津川に挟まれた標高668m内外の地域に位置する。この台地は、現在の浅間山が形成される以前、2,800mを超える火山であった黒斑火山が山体を吹き飛ばす大噴火の後、現在浅間山の中心を成す前掛山に成長する際に軽石流が大きく2度に渡り堆積し形成された(下層から佐久市北部地域の第一軽石流・P1、佐久市北端地域の第二軽石流・P2)。その厚さは30mを超え、現在はこの堆積した黄褐色ローム土を表土である黒褐色土がおおっている。

平成19年度調査区一帯は水田として広く使用されており、堆積層上面は水田床土となっているが調査区の大半は水田床土まで鋤き取られ、耕作土と入れ替え畑地となった後、さらに客土され農道として使用されていた。よってⅠ層は道路客土、Ⅱ層は暗褐色の耕作土、Ⅲ層は軽石流二次堆積の黄褐色ローム(一部黄褐色砂層)である。遺構確認はⅢ層上面で行った。

平成21・22年度調査区は畑地であり、Ⅰ層は耕作土、Ⅱ層は部分的に残存した暗褐色漸移層、Ⅲ層は砂層が貫入する軽石流二次堆積層であった。遺構確認面はⅡ・Ⅲ層である。なお、ごみ穴や土取による大規模な攪乱が存在し、多くの遺構を破壊していた。また、平成22年度調査区北西の1012-9地番は道路・水道建設によりⅢ層上部まで破壊され、遺構の残存も確認されなかった。

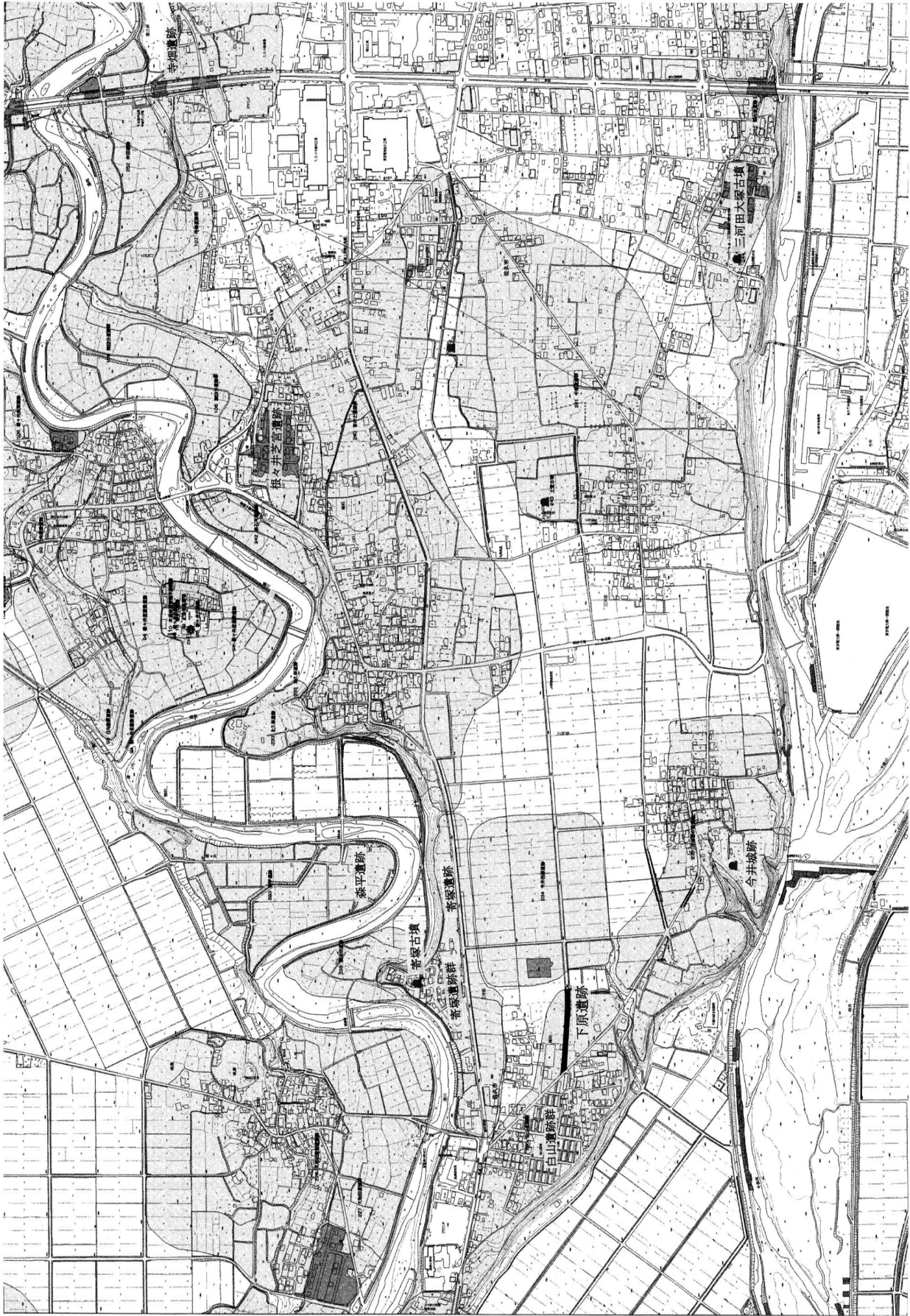
第2節 周辺遺跡

白山遺跡群下原遺跡は、西流する北方の湯川と南方の千曲川・滑津川に挟まれた浅間山起源の軽石流で形成された台地上に位置する。台地の内陸部は、南北の河川との比高差があり、生活用水に乏しい地域で、現在こそ広く水田として利用されているが、これも江戸時代初頭元和年間(1615~1623)に市川五郎兵衛によって補完完成したと伝えられる三河田用水が開いてからのこととされている。このため、古代における生活の中心は河川に近い台地端部にかたよっていたと考えられ、遺跡の分布状況もこれを裏付けるかのように存在している。

台地北の湯川沿いでは、平成6・7年に道路建設に先立つ調査によって、縄文時代草創期に位置づけられる爪形文土器の良好な資料群が寺畑遺跡で発見されている。13,000年前の軽石流大災害の後、11,000年前に人々が居住を再開したことを示す重要な遺跡である。

湯川流域には弥生時代中期後半の集落群が展開している。周辺の左岸台地では、竪穴住居址43軒を調査した根々井芝宮遺跡、竪穴住居址10軒を調査した寄塚遺跡があり、右岸台地では竪穴住居址11軒を調査した森平遺跡がある。下原遺跡においても弥生時代中期後半の竪穴住居址9軒が調査され、以上の集落群との関連が課題である。特に根々井芝宮遺跡では石鏃製作に関わる黒曜石石器群が壺に収納された状態で発見され、寄塚遺跡・下原遺跡の黒曜石石器群も製作技術と流通のあり方として注目される。また、粗粒玄武岩の大型蛤刃石斧、利用石材に多様性のある扁平片刃石斧の生産・流通のあり方も湯川流域集落群と地域社会の課題として注目される。

古墳時代では滑津川に面した台地南端に大型の石室をもつ三河田大塚古墳が7世紀に築造され、中世では隣接して今井城跡が展開する。

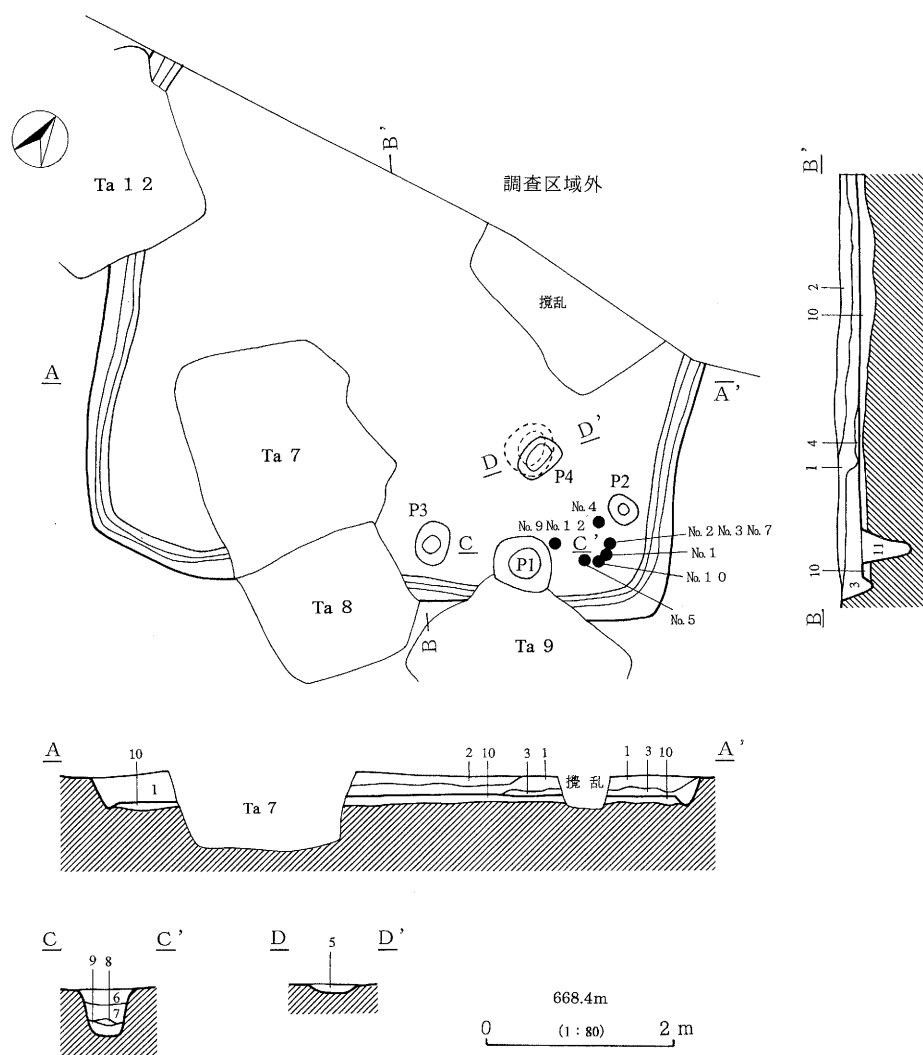


第3図 周辺の遺跡 (1 : 12,500)

第Ⅲ章 遺構と遺物(平成19年度調査)

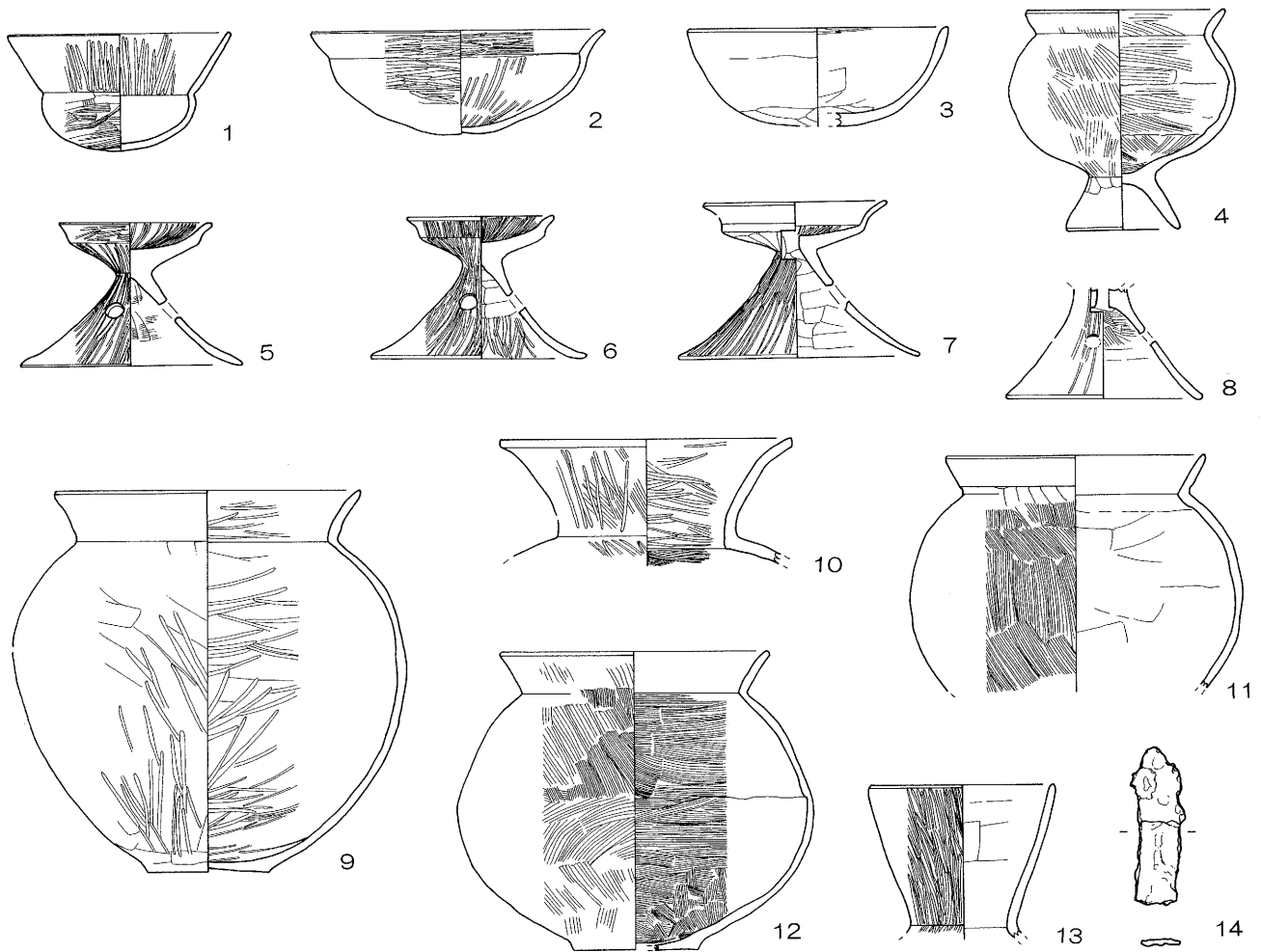
第1節 竪穴住居址

H1号住居址は調査区北東のB43グリッドに位置し、一部は調査区域外となり、床面、壁などをTa 7・8・9・12号竪穴状遺構に切られる。規模は東西6.2m、南北は調査規模の最大で4.8m、確認面から床面までの深さは最大30cmを測る。平面形態は調査状況から方形と思われる。床面はやや硬さを持つが土間状ほどではない。壁際には周溝が巡り、ピットは4個確認できた。P1は支柱穴と思われる。他の支柱穴は調査区域外又は竪穴状遺構に破壊されている。時期的に床面上に炉の存在が予測され、床面精査を行った結果、P1北に径50cmの窪みを発見したが、焼土の堆積が認められないことから炉とは確定できなかった。遺物は残存した床面直上から状態の良好な器台・小型丸底壺・鉢・甕等が出土した。本住居址は、出土遺物の特徴から4世紀後半としたい。



- | | |
|-------------------------------|--|
| 1. 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・軽石。 | 7. 黒褐色土 (10YR2/3) ローム粒・炭化物少量。 |
| 2. 暗褐色土 (10YR3/4) 軽石粒微量。 | 8. 褐色土 (7.5YR4/6) ローム、軽石やや多い。 |
| 3. 褐色土 (10YR4/4) 炭化物少量。 | 9. 黒褐色土 (10YR2/3) ロームブロック少量。 |
| 4. 暗褐色土 (10YR3/4) 炭化物少量。 | 10. 褐色土 (10YR4/4) ローム多い。軽石・炭化物。 上面硬質。 |
| 5. 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物少量。 | 11. 黒褐色土 (10YR2/3) ローム少量・炭化物。 |
| 6. 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物少量。 | |

第4図 H1号住居址実測図



第5図 H1号住居址遺物実測図(縮尺 1~13:1/4、14:1/2)

表1 H1号住居址遺物観察表

| 番号 | 器種 | 器形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調整・文様 | 残存率・部位 | 備考 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|--|----------|------------|
| 1 | 土師器 | 小型丸底壺 | 12.1 | 丸底 | 6.5 | 口縁外面縦クシナデ後縦ミガキ・内面横ナデ後縦ミガキ・体部外面クシナデ・内面ナデ | 90 | 明褐色 |
| 2 | 土師器 | 坏 | 16 | 2.2 | 5.7 | 口縁内外面横ミガキ・内面ミガキ・外面ミガキ・一部摩耗 | 99 | 明赤褐色 |
| 3 | 土師器 | 坏 | △14.2 | - | 5.4 | 内外面ヘラナデ・内面黒色処理・底部ヘラズリ | 30 | にぶい褐色 |
| 4 | 土師器 | 台付甕 | 10.9 | 6.2 | 12.2 | 内外面クシナデ・口縁外面横ナデ | 98 | 明赤褐色 |
| 5 | 土師器 | 器台 | 8.4 | 12.2 | 7.9 | 坏部口縁横ナデ後内外面ミガキ・脚部外面縦ミガキ・内面ヘラナデ・横ナデ・ミガキ・穿孔3 | 100 | 明赤褐色 |
| 6 | 土師器 | 器台 | 8 | 11.8 | 7.9 | 坏部口縁横ナデ後内外面ミガキ・脚部外面縦ミガキ・内面ヘラナデ・横ナデ・穿孔3 | 100 | 明赤褐色 |
| 7 | 土師器 | 器台 | 10 | 13.1 | 8.6 | 坏部内面ミガキ・外面ヘラズリ・口縁横ナデ・穿孔1・脚部外面縦ミガキ・内面ヘラナデ・横ナデ・穿孔2 | 85 | 明赤褐色 |
| 8 | 土師器 | 器台 | - | △10.8 | - | 外面ミガキ・内面クシナデ・穿孔脚部残存2・坏部1 | 脚部破片 | 明赤褐色 |
| 9 | 土師器 | 甕 | △16.8 | 6.6 | 21 | 口縁内外面横ナデ・体部内外面斜めヘラナデ | 40 | 極暗褐色・にぶい褐色 |
| 10 | 土師器 | 甕 | △16.1 | - | - | 口縁内外面横ナデ後クシナデ・ヘラナデ | 口縁80 | 明赤褐色 |
| 11 | 土師器 | 甕 | △14.2 | - | - | 口縁内外面横ナデ・体部外面ハケナデ・内面ヘラナデ | 口縁~体部破片 | 極暗褐色・赤褐色 |
| 12 | 土師器 | 甕 | △14.8 | △8.8 | *16.4 | 内外面ハケナデ | 口縁~体部破損品 | 赤褐色 |
| 13 | 土師器 | 壺 | △10.2 | - | - | 外面縦ミガキ・内面ヘラナデ | 口縁破片 | 橙色 |
| 番号 | 器種 | 重量g | 長さcm | 幅cm | 厚さcm | 調整・文様 | 残存率・部位 | 備考 |
| 14 | 不明鉄製品 | | 4.4 | 1.35 | 0.36 | 欠損品 | 不明 | |

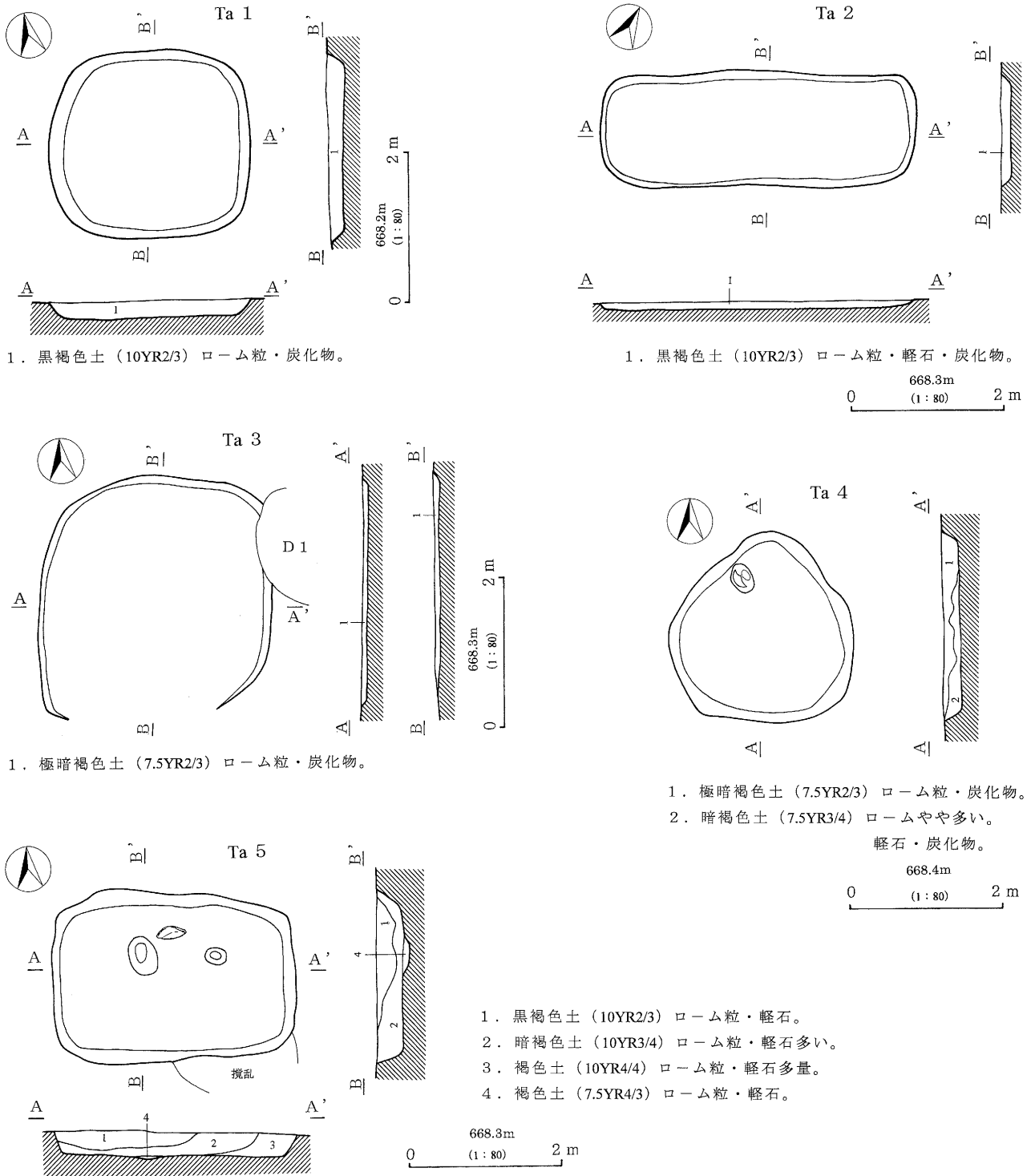
第2節 竪穴状遺構

本遺跡の主体を成す遺構である。土坑と区別するため、方形で1辺1m以上を竪穴状遺構とした。竪穴状遺構は竪穴建物址・竪穴遺構・方形土坑などと称し、中世の遺跡から検出されることの多い代表的な遺構の一つである。形態は方形・長方形が多く、その規模は小型のものから一辺10mを超える大型のものも確認されている。遺構の内部に柱穴を持ち建物址と考えられるものも多いが、中には小型のもの、小型で底に石が敷き詰められるものなど用途不明も多い。しかし、基本的には建物址とされ、

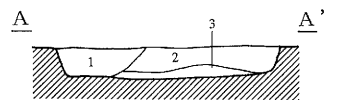
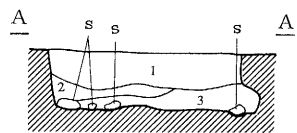
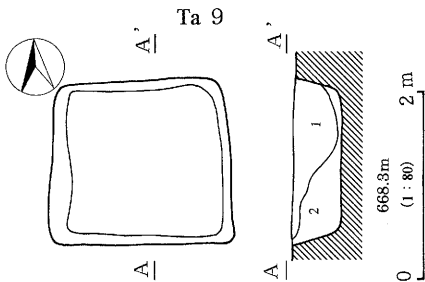
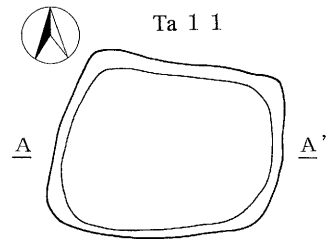
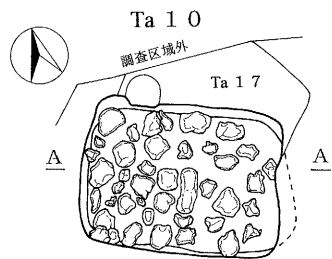
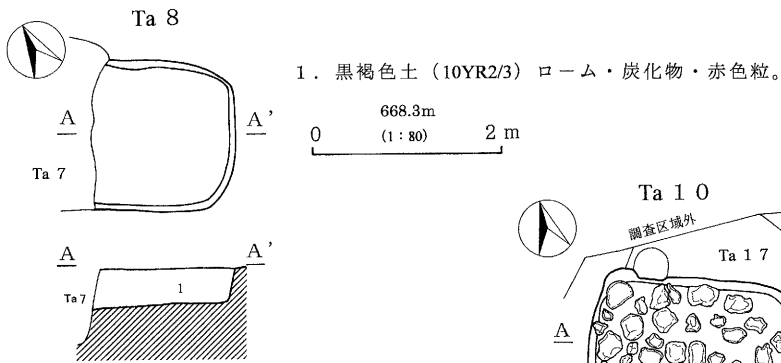
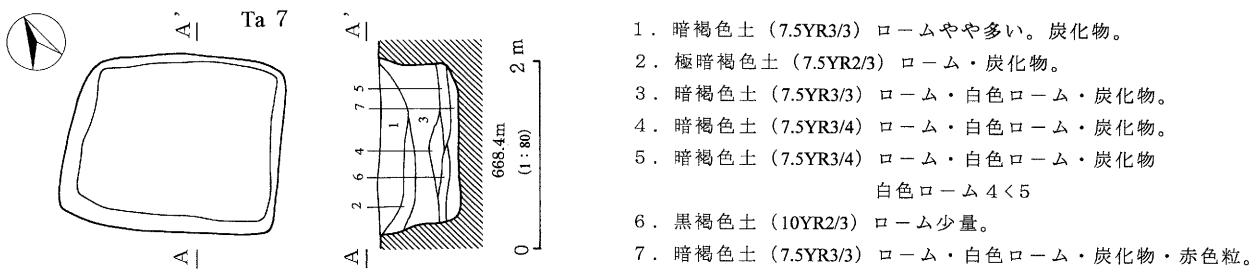
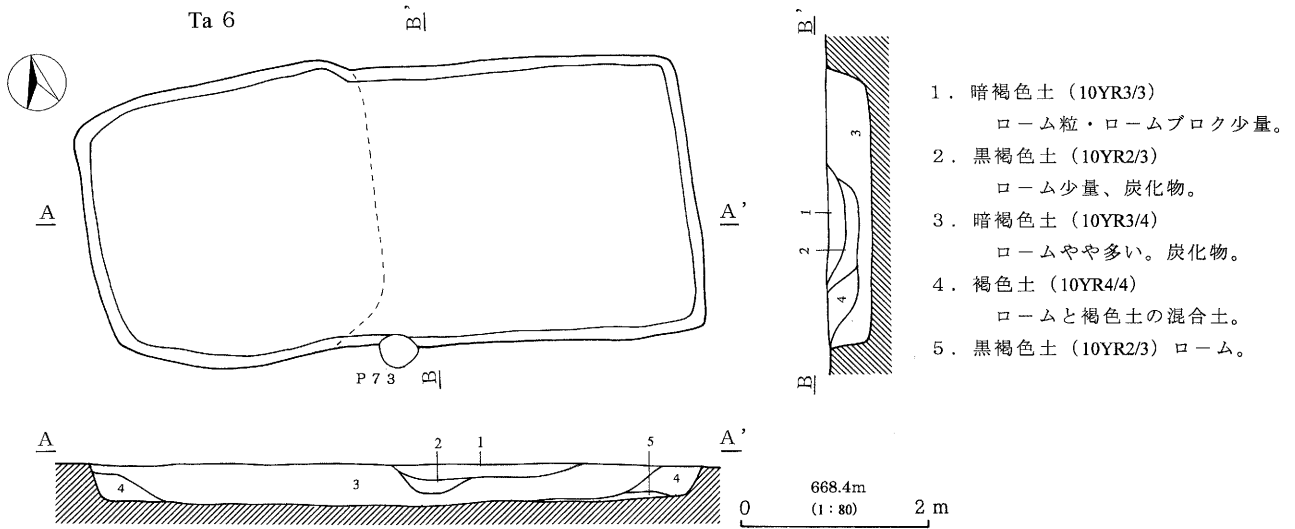
その目的は従属的な人々の住居、兵事の簡易住居、季節的な住居、作業所、集会所、貯蔵庫などと考
えられている。

今回の調査では、大小22の竪穴状遺構が検出された。一辺2m前後が多く、底に川原石を敷き詰め
たものも存在した。また、1辺3~4mの竪穴には底面に硬質面を持ち、角釘等の鉄製品が出土するな
ど建物址的な竪穴も認められた。

遺物は、釘等の鉄製品、古銭、硯、石器、土師器・須恵器・灰釉陶器等の器類(大半は混入と思われる)
が出土した(表参照)。



第6図 Ta 1 ~ Ta 5号竪穴状遺構実測図

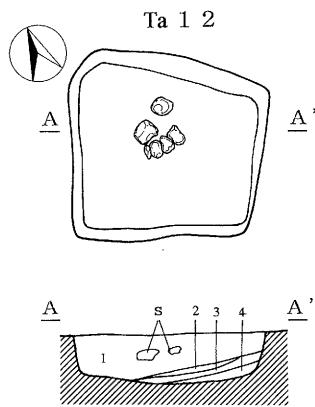


1. 極暗褐色土 (7.5YR2/3)
ローム・軽石・赤色粒・炭化物。
2. 暗褐色土 (7.5YR3/4)
ローム・軽石・赤色粒・炭化物。

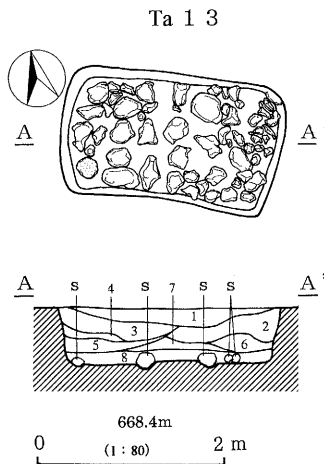
1. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
ロームやや多い。炭化物。
2. 褐色土 (10YR4/4) ローム多量。
3. 鈍い黄褐色土 (10YR5/4)
ローム主体。暗褐色土。

1. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
ローム粒、赤色粒多い。
2. 暗褐色土 (7.5YR3/4)
ローム粒、赤色粒多い。
3. 褐色土 (7.5YR4/3)
ロームと暗褐色土の混合土。

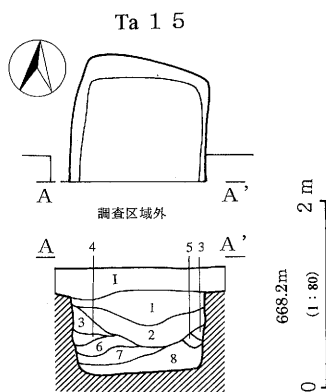
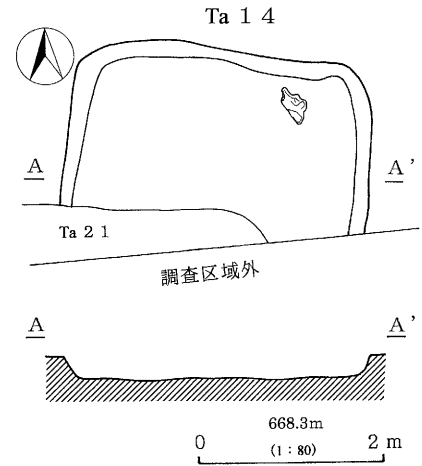
第7図 Ta 6～11号竪穴状遺構実測図



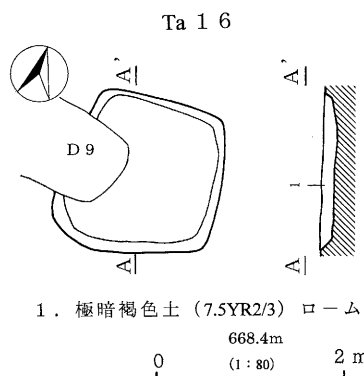
1. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
ローム粒・炭化物。
 2. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
ローム粒・炭化物・赤色粒、やや硬い。
 3. 黒褐色土 (10YR2/3)
ローム粒・赤色粒、やや硬い。
 4. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
ローム粒やや多い。
- 668.4m
0 (1:80) 2 m



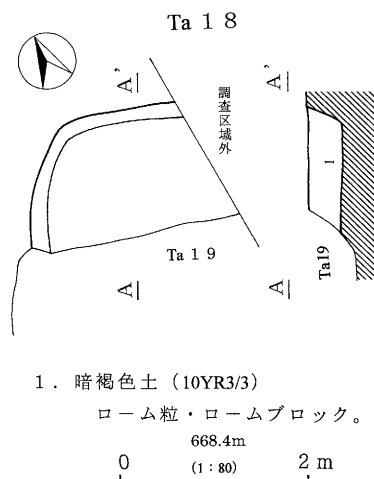
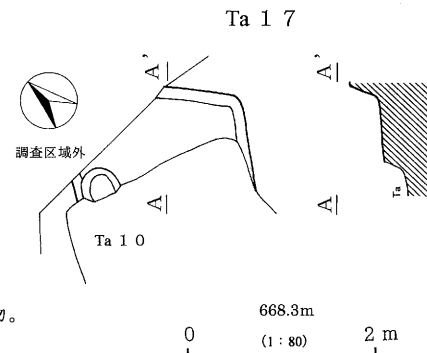
1. 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム粒やや多い。炭化物・赤色粒。
 2. 黒褐色土 (7.5YR2/2) ローム粒・赤色粒・炭化物。
 3. 暗褐色土 (10YR3/4) ローム多量。炭化物。
 4. 黒褐色土 (10YR2/3) ローム少量。赤色粒・炭化物。
 5. 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) ローム多量。赤色粒・炭化物。
 6. 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム・赤色粒多い。
 7. 暗褐色土 (7.5YR3/4) 暗褐色土と褐色土の混合。炭化物。
 8. 褐色土 (7.5YR4/4) ローム主体。赤色粒・炭化物。
- 668.4m
0 (1:80) 2 m



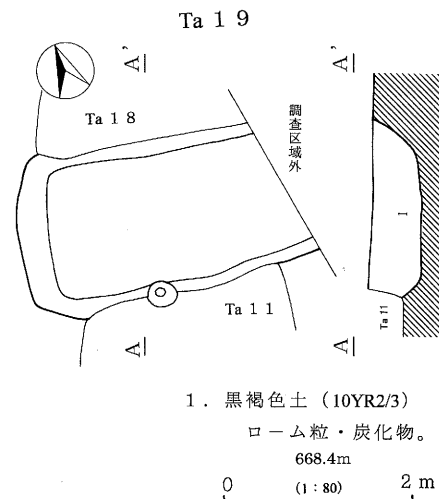
1. 極暗褐色土 (7.5YR2/3)
ローム・軽石・炭化物。
 2. 黒褐色土 (7.5YR2/2)
ローム・軽石・炭化物・赤色粒。
 3. 黒褐色土 (7.5YR2/2)
ローム・軽石・炭化物。
 4. 黒褐色土 (10YR2/2)
褐色ブロック・炭化物。
 5. 褐色土 (7.5YR4/4)
褐色ブロック。
 6. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
炭化物・赤色粒。
 7. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
炭化物・赤色粒多い。
 8. 黒褐色土 (7.5YR3/2)
炭化物・赤色粒。
- 668.2m
0 (1:80) 2 m



1. 極暗褐色土 (7.5YR2/3) ローム・炭化物。
- 668.4m
0 (1:80) 2 m

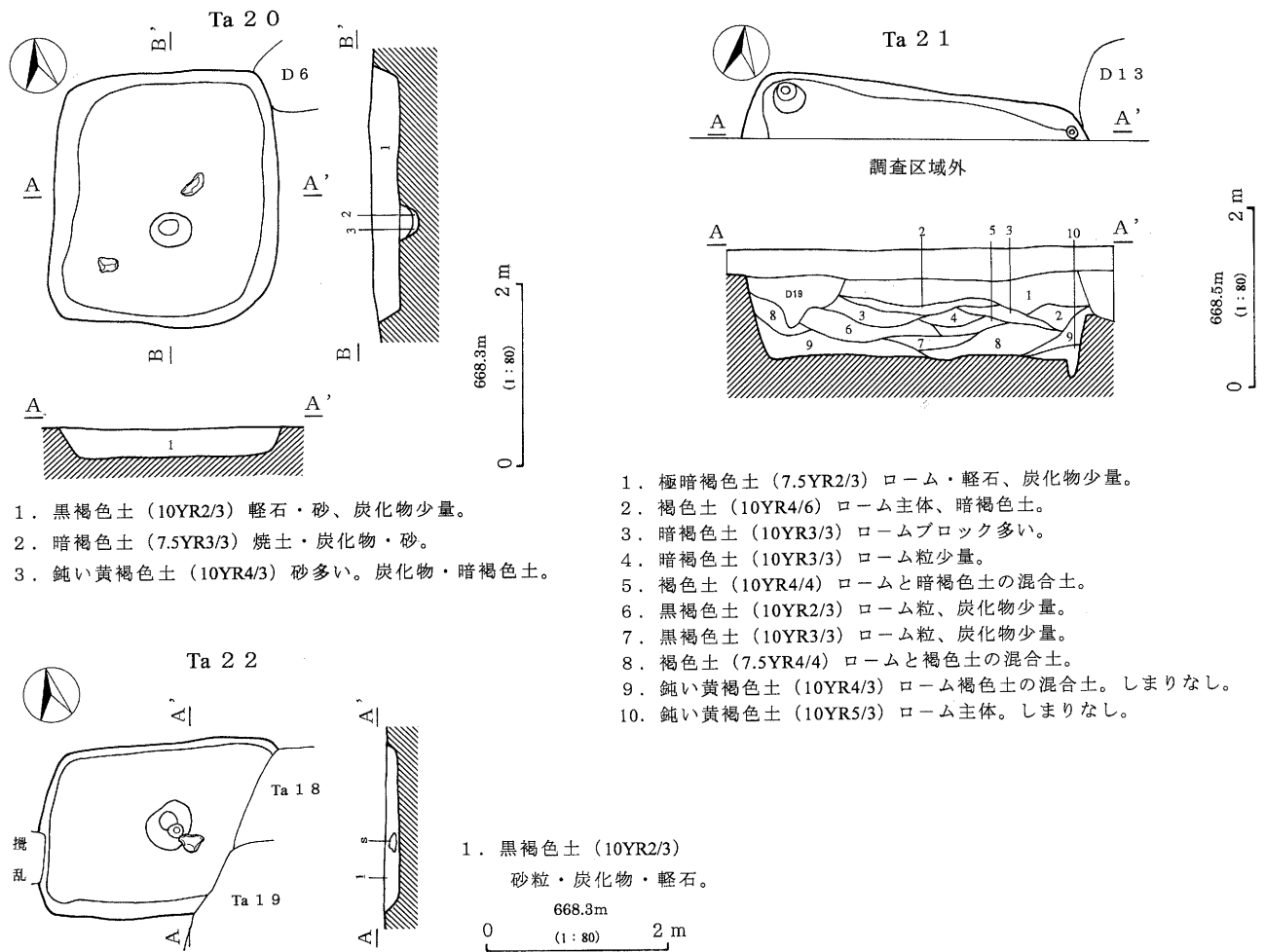


1. 暗褐色土 (10YR3/3)
ローム粒・ロームブロック。
- 668.4m
0 (1:80) 2 m



1. 黒褐色土 (10YR2/3)
ローム粒・炭化物。
- 668.4m
0 (1:80) 2 m

第8図 Ta 12～Ta 19号竪穴状遺構実測図

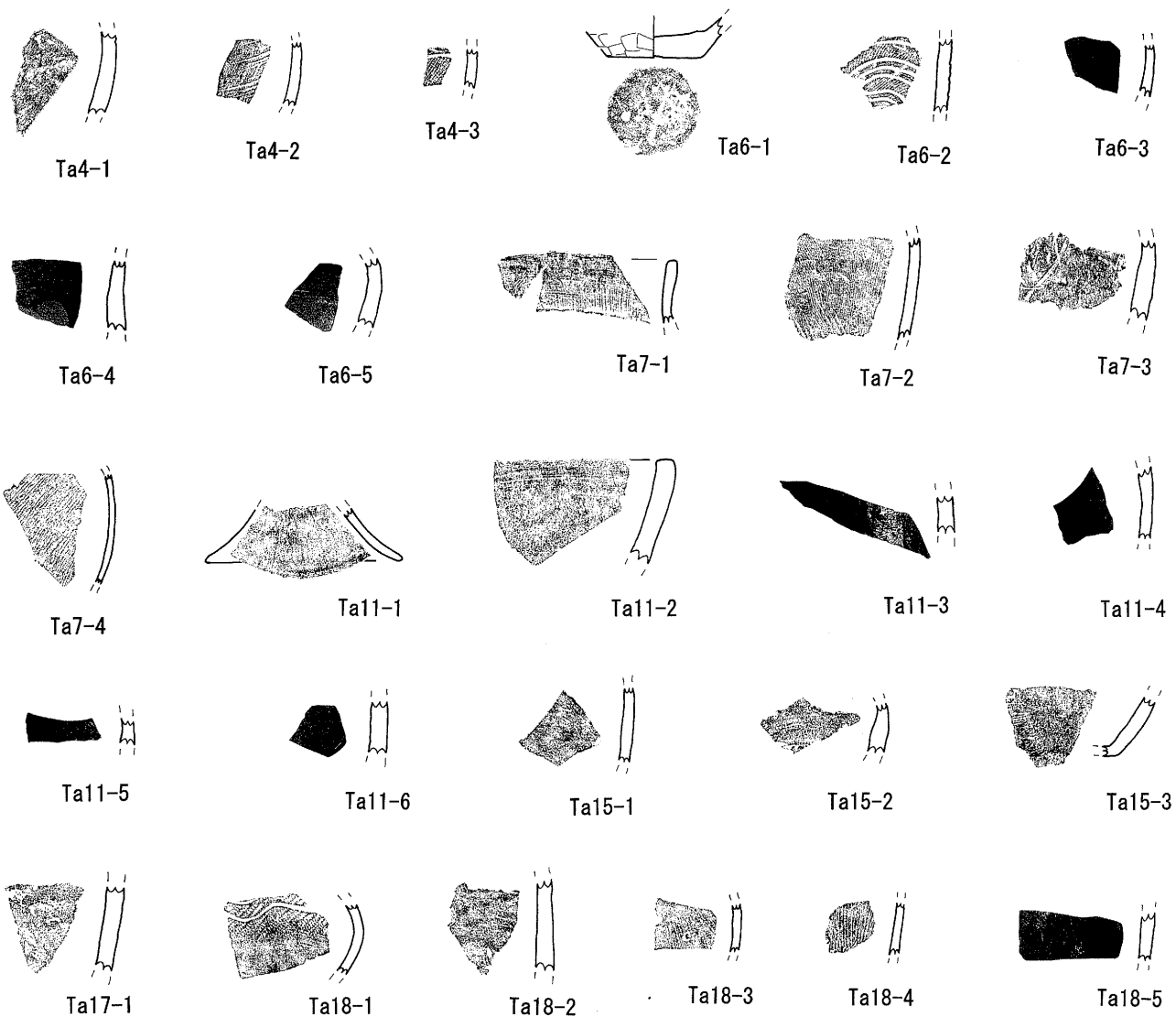


第9図 Ta 20～Ta 22号竪穴状遺構実測図

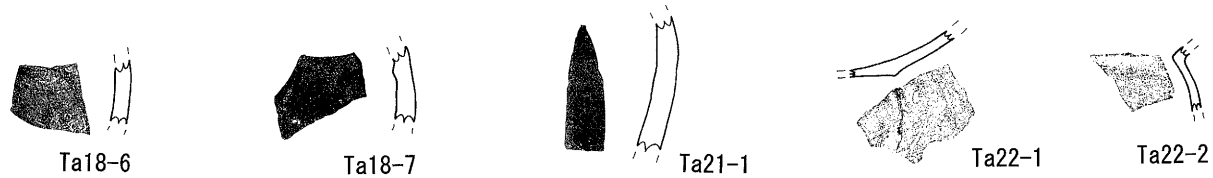
表2 竪穴状遺構一覧表

| 遺構名 | 平面形態 | 南北(m) | 東西(m) | 深さ(m) | 検出位置 | 時期 | 出土遺物 | 備考 |
|------|---------|-------|-------|-------|---------|------|-------------------------|------------------------------|
| Ta 1 | 隅丸方形 | 2.5 | 2.68 | 0.24 | D38 | 中世 | 弥生中期土器・土師器片(混入) | D12・M1を切る。 |
| Ta 2 | 隅丸長方形 | 1.36 | 4.1 | 0.1 | D39 | 中世? | - | F1を切る。 |
| Ta 3 | 隅丸方形 | 3.2 | 3 | 0.1 | D40 | 中世? | - | D1に切られる。 |
| Ta 4 | 不整円形 | 2.5 | 2.4 | 0.25 | C42 | 古墳以降 | 古墳時代土師器片 | D11を切る。 |
| Ta 5 | 長方形 | 2.2 | 3.2 | 0.35 | D42 | 中世 | 古銭、土師器片(混入) | D5に切られる。 |
| Ta 6 | 長方形 | 3 | 6.4 | 0.5 | C43・44 | 中世 | 陶胎、角釘、軽石製品・石器等、土師器・古瀬戸片 | 2棟の重複の可能性あり。Ta13・D14・M3を切る。 |
| Ta 7 | 方形 | 2.2 | 1.9 | 0.9 | B43 | 中世? | 角釘、古墳時代前期土師器片(混入) | H1・Ta8を切る。 |
| Ta 8 | 方形又は長方形 | 1.6 | *1.6 | 0.4 | C43 | 中世? | - | H1を切り、Ta7に切られる。 |
| Ta 9 | 方形 | 1.7 | 2 | 0.48 | B44 | 中世? | - | H1を切る。 |
| Ta10 | 長方形 | 1.6 | 2.25 | 60 | B44 | 中世? | - | Ta17に切られる。底に石敷きあり。東壁オーバーハング* |
| Ta11 | 長方形 | 1.9 | 2.4 | 0.3 | B45・C45 | 中世 | 古墳前期土師器片・古瀬戸片 | Ta10を切る。 |
| Ta12 | 方形 | 2 | 2.1 | 0.52 | B42 | 中世? | - | H1を切る。集石あり。 |

| | | | | | | | | |
|------|----------|------|-------|------|--------|------|--------------|------------------------|
| Ta13 | 長方形 | 1.5 | 2.4 | 0.6 | C44 | 中世 | 鉄製品・土師器片 | Ta6に切られる。底に石敷きあり。 |
| Ta14 | 方形又は長方形 | *2 | 3.2 | 0.24 | D43・44 | 中世 | 古墳前期土師器片 | Ta21・D13に切られる。 |
| Ta15 | 方形又は長方形 | 1.4 | *1.36 | 0.9 | E42 | 古墳以降 | 鉄製品 須恵器・土師器片 | 南調査区域外 |
| Ta16 | 方形 | 1.7 | 1.8 | 0.15 | C45 | 中世? | - | D9に切られる。 |
| Ta17 | 方形又は長方形 | *0.8 | 2 | 0.35 | B44 | 中世 | 土師器片 | Ta10を切る。Ta22を切る。北調査区域外 |
| Ta18 | 方形又は長方形 | *1.4 | *2 | 0.4 | B45 | 中世 | 古瀬戸片 | Ta19に切られる。Ta22を切る。 |
| Ta19 | 長方形 | *1.6 | *3 | 0.5 | B45 | 中世 | - | Ta18を切る。 |
| Ta20 | 隅丸方形 | 2.7 | 2.4 | 0.32 | D44 | 中世 | 角釘・土師器 | D6・14・15・17を切る。 |
| Ta21 | 方形又は長方形? | *0.6 | 3.7 | 0.5 | E43 | 中世 | 古瀬戸片 | Ta14を切る。南調査区域外。 |
| Ta22 | 長方形? | 1.9 | *2.4 | 0.16 | B45 | 中世 | - | Ta18・19に切られる。 |



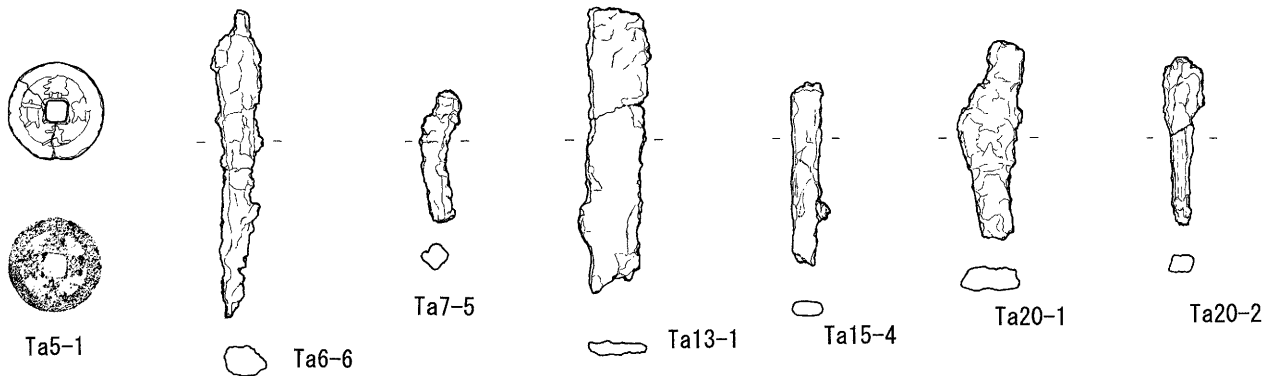
第10図 竪穴状遺構遺物実測図(1) (縮尺1/4)



第11図 竪穴状遺構遺物実測図(2) (縮尺1/4)

表3 竪穴状遺構遺物観察表

| 遺構 | 器種 | 器形 | 口径cm | 底径cm | 器高cm | 調整文様 | 残存率・部位 | 備考 |
|--------|-------|------|------|------|------|-----------------------|---------|--------------|
| Ta4-1 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ | 破片 | 橙色 混入 古墳 |
| Ta4-2 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面斜め櫛描 内面ナデ | 破片 | 灰褐色 混入 古墳前期 |
| Ta4-3 | 弥生土器 | 壺 | - | - | - | 外面沈線・縄文 内面ナデ | 破片 | 鈍い褐色 混入 栗林期 |
| Ta6-1 | 土師器 | 甕 | - | 5.2 | - | 底部木葉痕 | 底部 | 鈍い褐色 混入 古墳 |
| Ta6-2 | 弥生土器 | 壺 | - | - | - | 外面沈線・縄文 内面ナデ | 破片 | 灰白色 栗林期 |
| Ta6-3 | 陶胎 | 碗 | - | - | - | 外面ロクロナデ 内面ロクロナデ | 破片 | 灰色 近世 |
| Ta6-4 | 灰釉陶器 | 瓶子 | - | - | - | 外面ロクロ痕 内面輪横痕・横ナデ | 破片 | 古瀬戸(13C後) |
| Ta6-5 | 灰釉陶器 | 瓶子 | - | - | - | 外面ロクロ痕 内面横ナデ | 破片 | 古瀬戸(13C後) |
| Ta7-1 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面横ナデ・縦ハケ目 内面横ナデ・横ハケ目 | 口縁破片 | 橙色 混入 古墳前期 |
| Ta7-2 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面ハケ目 内面ハケ目 | 破片 | 褐灰色 混入 古墳前期 |
| Ta7-3 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ | 破片 | 鈍い褐色 混入 古墳 |
| Ta7-4 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面櫛目 内面ナデ | 破片 | 暗褐色 混入 古墳前期 |
| Ta11-1 | 土師器 | 高坏 | - | - | - | 外面ミガキ 内面横ナデ | 脚部破片 | 赤褐色 混入 古墳前期 |
| Ta11-2 | 須恵質陶器 | 播鉢 | - | - | - | 内面ナデ | 口縁破片 | 灰色 在地(14C前) |
| Ta11-3 | 灰釉陶器 | 瓶子 | - | - | - | 外面横ナデ 3~6同一個体の可能性あり | 破片 | 古瀬戸(13C後) |
| Ta11-4 | 灰釉陶器 | 瓶子 | - | - | - | 外面横ナデ 3~6同一個体の可能性あり | 破片 | 古瀬戸(13C後) |
| Ta11-5 | 灰釉陶器 | 瓶子 | - | - | - | 外面横ナデ 3~6同一個体の可能性あり | 破片 | 古瀬戸(13C後) |
| Ta11-6 | 灰釉陶器 | 瓶子 | - | - | - | 外面横ナデ 3~6同一個体の可能性あり | 破片 | 古瀬戸(13C後) |
| Ta15-1 | 土師器 | - | - | - | - | 内面櫛ナデ | 破片 | 橙色 混入 |
| Ta15-2 | 須恵器 | 坏又は蓋 | - | - | - | 内外面ロクロナデ | 破片 | 灰色 混入 |
| Ta15-3 | 須恵器 | 甕 | - | - | - | 内外面ナデ | 破片 | 橙色 混入 |
| Ta17-1 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 内外面櫛ナデ痕跡 | 破片 | 橙色 混入 古墳 |
| Ta18-1 | 弥生土器 | 壺 | - | - | - | 外面波状沈線・縄文・ミガキ 内面横ナデ | 破片 | 鈍い黄褐色 混入 栗林期 |
| Ta18-2 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面ケズリ 内面ナデ | 破片 | 黒褐色 混入 古墳 |
| Ta18-3 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面ハケ目 内面ハケナデ | 破片 | 赤褐色 混入 古墳前期 |
| Ta18-4 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面ハケ目 内面ハケナデ | 破片 | 暗褐色 混入 古墳前期 |
| Ta18-5 | 灰釉陶器 | 瓶子 | - | - | - | 外面施釉 内面ナデ | 破片 | 古瀬戸(13C後) |
| Ta18-6 | 灰釉陶器 | 瓶子 | - | - | - | 外面施釉 内面ナデ | 破片 | 古瀬戸(13C後) |
| Ta18-7 | 灰釉陶器 | 瓶子 | - | - | - | 外面施釉 内面ナデ | 破片 | 古瀬戸(13C後) |
| Ta21-1 | 灰釉陶器 | 瓶子 | - | - | - | 外面施釉 内面ナデ | 破片 | 古瀬戸(13C後) |
| Ta22-1 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面ヘラケズリ 内面ハケナデ | 底部~胴部破片 | 暗赤褐色 混入 古墳前期 |
| Ta22-2 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面縦ハケ目痕跡 内面横ハケナデ | 頸部破片 | 赤褐色 混入 古墳前期 |



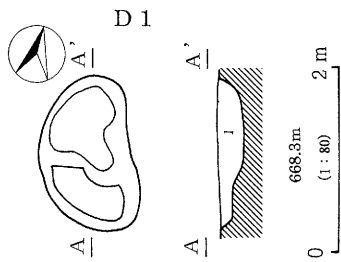
第12図 竪穴状遺構金属製品実測図 (縮尺1/2)

表4 竖穴状遺構金属製品観察表

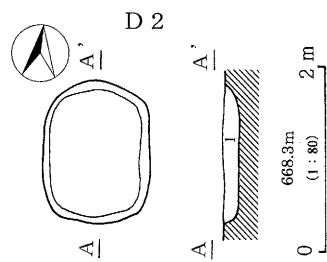
| 遺構 | 器種 | 重量g | 長さcm | 幅cm | 厚さcm | 調整・文様 | 備考 |
|--------|----|------|------|------|------|--------------------|----|
| Ta5 | 古銭 | 2.38 | 2.59 | 2.48 | 0.15 | 文字摩耗 祥符元寶? 北宋1009年 | |
| Ta6 | 不明 | 9.81 | 8.27 | 1.39 | 1.04 | | |
| Ta7 | 角釘 | 3.03 | 3.48 | 0.78 | 0.77 | | |
| Ta13-1 | 不明 | 8.53 | 7.67 | 1.71 | 0.62 | | |
| Ta15-4 | 不明 | 3.96 | 4.88 | 0.89 | 0.45 | | |
| Ta20-1 | 不明 | 4.76 | 5.32 | 1.56 | 0.83 | | |
| Ta20-2 | 角釘 | 4.65 | 4.54 | 1.05 | 0.91 | | |

第3節 土坑

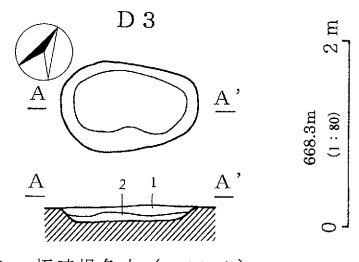
平面形態が円形・楕円形を呈するもの及び、方形で規模の小型のもの18基を土坑とした。D12からは硯が出土した。



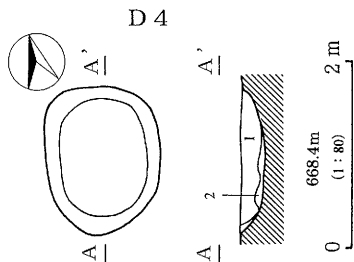
1. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
ローム多い。炭化物。



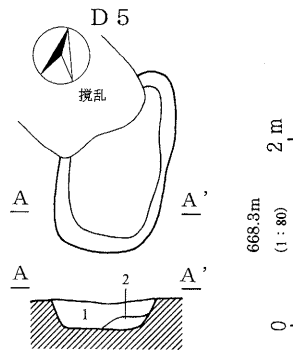
1. 極暗赤褐色土 (2.5YR2/2) ローム粒少量。



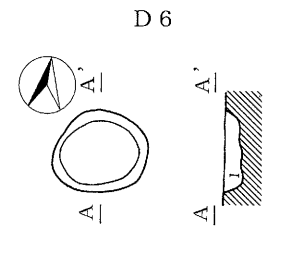
1. 極暗褐色土 (7.5YR2/3)
ローム少量・炭化物。
2. 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム多い。



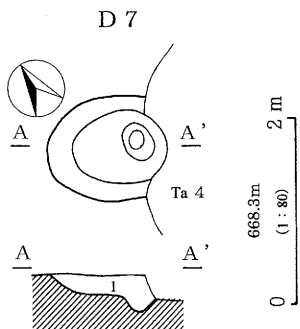
1. 極暗褐色土 (7.5YR2/3)
ローム粒・ブロック・炭化物。
2. 暗褐色土 (7.5YR3/4)
ローム多い。



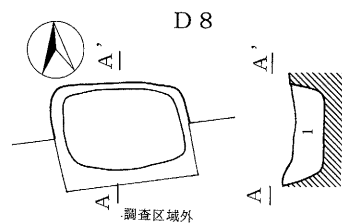
1. 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム・軽石・炭化物。
2. 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム・軽石多い。



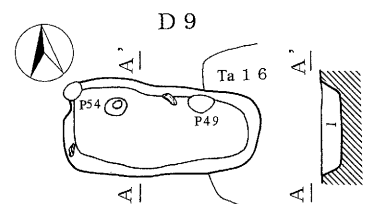
1. 極暗褐色土 (7.5YR2/3)
ローム・炭化物。



1. 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム・炭化物。

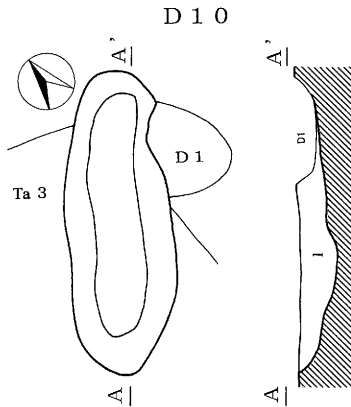


1. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
黒色土・ローム・炭化物。

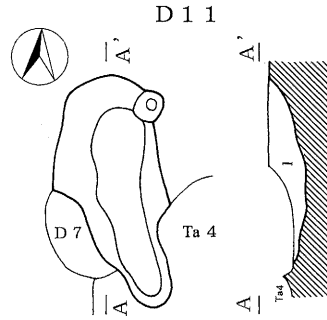


1. 褐色土 (7.5YR4/3)
ローム・軽石・炭化物。

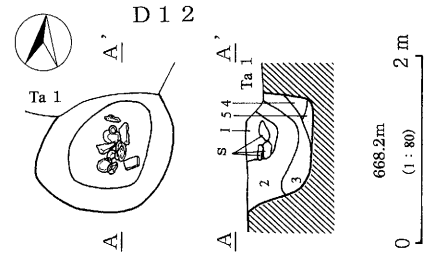
第13図 D1～D9号土坑実測図



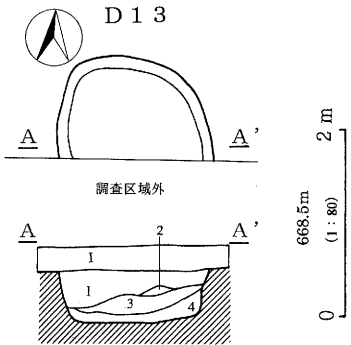
1. 極暗褐色土 (7.5YR2/3)
ローム・軽石・炭化物。
0 668.2m (1:80) 2m



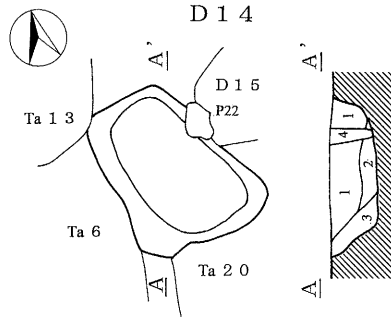
1. 暗褐色土 (10YR3/3)
褐色土ブロック・炭化物
・ローム。
0 668.3m (1:80) 2m



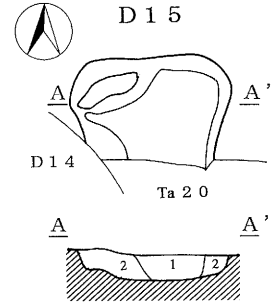
1. 黒褐色土 (10YR2/3)
礫 20 cm大、ローム粒・炭化物。
2. 黒褐色土 (7.5YR3/2) ローム粒・砂・炭化物。
3. 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒・砂やや多い。
4. 褐色土 (7.5YR4/3) 砂多い。
5. 黒褐色土 (7.5YR3/2) ローム粒・砂少量。
0 668.2m (1:80) 2m



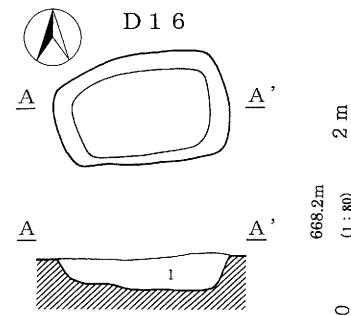
1. 暗褐色土 (7.5YR3/3)
ローム粒、軽石、炭化物少量。
2. 褐色土 (7.5YR4/3)
褐色土と暗褐色土の混合土。炭化物。
3. 褐色土 (10YR4/4)
ローム・軽石多量。
4. 鈍い黄褐色土 (10YR4/3)
ローム、軽石多量。
0 668.5m (1:80) 2m



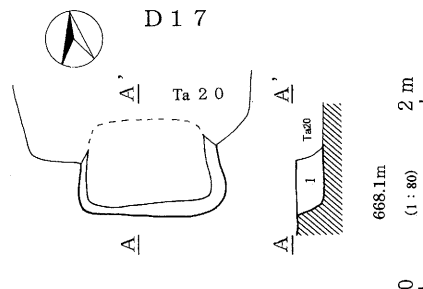
1. 黒褐色土 (7.5YR2/2)
ローム粒・軽石・炭化物。
2. 極暗褐色土 (7.5YR2/3)
ローム粒・軽石・炭化物。
3. 褐色土 (10YR4/4)
ローム主体・軽石・暗褐色土
4. 褐色土 (7.5YR4/4)
ローム主体、軽石・砂。
0 668.3m (1:80) 2m



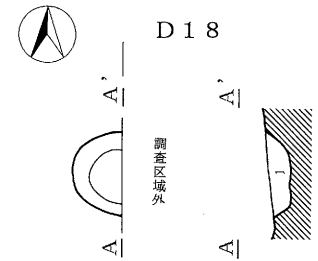
1. 極暗褐色土 (7.5YR2/3)
ローム・赤色粒・軽石・炭化物。
2. 暗褐色土 (7.5YR3/4)
ローム・赤色粒・軽石・炭化物。
0 668.5m (1:80) 2m



1. 極暗褐色土 (7.5YR2/3)
ローム・炭化物。
0 668.2m (1:80) 2m



1. 黒褐色土 (10YR2/3)
砂、軽石、炭化物少量。
0 668.1m (1:80) 2m

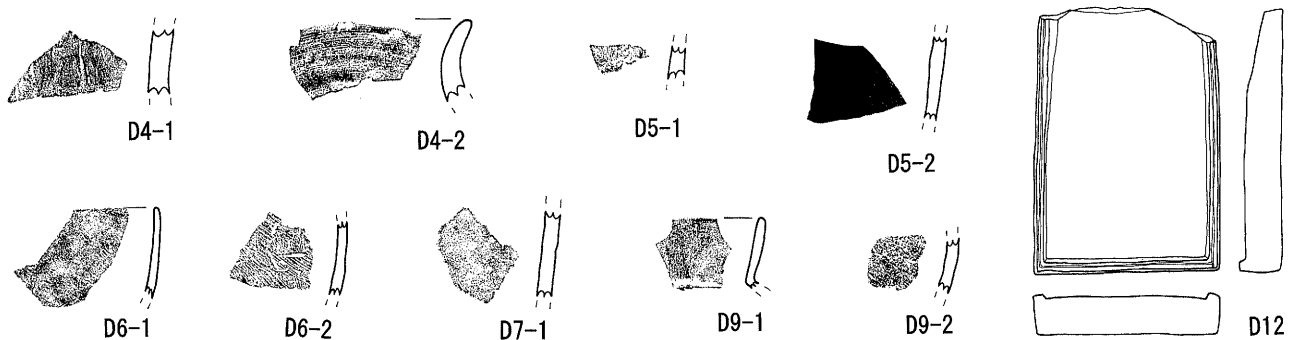


1. 極暗褐色土 (7.5YR2/3)
ローム粒・軽石・炭化物。
0 668.6m (1:80) 2m

第14図 D9～D18号土坑実測図

表5 土坑一覧表

| 遺構名 | 平面形態 | 南北(m) | 東西(m) | 深さ(m) | 検出位置 | 時 期 | 出土遺物 | 備 考 |
|-----|-------------|-------|-------|-------|--------|------|-------------------|--------------------|
| D1 | 不整楕円形 | 1.7 | 1 | 0.3 | D41 | 不明 | - | D10を切る。 |
| D2 | 隅丸長方形 | 1.5 | 1.1 | 0.16 | C39 | 不明 | - | |
| D3 | 楕円形 | 1 | 1.5 | 0.18 | D41 | 不明 | - | |
| D4 | 隅丸方形 | 1.6 | 1.2 | 0.25 | D42 | 古墳以降 | 土師器片 | |
| D5 | 隅丸長方形 | 1.9 | 1.2 | 0.23 | D42・43 | 中世以降 | 土師器・古瀬戸片・黒曜石片(混入) | Ta5を切る。一部攪乱に破壊される。 |
| D6 | 円形 | 0.9 | 1 | 0.15 | C45 | 古墳以降 | 土師器片 | Ta20を切る。 |
| D7 | 楕円形? | 1.1 | *1.3 | 0.2 | C42 | 中世以前 | 土師器片 | D11に切られる。 |
| D8 | 長方形 | 1.1 | 1.4 | 0.32 | D45 | 不明 | - | |
| D9 | 隅丸長方形 | 1 | 2.1 | 0.2 | C45 | 中世以降 | 土師器片(混入) | Ta16を切る。 |
| D10 | 楕円形 | 3.2 | 1.1 | 0.4 | D40・41 | 中世以降 | - | D1に切られ、Ta3を切る。 |
| D11 | 楕円形? | 2.5 | 1.2 | 0.32 | C42 | 中世以前 | - | Ta4に切られ、D7を切る。 |
| D12 | 円形 | 1.3 | 1.4 | 0.5 | D39 | 中世 | 硯 | Ta1に切られる。 |
| D13 | 隅丸方形又は隅丸長方形 | *1.1 | 1.6 | 0.5 | D44 | 中世? | - | Ta14を切る。南調査区域外。 |
| D14 | 長方形 | 1.9 | 1.3 | 0.45 | C44 | 中世以前 | - | Ta6・20に切られる。 |
| D15 | 不整形 | *1.1 | 1.6 | 0.28 | C44 | 中世以前 | 小型砥石 | Ta6・20・D14に切られる。 |
| D16 | 長方形 | 1.1 | 1.8 | 0.4 | D43 | 不明 | - | |
| D17 | 隅丸方形又は隅丸長方形 | *1 | 1.6 | 0.28 | D44 | 中世以前 | - | Ta20に切られる。 |
| D18 | 円形? | 0.8 | *0.5 | 0.25 | D45 | 不明 | 擦り・敲き石 | 東側調査区域外。 |



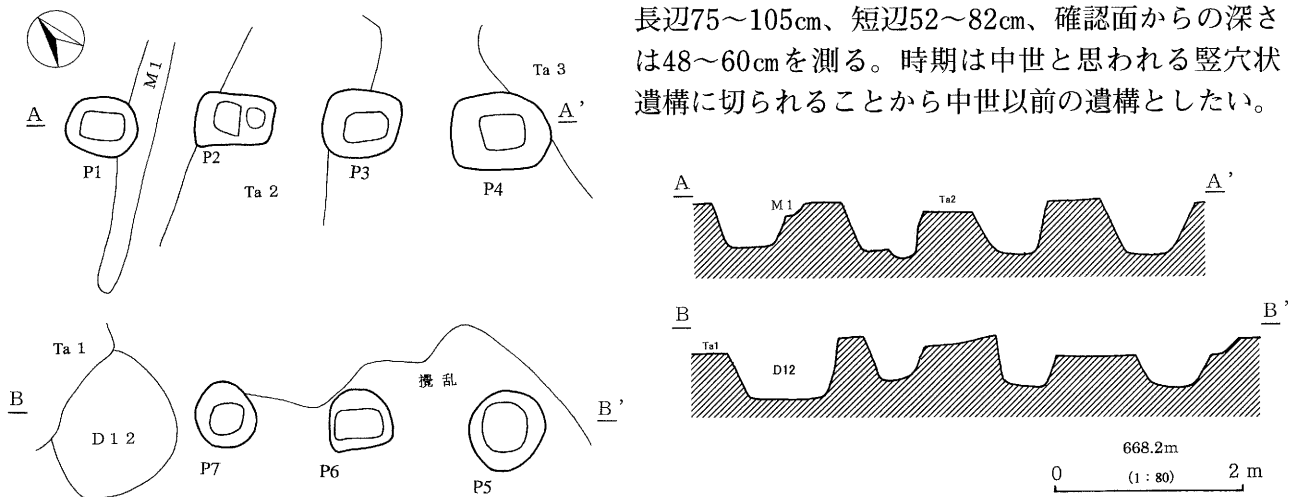
第15図 土坑遺物実測図(縮尺1/4)

表6 土坑遺物観察表

| 遺構 | 器種 | 器形 | 長さcm | 幅cm | 厚さcm | 調整・文様 | 残存率・部位 | 備 考 |
|------|------|----|-------|-----|------|-----------------|--------|-------------|
| D4-1 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ | 破片 | 鈍い黄褐色 古墳 |
| D4-2 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 横ナデ | 口縁破片 | 明赤褐色 古墳 |
| D5-1 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面赤色塗彩痕跡 | 破片 | 鈍い黄褐色 古墳前期? |
| D5-2 | 灰釉陶器 | 瓶子 | - | - | - | 外面施釉 内面ナデ | 破片 | 古瀬戸(13C後) |
| D6-1 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 内外面縦ミガキ痕跡 | 口縁破片 | 鈍い赤褐色 古墳前期 |
| D2-2 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面櫛ナデ 内面ハケ又は櫛ナデ | 破片 | 明赤褐色 古墳前期 |
| D7-1 | 土師器 | 壺 | - | - | - | 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ | 破片 | 鈍い橙色 古墳 |
| D9-1 | 土師器 | 壺 | - | - | - | 内外面ミガキ | 口縁破片 | 暗赤褐色 古墳前期 |
| D9-2 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ | 破片 | 鈍い赤褐色 古墳前期 |
| D9-2 | 土師器 | 甕 | - | - | - | 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ | 破片 | 鈍い赤褐色 古墳前期 |
| D12 | 硯 | - | *14.1 | 9.8 | 2.3 | | 一部欠損 | |

第4節 掘立柱建物址

遺構は調査区西側のD39グリッドに位置し、3間×1間の側柱で、T a 2・3、M1、D12に切られ、P5～7は近年の攪乱によって上部を破壊されている。ピット形状は隅丸の方形及び円形で、規模は長辺75～105cm、短辺52～82cm、確認面からの深さは48～60cmを測る。時期は中世と思われる竪穴状遺構に切られることから中世以前の遺構としたい。



第16図 F1号掘立柱建物址実測図

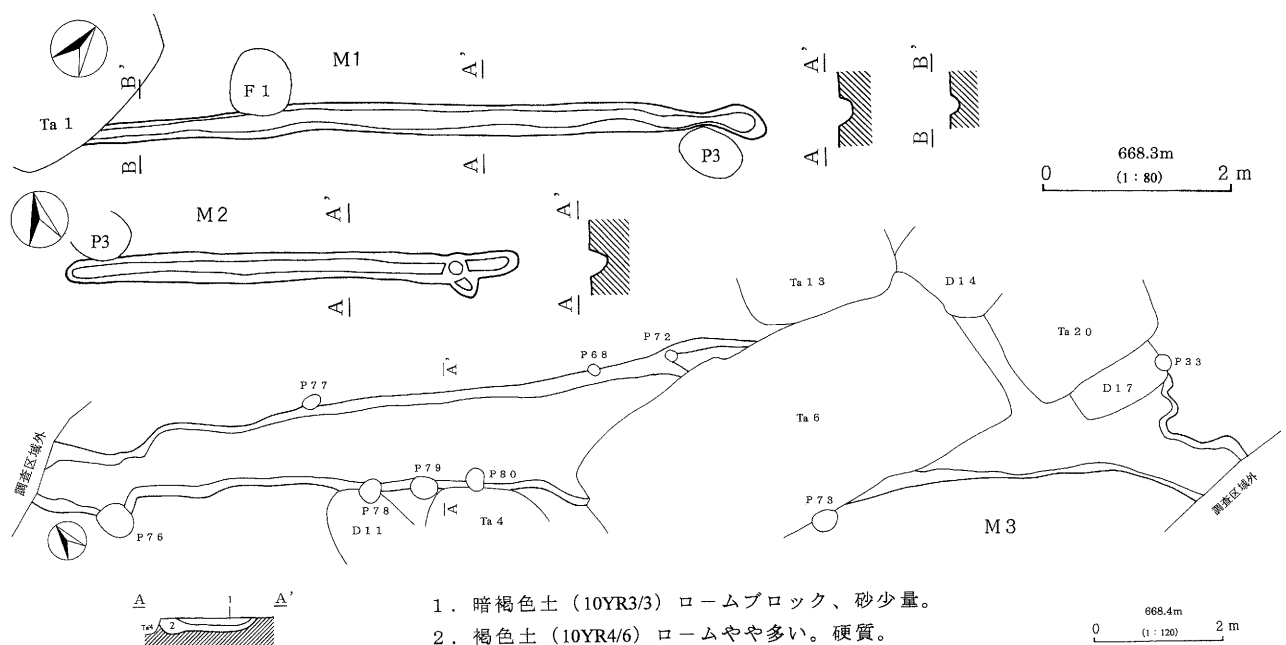
第5節 溝址

M1号溝址

遺構は調査区西側のD39・40グリッドに位置し、北から南西方向に存在し、攪乱によって消滅する。切り合い関係はT a 1に切られF1ピットと切り合い関係にあるが新旧は不明である。規模は調査長7.2m、幅25～32cm、確認面からの深さは13cmを測る。時期はT a 1に切られることから中世以前の遺構としたい。

M2号溝址

遺構は調査区西側のC40・41グリッド付近に位置し、東西方向に存在する。規模は調査長5m、幅



1. 暗褐色土 (10YR3/3) ロームブロック、砂少量。
2. 褐色土 (10YR4/6) ロームやや多い。硬質。

第17図 M1～3号溝址実測図

35cm内外、確認面からの深さは20cmを測る。M1と形状が同一であることから、M1の一部である可能性が考えられる。時期はM1同様、中世以前としたい。

M3号溝址

遺構は調査区北の中央付近から北東方向にかけて存在する。規模は調査長18.4m、確認面上での幅88cm～2.2m以上、底幅50cm～1.7m以上、確認面からの深さは5～30cmを測り、南に向かうほど幅を広げ深くなる。底面は3～8cm厚の踏み固められたような硬質面を持つことから道であった可能性も考えられる。

時期は、古墳時代の住居址を切り、中世と思われる竪穴状遺構に切られることから、古墳時代～中世の遺構と思われる。

第6節 ピット

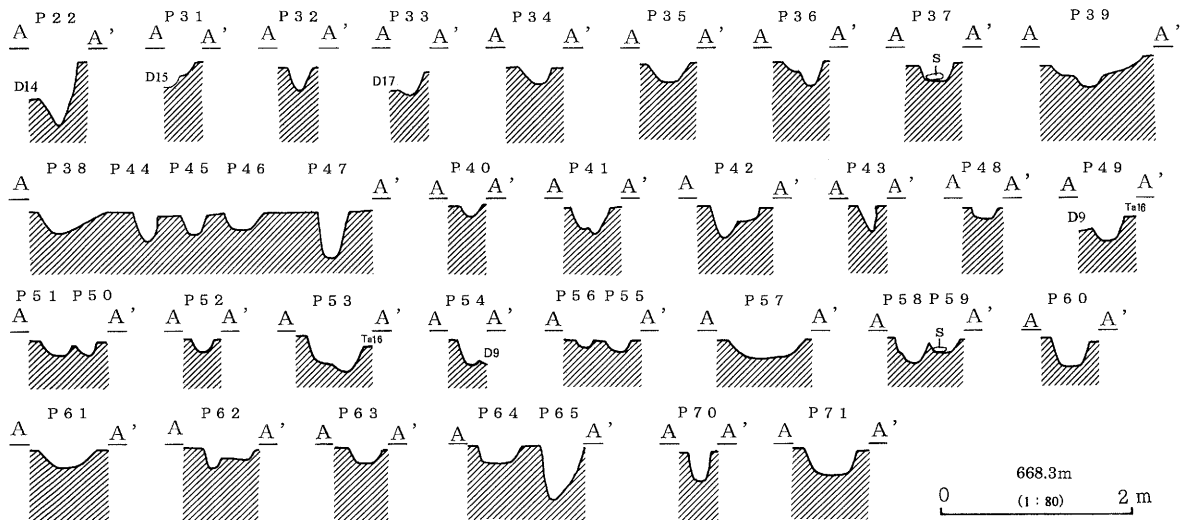
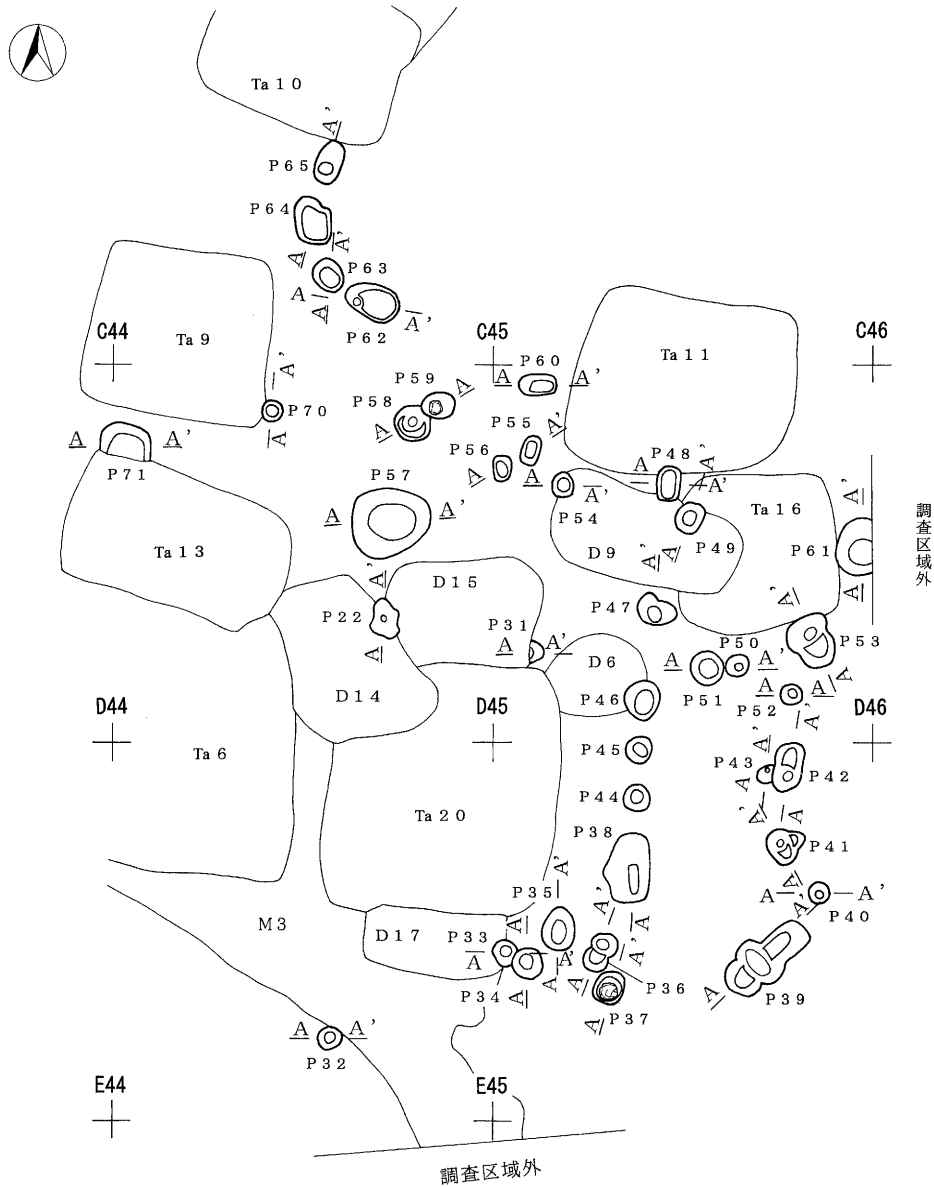
中世を主体とするピット80基を確認した(第18～20図、表7)。形状は円形、隅丸方形、楕円形、隅丸長方形が存在し、規模は長さ20～100cm、深さ7～66cmである。主体は長さ20cm以上40cm未満の小型円形・小型隅丸方形である。大型円形としては長さ58～80cmのP1・P4・P5がある。

分布は調査区東側C45・D45グリッドの集中部(第18図)、調査区中央D42・43グリッドの集中部(第19図)、調査区西側C39・40(第20図)の集中部があり整然とした配置として把握できなかったが、小型円形・隅丸方形の配置は何らかの建物址の柱穴として検討を要しよう。

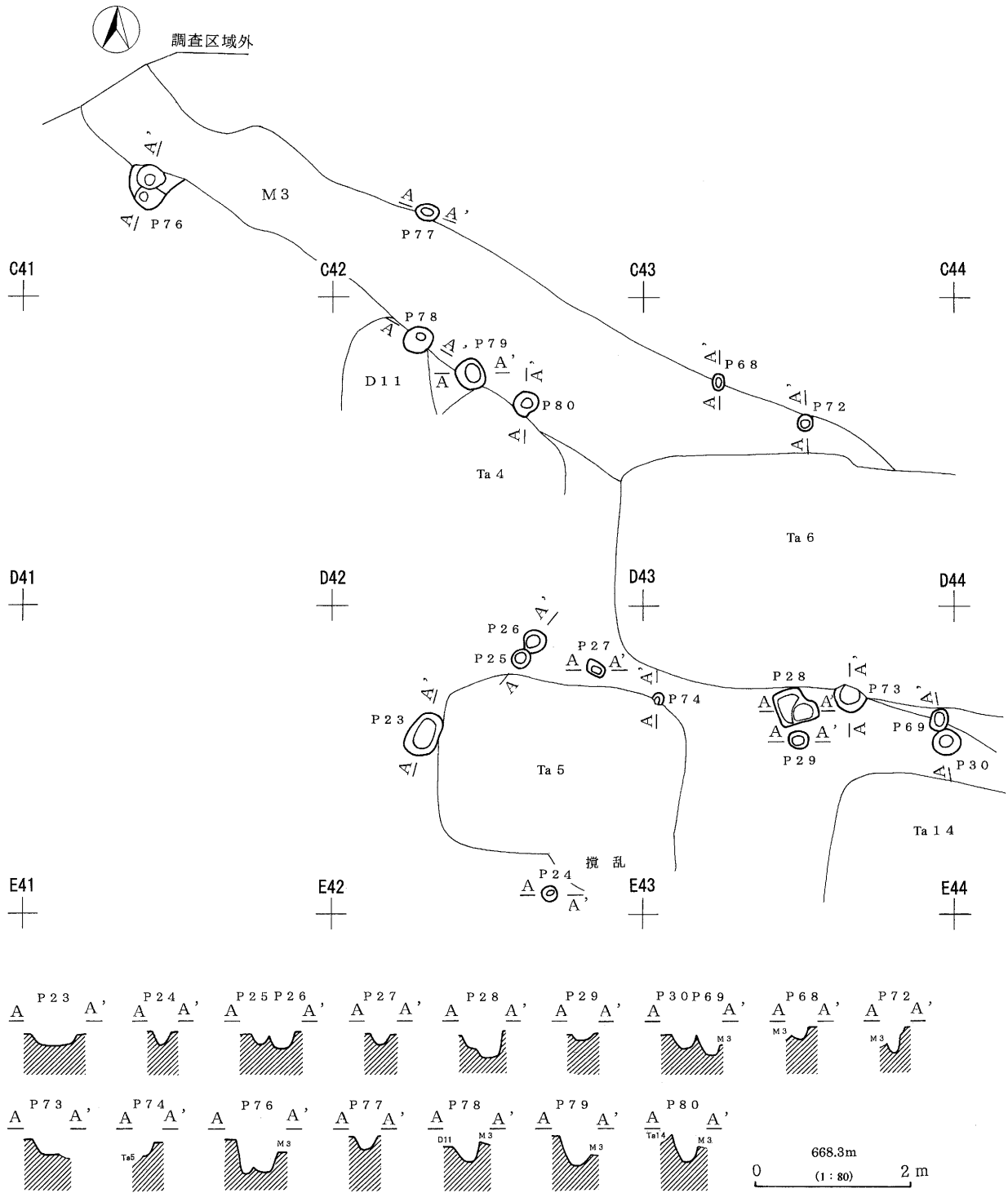
表7 ピット一覧表

| 遺構 | 位置 | 形態 | 南北長 | 東西長 | 深さ | 備考 |
|-----|-----|-------|-----|-----|----|--------------|
| P1 | C38 | 円形 | 58 | 55 | 26 | |
| P2 | D38 | 隅丸方形 | 30 | 32 | 33 | |
| P3 | C40 | 楕円形 | 50 | 66 | 20 | |
| P4 | C38 | 円形 | *74 | 74 | 26 | Ta1に切られる。 |
| P5 | D38 | 隅丸方形 | 21 | 29 | 16 | |
| P6 | D38 | 円形 | 46 | 48 | 50 | |
| P7 | D38 | 隅丸方形 | 26 | 24 | 28 | |
| P8 | C39 | 隅丸方形 | 30 | 26 | 12 | |
| P9 | C39 | 隅丸方形 | 30 | *31 | 23 | P8に切られる。 |
| P10 | C39 | 隅丸方形 | 26 | 20 | 14 | |
| P11 | C39 | 隅丸方形 | 29 | 26 | 16 | |
| P12 | C39 | 楕円形 | 50 | 40 | 16 | |
| P13 | C40 | 隅丸方形 | 25 | 28 | 17 | |
| P14 | C40 | 隅丸方形 | 26 | 24 | 15 | |
| P15 | C40 | 隅丸方形 | 24 | 24 | 16 | |
| P16 | C40 | 隅丸方形 | 26 | 30 | 16 | |
| P17 | C40 | 隅丸長方形 | 25 | 40 | 30 | |
| P18 | C40 | 隅丸方形 | 26 | 20 | 14 | |
| P19 | C40 | 円形 | 30 | 30 | 38 | |
| P20 | D39 | 隅丸方形 | 24 | 30 | 14 | |
| P21 | D40 | 隅丸長方形 | 36 | 26 | 16 | |
| P22 | C44 | 楕円形 | *40 | *26 | 66 | D14・15に切られる。 |
| P23 | D42 | 隅丸長方形 | 60 | 42 | 14 | |
| P24 | D42 | 円形 | 22 | 20 | 16 | |
| P25 | D42 | 隅丸方形 | 28 | 24 | 10 | |
| P26 | D42 | 隅丸方形 | *30 | 30 | 18 | P25に切られる。 |
| P27 | D42 | 隅丸方形 | 20 | 27 | 14 | |
| P28 | D43 | 隅丸方形 | 49 | 50 | 32 | |
| P29 | D43 | 隅丸方形 | 24 | 26 | 8 | |
| P30 | D43 | 円形 | *33 | 37 | 18 | P69に切られる。 |
| P31 | C45 | 円形 | 23 | *16 | 14 | D15に切られる。 |
| P32 | D44 | 円形 | 26 | 26 | 24 | |
| P33 | D45 | 円形 | 30 | *24 | 22 | P34に切られる。 |
| P34 | D45 | 円形 | 32 | 32 | 17 | |
| P35 | D45 | 楕円形 | 47 | 36 | 20 | |
| P36 | D45 | 楕円形 | 42 | 28 | 26 | |
| P37 | D45 | 隅丸方形 | 36 | 33 | 20 | 底面に扁平礫 |
| P38 | D45 | 楕円形 | 74 | 50 | 22 | |
| P39 | D45 | 楕円形 | 100 | 54 | 28 | |
| P40 | D45 | 円形 | 23 | 23 | 12 | |

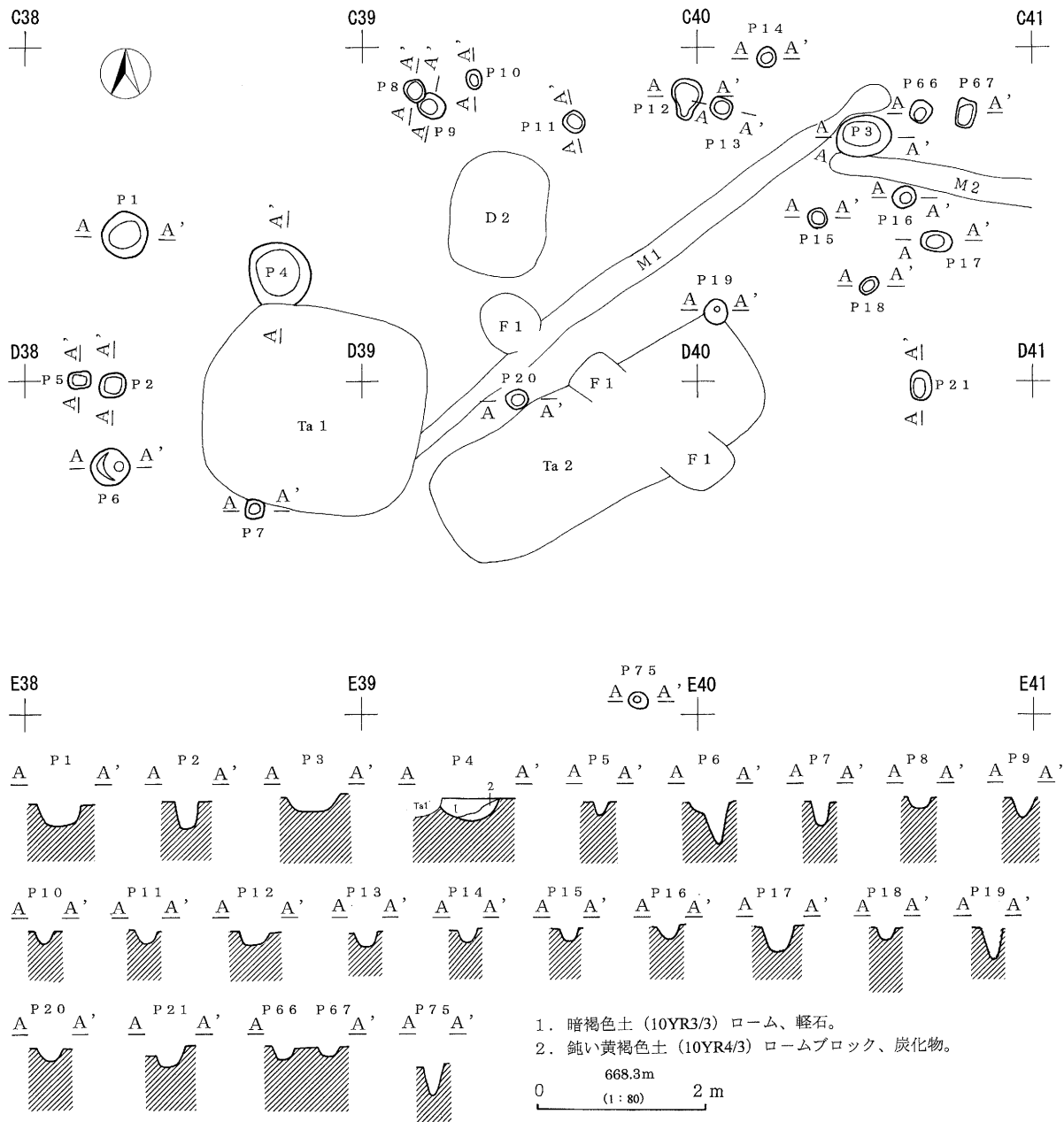
| 遺構 | 位置 | 形態 | 南北長 | 東西長 | 深さ | 覆土・備考 |
|-----|-----|-------|-----|-----|----|---------------|
| P41 | D45 | 円形 | 40 | 42 | 27 | |
| P42 | D45 | 楕円形 | 52 | 30 | 34 | |
| P43 | D45 | 円形 | 20 | *18 | 26 | P42に切られる。 |
| P44 | D45 | 円形 | 30 | 30 | 30 | |
| P45 | D45 | 円形 | 30 | 30 | 20 | |
| P46 | C45 | 円形 | 44 | 40 | 18 | |
| P47 | C45 | 楕円形 | 28 | 44 | 48 | |
| P48 | C45 | 隅丸長方形 | 38 | 26 | 11 | |
| P49 | C45 | 隅丸方形 | *35 | *30 | 23 | D9に切られる。 |
| P50 | C45 | 円形 | 24 | 25 | 12 | |
| P51 | C45 | 円形 | 40 | 36 | 12 | |
| P52 | C45 | 円形 | 24 | 24 | 12 | |
| P53 | C45 | 楕円形 | *58 | 40 | 34 | Ta16に切られる。 |
| P54 | C45 | 隅丸方形 | *28 | *24 | 26 | D9に切られる。 |
| P55 | C45 | 隅丸長方形 | 32 | 20 | 10 | |
| P56 | C45 | 隅丸長方形 | 30 | 20 | 7 | |
| P57 | C44 | 円形 | 78 | 80 | 20 | |
| P58 | C44 | 円形 | 40 | *38 | 33 | P59に切られる。 |
| P59 | C44 | 円形 | 29 | 36 | 12 | |
| P60 | C45 | 隅丸長方形 | 22 | 41 | 28 | |
| P61 | C45 | 楕円形 | 60 | *38 | 18 | 東側調査地域外 |
| P62 | B44 | 楕円形 | 40 | 58 | 20 | |
| P63 | B44 | 隅丸方形 | 30 | 38 | 16 | |
| P64 | B44 | 隅丸方形 | 48 | 40 | 18 | |
| P65 | B44 | 隅丸長方形 | 48 | 28 | 56 | |
| P66 | C40 | 隅丸方形 | 28 | 26 | 16 | |
| P67 | C40 | 隅丸長方形 | 36 | 24 | 11 | |
| P68 | C43 | 隅丸方形 | *24 | *17 | 16 | M3に切られる。 |
| P69 | D43 | 隅丸方形 | *30 | 26 | 28 | M3に切られる。 |
| P70 | C44 | 円形 | 24 | 24 | 30 | |
| P71 | C44 | 楕円形 | *36 | 56 | 28 | |
| P72 | C43 | 円形 | *23 | 20 | 32 | M3に切られる。 |
| P73 | D43 | 円形 | *30 | 40 | 21 | Ta6に切られる。 |
| P74 | D43 | 隅丸方形 | *16 | 16 | 18 | Ta5に切られる。 |
| P75 | D39 | 円形 | 20 | 24 | 36 | |
| P76 | B41 | 楕円形 | *60 | 60 | 46 | M3に切られる。 |
| P77 | B42 | 隅丸方形 | 24 | 31 | 16 | |
| P78 | C42 | 円形 | *37 | *37 | 26 | M3・D11に切られる。 |
| P79 | C42 | 円形 | *42 | *36 | 40 | M3に切られる。 |
| P80 | C42 | 円形 | *32 | *33 | 34 | Ta14・M3に切られる。 |



第 18 図 調査区東側周辺ピット実測図



第 19 図 調査区中央周辺ピット実測図



第20図 調査区西側周辺ピット実測図

第IV章 遺構と遺物(平成21・22年度調査)

第1節 竪穴住居址

平成21・22年度の調査では弥生時代中期後半9軒、古墳時代後期5軒、奈良時代3軒の竪穴住居址が確認された。

(1) 弥生時代中期後期の竪穴住居址

H2号住居址(第21図・表8)

平成21年度調査区中央北のB34グリッドに位置する。住居址北側の大半は調査区外である。中世のピットで西壁・南壁などが破壊されている。確認された規模(床面での計測値、以下同様)は東西長4.4m、南北長3mで最大壁残高は10cmである。平面形態は隅丸長方形と推定される。床面は10cm程のローム・黒褐色土からなる埋土で構築されるが叩きしめは弱い。ピットは3基確認できた。深さ35cmで東西に配置されたP1・P2は4本の支柱穴における南側2本と考えられる。P3は東西に長い43×50×17cm(南北長×東西長×深さ、以下同様)の浅い楕円形を呈し、南壁中央に位置することから出入口施設との関連が検討される。炉は調査区外に存在が推定される。

遺物は床面から10cm程の覆土で弥生土器、石器が検出された(表の出土位置Ⅰ区は東半部、Ⅱ区は西半部)。弥生土器は中期後半の破片で、口縁部に突起のある内外面赤色塗彩された鉢(1)、口唇部縄文・頸部櫛描横線文・胴部櫛描斜走文の甕(2)、甕底部(3)、区画されたへら描垂下文、縄文にへら描横線・波状文の壺(4)、縄文にへら描横線・波状文の壺(5)がある。石器は黒曜石の剥片11点、有茎鏃(6)1点、ホルンフェルスの削器(7)1点である。

H6号住居址(第22図・表9)

平成21年度調査区東南のE37グリッドに位置する。住居址南側の大半は調査区外であり、井戸址で西側が破壊されている。壁残高5cm前後と浅く東側平成19年度調査区では確認されていない。確認された範囲は東西長1.4m、南北長2.85mの北壁周辺部である。床面は10cm程のローム・黒褐色土からなる埋土で構築されるが叩きしめは弱い。ピット、炉は確認されていない。

床面から10cm程の覆土で弥生時代中期後半の土器が検出された。片口付鉢(2)、口縁部に2孔一対の穿孔を有する大型の鉢(1)、櫛描波状・垂下文の甕(3)、櫛描斜走文の甕(4)がある。

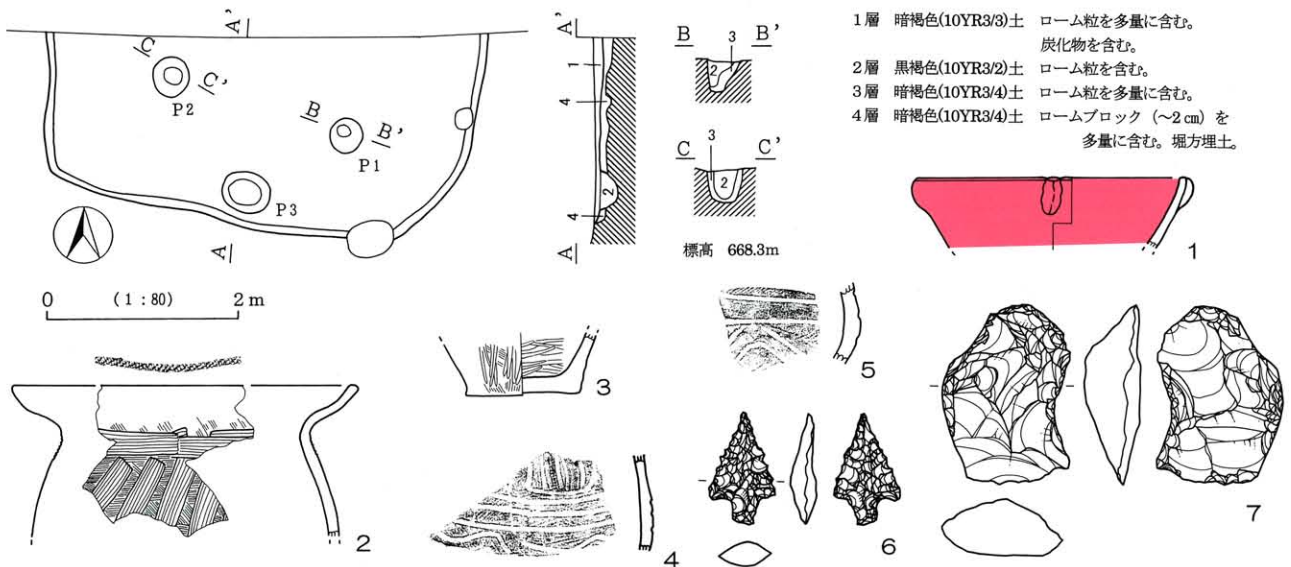
H8号住居址(第23図・表10)

平成22年度調査区西端のC3グリッドに位置する。住居址西側は調査区外である。確認された規模は南北長5.2m、東西長2.4mで最大壁残高は10cmである。平面形態は隅丸長方形と考えられる。床面は10cm程のローム・黒褐色土からなる埋土を叩きしめて構築されている。特に中央部が強くロームブロックの凝集部が観察される。支柱穴と考えられるP1・P2が確認された。P1が深さ38cmの北東部の支柱穴、調査区壁部で部分的に確認された深さ35cmのP2が南東部の支柱穴であろう。炉は確認されていない。

遺物は黒曜石剥片2点、黒色片岩の磨製石鏃未製品(3)、極僅かな弥生時代中期後半土器片で、櫛描波状文・へら描横線文の壺(1)、櫛描波状文の甕(2)がある。

H9号住居址(第24図・表11)

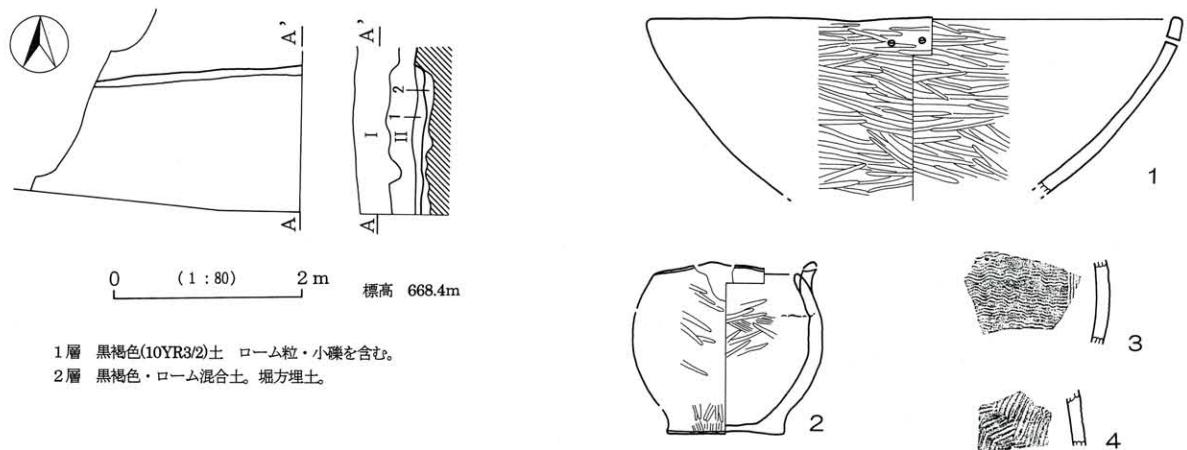
平成22年度調査区西側のC9グリッドに位置する。住居址南側の大半は調査区外であり、中央部が攪乱によって破壊されている。確認できた規模は南北長0.65m、東西長2.85mで最大壁残高は40cmである。床面は厚さ5cm程のロームと黒褐色土による叩きしめで構築される。壁際に深さ10cm程の周



第21図 H2号住居址とその遺物 (縮尺1~5:1/4、6:2/3、7:1/3)

表8 H2号住居址遺物観察表

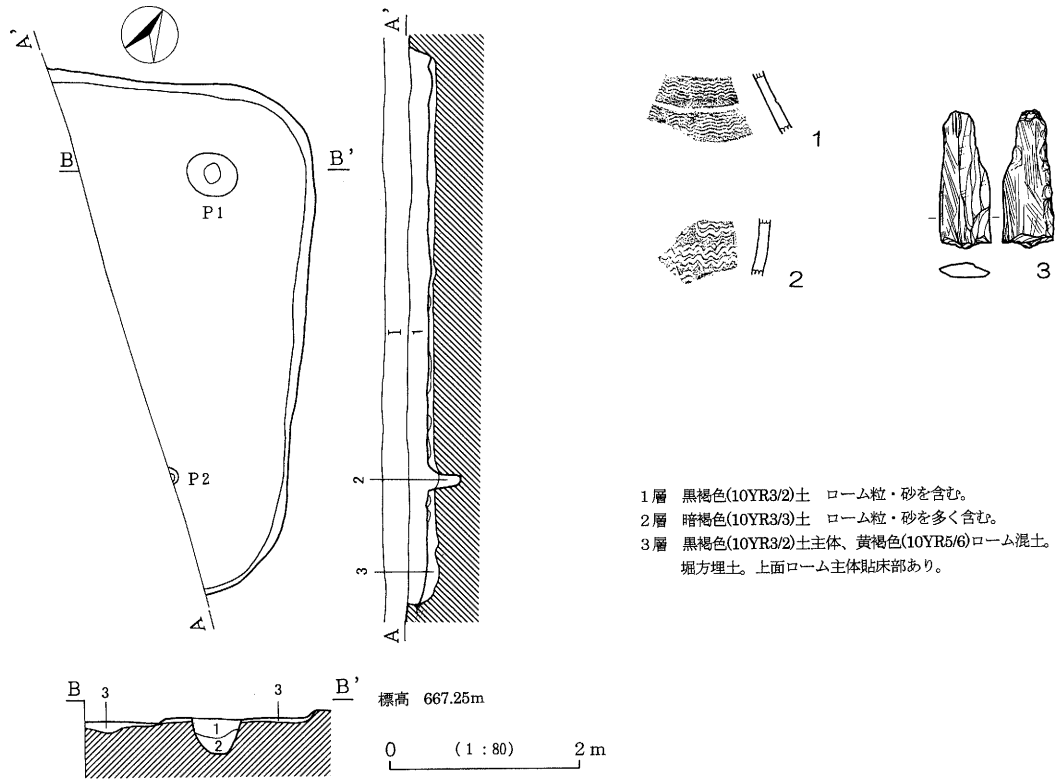
| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ(g) |
|-----|----|---------|----------|------|-------|--------------------------|--|------|---------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 弥生 | 鉢 | △14.0 | | *3.9 | ヘラミガキ 赤彩 | ヘラミガキ 赤彩 | I区 | 回転実測 突起有り |
| 2 | 弥生 | 甕 | △18.2 | | *8.1 | 口縁部 ヨコナデ 胴部 ハケ目→ヘラミガキ | 口唇部 縄文 頸部 櫛描横線文(7本) 胴部 櫛描斜走文(7本) | II区 | 回転実測 |
| 3 | 弥生 | 甕 | | 6.0 | *3.2 | ヘラミガキ | ハケ目→ヘラミガキ | I区 | 完全実測 |
| 4 | 弥生 | 壺 | | | | ヘラナデ | 縄文 ヘラ描垂下・横線・波状文 | II区 | 拓本 断面実測 |
| 5 | 弥生 | 壺 | | | | ハケ目 | 縄文 ヘラ描横線文 | I区 | 拓本 断面実測 |
| 6 | 石鏃 | 黒曜石 | 2.2 | 1.3 | 0.5 | | | II区 | 0.8 |
| 7 | 削器 | ホルンフェルス | 7.2 | 5.0 | 2.2 | | | I区 | 71.64 |



第22図 H6号住居址とその遺物 (縮尺1/4)

表9 H6号住居址遺物観察表

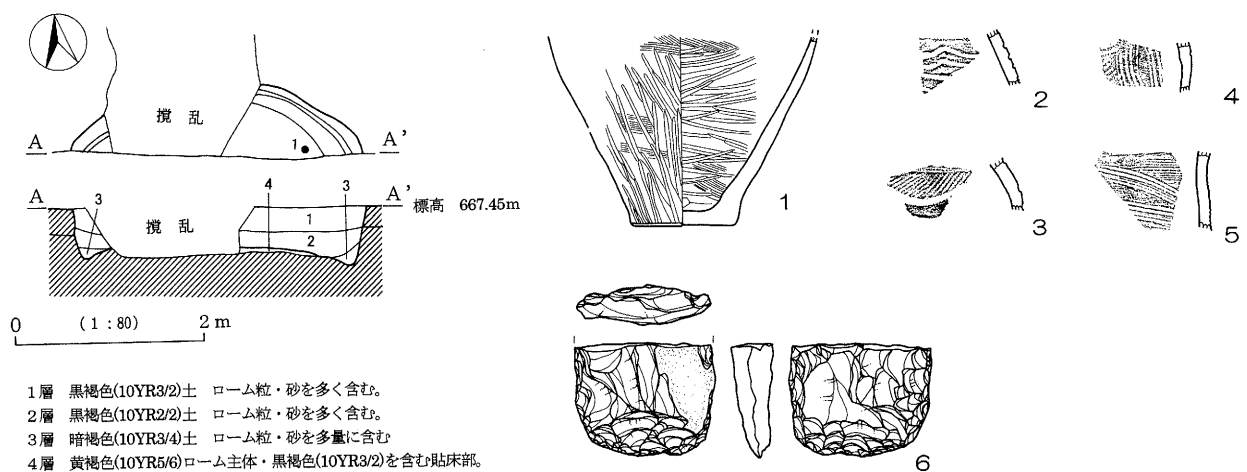
| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ(g) |
|-----|----|-------|----------|------|-------|-----------|-----------|------|---------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 弥生 | 鉢 | △28.2 | | *9.4 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 1層 | 口縁部 2孔有り 回転実測 |
| 2 | 弥生 | 片口付鉢 | 7.7 | 6.2 | 8.5 | ハケ目→ヘラミガキ | ハケ目→ヘラミガキ | 1層 | 完全実測 |
| 3 | 弥生 | 甕 | | | | ヘラミガキ | 櫛描波状・垂下文 | 1層 | 拓本 断面実測 |
| 4 | 弥生 | 甕 | | | | ヘラミガキ | 櫛描斜走文 | 1層 | 拓本 断面実測 |



第 23 図 H 8 号住居址とその遺物 (縮尺 1・2 : 1/4、3 : 1/3)

表 10 H 8 号住居址遺物観察表

| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成 形・調 整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ (g) |
|-----|-----|-------|----------|------|-------|---------|--------------|------|----------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 弥生 | 壺 | | | | ヘラミガキ | 櫛描波状文・ヘラ描横線文 | 1 層 | 拓本 断面実測 |
| 2 | 弥生 | 甕 | | | | ヘラミガキ | 櫛描波状文 | 1 層 | 拓本 断面実測 |
| 3 | 未製品 | 黒色片岩 | 5.4 | 2.2 | 0.6 | 磨製石鏃 | | P 2 | 7.34 |



第 24 図 H 9 号住居址とその遺物 (縮尺 1 ~ 5 : 1/4、6 : 1/3)

表 11 H 9 号住居址遺物観察表

| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成 形・調 整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ (g) |
|-----|------|-------|----------|------|-------|-----------|---------------------|------|----------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 弥生 | 甕 | | 5.6 | *10.0 | ハケ目→ヘラミガキ | ハケ目→ヘラミガキ | 床 | 完全実測 |
| 2 | 弥生 | 壺 | | | | ハケ目 | 縄文 ヘラ描横線・波状文 | 2 層 | 拓本 断面実測 |
| 3 | 弥生 | 壺 | | | | ハケ目→ヘラミガキ | ハケ目 縄文 ヘラ描横線・波状文 | 2 層 | 拓本 断面実測 |
| 4 | 弥生 | 甕 | | | | ヘラミガキ | ハケ目 ヘラ描コの字重文 | 2 層 | 拓本 断面実測 |
| 5 | 弥生 | 甕 | | | | ハケ目→ヘラミガキ | ハケ目 櫛描斜走文 | 2 層 | 拓本 断面実測 |
| 6 | 打製石斧 | 溶結凝灰岩 | *4.5 | *5.6 | *1.6 | 刃部破片 | | 2 層 | 46.15 |

溝が巡る。

遺物は石鏃製作を示唆する黒曜石8点、打製石斧刃部破片(6)が覆土から、弥生時代中期後半の土器で、甕底部(1)が床面、縄文にヘラ描横線・波状文の壺(2・3)、ヘラ描コの字重ね文の甕(4)、櫛描斜走文の甕(5)などの極僅かな土器片が覆土から検出された。

H10号住居址(第25～28図・表12)

平成22年度調査区西側のB11グリッドに位置する。北壁は攪乱で破壊されている。確認された規模は南北長5m、東西長4.15mで最大壁残高は40cmである。平面形態は隅丸長方形でも楕円形に近い。ロームと黒褐色土の叩きしめで床面が構築され、壁下に深さ10cmの周溝が巡る。P1～P4が支柱穴と考えられる。P2・P3は東西に2本あり東壁周溝部の広さを考えると東側への拡張が想定される。南壁中央部に併設されたP5・P6は出入り口、P6脇のD1は貯蔵穴と考えられている施設に相当し、堀方で確認されたD2は初期の貯蔵穴位置と考えられる。炉は中央に位置する。長さ17cm・幅8cm・厚さ4.7cmの安山岩礫を炉縁石として南側に配し、南北25cm・東西35cm・厚さ4cmの範囲に土器片を設置して構築している。

遺物は、炉に用いられた土器(9・11・19)、D1覆土の土器(20)と床面の炭化材に示される建築材焼成後に一括廃棄された土器群・石器群がある。壁際の3層では、南壁際で甕底部(22・23)、西壁際で磨製石斧刃部(32)、石槌(31)が検出されている。大半の復原可能な土器群は覆土2層に廃棄されていた。特に東壁側から中央に廃棄された土器群(1～3・8・10・13・14～16・18・21)が主体である。

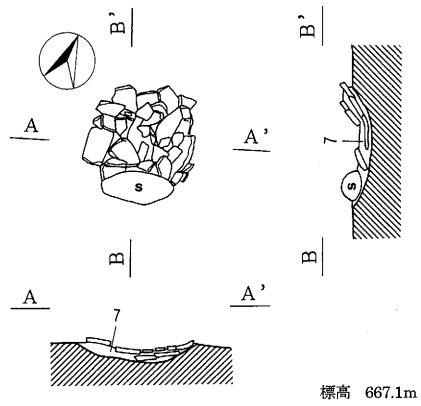
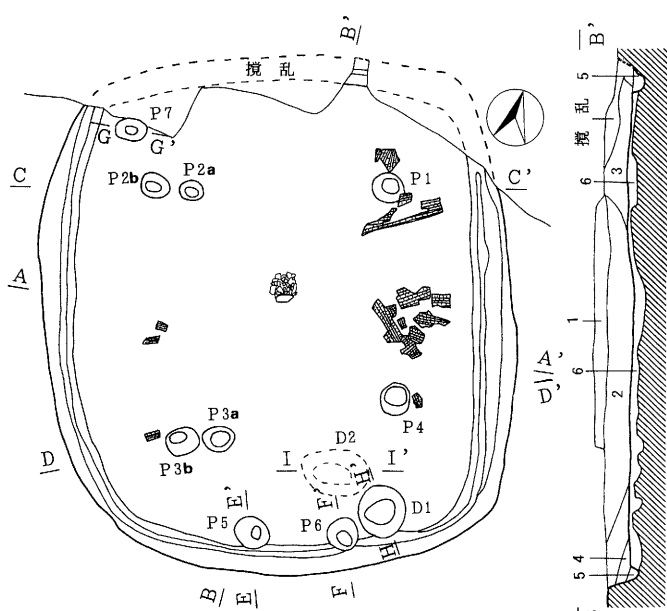
土器は弥生時代中期後半の土器群であり、1～12の壺、13・14の内外面赤色塗彩の鉢、15の内外面赤色塗彩の高坏、16～23の甕等である。細頸壺の文様では縄文、ヘラ描横線・波状・連弧文、区画された櫛描垂下文、刺突文(1・2・11)がある。受口口縁・細頸壺では縄文・ヘラ描山形文(8・9)があり、10はその文様を口縁内側に有する。太頸壺の文様には縄文、ヘラ描横線・波状文、櫛描簾状文(3)がある。受口口縁甕の文様には縄文、ヘラ描山形文、櫛描横線・連弧・波状・簾状・垂下文、刻目、円形貼文(16～20)がある。

石器群は黒曜石の石鏃1点(24)・石鏃未製品13点(25)・剥片44点・石核2点(27・29)・原石2点(26・28)、チャート剥片1点、ホルンフェルス剥片4点、珪質頁岩剥片2点、緑色岩未製品1点(30)、粗粒玄武岩磨製石斧1点(32)・石鎚1点(31)、安山岩敲石1点(33)、安山岩凹石1点(34)である。

黒曜石原石としたものは小型板状の転石であり、石核としたものはそれを楔状に両極剥離したものである。石鏃未製品としたものは薄型板状原石や両極剥離等で得られた剥片に押圧剥離の痕跡が観察できるものである。製作途上に破損した失敗品が主体で完成段階は図示(25)の1点である。下原遺跡で確認された黒曜石石鏃の特徴として原礫面を残すものが多い。それらに大型原石を想定できるものがないことから、素材剥片剥離の量産工程はなく、小型板状原石の両極・押圧剥離技術主体の製作工程が想定される。原石搬入からの製作作業が遺跡で行われていることは明確であるが、H10号住居址ではあらゆる覆土から石器群が検出されており、製作場所の特定は困難である。

H11号住居址(第29図・表13)

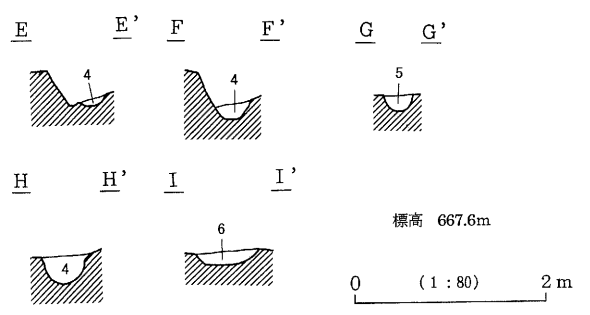
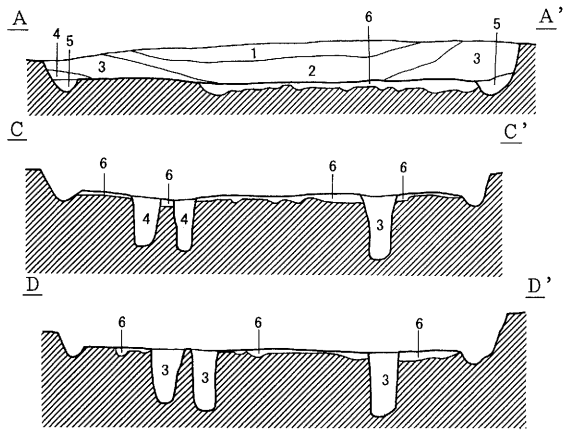
平成22年度調査区中央北のA18グリッドに位置する。住居址北側の大半は調査区外である。確認された南半部の規模は東西長3m、南北長2.1mで最大壁残高は8cmである(調査区壁セクションでは20cm)。平面形態は隅丸長方形と推定される。床面は深さ15cm程の堀方をローム・黒褐色土を埋土として叩きしめ、住居中央部を主体に強固な床面を構築する。ピットは3基確認できた。東西に配置された深さ45cmのP1と深さ58cmのP2が4本の支柱穴における南側2本と考えられる。P3は東西に長い45×50×20cmの浅い楕円形を呈し、南壁中央に位置することから出入口施設との関連が検討される。H2号住居址と同等のピット配置である。



標高 667.1m

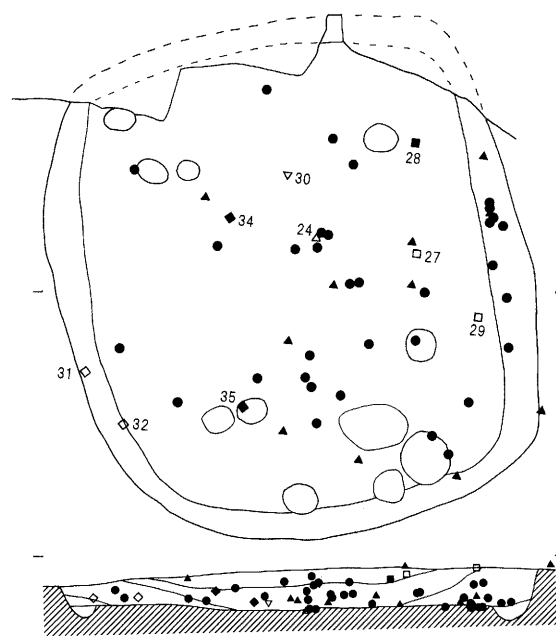
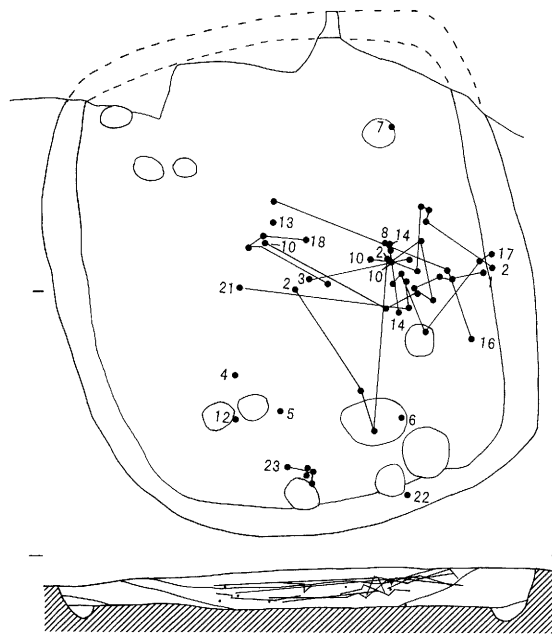
0 (1:40) 1m

- 1層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒を多く含む。
- 2層 黒褐色(10YR2/2)土 ローム粒・炭化物を含む。
- 3層 暗褐色(10YR3/3)土 ローム粒・砂を多量に含む。炭化物を含む。
- 4層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒を多く含む。
- 5層 暗褐色(10YR3/4)土 ローム粒を極めて多量に含む。
- 6層 黒褐色(10YR3/2)土主体、黄褐色(10YR5/6)ローム混土。堀方埋土。
- 7層 黒褐色(10YR2/2)土 炭化物を多く含む。



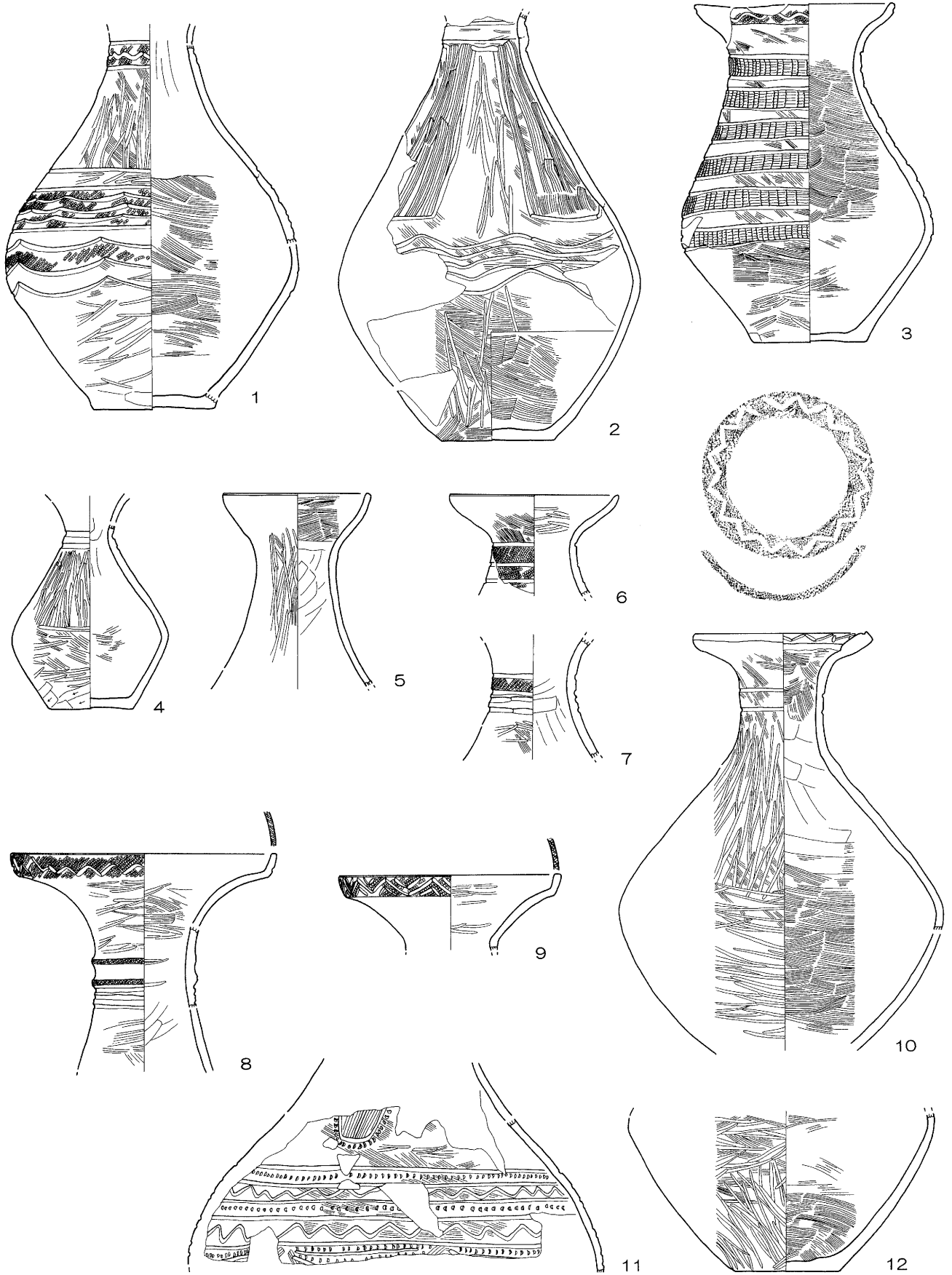
標高 667.6m

0 (1:80) 2m

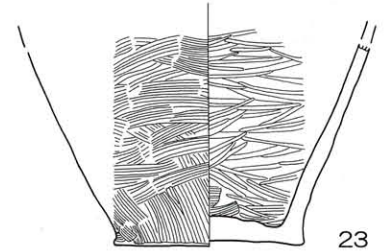
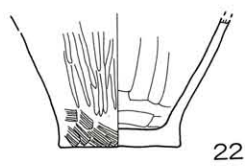
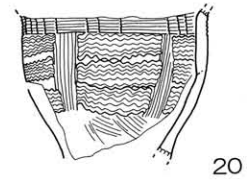
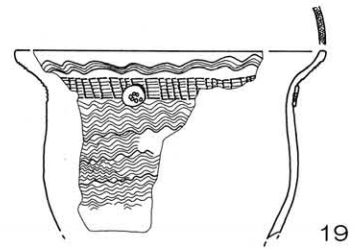
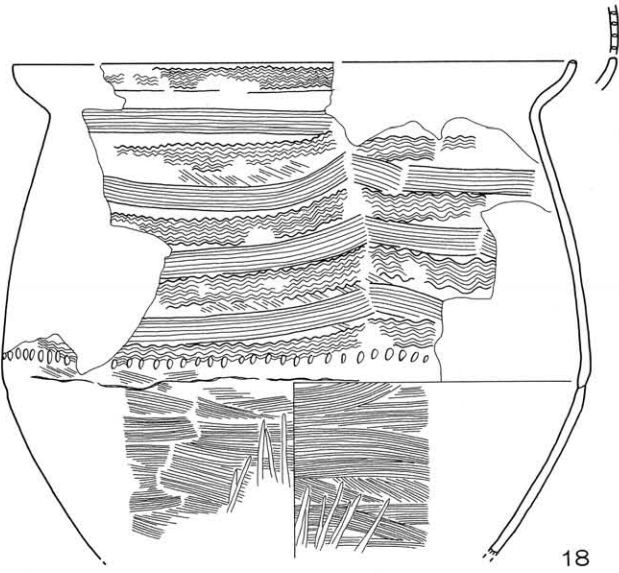
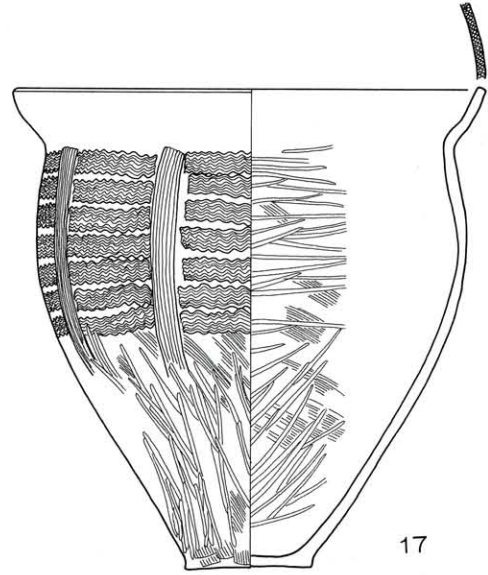
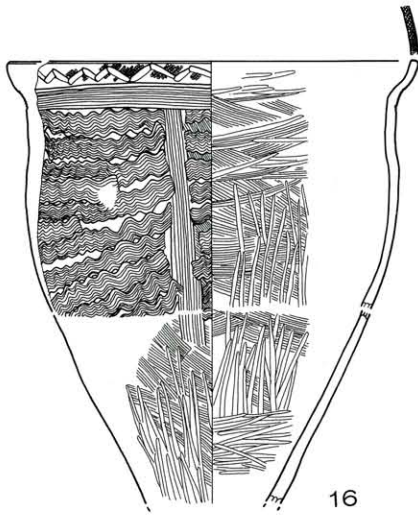
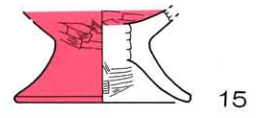
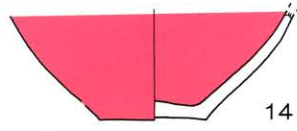


- 黒曜石
- △ 石鏃
- ▲ 石鐵未製品
- 剥片
- 石核
- 原石
- ◇ 磨製石斧・石槌
- ◆ 蔽石・凹石
- ▽ 未製品

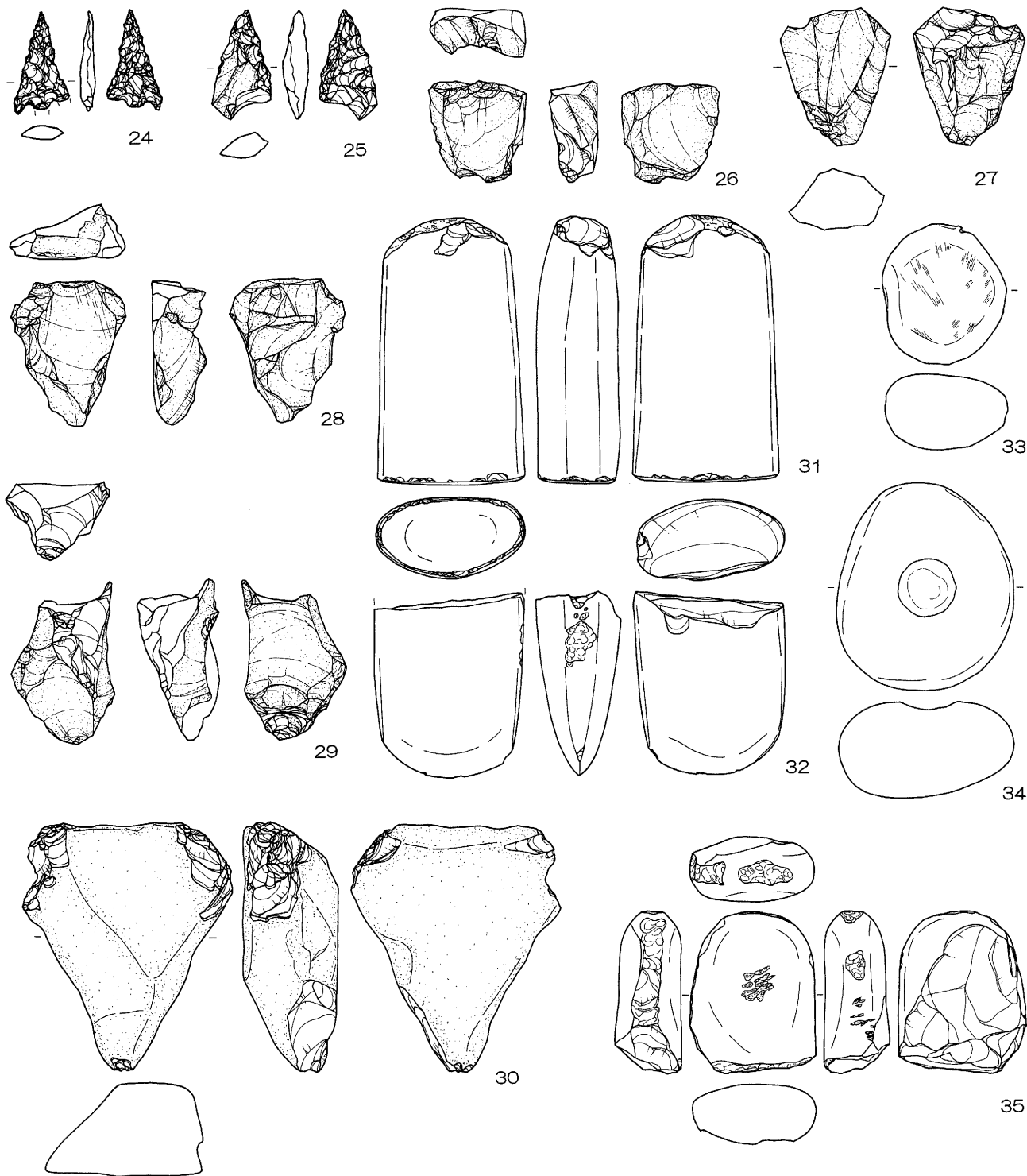
第 25 図 H 10 号住居址



第 26 図 H 10 号住居址の遺物 (1) (縮尺 1/4)



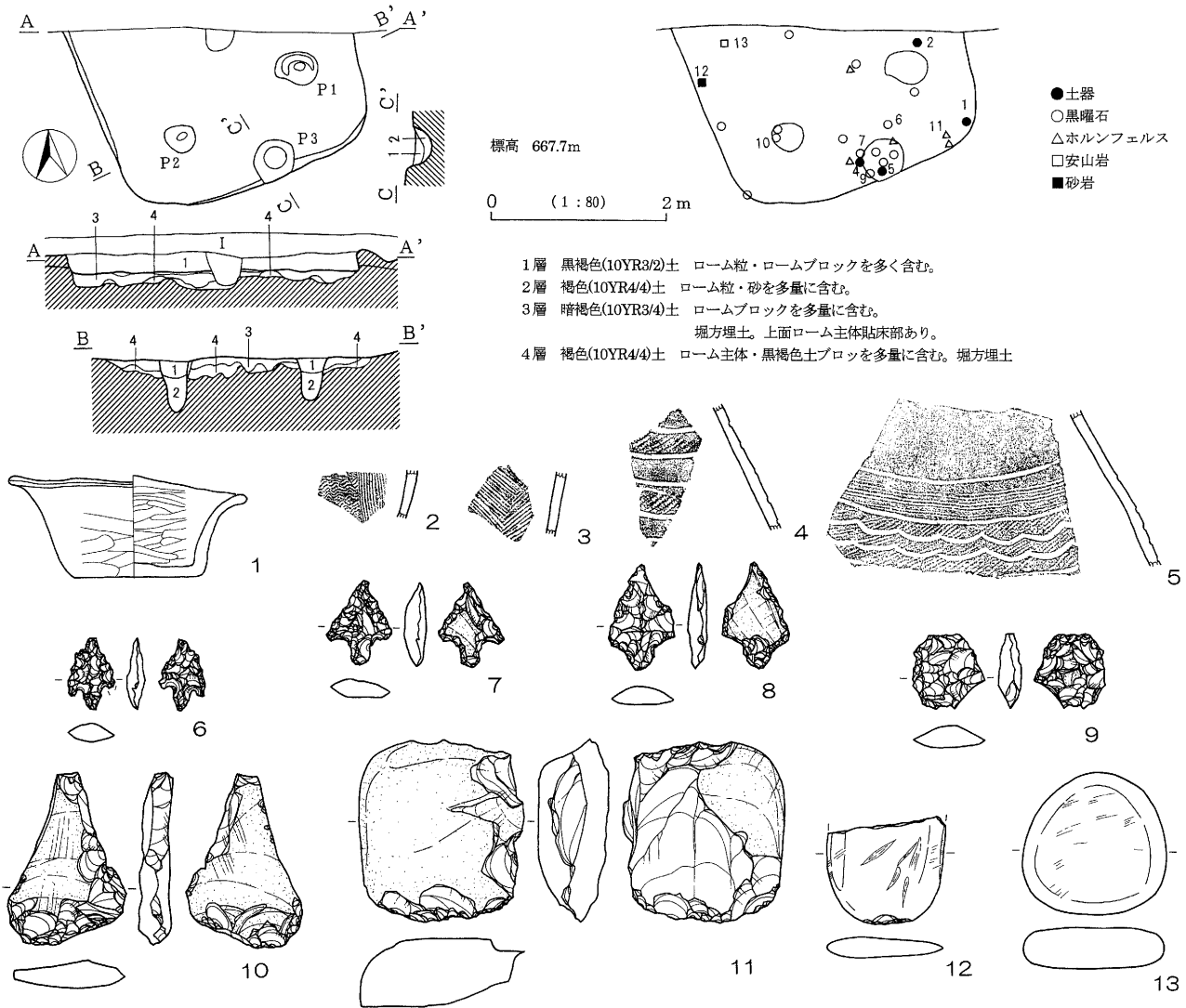
第 27 図 H 10 号住居址の遺物 (2) (縮尺 1/4)



第28図 H 10号住居址の遺物(3) (縮尺 24～29: 2/3、30～32: 1/3、33～35: 1/4)

表 12 H 10 号住居址遺物観察表

| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ(g) |
|-----|-------|-------|----------|------|-------|----------------------|---|-------|---------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 弥生 | 壺 | | 9.0 | *28 | ハケ目 | 頸部 縄文→ヘラ描横線・波状文 体部 ハケ目→ヘラミガキ 縄文→ヘラ描横線・連弧文 | 中央東2層 | 完全実側 |
| 2 | 弥生 | 壺 | | 8.3 | *31.4 | ハケ目 | ハケ目→ヘラミガキ ヘラ描横線文・連弧文 櫛描き垂下文 | 中央東2層 | 完全実側 |
| 3 | 弥生 | 壺 | △14.5 | 8.3 | 24.7 | ハケ目 | 頸部 縄文→ヘラ描横線・状文 体部 ハケ目→櫛描簾状文 ヘラ描横線文 | 中央東2層 | 完全実側 |
| 4 | 弥生 | 壺 | | 6.2 | *15.7 | ハケ目 ナデ | 頸部ヘラ描沈線 ハケ目→ヘラミガキ ヘラケズリ | 西南2層 | 完全実側 |
| 5 | 弥生 | 壺 | 10.8 | | *14.2 | ハケ目→ヘラナデ | ハケ目→ヘラミガキ | 西南2層 | 完全実側 |
| 6 | 弥生 | 壺 | △12.4 | | *7.4 | ヘラミガキ | ハケ目 縄文 ヘラ描横線文 | 東南2層 | 回転実測 |
| 7 | 弥生 | 壺 | | | *8.9 | ヘラナデ | ハケ目→ヘラミガキ 縄文→ヘラ描横線文 | 北東2層 | 完全実側 |
| 8 | 弥生 | 壺 | △19.2 | | *16.1 | ハケ目→ヘラミガキ | ハケ目→ヘラミガキ 口唇部 縄文 口縁部 縄文→ヘラ描山形文 頸部 縄文→ヘラ描横線文 | 中央東2層 | 完全実側 |
| 9 | 弥生 | 壺 | △16.0 | | *5.7 | ヘラミガキ | 口唇部 縄文 口縁部 縄文→ヘラ描山形文 | 炉 | 回転実側 赤化 |
| 10 | 弥生 | 壺 | 12.9 | | *30.5 | ハケ目 口縁 縄文→ヘラ描山形文 | ハケ目→ヘラミガキ 口唇部 縄文 頸部 ヘラ描横線文 | 中央東2層 | 完全実側 |
| 11 | 弥生 | 壺 | | | *15.2 | ハケ目→ヘラミガキ | ハケ目→ヘラミガキ 体部 櫛描垂下文 ヘラ描横線・波状文 刺突文 | 炉 | 回転実側 赤化 |
| 12 | 弥生 | 壺 | | 8.7 | *11.9 | ハケ目→ヘラミガキ | ハケ目→ヘラミガキ | 西南2層 | 完全実側 |
| 13 | 弥生 | 鉢 | 14.5 | 4.6 | 6.5 | ヘラミガキ 赤彩 | ヘラミガキ 赤彩 | 中央2層 | 完全実側 口縁突起貼付 |
| 14 | 弥生 | 鉢 | | 5.7 | *5.7 | ヘラミガキ 赤彩 | ヘラミガキ 赤彩 | 中央東2層 | 完全実側 |
| 15 | 弥生 | 高坏 | | △9.4 | *4.9 | 杯部 ヘラナデ 赤彩 脚部 ハケ目 | ヘラミガキ 赤彩 | 西南2層 | 完全実側 |
| 16 | 弥生 | 甕 | △21.6 | | *23.5 | ハケ目→ヘラミガキ | 口唇部縄文 口縁部縄文→ヘラ描山形文 体部ハケ目→ヘラミガキ 櫛描垂下・波状・横線文 | 中央東2層 | 完全実側 |
| 17 | 弥生 | 甕 | 24.9 | 6.6 | 25.5 | ハケ目→ヘラミガキ | ハケ目→ヘラミガキ 口唇部 縄文 体部 櫛描波状・垂下(7本)文 | 中央東2層 | 完全実側 |
| 18 | 弥生 | 甕 | △29.8 | | *26.3 | ハケ目→ヘラミガキ | ハケ目→ヘラミガキ 口唇部 刻目 体部 櫛描波状・連弧文 刻目 | 中央2層 | 完全実側 |
| 19 | 弥生 | 甕 | △16.2 | | *10.0 | ヘラミガキ | 口唇部縄文 口縁部櫛描波状文 頸部櫛描簾状文(6本1連止め) 体部櫛描波状文 円形浮文貼付 | 炉 | 回転実側 |
| 20 | 弥生 | 甕 | | | *8.0 | ハケ目→ヘラミガキ | ハケ目 櫛描垂下(7本)・波状・簾状文 | D1 | 完全実側 |
| 21 | 弥生 | 甕 | | 9.2 | *7.6 | ハケ目→ヘラミガキ | ハケ目→ヘラミガキ | 中央東2層 | 完全実側 |
| 22 | 弥生 | 甕 | | 6.5 | *7.0 | ヘラナデ | ハケ目→ヘラミガキ | 南壁際3層 | 完全実側 |
| 23 | 弥生 | 甕 | | 10.0 | *11.9 | ハケ目→ヘラミガキ | ハケ目 | 南壁際3層 | 完全実側 |
| 24 | 石鉢 | 黒曜石 | *2.5 | *1.4 | 0.35 | 莖部・右脚欠損 | | 中央2層 | 0.72 |
| 25 | 石鉢未製品 | 黒曜石 | 2.8 | 1.5 | 0.6 | | | 西北2層 | 0.8 |
| 26 | 原石 | 黒曜石 | 2.5 | 2.5 | 1.1 | 右側面に加工有り | | 東北2層 | 7.02 |
| 27 | 石核 | 黒曜石 | 3.4 | 3.7 | 1.4 | 両極剥離痕有り | | 中央東1層 | 12.14 |
| 28 | 原石 | 黒曜石 | 3.6 | 2.9 | 1.2 | | | 東北1層 | 11.03 |
| 29 | 石核 | 黒曜石 | 4.1 | 2.6 | 1.6 | 両極剥離痕有り | | 中央東1層 | 13.57 |
| 30 | 未製品 | 緑色岩 | 12.4 | 10.3 | 4.7 | | | 中央2層 | 735.88 |
| 31 | 石槌 | 粗粒玄武岩 | 13.3 | 7.4 | 4.1 | 磨製石斧転用 | | 西壁3層 | 796.77 |
| 32 | 磨製石斧 | 粗粒玄武岩 | *9.1 | *7.5 | *4.1 | 刃部 右側面に敲打痕 | | 西壁3層 | 415.95 |
| 33 | 磨石 | 安山岩 | 9.4 | 8.3 | 5.0 | | | 中央東2層 | 507.53 |
| 34 | 凹石 | 安山岩 | 14.0 | 11.7 | 6.5 | | | 中央2層 | 1404.36 |
| 35 | 敲石 | 安山岩 | 10.9 | 8.3 | 4.3 | 表面・両側・両端に敲打痕 | | 西南2層 | 619.98 |



第29図 H 11号住居址とその遺物 (縮尺1~5:1/4, 6~10:2/3, 11~13:1/3)

表13 H 11号住居址遺物観察表

| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ (g) |
|-----|-------|---------|----------|------|-------|-----------|------------------------------------|------|----------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 弥生 | 鉢 | 13.5 | 7.5 | 5.8 | ヘラミガキ | ナデ | 南東壁際 | 完全実測 |
| 2 | 弥生 | 甕 | | | | ハケ目→ヘラミガキ | 櫛描波状・垂下文 | P1脇 | 拓本 断面実測 |
| 3 | 弥生 | 甕 | | | | ヘラミガキ | 櫛描斜走文 | 1層 | 拓本 断面実測 |
| 4 | 弥生 | 壺 | | | | ヘラミガキ | 縄文 ヘラ描横線文 | P3 | 拓本 断面実測 |
| 5 | 弥生 | 壺 | | | | ハケ目 | ハケ目→ヘラミガキ 縄文 ヘラ描横線・連弧文 櫛描横線文 | P3 | 拓本 断面実測 |
| 6 | 石鏃 | 黒曜石 | 1.5 | 1.0 | 0.4 | | | P3脇 | 0.34 |
| 7 | 石鏃 | 黒曜石 | 1.8 | 1.4 | 0.4 | 表裏に自然面有り | | P3 | 0.67 |
| 8 | 石鏃未製品 | 黒曜石 | 2.3 | 1.4 | 0.4 | 裏面に自然面有り | | 1層 | 0.88 |
| 9 | 石鏃未製品 | 黒曜石 | 1.6 | 1.5 | 0.5 | | | P3 | 0.97 |
| 10 | 未製品 | 黒曜石 | 3.7 | 2.5 | 0.6 | 板状原石 | | P2 | 4.93 |
| 11 | 未製品 | ホルンフェルス | 7.8 | 6.9 | 3.0 | 石斧未製品 | | 南東壁際 | 219.02 |
| 12 | 砥石 | 砂岩 | *4.6 | *5.0 | *0.8 | 表裏面砥面 | | 西壁脇 | 23.44 |
| 13 | 砥石 | 安山岩 | 6.1 | 6.1 | 1.8 | 表裏面砥面 | | 西壁脇 | 100.33 |

遺物は床面から8cm程の覆土で弥生時代中期後半の土器、石器が検出された。土器は無文の鉢(1)、櫛描波状・垂下文の甕(2)、櫛描斜走文の甕(3)、縄文にヘラ描横線文の壺(4)、縄文に櫛描横線文、ヘラ描横線・連弧文の壺(5)等である。石器は黒曜石の有茎鏃2点(6・7)・石鏃未製品3点(8・9・10)・剥片10点、石斧等が想定されるホルンフェルスの未製品(11) 1点・剥片8点、チャートの剥片1点、砂岩の砥石(12) 1点、安山岩の砥石(13) 1点である。黒曜石石器群・ホルンフェルス石器群のあり方は遺跡での石器製作行動を示す。H11号住居址床面近くの出土状況が製作の場を示すのか、製作の場を離れた廃棄の場なのかが問題であるが、ピット覆土にも多くの資料が含まれており製作の場としては特定できない。

H15号住居址(第30図・表14)

平成22年度調査区東南のC25グリッドに位置する。住居址南側は調査区外であり、北東部は攪乱で破壊され、南端の一部が何らかの遺構で破壊されている。確認された規模は東西長4.25m、南北長3.35mで最大壁残高は20cmである。平面形態は隅丸長方形と推定される。床面はローム面を叩きしめたものであるがあまり強固ではない(明確な堀方はない)。南北に配置された深さ35cmのP1と深さ44cmのP2が4本の支柱穴における西側2本と考えられる。住居址中央に位置する炉は中世のピットで主要部を破壊されているが、埋め込まれた2片の土器と焼土が確認された。

遺物は床面付近の覆土で弥生時代中期後半の土器、石器が検出された。土器は櫛描簾状・波状・垂下文、刺突文、ヘラ描波状・横線文の壺(1)、壺底部(2)、炉に用いられた口唇部縄文・指頭による押捺、羽状の櫛描斜走文の甕(3)、櫛描波状文の甕(4)、縄文にヘラ描横線・波状文の壺(5)等である。石器は黒曜石の石錐1点(6)・剥片3点、安山岩の未製品(7) 1点である。

H18号住居址(第31図・表15)

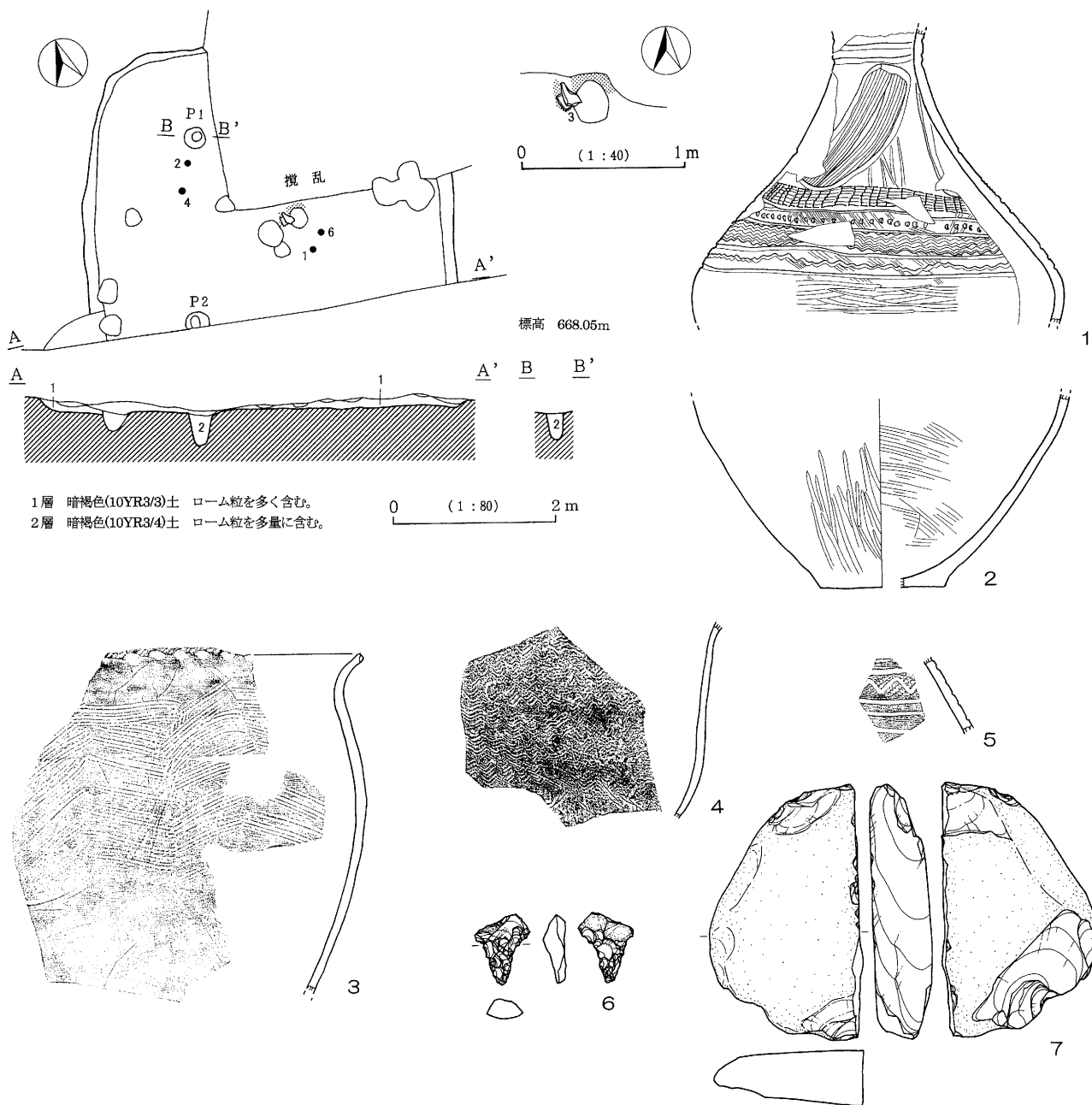
平成22年度調査区東北のB23グリッドに位置する。住居址北壁側は調査区外であり、東壁側はH16号住居址、西壁・南壁側は攪乱、中央はM4号溝址で破壊されている。確認された規模は東西長3.8m、南北長4.2mで最大壁残高は40cmである。平面形態は隅丸長方形と推定される。床面はロームと黒褐色土の埋土を叩きしめて構築し、中央部が強固である。北西の支柱穴は攪乱で破壊されていたが、4本の支柱穴における東側2本のP1・P3、西南部のP2が確認された。南壁中央部に併設されたP4・P5は出入り口、P5脇のD1とした土坑(60×55×25cm)は貯蔵穴と考えられている施設に相当する。炉はM4号溝址で破壊されたと考えられる。

検出遺物は覆土中に廃棄された弥生時代中期後半の土器、石器である。土器は内外面赤色塗彩の高坏(1)、受口口縁部縄文の内外面赤色塗彩の鉢(2)、縄文・ヘラ描横線文の細頸壺(3)、口唇部縄文、体部櫛描斜走文の小型甕(4)、口唇部刻目、体部櫛描波状・垂下文の甕(5)、櫛描波状・垂下文の小型甕(6)、甕底部(7)、縄文にヘラ描横線・波状文の壺(8)、縄文にヘラ描横線文の壺(8)等である。石器は黒曜石の有茎鏃1点(10)・石鏃未製品4点(12～15)・原石2点・剥片36点、珪質頁岩の有茎鏃1点(11)、ホルンフェルスの剥片5点、チャートの剥片1点である。黒曜石石器群は覆土中の廃棄物であるが製作場所の関連は確認できなかった(表のⅠ区は北半部、Ⅱ区は南半部)。

H19号住居址(第32図・表16)

平成22年度調査区東北のB21グリッドに位置する。住居址北壁側は調査区外であり、東・南壁側の大半はH12号住居址・攪乱で破壊されている。確認された規模は南北長3.6m、東西長1.25mで最大壁残高は15cmである。ロームと黒褐色土の叩きしめで床が構築され、西壁に深さ10cm程の周溝がある。4本支柱穴の北西部のP1とH12号住居址堀方で南側2本のP2・P3が確認された。

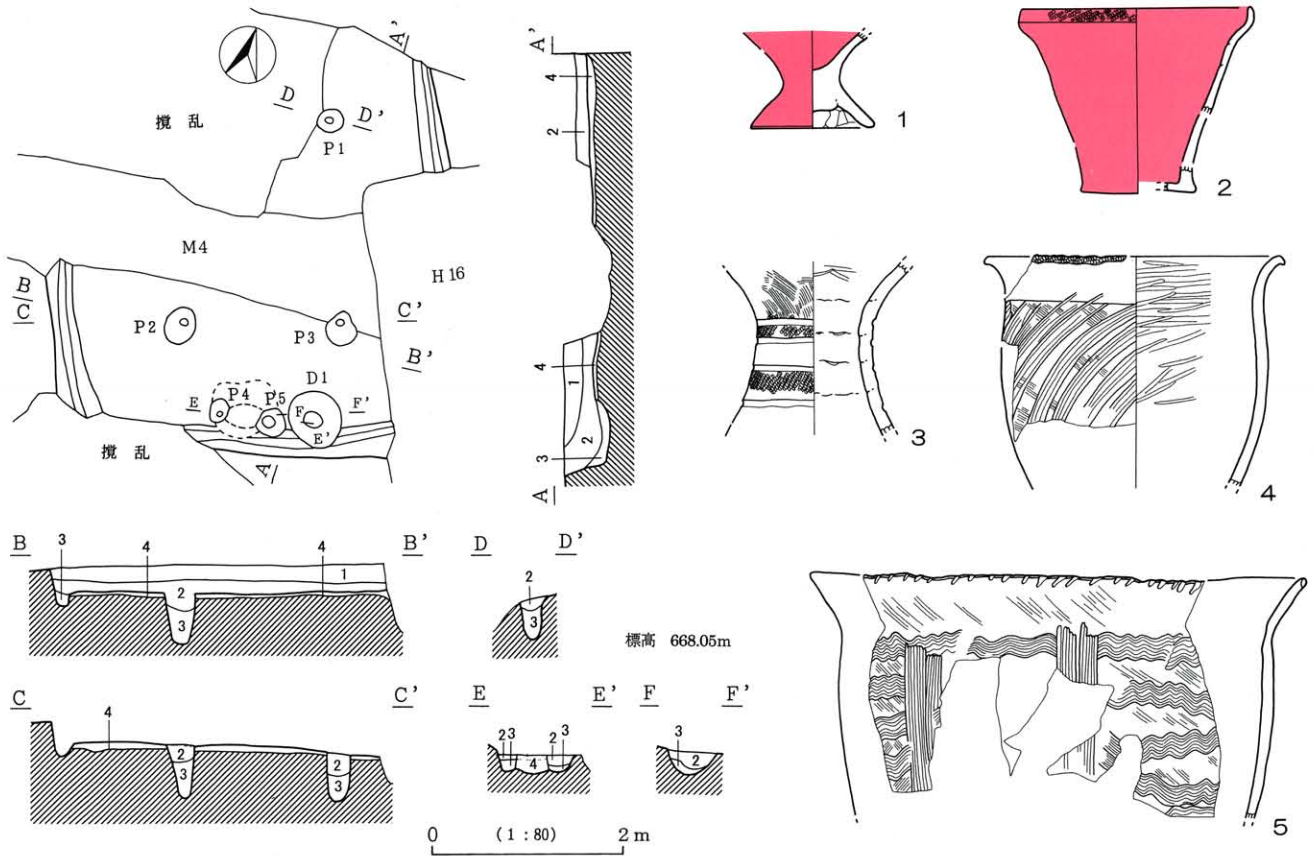
検出遺物は覆土に廃棄された黒色片岩の磨製石鏃(1) 1点、黒曜石の剥片2点である。なお、第32図に検出は古墳・奈良時代住居址の覆土であるが、弥生時代中期の遺物と考えられる黒曜石製石鏃(2)・石鏃未製品(3～5)を図示した。



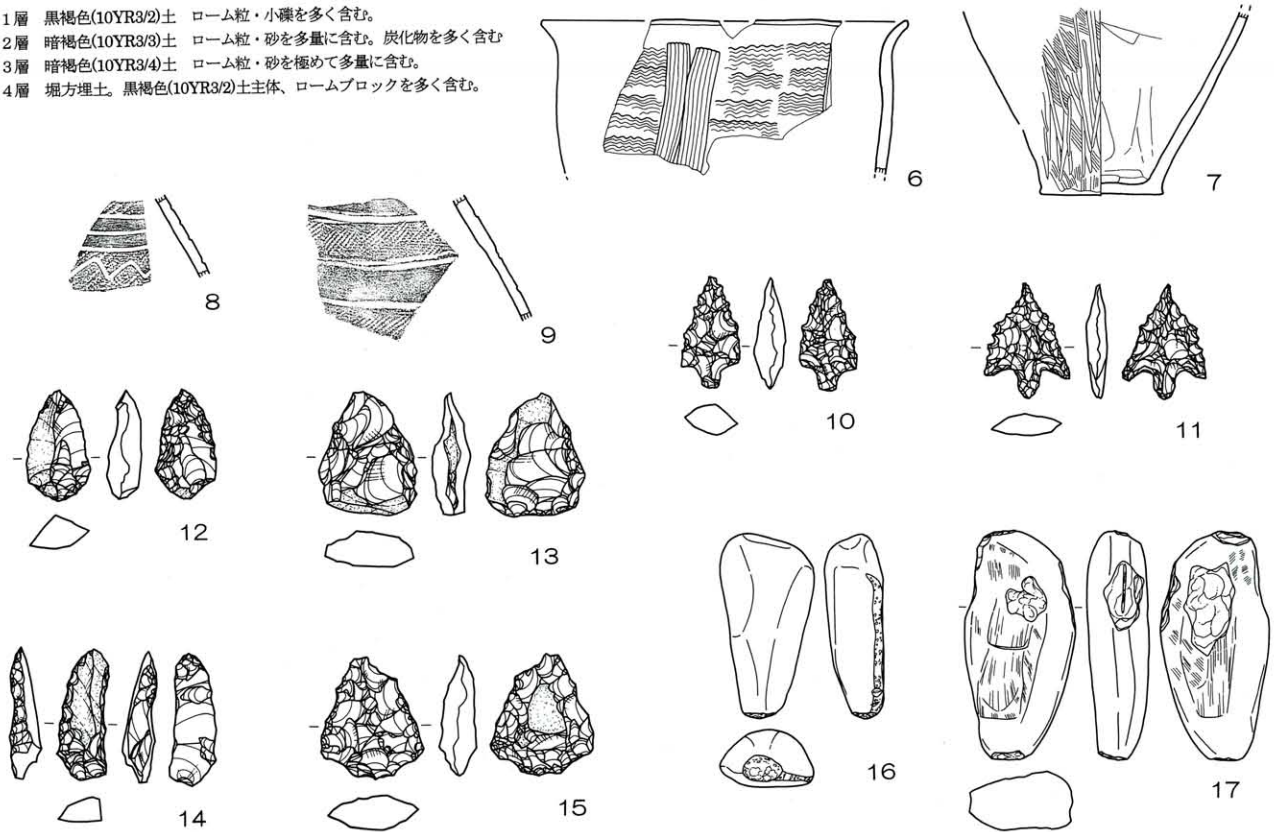
第30図 H 15号住居址とその遺物 (縮尺1~5:1/4、6:2/3、7:1/4)

表14 H 15号住居址遺物観察表

| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ(g) |
|-----|-----|-------|----------|------|-------|-----------|---------------------------------------|------|---------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 弥生 | 壺 | | | *18.3 | ハケ目→ヘラミガキ | ハケ目→ヘラミガキ 櫛描簾状・波状・垂下文 ヘラ描波状・垂下文 | 炉脇 | 回転実測 |
| 2 | 弥生 | 壺 | | △7.6 | *11.9 | ハケ目 | ヘラミガキ | P1脇 | 回転実測 |
| 3 | 弥生 | 甕 | | | | ヘラミガキ | ハケ目→ヘラミガキ 口唇部 縄文 押捺 体部 櫛描斜走文 | 炉 | 拓本 断面実測 |
| 4 | 弥生 | 甕 | △15.8 | | | ヘラミガキ | ハケ目→ヘラミガキ 櫛描波状文 | 中央 | 拓本 断面実測 |
| 5 | 弥生 | 壺 | | | | ナデ | 縄文 ヘラ描横線・波状文 | 1層 | 拓本 断面実測 |
| 6 | 石錐 | 黒曜石 | 1.6 | 1.2 | 0.4 | 先端摩滅 | | 炉脇 | 0.58 |
| 7 | 未製品 | 安山岩 | 15.8 | 9.5 | 3.5 | | | P2脇 | 665.69 |



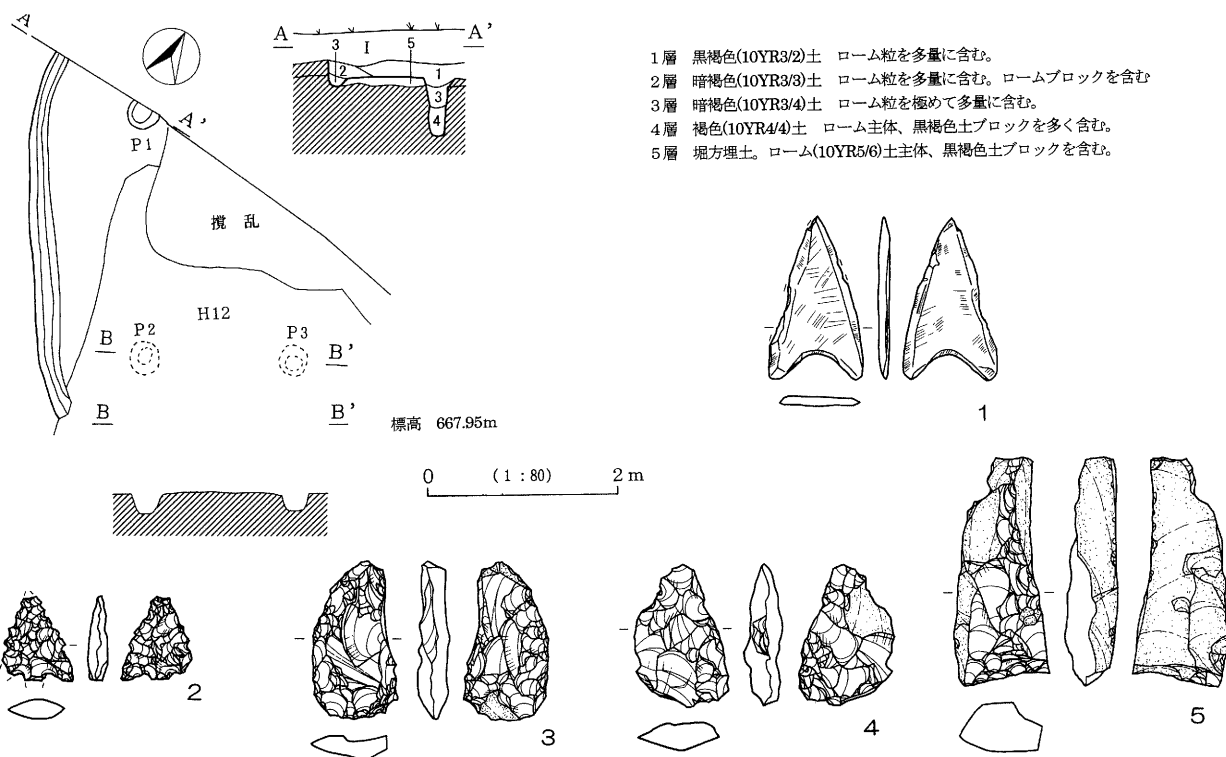
- 1層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒・小礫を多く含む。
- 2層 暗褐色(10YR3/3)土 ローム粒・砂を多量に含む。炭化物を多く含む
- 3層 暗褐色(10YR3/4)土 ローム粒・砂を極めて多量に含む。
- 4層 堀方埋土。黒褐色(10YR3/2)土主体、ロームブロックを多く含む。



第 31 図 H 18 号住居址とその遺物 (縮尺 1 ~ 7・16・17 : 1/4、10 ~ 15 : 2/3)

表 15 H 18 号住居址遺物観察表

| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ (g) |
|-----|-------|-------|----------|------|-------|------------------------|----------------------------|--------------|----------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 弥生 | 高坏 | | 6.6 | *5.2 | 杯部 ヘラミガキ 赤彩 脚部 ヘラナデ | ヘラミガキ 赤彩 | P5 | 完全実側 |
| 2 | 弥生 | 鉢 | △12.4 | 6.0 | 9.8 | ヘラミガキ 赤彩 | 口縁部 縄文 ヘラミガキ 赤彩 | Ⅱ区2層 | 完全実側 |
| 3 | 弥生 | 壺 | | | *9.3 | ヘラミガキ | ハケ目 縄文 ヘラ描横線文 | Ⅱ区2層 | 完全実側 |
| 4 | 弥生 | 甕 | △15.8 | | *12.4 | ヘラミガキ | 口唇部 縄文 体部 ハケ目 櫛描斜走文 | Ⅱ区 H12・1層 | 回転実側 |
| 5 | 弥生 | 甕 | △26.0 | | *12.8 | ハケ目 | 口唇部 刻目 体部 ハケ目 櫛描波状文・垂下文 | Ⅱ区・1層 | 回転実側 |
| 6 | 弥生 | 甕 | △19.4 | | *8.1 | ヘラミガキ | 櫛描波状文・垂下文 | Ⅱ区 | 回転実側 |
| 7 | 弥生 | 甕 | | 6.4 | *9.8 | ヘラナデ | ハケ目→ヘラミガキ | Ⅱ区2層 | 完全実側 |
| 8 | 弥生 | 壺 | | | | ハケ目 | 縄文 ヘラ描横線・波状文 | Ⅱ区1層 | 拓本 断面実測 |
| 9 | 弥生 | 壺 | | | | ハケ目→ヘラミガキ | 縄文 ヘラ描横線文 | P5 | 拓本 断面実測 |
| 10 | 石鏃 | 黒曜石 | 2.2 | 1.2 | 0.6 | | | I区床 | 1.01 |
| 11 | 石鏃 | 珪質頁岩 | 2.3 | 1.7 | 0.4 | 駒込頁岩 | | Ⅱ区1層 | 0.98 |
| 12 | 石鏃未製品 | 黒曜石 | 2.2 | 1.2 | 0.7 | 表面に自然面有り | | Ⅱ区1層 | 1.38 |
| 13 | 石鏃未製品 | 黒曜石 | 2.5 | 1.9 | 0.7 | 表裏面に自然面有り | | Ⅱ区2層 | 3.11 |
| 14 | 石鏃未製品 | 黒曜石 | 2.6 | 1.0 | 0.6 | 表面に自然面有り | | Ⅱ区 | 1.39 |
| 15 | 石鏃未製品 | 黒曜石 | 2.4 | 2.0 | 0.7 | 裏面に自然面有り | | Ⅱ区 | 2.63 |
| 16 | 敲石 | 安山岩 | 9.8 | 5.0 | 3.0 | 下端・右側面に敲打痕 | | I区2層 | 175.41 |
| 17 | 敲石 | 砂岩 | 12.2 | 5.8 | 3.0 | 表裏面・右側面・両端に敲打痕、表裏面に磨り面 | | Ⅱ区2層 | 239.21 |



第 32 図 H 19 号住居址とその遺物及びH 13・14・16 号住居址検出の弥生時代石器 (縮尺 2/3)

表 16 H 19 号住居址遺物及びH 13・14・16 号住居址弥生時代石器観察表

| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ (g) |
|-----|-------|-------|----------|------|-------|----------------|-----|--------|----------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 磨製石鏃 | 黒色片岩 | 3.2 | 1.8 | 0.2 | 両側面と先端部に欠損部分有り | | 1層 | 1.45 |
| 2 | 石鏃 | 黒曜石 | *1.7 | *1.4 | 0.4 | | | H13・1層 | 0.74 |
| 3 | 石鏃未製品 | 黒曜石 | 2.8 | 1.9 | 0.6 | 裏面に自然面有り | | H14・1層 | 2.56 |
| 4 | 石鏃未製品 | 黒曜石 | 3.2 | 1.7 | 0.6 | 裏面に自然面有り | | H16・2層 | 3.05 |
| 5 | 石鏃未製品 | 黒曜石 | 4.6 | 1.9 | 1.0 | 表裏面に自然面有り 板状鏃 | | H16・1層 | 8.77 |

(2) 古墳時代後期の竪穴住居址

H3号住居址(第33図・表17)

平成21年度調査区中央南のE34・35グリッドに位置する。北壁側の調査で大半は調査区外である。確認した規模は東西長4.5m、南北長1.3mで最大壁残高は42cmである。床面と深さ10cm程の壁下周溝は深さ20cmの堀方とローム・黒褐色土の埋土で構築される。ピット類では支柱穴のP1、貯蔵穴のD1、北東隅の深さ17cmのP2が確認された。

カマドは北壁中央部にあり主軸方位はN-10°-Wである。袖は黒褐色土と灰黄褐色粘土で構築され、両袖先端に埋め込まれた袖石が残存する。天井石と考えられる長方形の板状石がカマド全面の床に廃棄されていた。

遺物は覆土2層、カマド脇床、カマド覆土から古墳時代後期(7世紀)の土師器、敲石(7)が検出された。土師器は坏(1)・台坏鉢(2)・鉢(3~5)・口縁に最大径のある長胴甕(6)である。

H7号住居址(第34図・表18)

平成21年度調査区東のC36グリッド周辺に位置する。東北隅を攪乱、南東隅を井戸址、西壁の一部をT a 24号竪穴状遺構・中世ピットで破壊される。確認した規模は東西長4.4m、南北長4.6mで最大壁残高は38cmである。ロームと黒褐色土で深さ10cmの堀方を埋めて、床面と壁下に深さ8cm程の周溝を構築する。深さ45・50cmの支柱穴P1~P4が確認された。

カマドは北壁中央部にあり主軸方位はNである。安山岩扁平円礫の石組みと粘土で構築され、埋め込まれた袖石と天井石の一部が残存していた。また、それらの一部と考えられる安山岩扁平円礫が住居址中央に廃棄されていた。

遺物は床~覆土2層から古墳時代後期(6世紀後半)の土師器(1~5)、白玉(6)が検出された(表、Ⅱ区:北西区、Ⅲ区:南西区、Ⅳ区:南東区)。土師器には底部全開の甑(1)と須恵器坏身模倣坏等の坏類(2~5)がある。

H12号住居址(第35図・表19)

平成22年度調査区東北のB21グリッドに位置する。北壁側は調査区外と攪乱により破壊され、南壁はM4号溝址で破壊される。確認した規模は東西長4.1m、南北長4mで最大壁残高は42cmである。床面の構築は深さ10cmの堀方とローム・黒褐色土の埋土からなる。支柱穴4本における3本がP1~P3と考えられる。カマドは攪乱で破壊されており、構築材と考えられる安山岩扁平円礫が床北部に廃棄されていた。また、西南隅4層で炭化材が検出された。

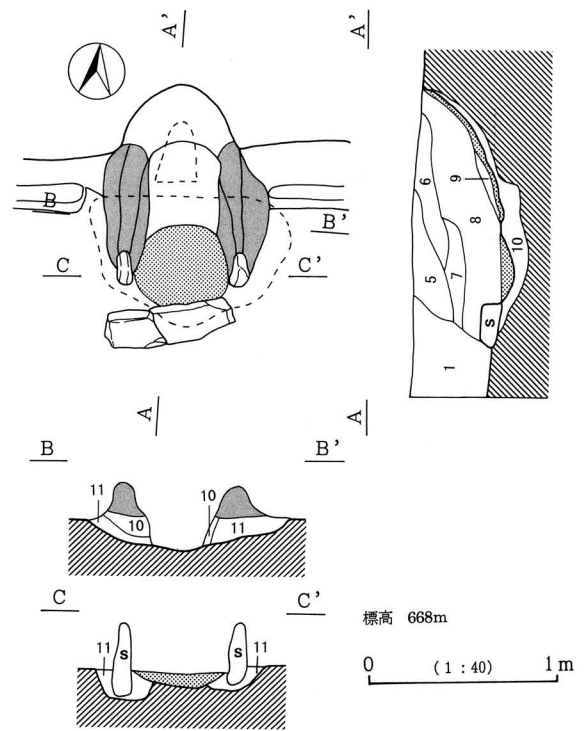
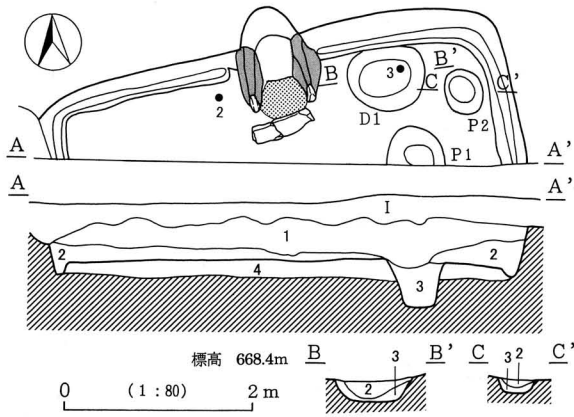
遺物は覆土3層から白玉(2)とH16号住居址の土師器長胴甕(第39図1)に接合した口縁部破片が検出された。土師器長胴甕(1)は1層に廃棄されていた遺物である。

H13号住居址(第36~38図・表20)

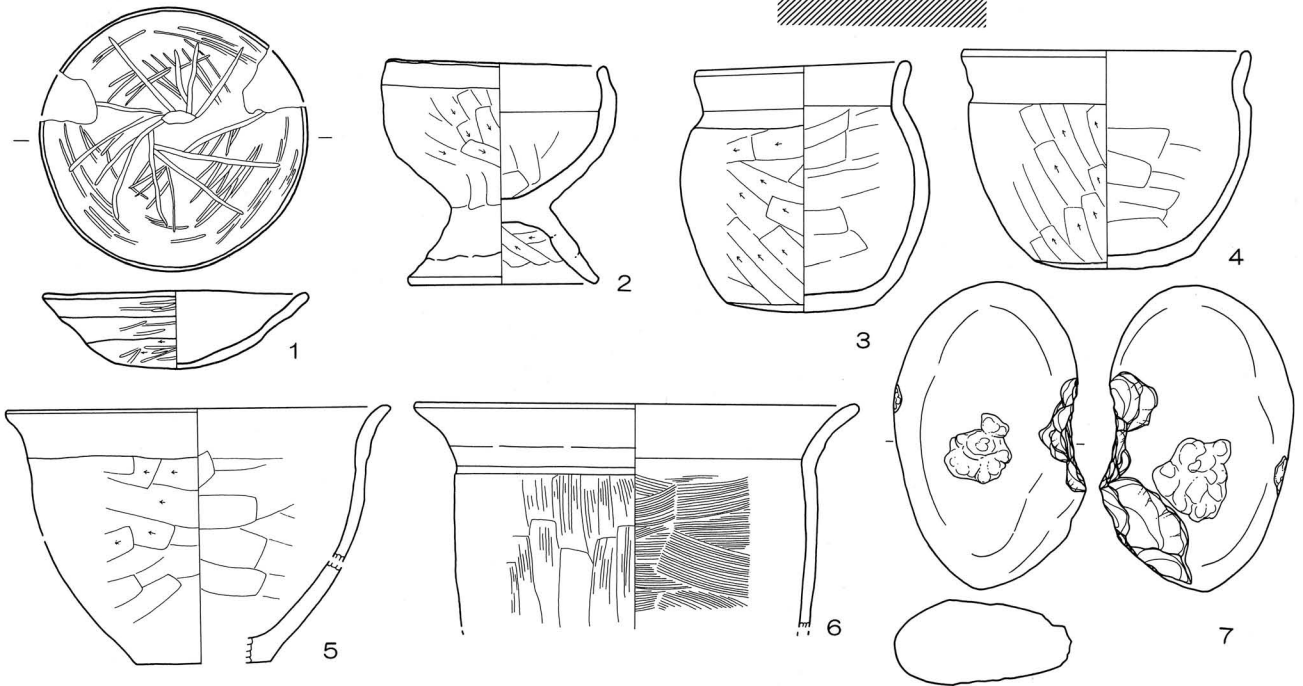
平成22年度調査区中央南のC19グリッドに位置する。南壁側の大半は調査区域外であり、東壁をM5号溝址で破壊される。確認した規模は東西長6.8m、南北長4mで最大壁残高は60cmである。支柱穴内の中央部で深さ20cm、壁際で深さ25cmの堀方を設け、ロームと黒褐色土を埋土として床面を構築する。ピット類は北側2本の支柱穴P1・P2、支柱穴の中間位置にある直径35cmのP3・P4、貯蔵穴のD1が確認された。カマドは北壁中央部にあり主軸方位はN-15°-Wである。ほとんど破壊されていたが、煙道底部・袖に構築材の灰褐色粘土が一部残されていた。

遺物は床、覆土2層、カマド8層から古墳時代後期(6世紀後半)の土師器、敲石(11)、編物石が検出された(表、Ⅰ区:北東区、Ⅱ区:北西区、Ⅳ区:南東区)。

土師器は坏(1~4)・長胴甕(5・6)・小型甕(7~9)である。編物石18個は北西壁脇床面付近の集中部を主体に一括廃棄されていた。安山岩の扁平棒状礫で平均値は長さ13.4cm、幅7.3cm、厚さ4.2cm、重さ645gである。有孔の砥石(10)は覆土1層から検出されている。



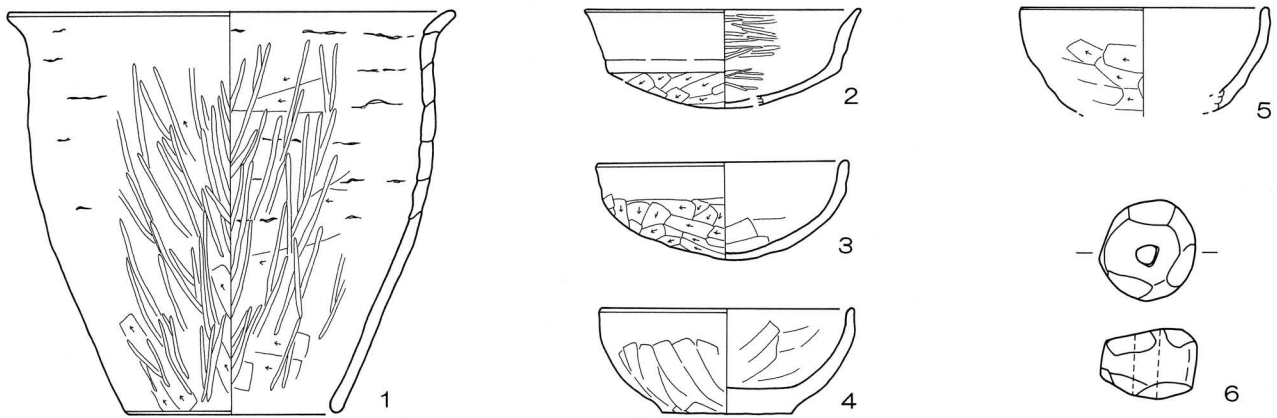
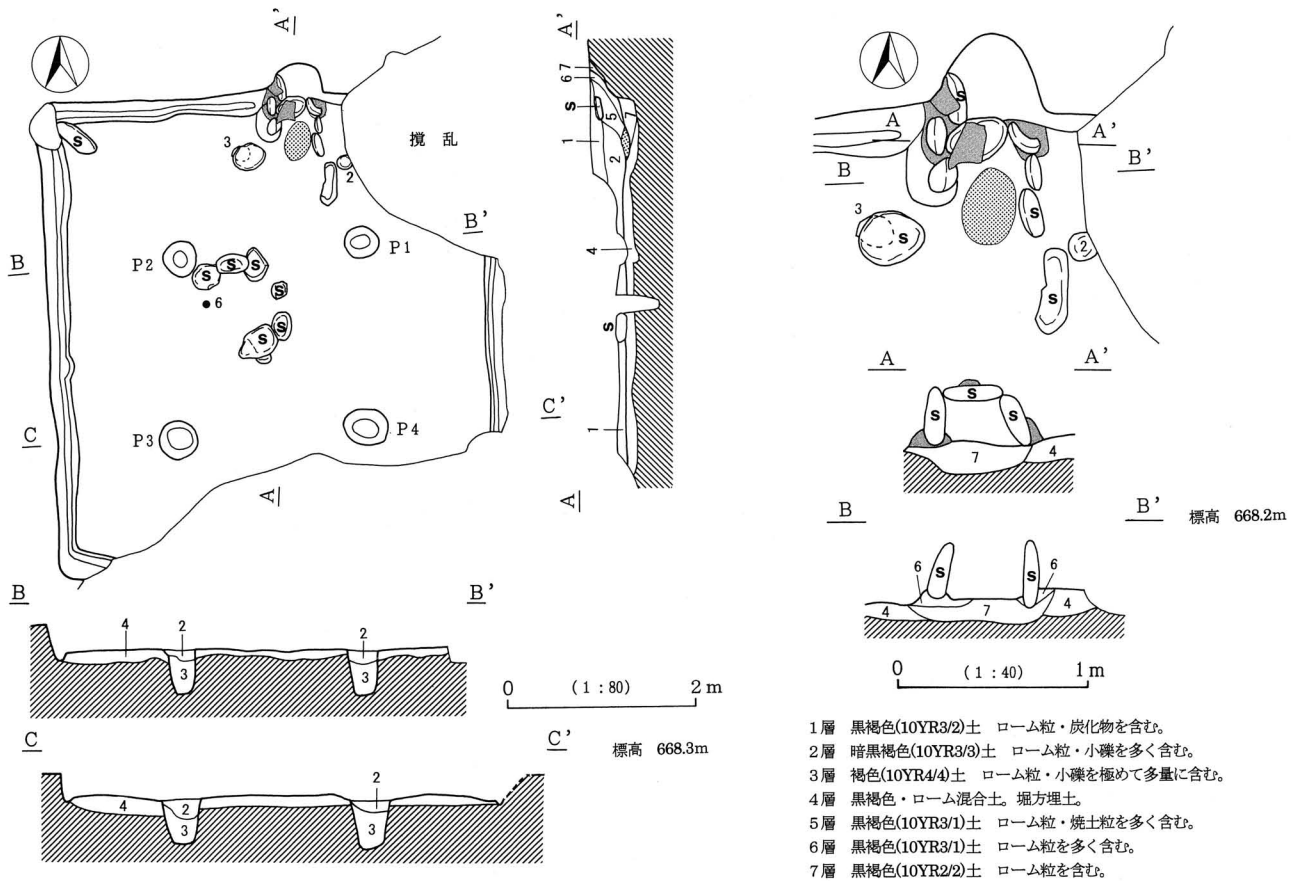
- 1層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒・炭化物を含む。
- 2層 暗褐色(10YR3/3)土 ローム粒・小礫・砂を含む。
- 3層 暗褐色(10YR3/4)土 ローム粒・小礫・砂を極めて多量に含む。
- 4層 黒褐色・ロームブロック混合土。堀方埋土。
- 5層 暗褐色(10YR3/3)土 小礫・ローム粒・灰黄褐色(10YR5/2)粘土ブロック(~2cm)を含む。
- 6層 灰黄褐色(10YR5/2)粘土
- 7層 黒褐色(10YR2/2)土 灰黄褐色粘土ブロック・炭化物を含む。
- 8層 褐色(10YR4/4)土 粘土粒・焼土粒・ローム粒を多く含む。
- 9層 黒褐色(10YR2/2)土 炭化物を多く含む。
- 10層 黒褐色(10YR2/2)土 焼土粒・ローム粒を含む。
- 11層 黒褐色(10YR2/3)土 ローム粒を多く含む。



第33図 H3号住居址とその遺物 (縮尺1/4)

表17 H3号住居址遺物観察表

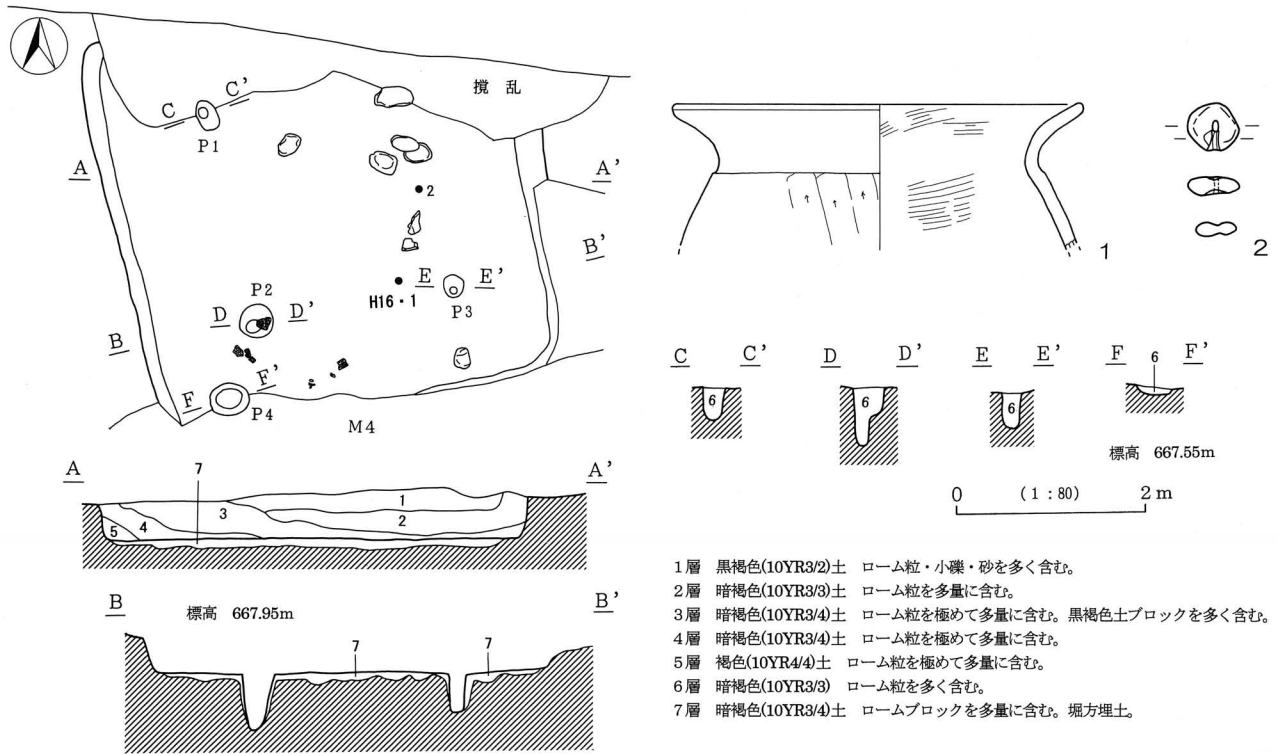
| No. | 器種 | 器形・石材 | 法量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ(g) |
|-----|-----|-------|---------|------|-------|---------------------|-----------------------|------------|---------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内面 | 外面 | | |
| 1 | 土師器 | 坏 | 14.2 | 9.4 | 4.1 | ヘラミガキ 暗文 | 口辺部 ヘラミガキ 坏部 ヘラケズリ | カマド8層 | 完全実測 |
| 2 | 土師器 | 台付鉢 | 11.7 | 10.2 | 11.8 | 鉢部 ヘラナデ 脚部 ヘラケズリ | 口辺部 ココナデ 胴部 ヘラケズリ | カマド左脇 床 | 完全実測 |
| 3 | 土師器 | 鉢 | 11.5 | 7.8 | 13 | ヘラナデ | ヘラケズリ | D1 | 完全実測 |
| 4 | 土師器 | 鉢 | 15.4 | 7.1 | 11.7 | ヘラナデ | ヘラケズリ | カマド8層 | 完全実測 |
| 5 | 土師器 | 鉢 | △20.4 | △7.2 | △13.6 | ヘラナデ | ヘラケズリ | カマド8層 | 完全実測 |
| 6 | 土師器 | 甕 | △23.6 | | *12.0 | ハゲ目 | ハゲ目 | 2層 | 回転実測 |
| 7 | 敲石 | 安山岩 | 16.3 | 10.3 | 4.4 | 表裏敲打痕、右側面剥離痕有り | | 床 | 901.22 |



第34図 H7号住居址とその遺物 (縮尺1~5:1/4、6:1/1)

表18 H7号住居址遺物観察表

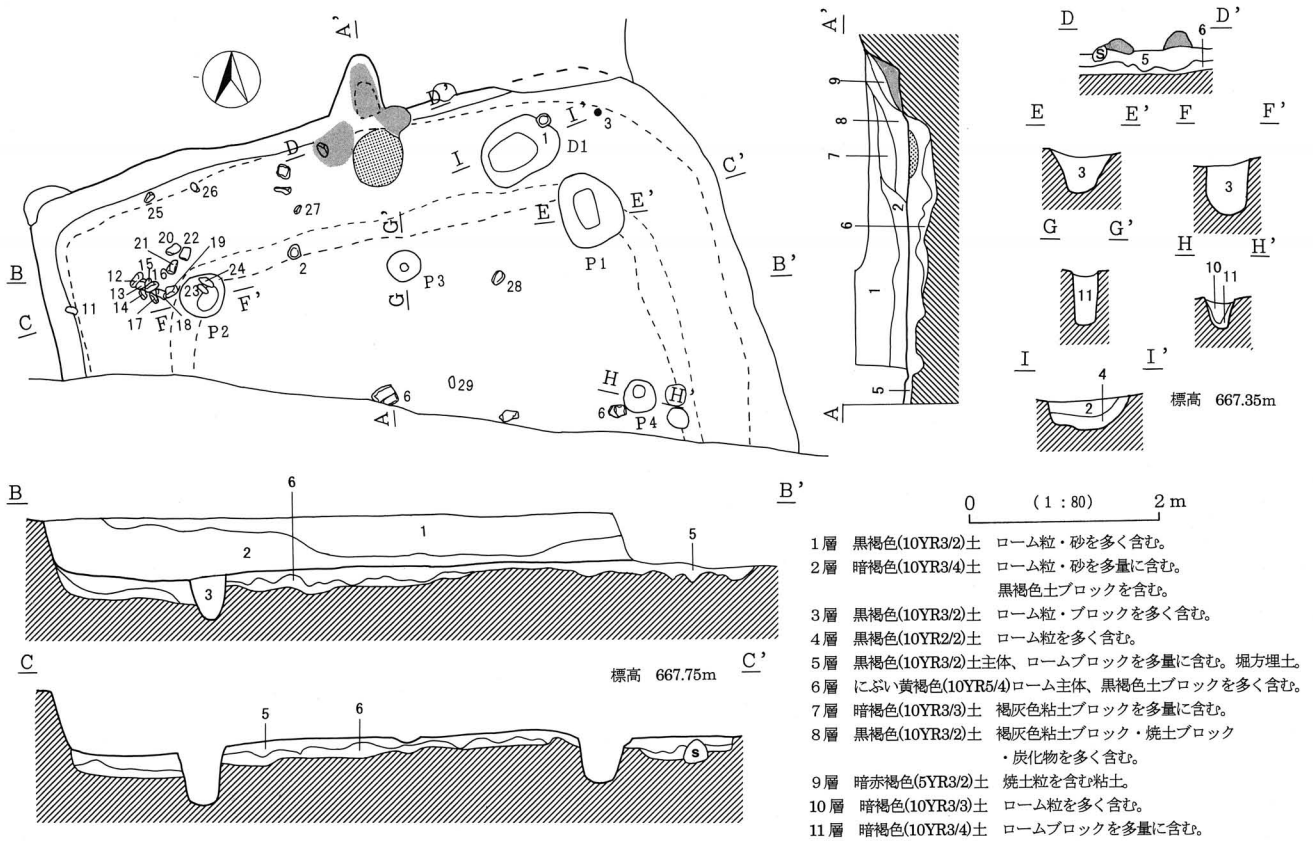
| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ(g) |
|-----|-----|-------|----------|-------|-------|--------------------|-----------------------|------------|---------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 土師器 | 甑 | △23.6 | △11.6 | △21.4 | ヘラケズリ→ミガキ 輪積痕有り | 口縁部 ヨコナデ ヘラケズリ | Ⅳ区2層 | 回転実測 |
| 2 | 土師器 | 坏 | △14.6 | 12.2 | 5.3 | ミガキ | 口縁部 ヨコナデ 底部 ヘラケズリ | カマド 右脇床 | 完全実測 |
| 3 | 土師器 | 坏 | 13.4 | 12.9 | 5.3 | ヘラナデ→ヨコナデ | 口縁部 ヨコナデ 底部 ヘラケズリ | カマド 左脇床 | 完全実測 |
| 4 | 土師器 | 坏 | △13.4 | 7.0 | 5.6 | ナデ | 口縁部 ヨコナデ ヘラナデ | Ⅳ区床 | 回転実測 |
| 5 | 土師器 | 坏 | △13.2 | | *5.5 | ナデ | 口縁部 ヨコナデ ヘラケズリ→ミガキ | Ⅲ区床 | 回転実測 |
| 6 | 白玉 | 滑石 | 16.3 | 10.3 | 4.4 | 孔径0.3 | | Ⅱ区床 | 2.78 |



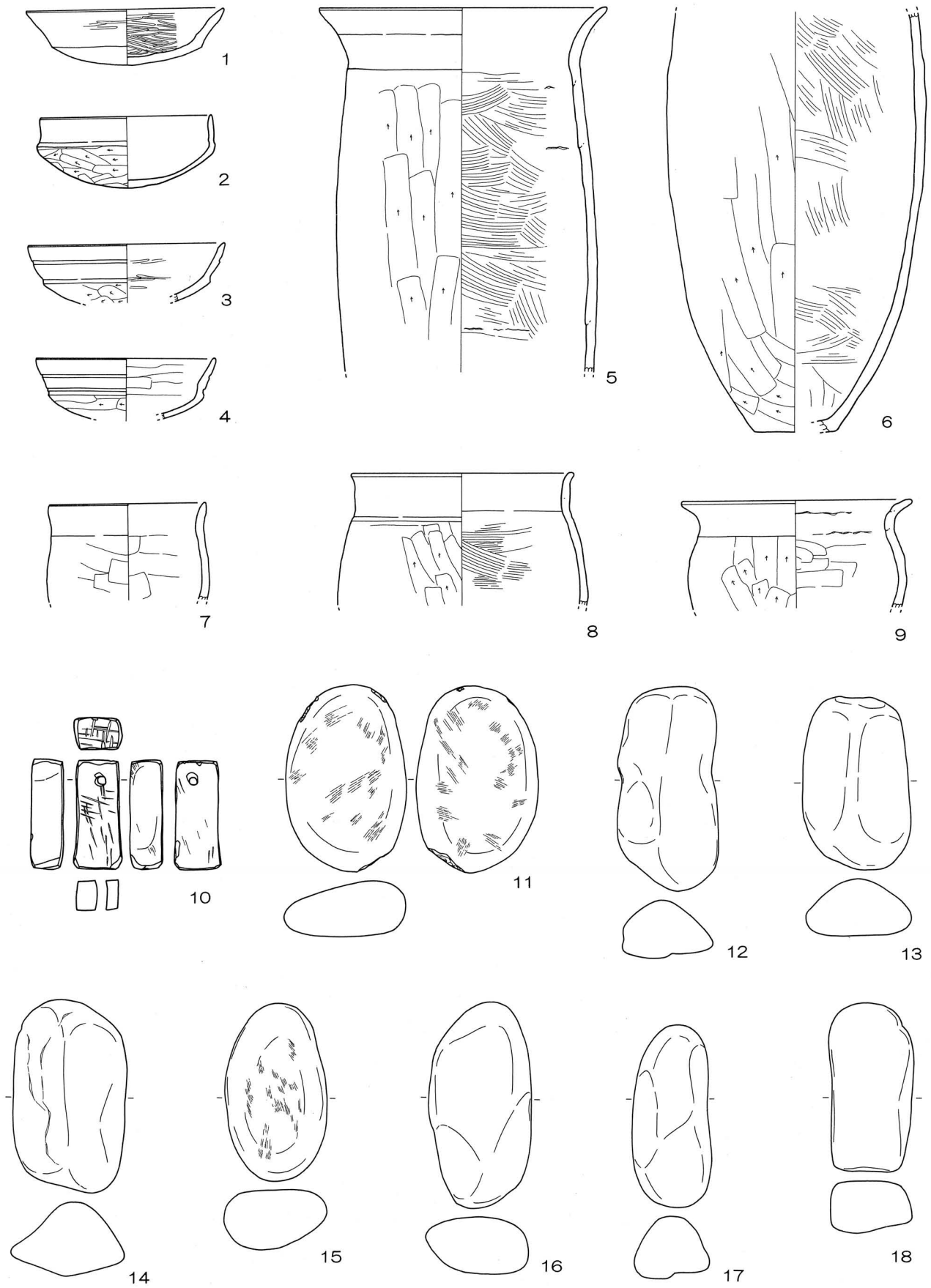
第35図 H 12号住居址とその遺物 (縮尺 1:1/4, 2:1/1)

表 19 H 12号住居址遺物観察表

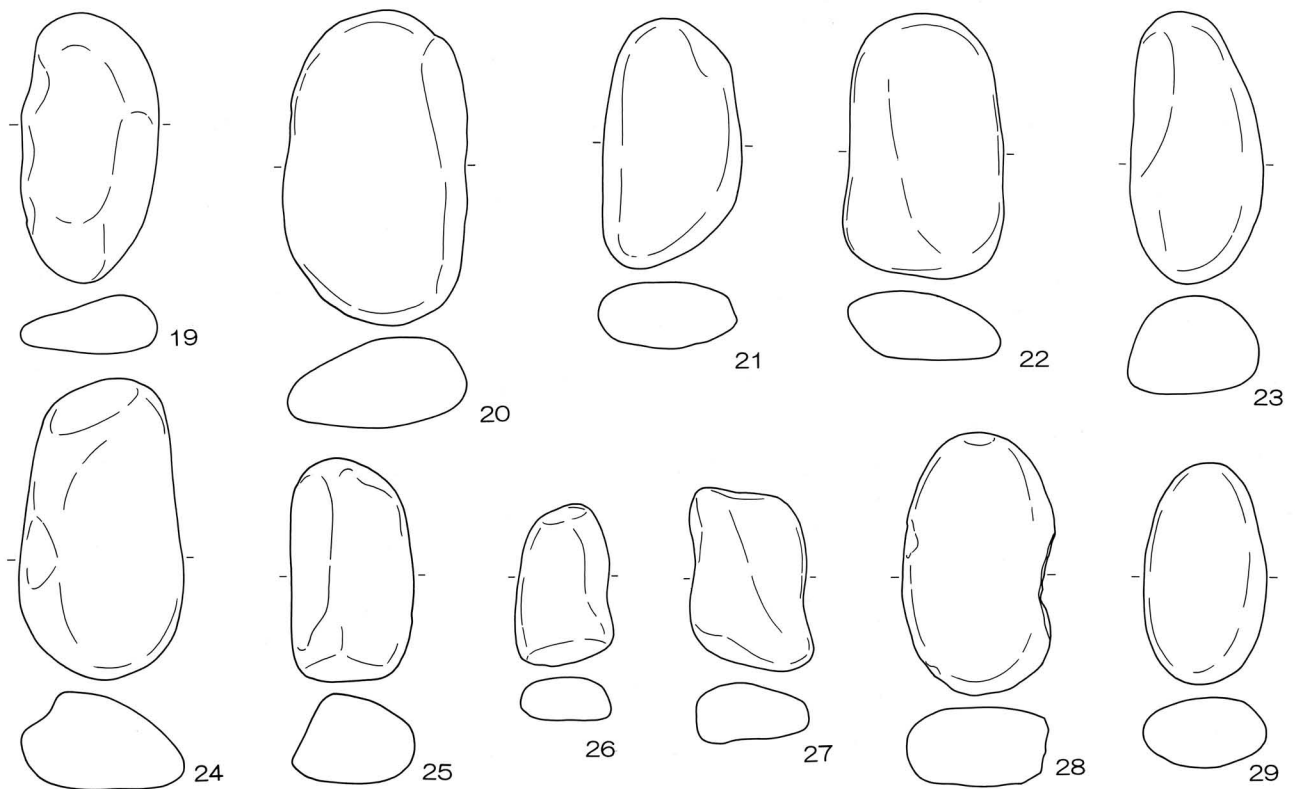
| No. | 器種 | 器形・石材 | 法量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ(g) |
|-----|-----|-------|---------|------|-------|---------|-------|------|---------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内面 | 外面 | | |
| 1 | 土師器 | 壺 | △21.6 | | *7.8 | 八ケ目 | ヘラケズリ | 1層 | 回転実測 |
| 2 | 白玉 | 凝灰岩 | 0.65 | 0.7 | 0.2 | 楕円孔径0.1 | | I区Ⅲ層 | 0.22 |



第36図 H 13号住居址



第37図 H 13号住居址の遺物 (1) (縮尺 1~9・11~18: 1/4、10: 1/3)



第38図 H13号住居址の遺物(2) (縮尺1/4)

表20 H13号住居址遺物観察表

| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ(g) |
|-----|-----|--------|----------|-------|-------|-----------------|---------------|--------|---------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 土師器 | 杯 | 14.1 | 10.7 | 4.1 | ヘラミガキ 黒色処理 | 口縁ヘラミガキ 底部ナデ | 北東壁脇2層 | 完全実測 |
| 2 | 土師器 | 杯 | 12.2 | 12.7 | 5.2 | ナデ | 口縁コナデ 底部ヘラケズリ | カマド左床 | 完全実測 |
| 3 | 土師器 | 杯 | △14.0 | △11.8 | *4.3 | ヘラミガキ 黒色処理 | 口縁コナデ 底部ヘラケズリ | I区1層 | 回転実測 |
| 4 | 土師器 | 杯 | △12.8 | △11.0 | *4.4 | ナデ | 口縁コナデ 底部ヘラケズリ | 北東壁脇床 | 回転実測 |
| 5 | 土師器 | 甕 | △20.8 | | *26.5 | ハケ目 | ヘラケズリ | カマド | 回転実測 |
| 6 | 土師器 | 甕 | | △5.8 | *30.5 | ハケ目 | ヘラケズリ | 中央2層 | 回転実測 |
| 7 | 土師器 | 甕 | △11.2 | | *7.1 | ヘラナデ | ヘラナデ | II区2層 | 回転実測 |
| 8 | 土師器 | 甕 | △16.0 | | *9.6 | ハケ目 | ヘラケズリ | IV区2層 | 回転実測 |
| 9 | 土師器 | 甕 | △16.6 | | *7.9 | ヘラナデ | ヘラケズリ | II区2層 | 回転実測 |
| 10 | 砥石 | 凝灰岩 | 6.0 | 2.6 | 1.8 | 孔径0.5~0.6 砥面6 | 表面と上端に条痕顕著 | II区1層 | 47.15 |
| 11 | 敲石 | 安山岩 | 13.5 | 8.7 | 4.1 | 両端に敲打痕、表裏面に磨り有り | | 北西壁脇2層 | 754.61 |
| 12 | 編物石 | 安山岩 | 14.9 | 7.4 | 4.2 | | | 北西壁脇2層 | 700.66 |
| 13 | 編物石 | 安山岩 | 12.6 | 7.8 | 4.3 | | | 北西壁脇2層 | 634.33 |
| 14 | 編物石 | 安山岩 | 14.0 | 8.2 | 5.5 | | | 北西壁脇2層 | 874.03 |
| 15 | 編物石 | 安山岩 | 12.9 | 7.5 | 4.5 | 表裏面に磨り有り | | 北西壁脇2層 | 652.41 |
| 16 | 編物石 | 安山岩 | 15.0 | 7.4 | 4.1 | | | 北西壁脇2層 | 690.55 |
| 17 | 編物石 | 安山岩 | 13.3 | 5.8 | 4.7 | | | 北西壁脇2層 | 498.78 |
| 18 | 編物石 | 安山岩 | 12.3 | 6.0 | 3.8 | | | 北西壁脇2層 | 524.50 |
| 19 | 編物石 | 安山岩 | 14.4 | 7.3 | 3.2 | | | 北西壁脇2層 | 481.45 |
| 20 | 編物石 | 安山岩 | 16.8 | 9.8 | 4.8 | | | 北西壁脇2層 | 1152.91 |
| 21 | 編物石 | 安山岩 | 13.3 | 7.4 | 3.6 | | | 北西壁脇2層 | 572.81 |
| 22 | 編物石 | 安山岩 | 14.2 | 8.5 | 3.6 | | | 北西壁脇2層 | 687.73 |
| 23 | 編物石 | 安山岩 | 14.5 | 7.1 | 5.3 | | | 北西壁脇2層 | 776.71 |
| 24 | 編物石 | 安山岩 | 15.9 | 8.7 | 5.4 | | | 北西壁脇2層 | 1135.34 |
| 25 | 編物石 | 安山岩 | 11.9 | 6.5 | 5.2 | | | 北西壁脇2層 | 599.72 |
| 26 | 編物石 | 安山岩 | 8.7 | 5.1 | 2.3 | | | 北西壁脇2層 | 174.84 |
| 27 | 編物石 | 安山岩 | 9.8 | 6.6 | 3.2 | | | カマド左床 | 310.51 |
| 28 | 編物石 | 角閃石安山岩 | 14.0 | 8.1 | 4.5 | | | 中央2層 | 703.18 |
| 29 | 編物石 | 安山岩 | 11.8 | 6.5 | 3.7 | | | 中央2層 | 447.93 |

H16号住居址(第39図・表21)

平成22年度調査区東北のB24グリッドに位置する。北東壁は調査区域外であり、東壁側は攪乱、西壁上部はM4号溝址で破壊されている。確認した隅丸方形の規模は南北長4m、東西長4.1mで最大壁残高は72cmである。床面は壁側がより深い深さ10~20cmの堀方をロームと黒褐色土の埋土で構築し、壁下に深さ10cm程の周溝を形成する。主柱穴4本のP1~P4が確認された。カマドは北壁中央部にあり主軸方位はN-22°-Wである。袖は扁平安山岩礫を垂直に埋め込み(左右2個単位確認)、灰褐色粘土で構築される。

遺物は覆土3層、床から古墳時代後期(6世紀後半)の土師器、敲石(2)、編物石が検出された。土師器は口縁に最大径のある長胴甕(1)であり、中央床面に廃棄されていた破片群とH14号住居址床付近の破片が接合したものである。編物石(3~10)は東壁脇に床面付近の3層に廃棄された一群である。片側・両側に抉入部の形成されたものが多い。平均値は長さ13.5cm、幅7.8cm、厚さ3.5cm、重さ507gである。

(3)奈良時代の竪穴住居址

H5号住居址(第40図・表22)

平成21年度調査区中央のC32グリッドに位置する。西南壁隅はD22号土坑で破壊されている。確認した隅丸方形の規模は南北長2.8m、東西長3mで最大壁残高は35cmである。深さ8cmのロームと黒褐色土による叩きしめで強固な床面を構築している。ピットは存在しない。カマドは北壁中央に位置し燃烧部は壁外に長方形に設けられる。主軸方位はN-5°-Wである。煙道部に埋め込まれた安山岩板状礫が残存し、袖部に石組み埋め込み用のピットが存在することから、袖部・煙道は石組みと粘土で構築されたものと考えられる。

遺物はカマド1層とⅡ区(北西区)2層に奈良時代(8世紀前半)の須恵器有台坏(1)、土師器長胴甕(2)、土師器甕(3)が廃棄されていた。

H4号住居址(第41図・表23)

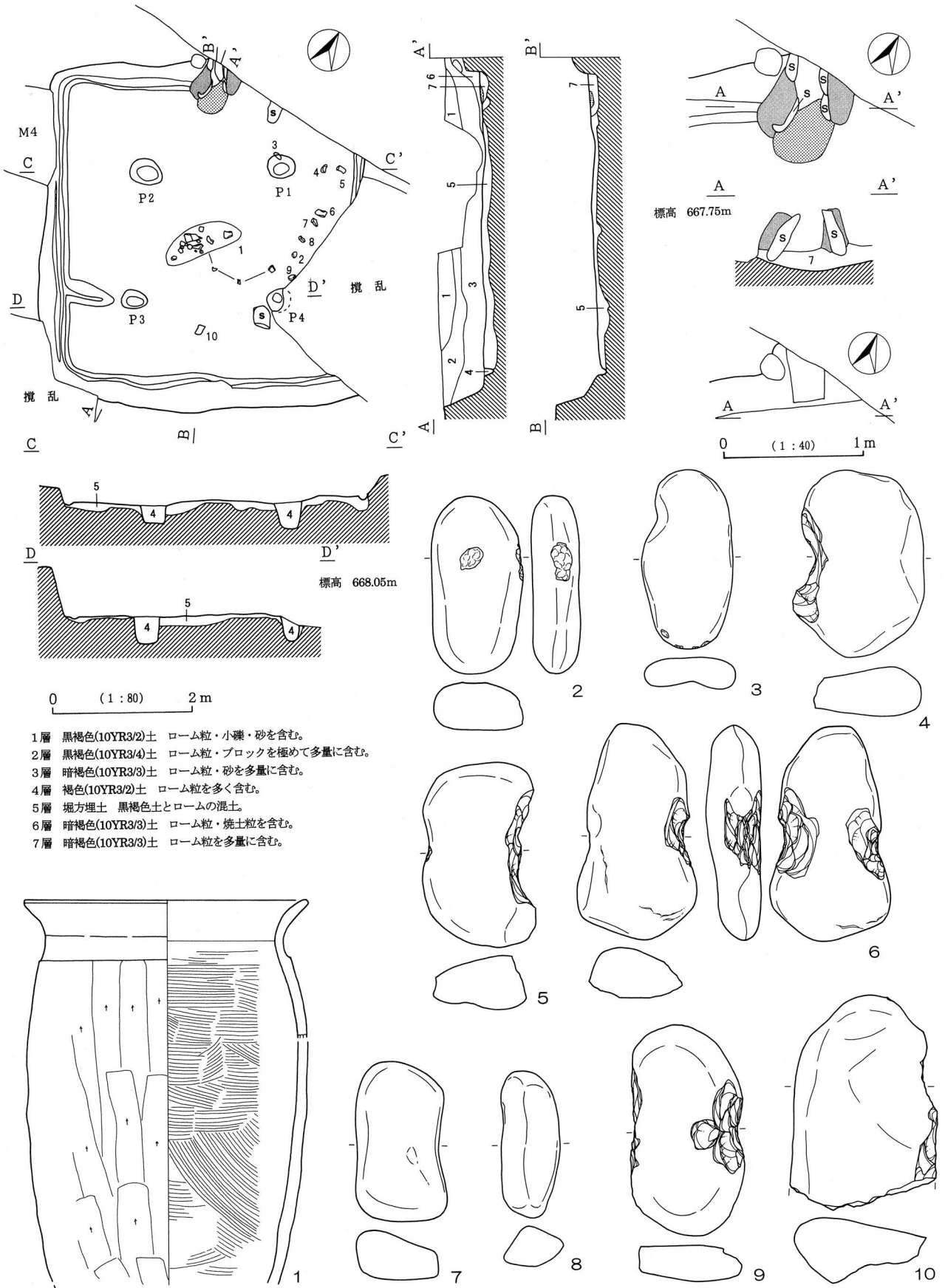
平成21年度調査区中央のC33グリッドに位置する。西壁中央をD20号土坑が破壊する。確認した隅丸方形の規模は南北長3.5m、東西長3.96mで最大壁残高は30cmである。南壁脇に深さ15cm程の堀方があるが、深さ4cmのロームと黒褐色土による叩きしめで強固な床面を構築している。柱穴は存在しない。カマドは北壁中央部にあり主軸方位はN-3°-Wである。袖部は安山岩板状礫の石組みで構築されそれらを覆う黒褐色土・灰黄褐色粘土が一部残存する。燃烧部には支脚石2個が並列に設置されていた。

遺物は奈良時代(8世紀前半)の土器で、カマド・Ⅲ区(南西区)床に底部ヘラケズリの土師器坏(2)、Ⅲ区2層に土師器甕(3)、南壁際覆土2層に底部回転ヘラ切り・ヘラケズリの須恵器坏(1)が廃棄されていた。また東南隅2層には炭化物と鉄滓が廃棄されていた。

H14号住居址(第42図・表24)

平成22年度調査区東南のC23グリッドに位置する。北東壁側の大半は攪乱で破壊されている。確認した隅丸方形の規模は南北長3.4m、東西長3.7mで最大壁残高は44cmである。深さ10cm、P3周辺は深さ20cmの堀方を設けロームと黒褐色土を埋土として床面を構築し、壁下に深さ8cmの周溝を形成する(西壁は明確ではない)。主柱穴に関わる建築変更を示すと考えられるP1~6が確認された。カマドは北壁西側にあり主軸方位はN-6°-Wである。袖部・煙道は安山岩扁平礫の石組みとそれらを覆う灰褐色粘土で構築されたものと考えられる。燃烧部には支脚石2個が並列に設置されていた。

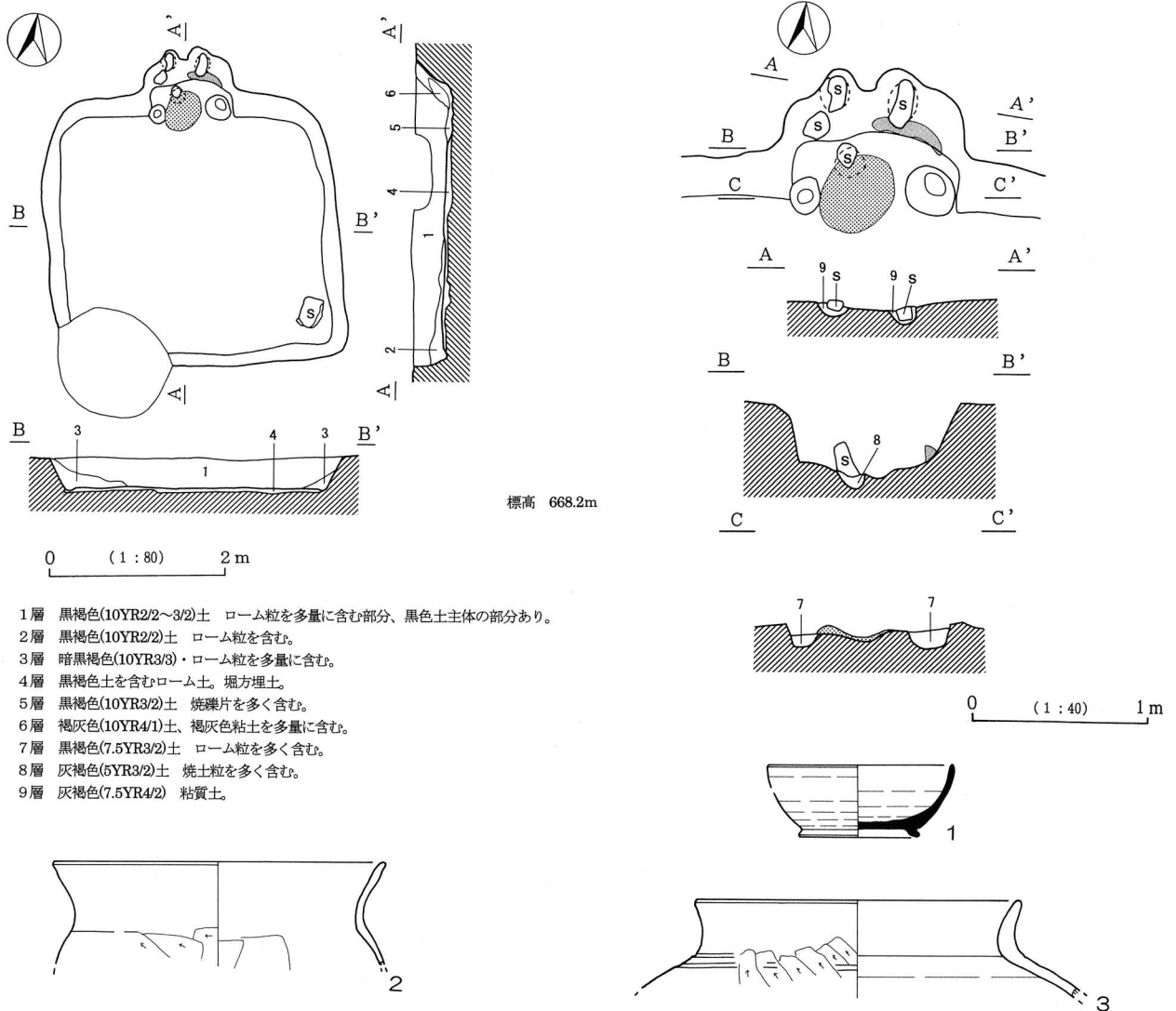
遺物は南壁際覆土2層とカマド8層に奈良時代(8世紀前半)の土師器坏(1)、土師器小型甕(2)、須恵器甕(3・4)が廃棄されていた。



第 39 図 H 16 号住居址とその遺物 (縮尺 1/4)

表 21 H 16 号住居址遺物観察表

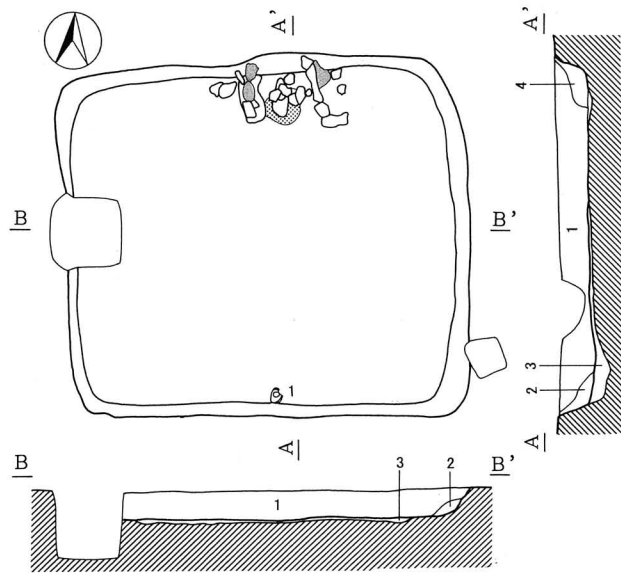
| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ(g) |
|-----|-----|-------|----------|------|-------|----------------------|-------|-------|----------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 土師器 | 甕 | △20.4 | | *27.8 | ハケ目 | ヘラケズリ | 中央床 | 完全実測 H12・3層と接合 |
| 2 | 敲石 | 安山岩 | 12.7 | 6.6 | 3.4 | 表面・右側面に敲打痕 | | 東壁脇3層 | 399.95 |
| 3 | 編物石 | 安山岩 | 12.9 | 6.5 | 2.3 | | | 東壁脇3層 | 257.50 |
| 4 | 編物石 | 流紋岩 | 13.4 | 9.4 | 3.6 | 右側に扶入剥離面 | | 東壁脇3層 | 622.63 |
| 5 | 編物石 | 安山岩 | 13.2 | 8.1 | 4.2 | 右側に扶入剥離面 左側に扶入敲打痕 | | 東壁脇3層 | 613.67 |
| 6 | 編物石 | 安山岩 | 15.5 | 8.6 | 3.6 | 両側に扶入剥離面 扶入部側縁稜は摩滅 | | 東壁脇3層 | 667.62 |
| 7 | 編物石 | 安山岩 | 11.5 | 6.7 | 3.5 | | | 東壁脇3層 | 417.33 |
| 8 | 編物石 | 安山岩 | 10.6 | 4.3 | 3.0 | | | 東壁脇3層 | 186.43 |
| 9 | 編物石 | 安山岩 | 15.2 | 8.2 | 2.7 | 右側に扶入剥離面 左側に剥離面 | | 東壁脇3層 | 527.07 |
| 10 | 編物石 | 安山岩 | 15.5 | 10.6 | 4.7 | 右側に扶入剥離面 裏面に剥離面 下端折面 | | 南壁脇3層 | 874.98 |



第 40 図 H 5 号住居址とその遺物 (縮尺 1/4)

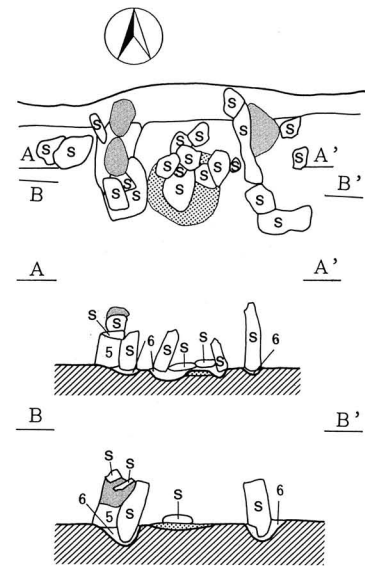
表 22 H 5 号住居址遺物観察表

| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ(g) |
|-----|-----|-------|----------|------|-------|---------------------|----------------------------|-------|---------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 須恵器 | 有台坏 | △10.5 | 6.7 | 4.1 | ロクロナデ | ロクロナデ 底部 ヘラケズリ→ 高台貼付 | カマド1層 | 完全実測 |
| 2 | 土師器 | 甕 | △18.8 | | *5.9 | 口縁部 ヨコナデ 胸部 ヘラナデ | 口縁部 ヨコナデ 胸部 ヘラケズリ | カマド1層 | 回転実側 |
| 3 | 土師器 | 甕 | △18.4 | | *5.5 | ナデ | 口縁部 ヨコナデ ヘラケズリ | II区2層 | 回転実側 |

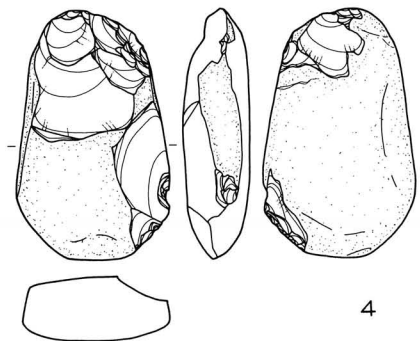
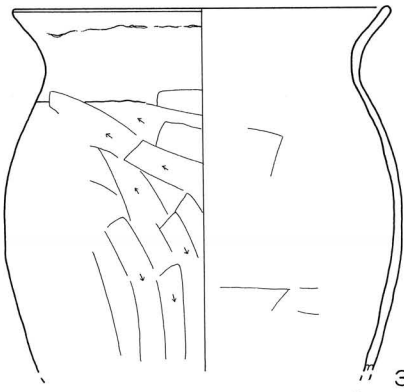
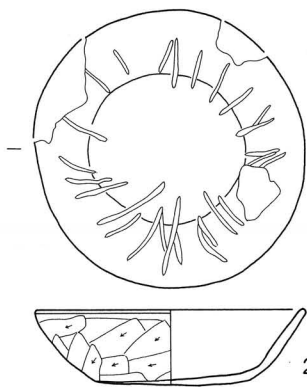
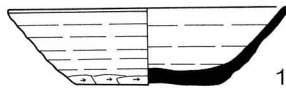


標高 668.2m

- 1層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒・炭化物を含む。
- 2層 黒褐色(10YR2/2)土 ローム粒を多く含む。
- 3層 黒褐色・ロームブロック混合土。堀方埋土。
- 4層 暗褐色(10YR3/4)土 焼土粒・炭化物を多量に含む。ローム粒を多く含む。
- 5層 黒褐色(10YR3/2)土 焼土粒・ローム粒・礫片を含む。
- 6層 暗褐色(10YR3/4)土 ローム粒を多量に含む。



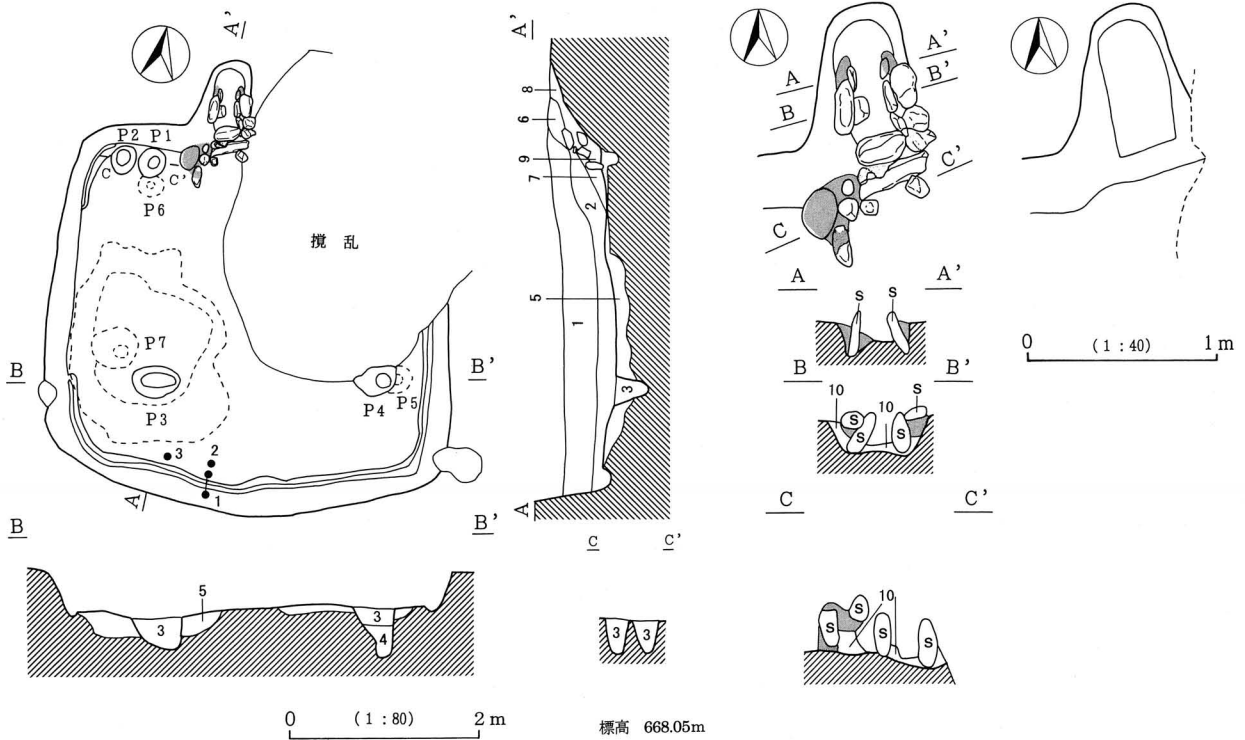
0 (1:40) 1m



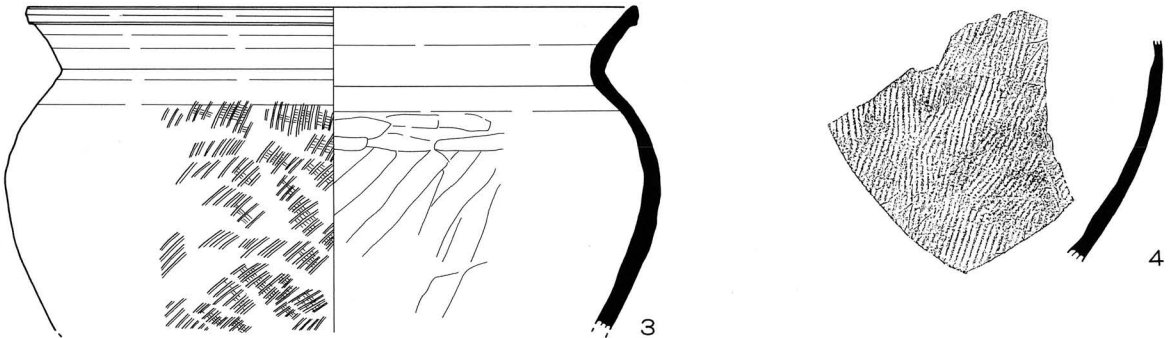
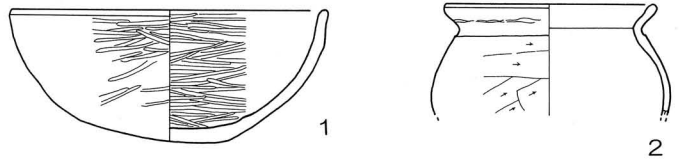
第 41 図 H 4 号住居址とその遺物 (縮尺 1 ~ 3 : 1/4、4 : 1/3)

表 23 H 4 号住居址遺物観察表

| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成 形・調 整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ(g) |
|-----|-----|-------|----------|------|-------|---------------------|--|---------|------------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 須恵器 | 坏 | 14.7 | 7.5 | 4.1 | 口クロナデ | 口クロナデ 底部周辺 ヘラケズリ 底部 回転ヘラ切り→ ヘラケズリ | 南壁際2層 | 完全実測 内外面に火燻有り |
| 2 | 土師器 | 坏 | 14.3 | 8.2 | 4.0 | 暗文 | ヘラケズリ | カマド・Ⅲ区床 | 完全実測 |
| 3 | 土師器 | 甕 | △19.8 | | *19.4 | 口縁部 ヨコナデ 胴部 ヘラナデ | 口縁部 ヨコナデ 胴部 ヘラケズリ | Ⅲ区 | 回転実測 |
| 4 | 未製品 | 黑色頁岩 | 9.9 | 6.0 | 2.6 | 石斧か | | Ⅳ区1層 | 226.42 |



- 1層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒・砂を多量に含む。
- 2層 黒褐色(10YR2/1)土 ローム粒を多く含む。
- 3層 暗褐色(10YR3/3)土 ローム粒を多く含む。
- 4層 褐色(10YR4/4)土 ローム粒を極めて多量に含む。
- 5層 暗褐色(10YR3/3)土 ロームブロックを多量に含む。堀方埋土。
- 6層 褐灰色(10YR4/1)土 褐灰色粘土粒を多く含む。
- 7層 黒褐色(10YR3/2)土 褐灰色粘土を多量に含む。
- 8層 黒褐色(7.5YR2/2)土 褐灰色粘土粒を含む。
- 9層 褐灰色(7.5YR3/2) 焼土粒を含む。
- 10層 暗褐色(10YR3/3)土 褐灰色粘土粒を含む。



第 42 図 H 14 号住居址とその遺物 (縮尺 1/4)

表 24 H 14 号住居址遺物観察表

| No. | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ(g) |
|-----|-----|-------|----------|------|-------|------------|-------------|------|---------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 土師器 | 坏 | 16.7 | | 7.1 | ヘラミガキ 黒色処理 | ヘラミガキ | 南壁2層 | 完全実測 |
| 2 | 土師器 | 甕 | △11.2 | | *5.9 | ナデ | ヘラケズリ | 南壁2層 | 回転実測 |
| 3 | 須恵器 | 甕 | △32.2 | | △17.2 | ヘラナデ | 平行タタキ ロクロナデ | 南壁2層 | 回転実測 |
| 4 | 須恵器 | 甕 | | | | ヘラナデ | 平行タタキ ロクロナデ | カマド | 拓本 断面実測 |

表 25 竪穴住居址一覧表

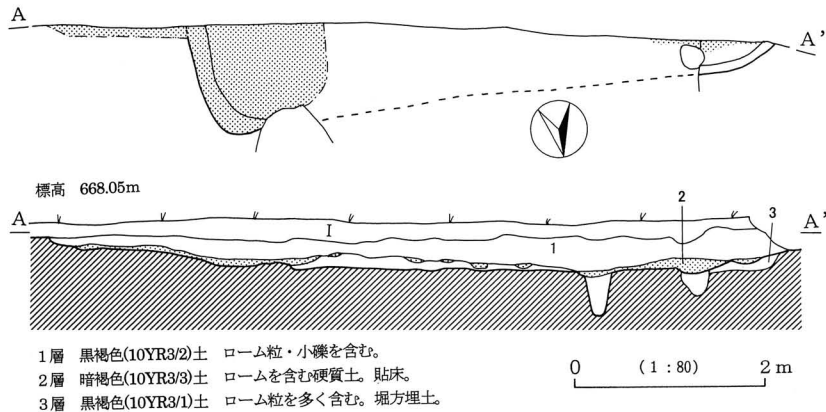
| 遺構 | 時代 | 位置 | 南北長 m | 東西長 m | 壁残高 cm | 主軸方位 | ビット・土坑 (南北長×東西長×深さ cm) | | | | | |
|-----|----|--------|-------|-------|--------|---------|------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|
| | | | | | | | P1 | P2 | P3 | | | |
| H2 | 弥生 | B34 | *3 | *4.4 | 10 | | P1 38×35×35 | P2 40×37×35 | P3 43×50×17 | | | |
| H6 | 弥生 | E37 | *1.4 | *2.85 | 10 | | | | | | | |
| H8 | 弥生 | C3 | *5.2 | *2.4 | 10 | | P1 45×55×38 | P2 × ×35 | | | | |
| H9 | 弥生 | C9 | *0.65 | *2.85 | 40 | | | | | | | |
| H10 | 弥生 | B11 | 5 | 4.15 | 40 | N-20°-W | P1 30×45×65 | P2a 20×25×58 | P2b 25×30×50 | P3a 25×35×64 | P3b 30×35×50 | P4 35×30×67 |
| | | | | | | | P5 35×35×15 | P6 35×32×22 | P7 *23×32×20 | D1 55×50×30 | D2 50×70×15 | |
| | | | | | | | | | | | | |
| H11 | 弥生 | A18 | *2.1 | *3 | 8 | | P1 40×50×45 | P2 35×35×58 | P3 45×50×20 | | | |
| H15 | 弥生 | C25 | *3.35 | *4.25 | 20 | | P1 25×25×35 | P2 *20×30×44 | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| H18 | 弥生 | B23 | *4.2 | *3.8 | 40 | | P1 25×30×40 | P2 40×35×50 | P3 45×45×55 | P4 25×20×22 | P5 30×30×20 | D1 60×55×25 |
| | | | | | | | | | | | | |
| H19 | 弥生 | B21 | *3.6 | *1.25 | 15 | | P1 *25×30×60 | *P2 35×30×24 | *P3 32×30×18 | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| H3 | 古墳 | E34・35 | *1.3 | *4.5 | 42 | N-10°-W | P1 *40×60×52 | P2 50×40×17 | D1 65×85×26 | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| H7 | 古墳 | C36 | *4.6 | 4.4 | 38 | N | P1 35×35×45 | P2 38×35×45 | P3 40×40×50 | P4 40×45×50 | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| H12 | 古墳 | B21 | *4 | 4.1 | 42 | | P1 35×20×35 | P2 35×35×60 | P3 23×23×40 | P4 35×40×10 | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| H13 | 古墳 | C19 | *4 | *6.8 | 60 | N-15°-W | P1 80×65×45 | P2 48×48×65 | P3 35×35×50 | P4 35×35×35 | D1 60×85×35 | |
| | | | | | | | | | | | | |
| H16 | 古墳 | B24 | 4 | 4.1 | 72 | N-22°-W | P1 35×40×36 | P2 35×45×25 | P3 25×40×40 | P4 35×35×33 | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| H14 | 奈良 | C23 | 3.4 | 3.7 | 44 | N-6°-W | P1 30×30×32 | P2 30×25×36 | P3 35×500×32 | *P4 30×45×52 | *P5 25× ×20 | P6 20×30×30 |
| | | | | | | | | | | | | |
| H4 | 奈良 | C33 | 3.5 | 3.96 | 30 | N-3°-W | | | | | | |
| H5 | 奈良 | C32 | 2.8 | 3 | 35 | N-5°-W | | | | | | |

H17号住居址？（第43図）

平成22年度調査区東南のD24・25グリッドに位置する。大半が調査区外であり極一部が調査区南壁際と調査区南壁セクションで確認されたのみであり詳細は不明である。

H15号住居址を破壊する東西1mの掘込み部が西側にあり、掘込み部の調査区壁際に硬質な床面部が検出されている。その硬質な床面部は東側7.5m程の範囲に断続的に続くことが調査区南壁セクションで確認される。特にH15号住居址東壁脇では南北1.1m、東西1.4mの硬質な床面範囲あり、それに続く硬質な床面が東側1.5mの範囲に調査区壁際セクションで確認できる。

硬質な床面のあり方は、竪穴住居址よりもT a 23・24号竪穴状遺構に類似しており、調査区南側に竪穴状遺構が1基ないし2基以上存在していると考えることが妥当であろうか。



第 43 図 H 17 号住居址

第2節 竪穴状遺構

T a 23号竪穴状遺構(第44図・表28)

平成21年度調査区東のC36グリッドに位置する。東壁は攪乱で破壊されている。確認した隅丸長方形の規模は南北長2.85m、東西長2.25mで深さ20cmである。皿状の壁と底面は黒褐色土を強固に叩きしめて構築される。中央に深さ55cmのピットがある。

遺物は北西隅の底面に鉄滓・龍泉窯青磁蓮弁文碗(1:13世紀)、敲石(2)が廃棄されていた。

T a 24号竪穴状遺構(第44図・表28)

平成21年度調査区東のC35グリッドに位置する。ピット・土坑群が重複し、南側は判然としない。黒褐色土を強固に叩きしめて構築された底面と皿状の壁が東西3.5m、南北3.5mの規模で確認された。

T a 25号竪穴状遺構(第44図・表28)

平成21年度調査区中央南のE32・33グリッドに位置する。南壁は調査区域外である。確認面では南北長2.1m、東西長2.7mで西壁上部に南北・東西1m深さ40cmの張り出し部が付随する。深さ120cmの底面には深さ8cm程の周溝があり、周溝内底面は南北長1.5m、東西長1.9mの規模である。周溝内の北西隅、北側中央には深さ20cmのピットがある。

遺物は西壁側に大型礫の一括廃棄があり、覆土に龍泉窯青磁蓮弁文碗(3:13世紀後～14世紀前)、常滑壺(5:13世紀前)、伊万里染付碗(4:近世)、敲石(6)が廃棄されていた。

T a 26号竪穴状遺構(第44図・表28)

平成21年度調査区西南のE31グリッドに位置する。隅丸長方形で、南北長1.1m、東西長4m、深さ10cmの規模を有する。深さ10cm程の堀方を暗褐色土で埋め黒色粘土を貼り小礫を敷き詰めた底面が構築されている。石敷きに弥生時代の石斧未製品(7)が検討される遺物が含まれていた。

T a 27号竪穴状遺構(第45図・表28)

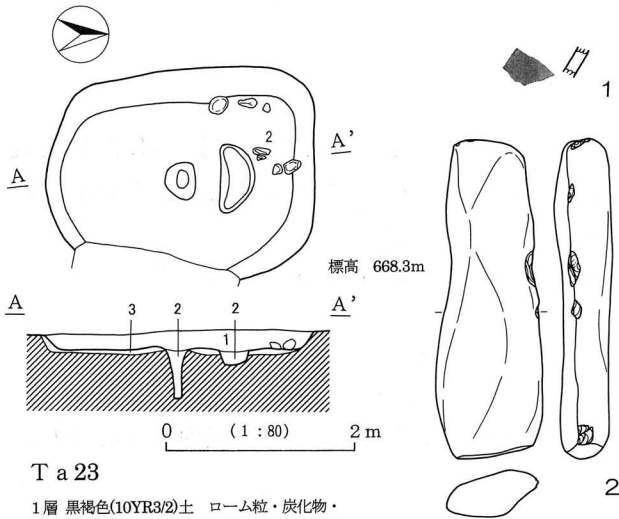
平成22年度調査区北東のB29・C29グリッドに位置する。北壁側は調査地域外である。確認した隅丸長方形の規模は南北長3.6m、東西長3.6mで深さ18cmである。壁は皿状で床面は強固ではなく叩きしめ・堀方はない。中央東側に深さ40cmのP1・P2が2mの間隔で南北に並ぶ。P2を塞ぎ東壁に至る床面から浮いた石列が組まれていた。

遺物は石列に搗き臼(10)が含まれ、その南側覆土3層で洪武通寶(8)、中央南側床面で白玉(9)が検出された。

第3節 井戸址(第46図・表28)

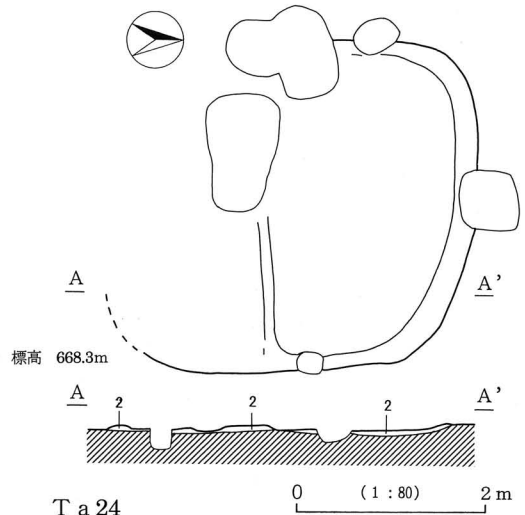
平成21年度調査区東南のD36・E36グリッド周辺に位置する素堀の井戸である。南側は調査地域外である。確認した円形の規模は上場で南北長5.7m、東西長7.6m、中間場で南北長3.1m、東西長3mである。底面は安全対策で発掘していないがボーリングで深さ3.1m程である。

遺物は覆土3～5層から龍泉窯玉緑青磁碗(15:15世紀前)、常滑鉢(16:13世紀後)、在地須恵質播鉢(17:14世紀前)、凹石(11)、砥石(12・13)、軽石製品(14)が検出された。



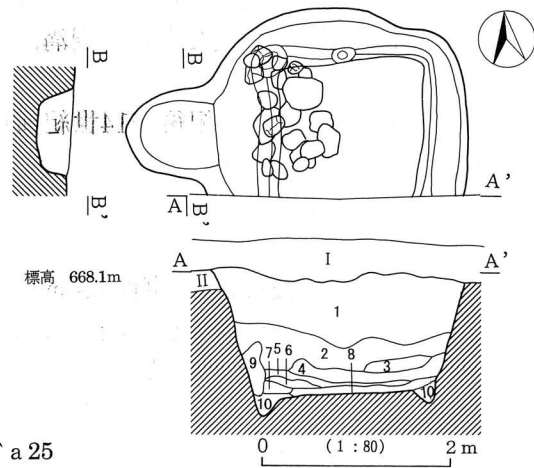
T a 23

- 1層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒・炭化物・黒褐色硬質土ブロックを多く含む。
- 2層 暗褐色(10YR3/3)土 ローム粒を多量に含む。
- 3層 黒褐色(10YR3/2)硬質土



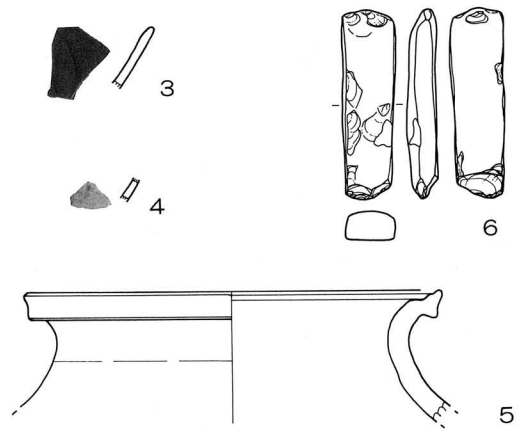
T a 24

- 1層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒・炭化物を含む。
- 2層 暗褐色(10YR3/3)土 ローム粒を多く含む。硬質。



T a 25

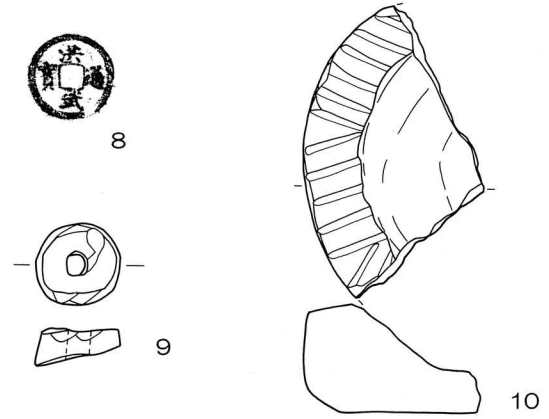
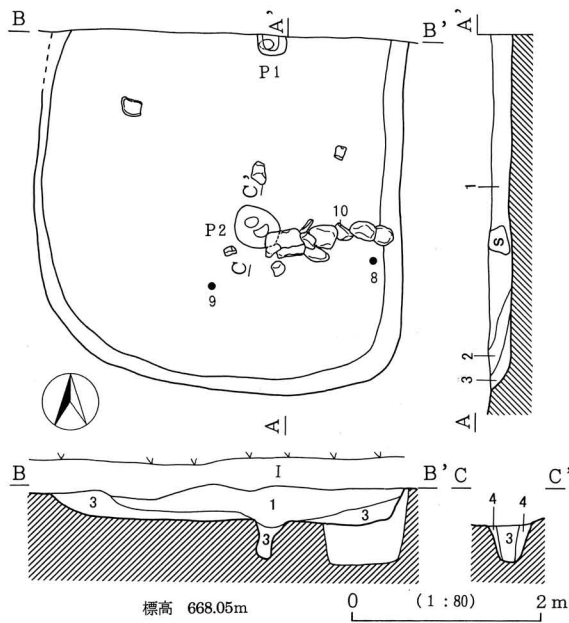
- 1層 黒褐色(10YR3/2)土とロームブロック(〜10 cm)・砂の埋土。
- 2層 黒褐色(10YR2/2)土と暗褐色(10YR3/3)土の埋土。
- 3層 ローム2次堆積
- 4層 褐色(7.5YR4/4)砂層
- 5層 黒褐色(10YR2/2)土
- 6層 砂層
- 7層 黒褐色(10YR3/2)土 砂を多量に含む。
- 8層 砂層 黒褐色土ブロック(〜3 cm)を含む。
- 9層 ローム2次堆積
- 10層 暗褐色(10YR3/3)土 砂・ローム粒・パミスを多く含む。



T a 26

- 1層 褐色(7.5YR4/4)土と黒褐色(10YR2/2)の埋土。
- 2層 黒褐色(10YR2/2)土 ローム粒を多く含む。
- 3層 黒色(7.5YR2/1)粘質土。貼床土。
- 4層 暗褐色(10YR3/3)土 ローム粒を多量に含む。堀方埋土。

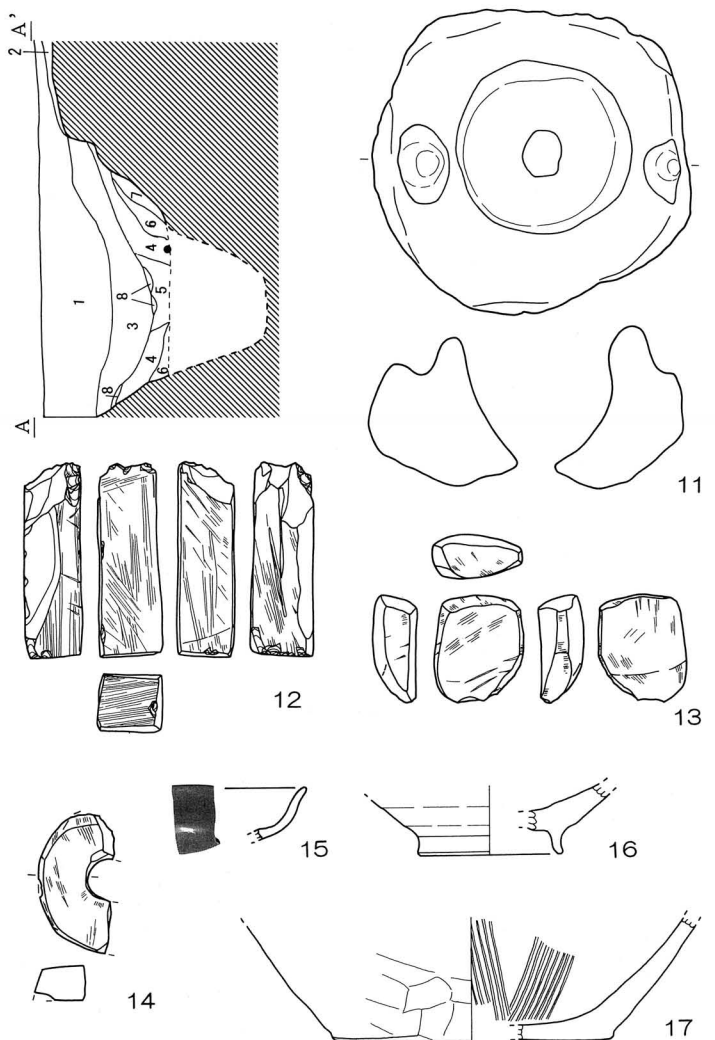
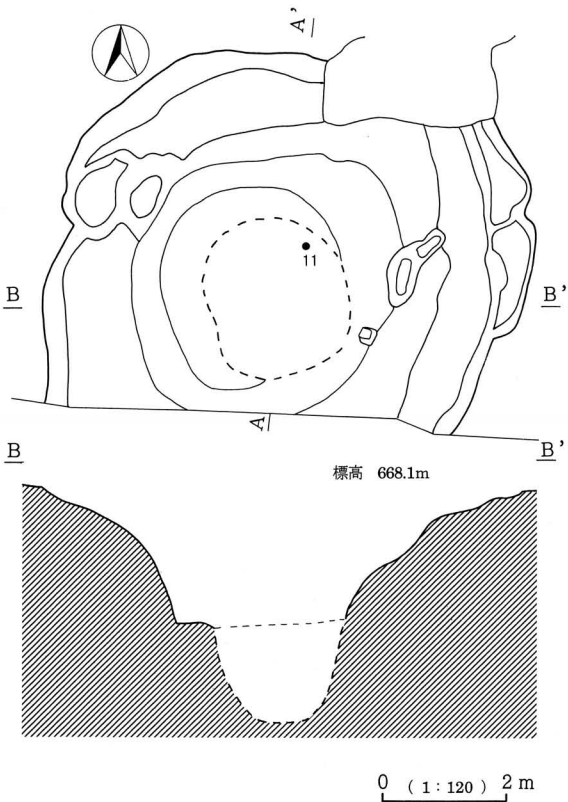
第44図 竪穴状遺構とその遺物 (1) (縮尺1〜6:1/4、7:1/3)



T a 27

- 1層 黒褐色(10YR3/1)土 ローム粒・ブロックを多く含む。
- 2層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒・ブロックを多量に含む。
- 3層 黒褐色(10YR3/3)土 ローム粒を多量に含む。
- 4層 褐色(10YR4/4)土 ロームブロック・砂を多量に含む。

第45図 竪穴状遺構とその遺物 (2) (縮尺 8 : 1/2、9 : 1/1、10 : 1/6)



井戸址

- 1層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒・小礫・砂を多く含む。炭化物を含む。
- 2層 暗褐色(10YR3/4)土 ローム粒を多量に含む。
- 3層 暗褐色(10YR3/3)土 砂・礫(～10 cm)・ローム粒を多く含む。
- 4層 暗褐色(10YR3/3)土 ロームブロック(～10 cm)・小礫を多量に含む。
- 5層 黒褐色(10YR2/2)土 小礫・ローム粒を含む。
- 6層 黒褐色(10YR3/2)土 小礫・ローム粒を多く含む。
- 7層 暗褐色(10YR3/4)土 ロームブロック(～10 cm)を多量に含む。硬質。

第46図 井戸址とその遺物 (縮尺 11 : 1/6、12～14 : 1/3、15～17 : 1/4)

第4節 掘立柱建物址

F2号掘立柱建物址(第47図)

平成22年度調査区中央のB16・17グリッド周辺に位置する。1間×1間の側柱式である。柱間3.5mで、東西長70cm・南北長50cm・深さ25cm程のP1～P4からなる。時期を特定できる遺物はないが、他遺構との関連では古墳・奈良時代が考えられる。

F3号掘立柱建物址(第47図)

平成22年度調査区中央のB18・19グリッド周辺に位置する。P1・P10の一部が攪乱で破壊されている。南北2間、東西3間の側柱式である。柱間は南北1.8m、東西1.7mであり、P2～P8は東西長50～80cm・南北長50～70cm・深さ30cm前後の規模である。時期を特定できる遺物はないが、他遺構との関連では古墳・奈良時代が検討される。

F4号掘立柱建物址(第47図)

平成22年度調査区中央のC16・17グリッドに位置する。南側が調査区外で全体は不明であるが、P1～P3を東西2間分の柱穴配列と考えた。柱間は1.8m、2.2mである。柱穴規模は東西長40・50cm、南北長40・45cm、深さ20・30cmである。時期を特定できる遺物はないが、他遺構との関連では古墳・奈良時代が検討される。

F5号掘立柱建物址(第47図)

平成22年度調査区東南のD28グリッドに位置する。南側が調査区外で全体は不明であるが、P1～P3を東西2間分の柱穴配列と考えた。柱間は1.4mで、柱穴規模は直径30cm程、深さ30～40cmである。時期を特定できる遺物はないが、他遺構との関連では古墳・奈良時代が検討される。

F6号掘立柱建物址(第48図)

平成22年度調査区西のB12・13グリッド周辺に位置する。南北2間、東西2間の総柱式で東側に南北2間の廂を伴うものと考えられる。柱間は1.8mである。P1～P10の規模は直径25cm程、深さ25～35cmであり、廂相当のP11～P13の規模は1.5m四方前後、深さ15～30cmである。なお、中央南北の2・P9・P6上部には扁平礫が配されていた。

時期を特定できる遺物はないが、他遺構との関連では中世が検討される。

F7号掘立柱建物址(第48図)

平成21年度調査区中央のC34グリッドに位置する。長方形ピット4個の配列を1間×1間の側柱式と捉えた。南北の柱間は3.2m、東西の柱間は2.2mである。P1～P4の規模は東西長90～100cm、南北長60cm、深さ20～30cmである。時期を特定できる遺物はないが、他遺構との関連では中世が検討される。

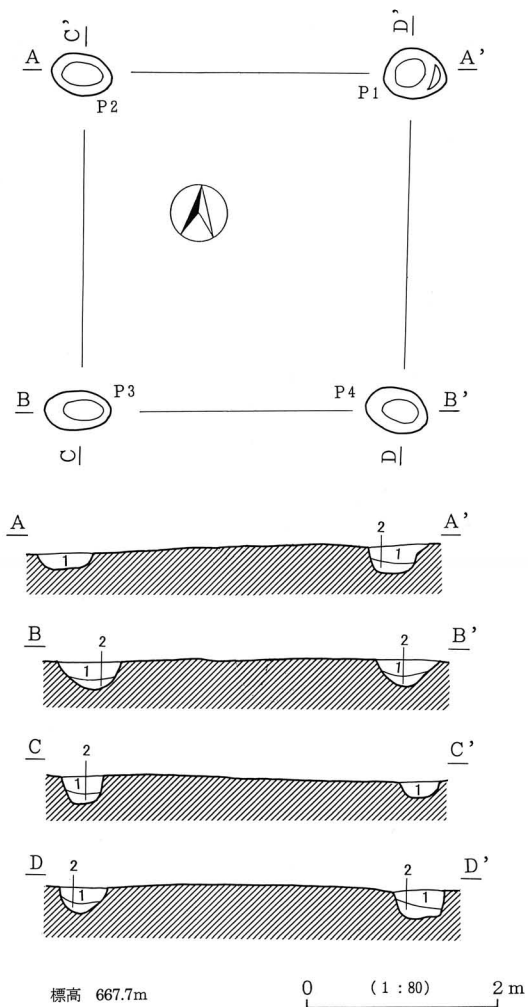
第5節 溝址

M4号溝址(第49・59図、表28)

平成22年度調査区のグリッド36～39列に位置する。調査区南側から北側に向かう3.5m程の範囲、調査区中央付近から北東方向へ向かう18m程の範囲が確認されている。底面幅80cm、深さ50cm程であり、底面北側には幅20cmで10cm程深くなる部分が屈曲部から東北方向の範囲に存在する。底面の比高差はなく水平である。時代は他遺構との関連から中世が検討される。

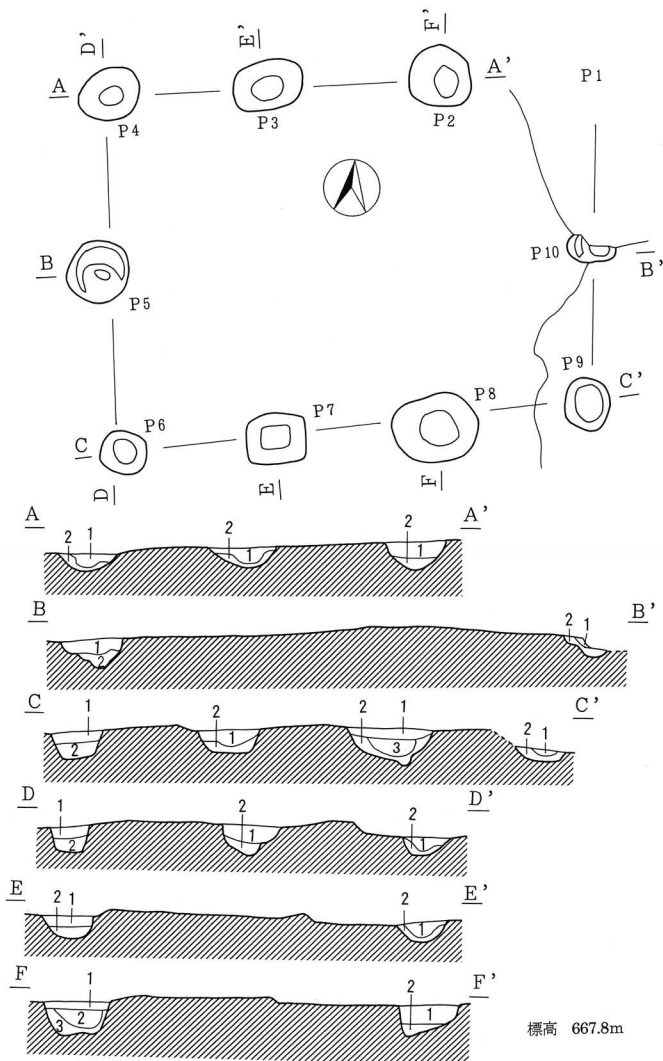
M5号溝址(第49・59図、表28)

平成22年度調査区のグリッド20列に位置する。調査区を南北に走り北側は攪乱で破壊される。底面の幅は1.6mで深さは60cmである。底面は水平である。時代は覆土に奈良時代の須恵器片があり、他遺構との関連では奈良時代～中世が検討される。



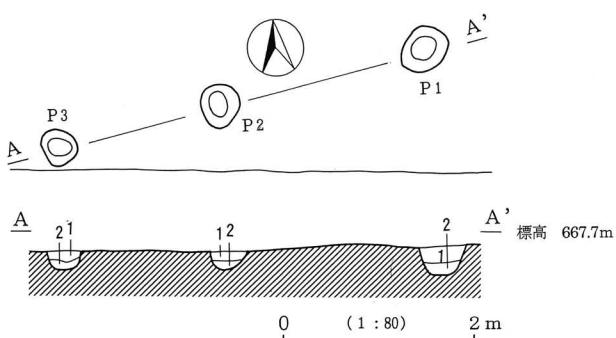
F 2

1層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒を含む。
 2層 暗褐色(10YR3/3)土 ローム粒・ブロックを多く含む。



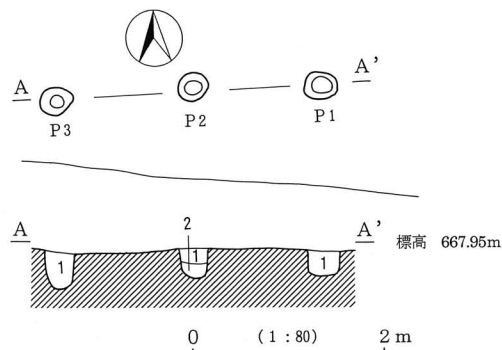
F 3

1層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒・砂を含む。
 2層 暗褐色(10YR3/4)土 ローム粒を多量に含む。
 3層 黒褐色(10YR3/1)土 ローム粒を含む。



F 4

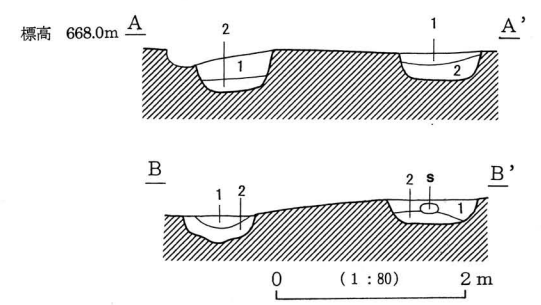
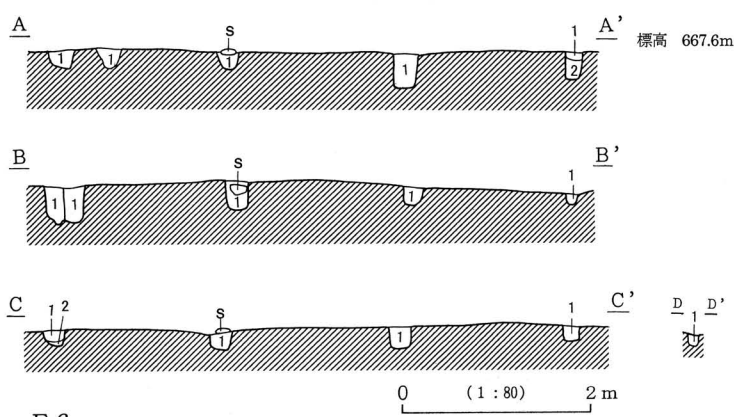
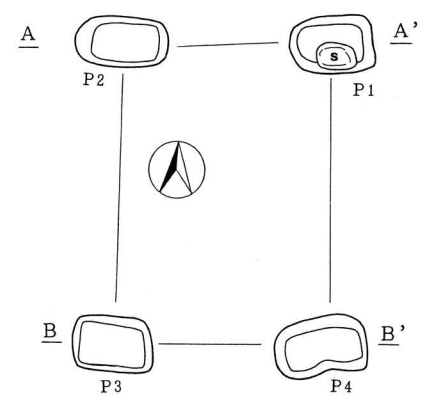
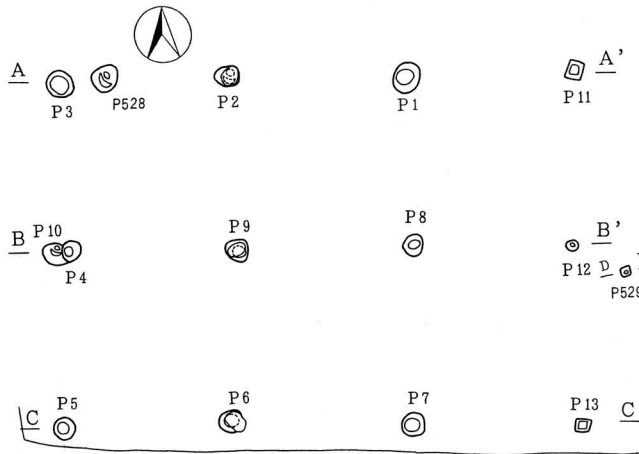
1層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒を含む。
 2層 暗褐色(10YR3/3)土 ローム粒を多く含む。



F 5

1層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒を多く含む。
 2層 暗褐色(10YR3/3)土 ローム粒を多量に含む。

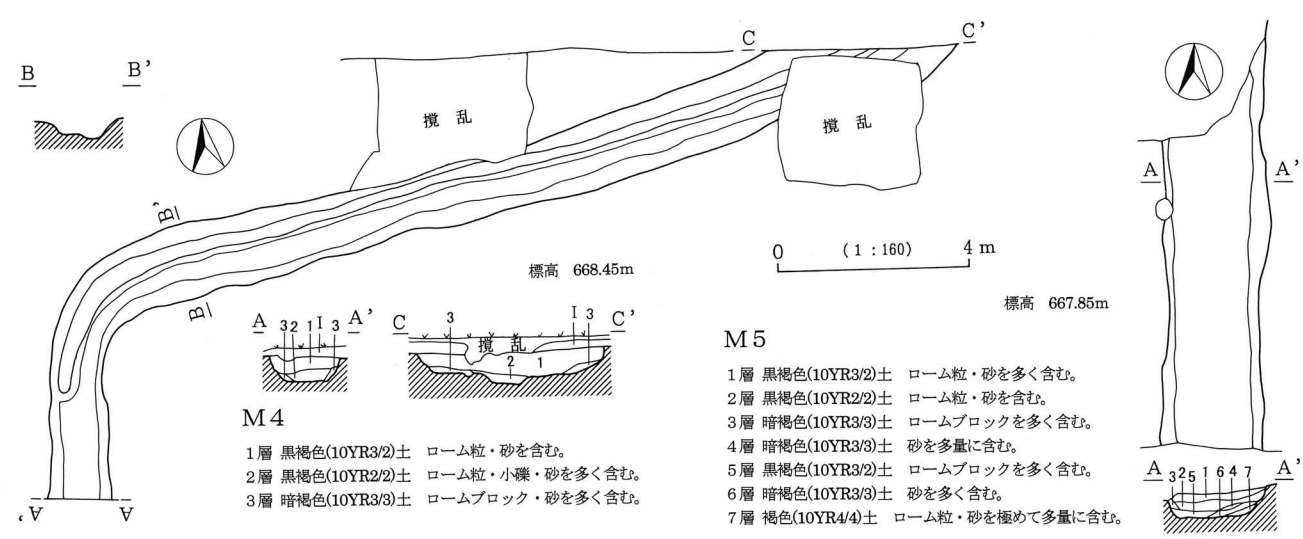
第 47 図 掘立柱建物址 (1)



F 6
 1層 黒褐色(10YR3/1)土 ローム粒を含む。
 2層 暗褐色(10YR3/3)土 ローム粒を多く含む。

F 7
 1層 黒褐色(10YR2/2)土 ローム粒を含む。
 2層 暗褐色(10YR3/3)土 ローム粒を多量に含む。

第 48 図 掘立柱建物址 (2)



M 4
 1層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒・砂を含む。
 2層 黒褐色(10YR2/2)土 ローム粒・小礫・砂を多く含む。
 3層 暗褐色(10YR3/3)土 ロームブロック・砂を多く含む。

M 5
 1層 黒褐色(10YR3/2)土 ローム粒・砂を多く含む。
 2層 黒褐色(10YR2/2)土 ローム粒・砂を含む。
 3層 暗褐色(10YR3/3)土 ロームブロックを多く含む。
 4層 暗褐色(10YR3/3)土 砂を多量に含む。
 5層 黒褐色(10YR3/2)土 ロームブロックを多く含む。
 6層 暗褐色(10YR3/3)土 砂を多く含む。
 7層 褐色(10YR4/4)土 ローム粒・砂を極めて多量に含む。

第 49 図 溝址

第6節 土坑

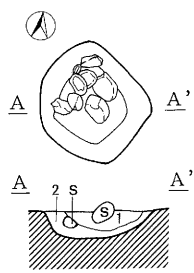
D19～97号土坑の79基(第50～52・59図、表26・28)が確認された。形状には楕円形(30基)・隅丸方形(14基)・隅丸長方形(35基)がある。隅丸長方形を主体とするD50～59・61・66～71・79には近世の土坑が含まれている可能性があるが、大半は中世の土坑と考えられる。隅丸長方形ではD64の底面に鉄滓の集中と焼土の掘り込みが確認された。隅丸方形ではD20・82が深さ70cm以上の規模をもち、D95では礫群、D85では巻貝、D35では中津川壺(20:13世紀中)が検出された。楕円形ではD36・78に石組み、D19に礫集中廃棄、D47に礫・かわらけ(19)・鉄角釘(26・27)の廃棄、散漫な配石のあるD28から硯(25)、D38から龍泉窯青磁連弁碗(18:13世紀)、D89から在地須恵質播鉢(22:14世紀前)が検出された。D36の石組みは楕円礫を楕円形に配し、中央に凹石(23)を含む礫が廃棄され、D78の石組みは大型礫をコの字形に配し、中央に礫が集積されていた。

第7節 ピット

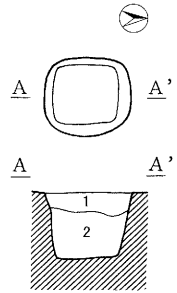
P81～P529の449基が確認されている(第53～59図、表27・28)。形状は隅丸方形(217基)、隅丸長方形(19基)、円形(190基)、楕円形(23基)である。大半は中世のピット群と考えられる。長さ20～40cmの小型隅丸方形・円形のピットを中心とした建物址の存在を推定できようか。それらには底面が硬質(P270・272・283・293・294・296・310・325・357・385)、底面に扁平礫を有する(P275・282・362)ピットが存在する。小型隅丸方形・円形のピットの配置で検討できる建物址想定範囲は、B34～37配列ピット群とそれに対応する北側調査区外想定ピット群、南側C・Dグリッドのピット群の範囲(第53図)、B30周辺のピット群(第54図)、D27～29配列ピット群とそれに対応する北側B・Cグリッドのピット群の範囲(第55図)がある。遺物は、P89から線刻画のある硯(第59図24)、P70から鉄角釘(28)、P283から皇宋通寶(30:実測後に判読)、P200から青銅飾り金具?(29)が検出されている。

表 26 土坑一覧表

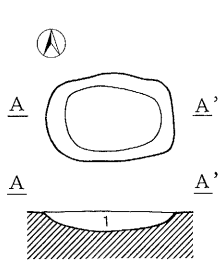
| 遺構 | 位置 | 標高 | 形態 | 南北 | 東西 | 深さ | 備考 | 遺構 | 位置 | 標高 | 形態 | 南北 | 東西 | 深さ | 覆土・備考 |
|-----|-----|--------|-------|------|------|----|---------------|-----|-----|--------|-------|------|------|-----|--------------------|
| D19 | D33 | 668.2 | 楕円形 | 104 | 116 | 30 | H4を切る。 | D59 | C28 | 668.05 | 隅丸長方形 | 81 | 71 | 7 | |
| D20 | C33 | 668.2 | 隅丸方形 | 92 | 82 | 74 | H4を切る。 | D60 | C27 | 668.05 | 楕円形 | 125 | 95 | 41 | |
| D21 | C32 | 668.2 | 楕円形 | 92 | 138 | 20 | H5を切る。 | D61 | C27 | 668.05 | 隅丸長方形 | 125 | 67 | 7 | |
| D22 | C31 | 668.2 | 楕円形 | 188 | 135 | 44 | H5を切る。 | D62 | C27 | 668.05 | 隅丸長方形 | 64 | *83 | 46 | D60に切られる。 |
| D23 | D35 | 668.2 | 楕円形 | 76 | 88 | 14 | | D63 | C27 | 668.05 | 隅丸長方形 | *63 | 67 | 46 | D60に切られる。 |
| D24 | D34 | 668.2 | 楕円形 | 75 | 62 | 14 | F6を切る。 | D64 | D26 | 667.95 | 隅丸長方形 | 100 | 120 | 22 | 金屎・焼土あり。 |
| D25 | C34 | 668.2 | 楕円形 | 122 | 98 | 25 | | D65 | C28 | 668.05 | 隅丸長方形 | *105 | 75 | 22 | D58に切られる。 |
| D26 | D34 | 668.2 | 楕円形 | 124 | *150 | 12 | D25に切られF6を切る。 | D66 | C28 | 668.05 | 隅丸長方形 | 80 | 61 | 8 | |
| D27 | D34 | 668.2 | 楕円形 | 64 | 93 | 25 | | D67 | C27 | 668.05 | 隅丸長方形 | 91 | 63 | 7 | |
| D28 | D34 | 668.2 | 楕円形 | *146 | 140 | 8 | D27に切られる。硯 | D68 | C27 | 668.05 | 隅丸方形 | 57 | 63 | 5 | |
| D29 | E33 | 668.2 | 楕円形 | 78 | 120 | 35 | | D69 | C27 | 668.05 | 隅丸長方形 | 82 | 67 | 7 | |
| D30 | D31 | 668.1 | 隅丸長方形 | 90 | 145 | 18 | | D70 | B27 | 667.95 | 隅丸長方形 | 130 | 70 | 13 | |
| D31 | D31 | 668.1 | 隅丸長方形 | 83 | *112 | 14 | P259に切られる。 | D71 | B27 | 667.95 | 隅丸長方形 | *64 | 70 | 5 | 北側調査区外 |
| D32 | C30 | 668 | 隅丸長方形 | 101 | 126 | 15 | | D72 | B26 | 668.05 | 楕円形 | 67 | 80 | 35 | |
| D33 | C31 | 668.1 | 隅丸長方形 | △160 | 90 | 12 | D34・35を切る?。 | D73 | B25 | 668.05 | 隅丸方形 | 64 | 68 | 40 | |
| D34 | C31 | 668.1 | 隅丸方形 | 81 | 86 | 53 | | D74 | C25 | 668.05 | 隅丸長方形 | *96 | 115 | 17 | 攪乱に切られる。 |
| D35 | C31 | 668.1 | 隅丸方形 | 70 | 85 | 38 | 陶器 | D75 | C22 | 667.8 | 楕円形 | 98 | 74 | 13 | |
| D36 | C35 | 668.3 | 楕円形 | 172 | 184 | 15 | 石囲いを有する。凹石 | D76 | C22 | 667.8 | 楕円形 | 79 | 65 | 25 | |
| D37 | D35 | 668.3 | 楕円形 | 56 | *35 | 18 | D23に切られる。 | D77 | C25 | 668.05 | 楕円形 | 60 | 78 | 20 | |
| D38 | D32 | 668.1 | 楕円形 | *52 | 76 | 18 | Ta25に切られる。青磁碗 | D78 | D26 | 668.05 | 楕円形 | 143 | 133 | 33 | 石囲いを有する。 |
| D39 | E34 | 668.2 | 隅丸方形 | 120 | 132 | 34 | | D79 | C27 | 668.05 | 隅丸長方形 | 122 | 72 | 8 | |
| D40 | D34 | 668.1 | 楕円形 | 110 | 154 | 35 | | D80 | C29 | 668.15 | 楕円形 | 68 | 98 | 30 | |
| D41 | B35 | 668.3 | 隅丸方形 | *124 | 130 | 27 | 北側調査区外 | D81 | C30 | 668.05 | 楕円形 | 80 | *108 | 10 | P300～302・304に切られる。 |
| D42 | B35 | 668.3 | 隅丸方形 | *31 | 50 | 34 | 北側調査区外 | D82 | B30 | 668.05 | 隅丸方形 | 84 | 80 | 77 | P386に切られる。 |
| D43 | B37 | 668.3 | 楕円形 | *30 | 65 | 24 | 南側攪乱で切られる。 | D83 | B30 | 668.05 | 楕円形 | 82 | 80 | 28 | |
| D44 | B7 | 667.35 | 隅丸長方形 | 100 | 76 | 27 | | D84 | B26 | 667.95 | 隅丸長方形 | 113 | 142 | 23 | |
| D45 | B7 | 667.35 | 隅丸長方形 | 68 | 100 | 24 | | D85 | D29 | 668.05 | 隅丸方形 | *76 | 71 | 44 | D49に切られる。巻貝 |
| D46 | A7 | 667.35 | 隅丸方形 | 116 | 118 | 27 | | D86 | D25 | 667.95 | 楕円形 | *60 | 62 | 35 | *60に切られる。攪乱に切られる。 |
| D47 | E29 | 668.05 | 楕円形 | 108 | 132 | 87 | 角釘、かわらけ | D87 | C29 | 668.05 | 隅丸方形 | 86 | *66 | 42 | D50に切られる。 |
| D48 | D29 | 668.05 | 隅丸長方形 | 150 | 100 | 12 | | D88 | B26 | 668.05 | 隅丸長方形 | *46 | 138 | 10 | 北側調査区外 |
| D49 | D29 | 668.05 | 隅丸長方形 | 118 | 166 | 52 | | D89 | B29 | 667.95 | 楕円形 | 95 | *80 | 41 | Ta27・D83に切られる。播鉢 |
| D50 | C29 | 668.05 | 隅丸長方形 | 132 | 70 | 8 | | D90 | B29 | 667.95 | 隅丸長方形 | *133 | 92 | 25 | Ta27・D89に切られる。 |
| D51 | C29 | 668.05 | 隅丸長方形 | 105 | 68 | 12 | | D91 | C29 | 667.85 | 隅丸方形 | *84 | 70 | 33 | Ta27P2に切られる。 |
| D52 | C28 | 668.05 | 隅丸長方形 | 84 | 72 | 10 | | D92 | B29 | 667.95 | 隅丸長方形 | *53 | 70 | 42 | D95に切られ、北側調査区外 |
| D53 | C28 | 668.05 | 隅丸長方形 | 108 | 62 | 9 | | D93 | B19 | 667.5 | 楕円形 | *120 | *110 | *13 | 攪乱で上部を切られる。 |
| D54 | C28 | 668.05 | 隅丸長方形 | 90 | 65 | 11 | | D94 | C29 | 667.95 | 楕円形 | 53 | 72 | 20 | P307に切られる。 |
| D55 | C29 | 668.05 | 隅丸長方形 | 90 | 73 | 8 | | D95 | B29 | 668.05 | 隅丸方形 | *15 | *68 | 32 | 北側調査区外、礫群 |
| D56 | C28 | 668.05 | 隅丸長方形 | 98 | 70 | 13 | | D96 | B28 | 667.95 | 隅丸方形 | 74 | 75 | 12 | |
| D57 | C28 | 668.05 | 隅丸長方形 | 85 | 68 | 6 | | D97 | C29 | 667.95 | 隅丸長方形 | 62 | 75 | 42 | |
| D58 | C28 | 668.05 | 隅丸長方形 | 117 | 67 | 10 | | | | | | | | | |



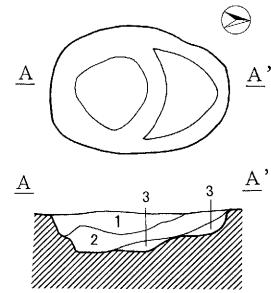
D19
 1層 黒褐色(10YR2/2)土
 炭化物・礫を含む。
 2層 黒褐色(10YR3/2)土
 炭化物・砂・礫・ローム粒を含む。



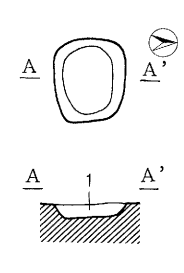
D20
 1層 黒褐色(10YR3/2)土
 炭化物・ローム粒を含む。
 2層 黒褐色(10YR3/2)土
 炭化物・ローム粒を多く含む。



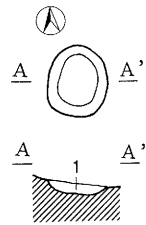
D21
 1層 黒褐色(10YR2/2)土
 炭化物・ローム粒を多く含む。
 小礫を含む。



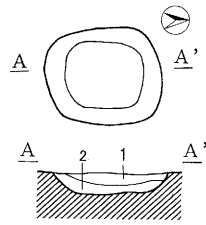
D22
 1層 黒褐色(10YR3/2)土
 ローム粒・小礫を多く含む。
 2層 黒褐色(10YR2/2)土
 炭化物を多く含む。ローム粒を含む。
 3層 黒褐色(10YR3/2)土
 ローム粒を多く含む。



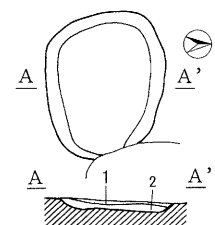
D23
 1層 黒褐色(10YR2/2)土
 炭化物を多く含む。



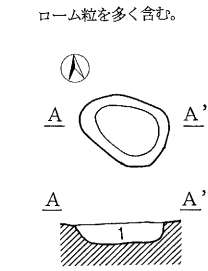
D24
 1層 黒褐色(10YR3/2)土
 ローム粒を含む。



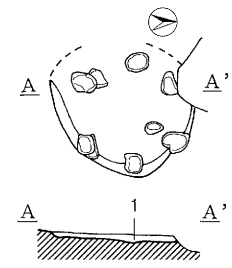
D25
 1層 黒褐色(10YR3/2)土
 炭化物・ローム粒を含む。
 2層 暗褐色(10YR3/3)土
 ローム粒を多量に含む。



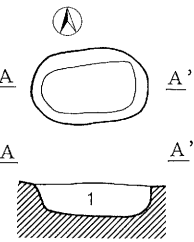
D26
 1層 黒褐色(10YR2/2)土
 炭化物・ローム粒を含む。
 2層 暗褐色(10YR3/3)土
 ローム粒を多量に含む。



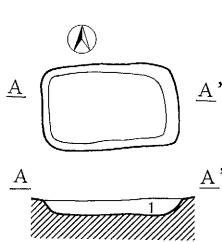
D27
 1層 黒褐色(10YR3/2)土
 ローム粒・小礫を多く含む。



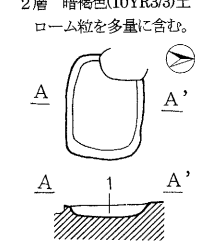
D28
 1層 黒褐色(10YR3/2)土
 炭化物・ローム粒を多く含む。



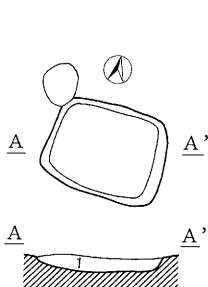
D29
 1層 黒褐色(10YR2/2)土と暗褐色土
 (10YR3/3)の埋土。炭化物を含む。



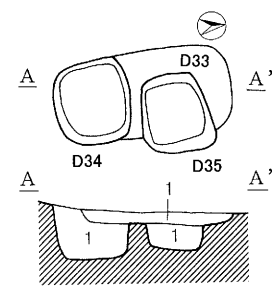
D30
 1層 黒褐色(10YR2/2)土
 炭化物を多く含む。



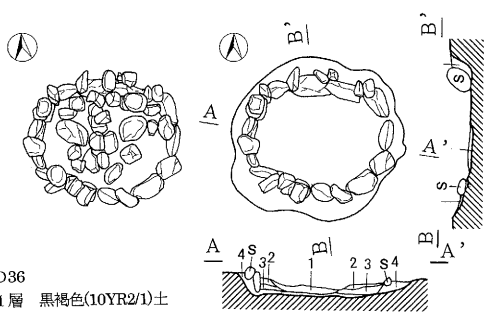
D31
 1層 黒褐色(10YR3/2)土
 ローム粒を多く含む。



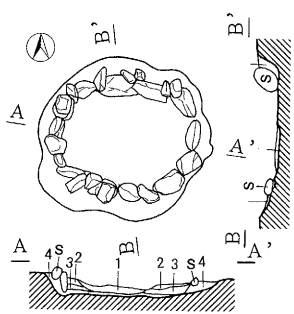
D32
 1層 黒褐色(10YR2/2)土
 ローム粒・炭化物を含む。



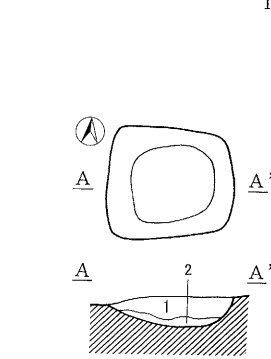
D33
 1層 黒褐色(10YR2/2)土
 炭化物・ロームブロックを含む。



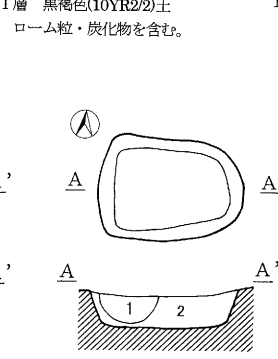
D36
 1層 黒褐色(10YR2/1)土
 炭化物・焼土粒を含む。
 ロームブロック(~3 cm)
 を含む。
 2層 黒褐色(10YR3/2)土
 ローム粒を含む。
 3層 暗褐色(10YR3/4)土
 ローム粒を多量に含む。
 4層 暗褐色(10YR3/3)土
 ロームブロック(~2 cm)
 多く含む。礫埋土。



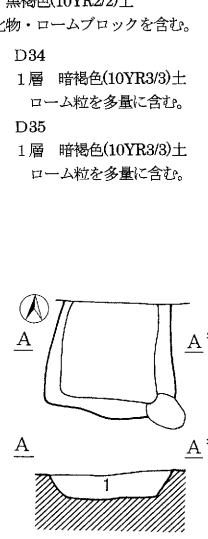
D37
 1層 黒褐色(10YR2/2)土
 ローム粒を含む。



D39
 1層 黒褐色(10YR3/2)土
 炭化物・ロームブロック
 (~3 cm)を含む。
 2層 黒褐色(10YR2/2)土
 炭化物・ロームブロック
 (~3 cm)を含む。



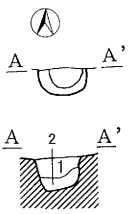
D40
 1層 黒褐色(10YR3/2)土
 ローム粒・小礫を多く含む。
 2層 褐色(10YR4/4)土
 ロームブロック(~3 cm)を
 極めて多量に含む。
 炭化物を含む。



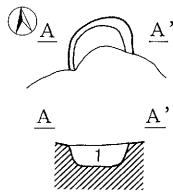
D41
 1層 黒褐色(10YR3/2)土と
 ロームの埋土。

0 (1:80) 2 m

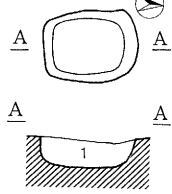
第50図 土坑 (1)



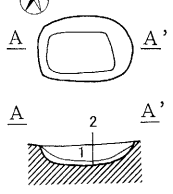
D42
1層 黒褐色(10YR2/2)土
ローム粒を多く含む。
2層 暗褐色(10YR3/4)土
ローム粒を多量に含む。



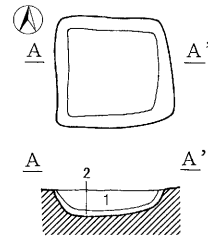
D43
1層 黒褐色(10YR3/2)土と
ロームの埋土。



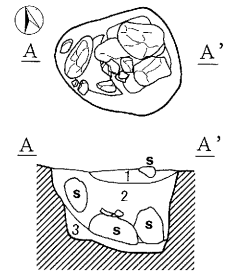
D44
1層 黒褐色(10YR3/1)土
ロームブロックを含む。



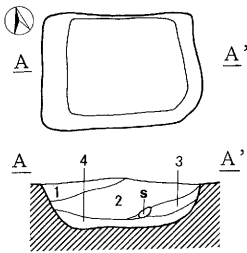
D45
1層 黒褐色(10YR3/1)土
ロームブロックを多く含む。
2層 黒褐色(10YR3/2)土
ロームブロックを多量に含む。



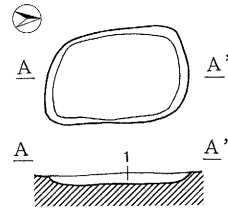
D46
1層 黒褐色(10YR3/1)土
ロームブロックを多く含む。
2層 黒褐色(10YR3/2)土
ロームブロックを多量に含む。



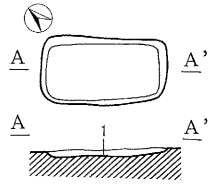
D47
1層 黒褐色(10YR3/1)土
ローム粒を含む。
2層 黒褐色(10YR3/2)土
ローム粒を多く含む。
3層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多量に含む。



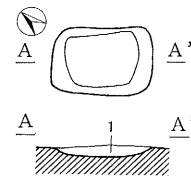
D49
1層 黒褐色(10YR3/2)土
ローム粒を含む。
2層 黒褐色(10YR2/2)土
ローム粒を含む。
3層 黒褐色(10YR3/1)土
ローム粒を含む。
4層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・ブロックを
多く含む。



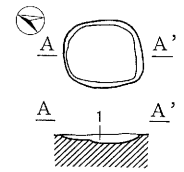
D48
1層 黒褐色(10YR3/2)土
ローム粒を含む。



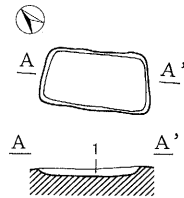
D50
1層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多く含む。



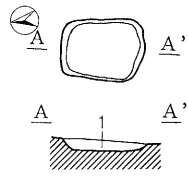
D51
1層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多く含む。



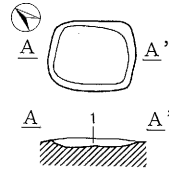
D52
1層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多く含む。



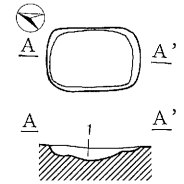
D53
1層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多く含む。



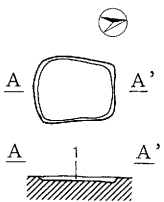
D54
1層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多く含む。



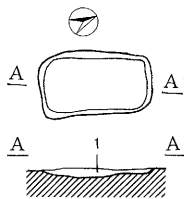
D55
1層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多く含む。



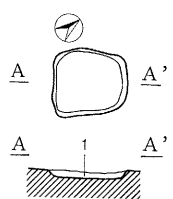
D56
1層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多く含む。



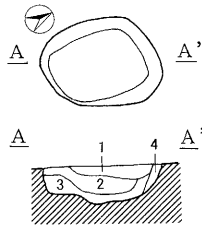
D57
1層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多く含む。



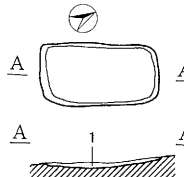
D58
1層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多く含む。



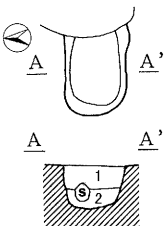
D59
1層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多く含む。



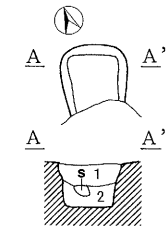
D60
1層 黒褐色(10YR3/2)土
ローム粒を含む。
2層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多く含む。
3層 黒褐色(10YR2/2)土
ローム粒を含む。
4層 褐色(10YR4/4)土
ローム粒を多量に含む。



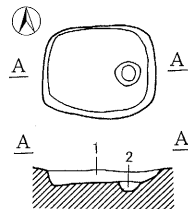
D61
1層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多く含む。



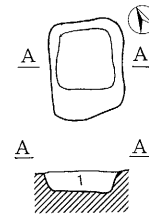
D62
1層 黒褐色(10YR3/2)土
ロームブロックを多く含む。
2層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・ブロックを多量に含む。



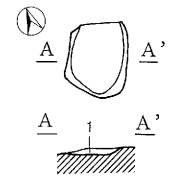
D63
1層 黒褐色(10YR3/1)土
ローム粒を含む。
2層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒を多く含む。



D64
1層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・黒褐色土ブロック
を多く含む。
2層 焼土



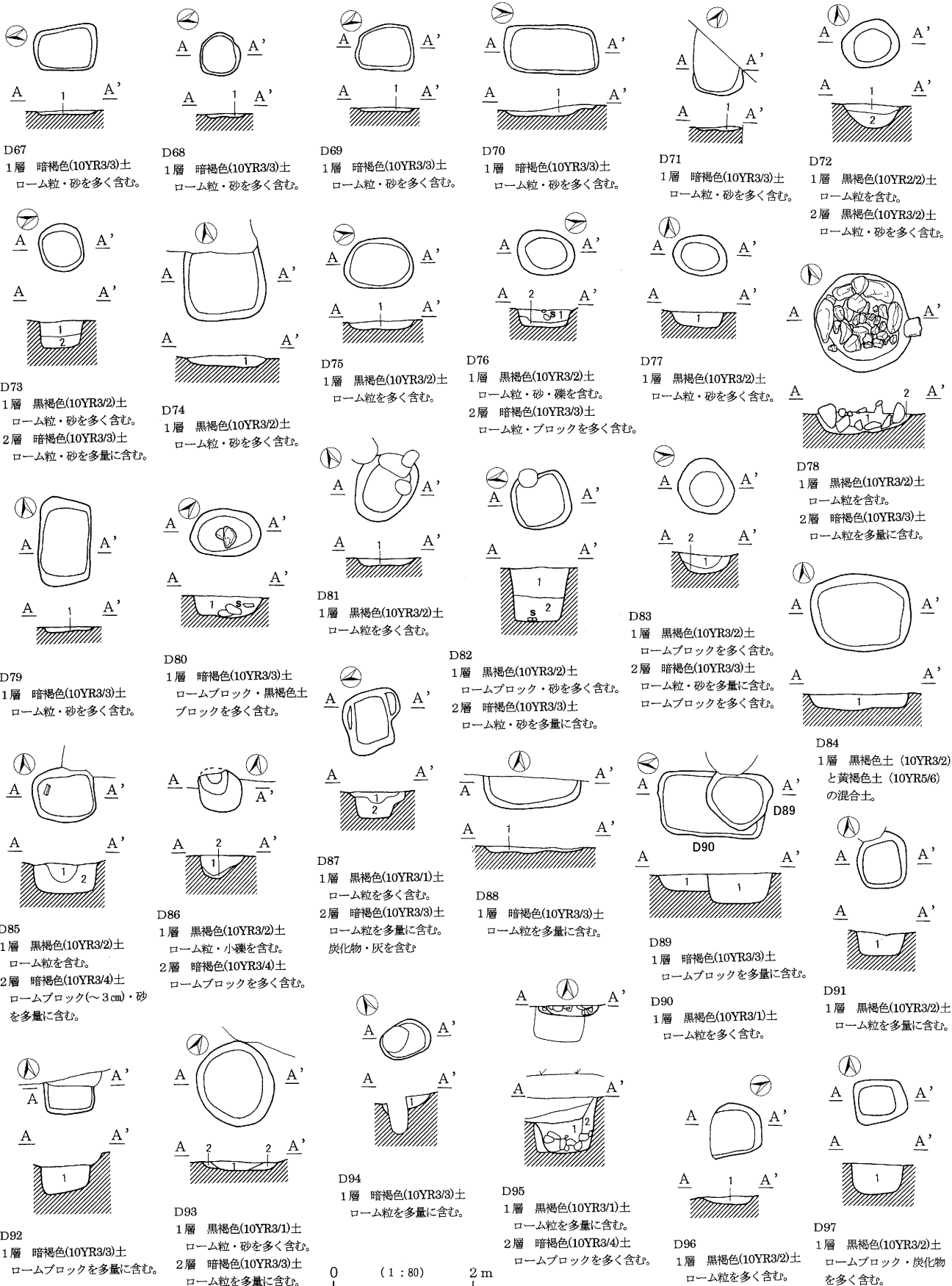
D65
1層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多く含む。



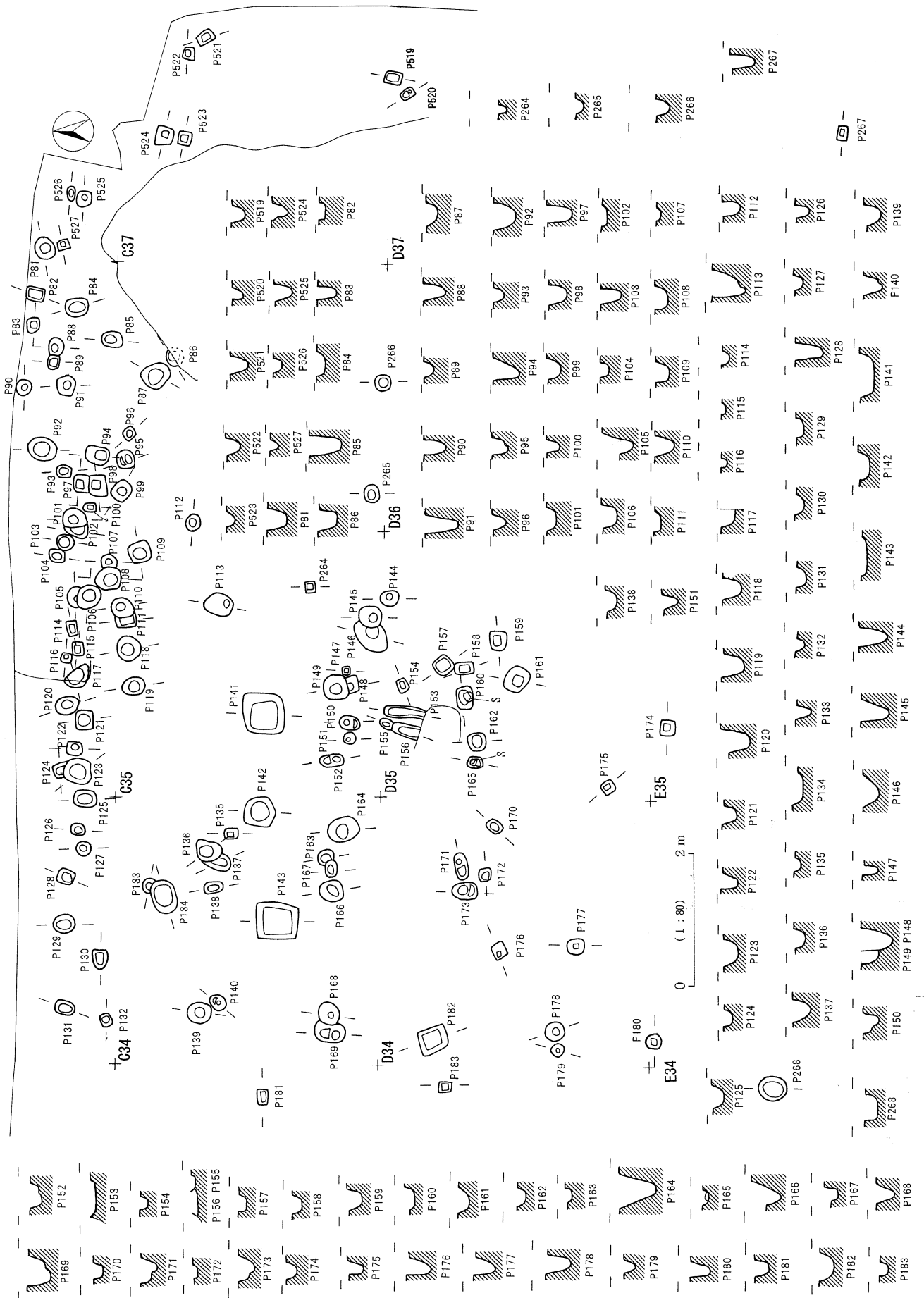
D66
1層 暗褐色(10YR3/3)土
ローム粒・砂を多く含む。

0 (1:80) 2 m

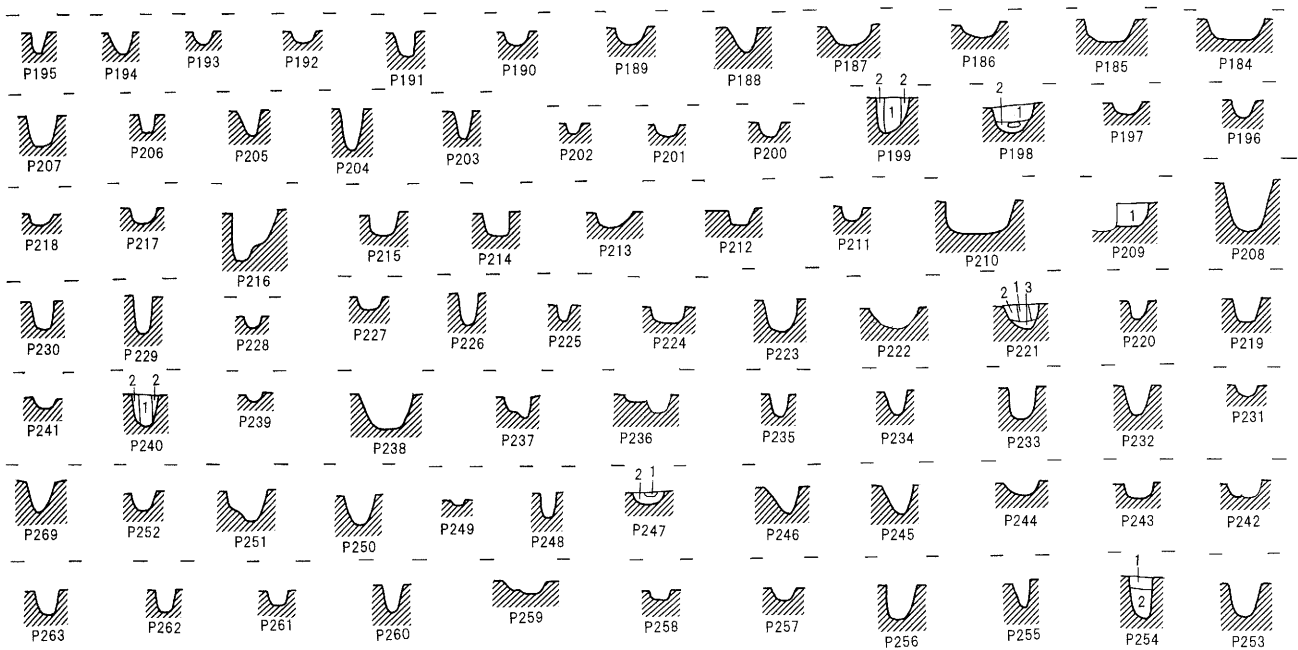
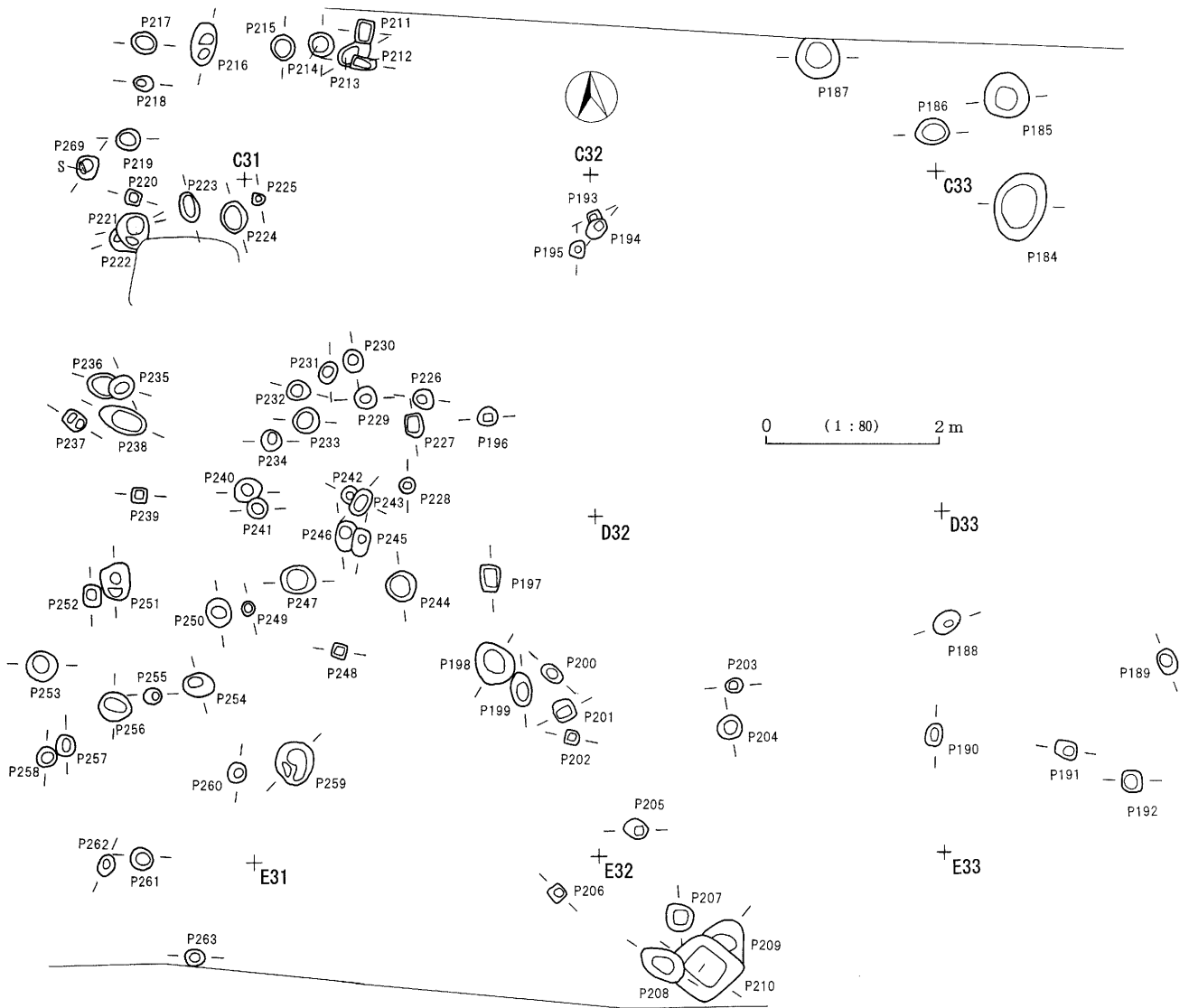
第51図 土坑 (2)



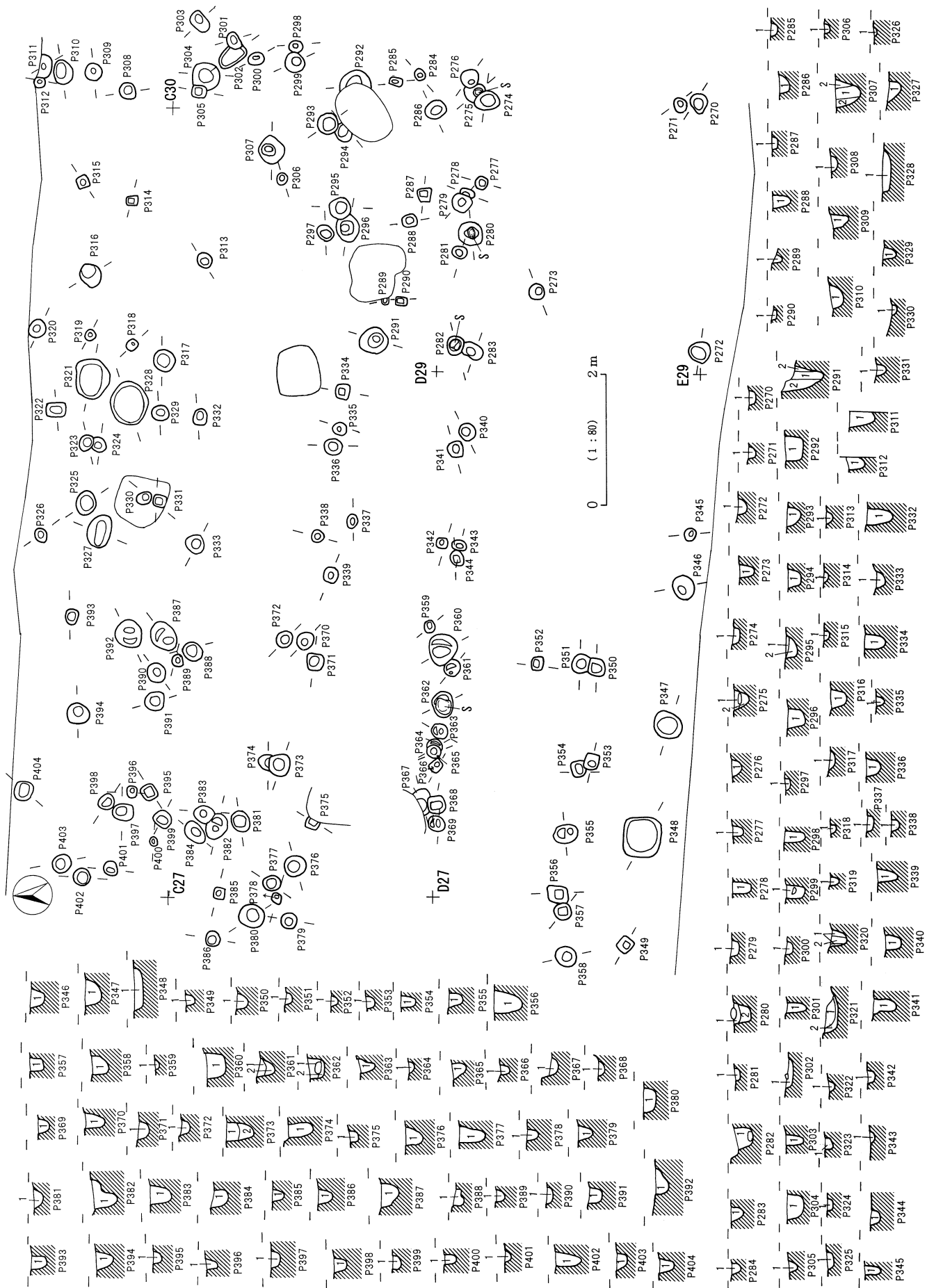
第52図 土坑 (3)



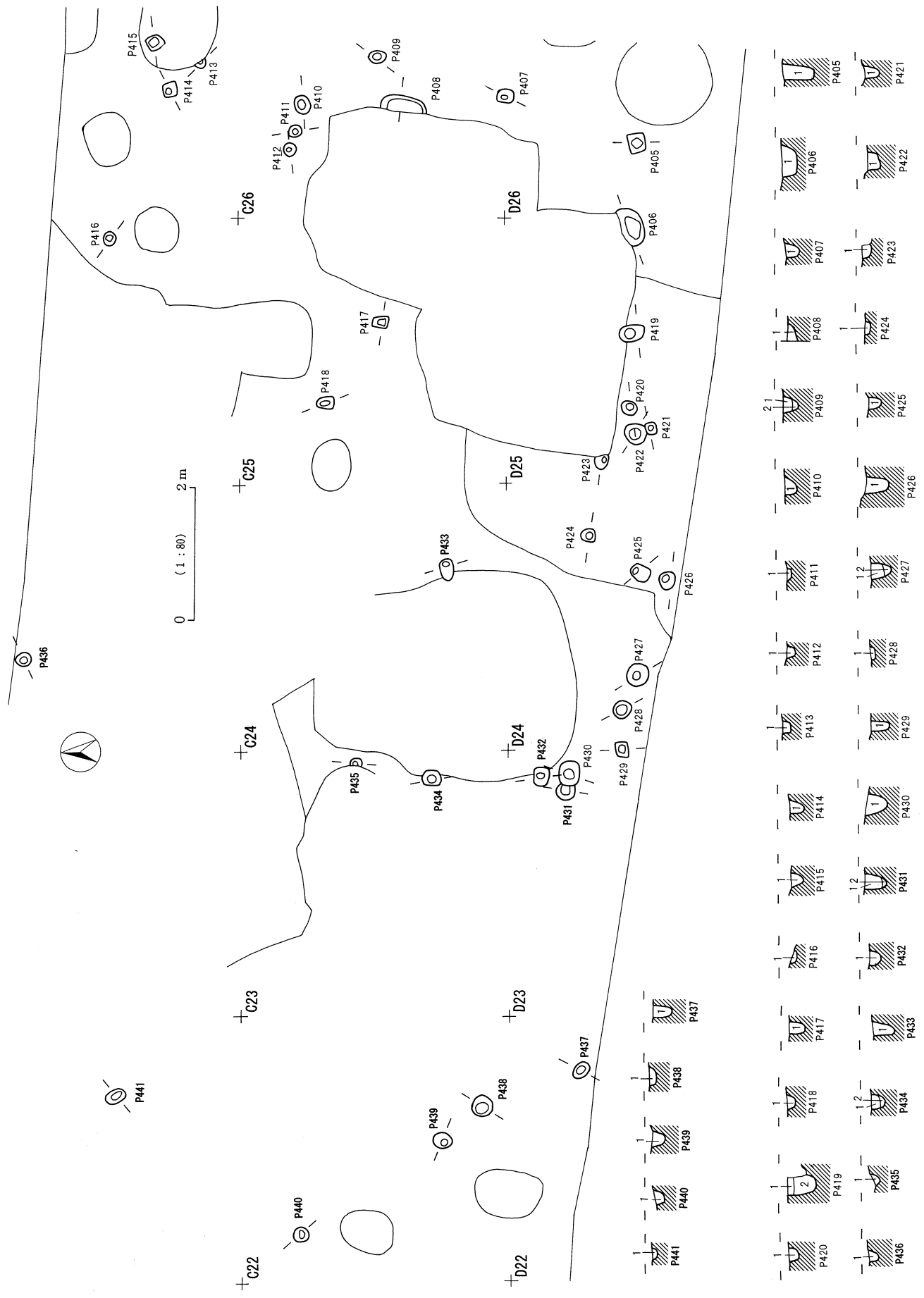
第53図 ヒット (1)



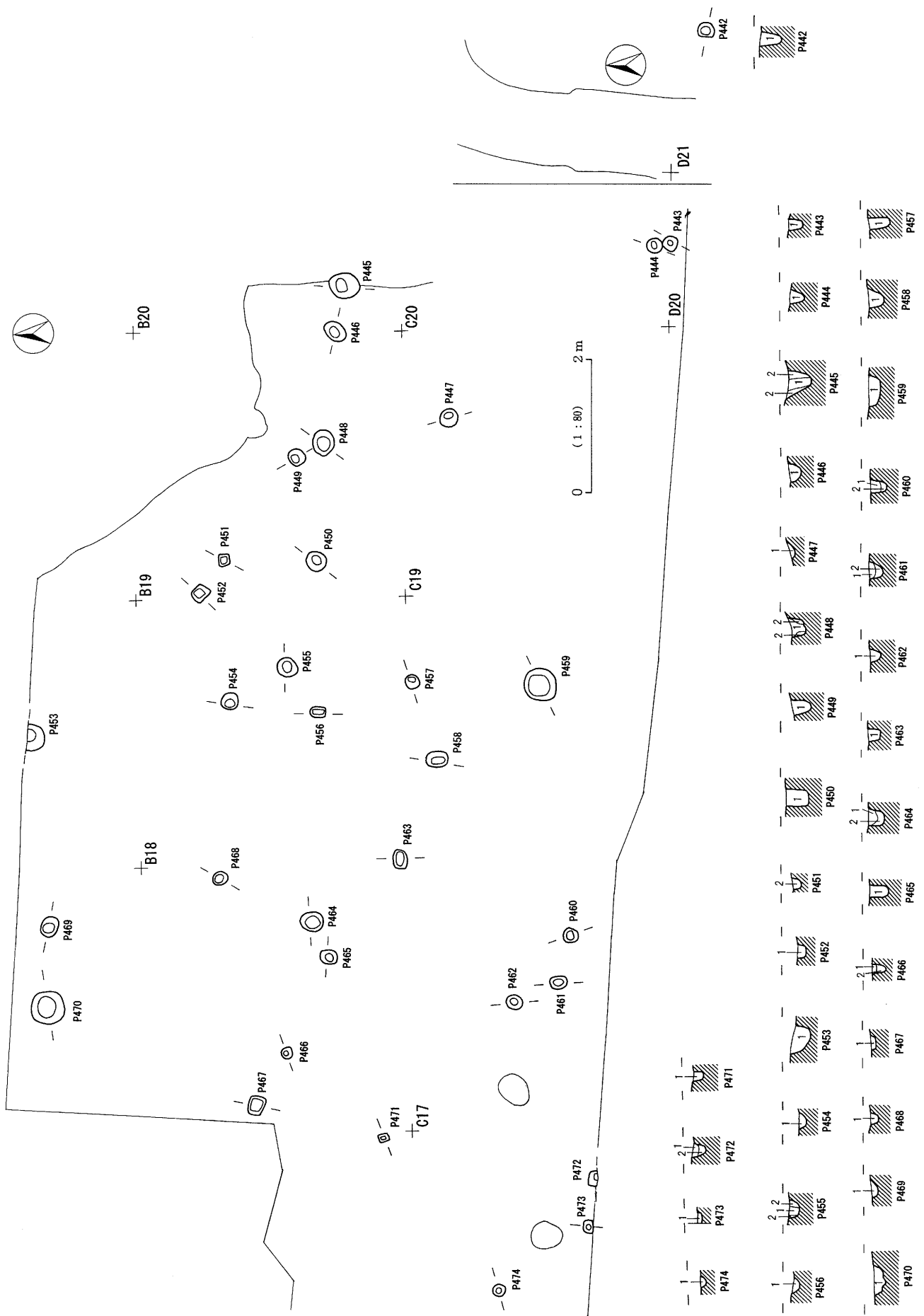
第54図 ピット (2)



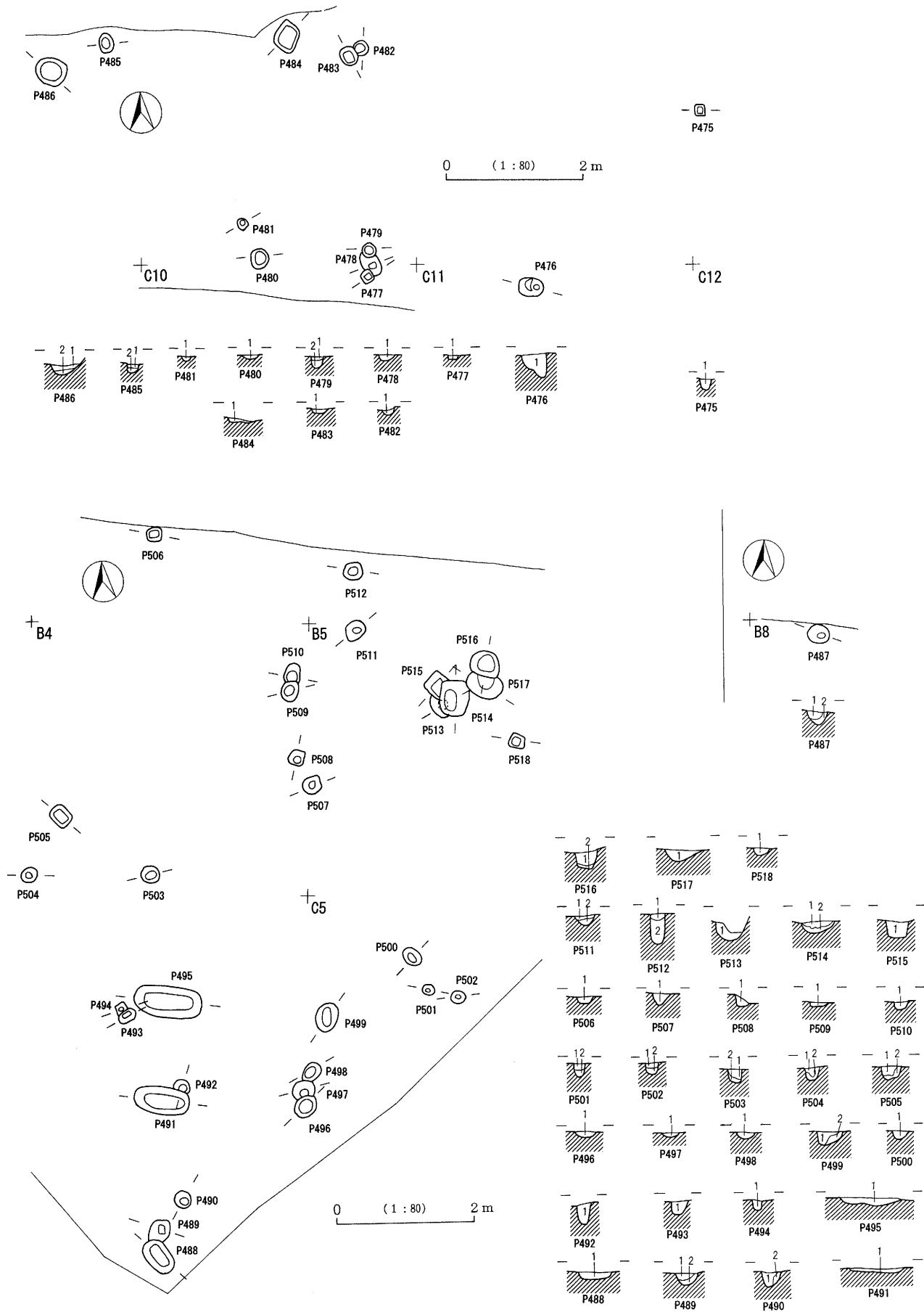
第55図 ヒット (3)



第56図 ヒット (4)



第57図 ピット (5)



第 58 図 ピット (6)

表 27 ピット一覧表

| 遺構 | 位置 | 標高 | 形態 | 南北 | 東西 | 深さ | 覆土・備考 | 遺構 | 位置 | 標高 | 形態 | 南北 | 東西 | 深さ | 覆土・備考 |
|------|-----|-------|-------|-----|-----|-----|------------|------|-----|-------|-------|-----|-----|----|------------|
| P519 | D37 | 668.2 | 隅丸方形 | 26 | 21 | 20 | | P146 | C35 | 668.2 | 楕円形 | 50 | *34 | 23 | P145に切られる。 |
| P520 | D37 | 668.2 | 隅丸方形 | 24 | 16 | 16 | | P147 | C35 | 668.2 | 隅丸方形 | 14 | 14 | 22 | |
| P521 | C37 | 668.2 | 隅丸方形 | 28 | 20 | 28 | | P148 | C35 | 668.2 | 隅丸方形 | *18 | 26 | 48 | P149に切られる。 |
| P522 | C37 | 668.2 | 隅丸方形 | 18 | 18 | 21 | | P149 | C35 | 668.2 | 隅丸方形 | 38 | 38 | 26 | |
| P523 | C37 | 668.2 | 隅丸方形 | 22 | 22 | 12 | | P150 | C35 | 668.2 | 楕円形 | 32 | 20 | 22 | |
| P524 | C37 | 668.2 | 隅丸方形 | 28 | 28 | 24 | | P151 | C35 | 668.2 | 円形 | 20 | 18 | 22 | |
| P525 | B37 | 668.2 | 隅丸方形 | 23 | 23 | 26 | | P152 | C35 | 668.2 | 楕円形 | 38 | 20 | 18 | |
| P526 | B37 | 668.2 | 隅丸長方形 | 12 | 23 | 12 | | P153 | D35 | 668.2 | 楕円形 | *60 | 20 | 6 | D37に切られる。 |
| P527 | B37 | 668.2 | 隅丸方形 | 19 | 16 | 10 | | P154 | D35 | 668.2 | 隅丸方形 | 18 | 20 | 12 | |
| P81 | B37 | 668.2 | 円形 | 30 | 34 | 30 | | P155 | D35 | 668.2 | 円形 | 20 | 17 | 5 | |
| P82 | B36 | 668.2 | 隅丸方形 | 30 | 24 | 10 | | P156 | D35 | 668.2 | 楕円形 | *42 | 21 | 10 | D37に切られる。 |
| P83 | B36 | 668.2 | 隅丸方形 | 21 | 25 | 30 | | P157 | D35 | 668.2 | 隅丸方形 | 28 | 26 | 12 | |
| P84 | B36 | 668.2 | 隅丸方形 | 26 | 28 | 12 | | P158 | D35 | 668.2 | 隅丸長方形 | 30 | 20 | 15 | |
| P85 | B36 | 668.2 | 隅丸方形 | 32 | 24 | 48 | | P159 | D35 | 668.2 | 隅丸方形 | 28 | 30 | 20 | |
| P86 | C36 | 668.2 | 隅丸方形 | *12 | *26 | 28 | 攪乱に切られる。 | P160 | D35 | 668.2 | 隅丸長方形 | 26 | 40 | 10 | 上面に扁平礫 |
| P87 | C36 | 668.2 | 隅丸方形 | 40 | 44 | 18 | | P161 | D35 | 668.2 | 隅丸方形 | 34 | 40 | 17 | |
| P88 | B36 | 668.2 | 隅丸方形 | 22 | *28 | 30 | P89に切られる。 | P162 | D35 | 668.2 | 隅丸方形 | 28 | 28 | 14 | |
| P89 | B36 | 668.2 | 隅丸方形 | 18 | 22 | 13 | | P163 | C34 | 668.2 | 円形 | 26 | *24 | 8 | P167に切られる。 |
| P90 | B36 | 668.2 | 円形 | 24 | 24 | 32 | | P164 | C34 | 668.2 | 楕円形 | 50 | 38 | 54 | |
| P91 | B36 | 668.2 | 隅丸方形 | 28 | 30 | 48 | | P165 | D35 | 668.2 | 隅丸方形 | 26 | 20 | 10 | 上面に扁平礫 |
| P92 | B36 | 668.2 | 円形 | 46 | 36 | 32 | | P166 | C34 | 668.2 | 円形 | 36 | 34 | 22 | |
| P93 | B36 | 668.2 | 隅丸方形 | 24 | 22 | 15 | | P167 | C34 | 668.2 | 隅丸方形 | 19 | 26 | 14 | |
| P94 | B36 | 668.2 | 隅丸方形 | 34 | 28 | 40 | | P168 | C34 | 668.2 | 円形 | 34 | 34 | 24 | |
| P95 | C36 | 668.2 | 円形 | 28 | 30 | 23 | | P169 | C34 | 668.2 | 楕円形 | 48 | *26 | 34 | P168に切られる。 |
| P96 | C36 | 668.2 | 隅丸方形 | 20 | 19 | 20 | | P170 | D34 | 668.2 | 隅丸方形 | 26 | 20 | 14 | |
| P97 | B36 | 668.2 | 隅丸方形 | *24 | 28 | 38 | P98に切られる。 | P171 | D34 | 668.2 | 隅丸長方形 | 20 | 41 | 23 | |
| P98 | B36 | 668.2 | 隅丸方形 | 28 | 34 | 26 | | P172 | D34 | 668.2 | 隅丸方形 | 20 | 20 | 6 | |
| P99 | C36 | 668.2 | 隅丸方形 | 32 | 28 | 20 | | P173 | D34 | 668.2 | 隅丸長方形 | 40 | 26 | 26 | |
| P100 | B36 | 668.2 | 隅丸方形 | 20 | 14 | 18 | | P174 | E35 | 668.2 | 隅丸方形 | 24 | 24 | 16 | |
| P101 | B36 | 668.2 | 円形 | 36 | 30 | 13 | | P175 | D35 | 668.2 | 隅丸方形 | 21 | 20 | 22 | |
| P102 | B35 | 668.2 | 隅丸方形 | 36 | *20 | 8 | P101に切られる。 | P176 | D34 | 668.2 | 隅丸方形 | 21 | 23 | 34 | |
| P103 | B35 | 668.2 | 円形 | 26 | 24 | 30 | | P177 | D34 | 668.2 | 隅丸方形 | 28 | 24 | 30 | |
| P104 | B35 | 668.2 | 隅丸方形 | 26 | 20 | 12 | | P178 | D34 | 668.2 | 円形 | 30 | 28 | 36 | |
| P105 | B35 | 668.2 | 円形 | *14 | 32 | 20 | P106に切られる。 | P179 | D34 | 668.2 | 円形 | 20 | 20 | 16 | |
| P106 | B35 | 668.2 | 円形 | 36 | 40 | 22 | | P180 | E34 | 668.2 | 隅丸方形 | 24 | 24 | 30 | |
| P107 | B35 | 668.2 | 円形 | 22 | *20 | 6 | P108に切られる。 | P181 | C33 | 668.2 | 隅丸方形 | 18 | 24 | 20 | |
| P108 | B35 | 668.2 | 円形 | 38 | 36 | 18 | | P182 | D34 | 668.2 | 隅丸方形 | 43 | 37 | 22 | |
| P109 | C35 | 668.2 | 隅丸方形 | 34 | 32 | 20 | | P183 | D33 | 668.2 | 隅丸方形 | 21 | 16 | 12 | |
| P110 | C35 | 668.2 | 円形 | 30 | 32 | 30 | | P184 | C33 | 668.2 | 楕円形 | 82 | 62 | 22 | |
| P111 | C35 | 668.2 | 隅丸方形 | 32 | *16 | 10 | P110に切られる。 | P185 | B33 | 668.2 | 円形 | 52 | 54 | 24 | |
| P112 | C35 | 668.2 | 円形 | 24 | 28 | 26 | | P186 | B32 | 668.2 | 円形 | 32 | 41 | 14 | |
| P113 | C35 | 668.2 | 楕円形 | 46 | 34 | 50 | | P187 | B32 | 668.2 | 円形 | *48 | 52 | 21 | 北側調査区域外 |
| P114 | B35 | 668.2 | 隅丸方形 | 18 | 24 | *11 | D41に切られる。 | P188 | D33 | 668.2 | 隅丸方形 | 24 | 30 | 26 | |
| P115 | B35 | 668.2 | 隅丸方形 | 18 | 23 | *6 | D41に切られる。 | P189 | D33 | 668.2 | 隅丸長方形 | 32 | 22 | 19 | |
| P116 | B35 | 668.2 | 隅丸方形 | 16 | 16 | *8 | D41に切られる。 | P190 | D32 | 668.2 | 隅丸方形 | 27 | 21 | 15 | |
| P117 | B35 | 668.2 | 円形 | 44 | *30 | 20 | D41に切られる。 | P191 | D33 | 668.2 | 隅丸方形 | 22 | 26 | 25 | |
| P118 | C35 | 668.2 | 円形 | 38 | 40 | 28 | | P192 | D33 | 668.2 | 隅丸方形 | 27 | 24 | 12 | |
| P119 | C35 | 668.2 | 円形 | 36 | 28 | 30 | | P193 | C32 | 668.2 | 隅丸方形 | *10 | 16 | 12 | P194に切られる。 |
| P120 | B35 | 668.2 | 楕円形 | 40 | 30 | 34 | | P194 | C32 | 668.2 | 隅丸方形 | 20 | 28 | 22 | |
| P121 | B35 | 668.2 | 隅丸方形 | 28 | 30 | 20 | | P195 | C31 | 668.2 | 隅丸方形 | 22 | 20 | 22 | |
| P122 | B35 | 668.2 | 隅丸方形 | 26 | 22 | 26 | | P196 | C31 | 668.2 | 隅丸方形 | 23 | 24 | 18 | |
| P123 | B35 | 668.2 | 円形 | 40 | 40 | 22 | | P197 | D31 | 668.2 | 隅丸方形 | 33 | 24 | 12 | |
| P124 | B35 | 668.2 | 隅丸方形 | *20 | 22 | 14 | P123に切られる。 | P198 | D31 | 668.2 | 円形 | 47 | 52 | 29 | |
| P125 | B34 | 668.2 | 隅丸長方形 | 36 | 26 | 18 | | P199 | D31 | 668.2 | 隅丸長方形 | 40 | 24 | 36 | |
| P126 | B34 | 668.2 | 隅丸方形 | 22 | 20 | 20 | | P200 | D31 | 668.2 | 隅丸方形 | 20 | 28 | 14 | |
| P127 | B34 | 668.2 | 円形 | 24 | 23 | 12 | | P201 | D31 | 668.2 | 隅丸方形 | 26 | 26 | 12 | |
| P128 | B34 | 668.2 | 隅丸方形 | 26 | 22 | 40 | | P202 | D31 | 668.2 | 隅丸方形 | 18 | 18 | 11 | |
| P129 | B34 | 668.2 | 円形 | 34 | 30 | 10 | | P203 | D32 | 668.2 | 隅丸方形 | 18 | 21 | 29 | |
| P130 | B34 | 668.2 | 隅丸方形 | 26 | 30 | 12 | | P204 | D32 | 668.2 | 円形 | 28 | 30 | 34 | |
| P131 | B34 | 668.2 | 隅丸方形 | 30 | 24 | 13 | | P205 | D32 | 668.2 | 隅丸方形 | 22 | 28 | 26 | |
| P132 | B34 | 668.2 | 隅丸方形 | 16 | 22 | 12 | | P206 | E31 | 668.2 | 隅丸方形 | 20 | 20 | 18 | |
| P133 | C34 | 668.2 | 円形 | *14 | 24 | 22 | P134に切られる。 | P207 | E32 | 668.2 | 隅丸方形 | 32 | 32 | 32 | |
| P134 | C34 | 668.2 | 楕円形 | 38 | 52 | 14 | | P208 | E32 | 668.2 | 隅丸長方形 | 36 | 56 | 52 | |
| P135 | C34 | 668.2 | 隅丸方形 | 22 | 18 | 10 | | P209 | E32 | 668.2 | 隅丸方形 | *34 | *60 | 24 | P210に切られる。 |
| P136 | C34 | 668.2 | 楕円形 | 40 | 30 | 16 | | P210 | E32 | 668.2 | 隅丸方形 | *70 | 72 | 34 | P208に切られる。 |
| P137 | C34 | 668.2 | 楕円形 | *28 | 30 | 24 | P136に切られる。 | P211 | B31 | 668.2 | 隅丸方形 | 30 | 22 | 14 | |
| P138 | C34 | 668.2 | 隅丸長方形 | 30 | 18 | 18 | | P212 | B31 | 668.2 | 隅丸長方形 | 16 | 30 | 16 | |
| P139 | C34 | 668.2 | 円形 | 36 | 32 | 24 | | P213 | B31 | 668.2 | 隅丸方形 | *26 | *40 | 16 | P212に切られる。 |
| P140 | C34 | 668.2 | 円形 | 28 | 24 | 29 | | P214 | B31 | 668.2 | 円形 | 30 | 30 | 24 | |
| P141 | C35 | 668.2 | 隅丸方形 | 64 | 62 | 20 | | P215 | B31 | 668.2 | 円形 | 32 | 30 | 22 | |
| P142 | C34 | 668.2 | 隅丸方形 | 48 | 46 | 16 | | P216 | B30 | 668.2 | 楕円形 | 52 | 30 | 50 | |
| P143 | C34 | 668.2 | 隅丸方形 | 66 | 58 | 8 | | P217 | B30 | 668.2 | 円形 | 26 | 30 | 16 | |
| P144 | D35 | 668.2 | 円形 | 30 | 24 | 42 | | P218 | B30 | 668.2 | 円形 | 20 | 24 | 12 | |
| P145 | C35 | 668.2 | 円形 | 36 | 33 | 40 | | P219 | B30 | 668.2 | 円形 | 26 | 30 | 24 | |

m

cm

cm

cm

cm

(単位)

m

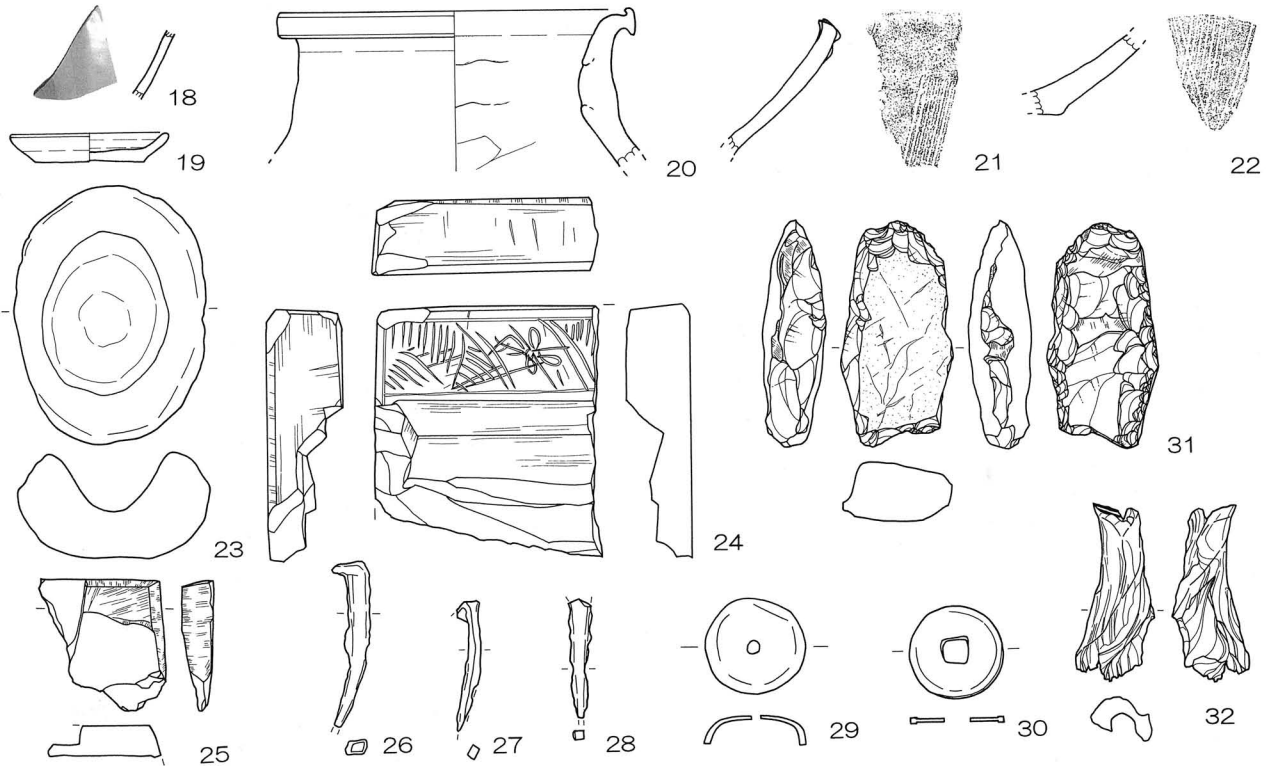
cm

cm

cm

cm

(単位)



第59図 土坑・ピット・溝址の遺物 (縮尺 18-22 : 1/4, 23 : 1/6, 24 : 2/3, 25-28・31・32 : 1/3, 29・30 : 1/1)

表28 竪穴状遺構・井戸・土坑・ピット・溝址遺物観察表

| No | 器種 | 器形・石材 | 法 量 (cm) | | | 成形・調整 | | 出土位置 | 実測方法・備考・重さ(g) |
|----|-------|---------|----------|-------|-------|-------------------|---------------|---------|---------------|
| | | | 口径・長さ | 底径・幅 | 器高・厚さ | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 青磁 | 碗 | | | | 口クロナデ | 口クロナデ 蓮弁文 | T a23 | 断面実測 |
| 2 | 敲石 | ホルンフェルス | 16.9 | 5.7 | 3.0 | 上端と右側に敲打痕 | | T a23 | 378.22 |
| 3 | 青磁 | 碗 | | | | 口クロナデ | 口クロナデ 蓮弁文 | T a25 | 断面実測 |
| 4 | 染付 | 碗 | | | | 口クロナデ | 口クロナデ | T a25 | 断面実測 |
| 5 | 陶器 | 壺 | △22.2 | | | 口クロナデ | 口クロナデ | T a25 | 回転実測 |
| 6 | 敲石 | 黒色頁岩 | 10.1 | 2.9 | 1.5 | 両端に剥離面 | | T a25 | 82.93 |
| 7 | 未製品 | 黒色頁岩 | 14.3 | 5.2 | 3.3 | 石斧 | | T a26 | 316.68 |
| 8 | 古銭 | 銅 | | | | 洪武通寶 孔 0.7 | | T a27 | 3.69 |
| 9 | 白玉 | 滑石 | 1.1 | 1.1 | 0.5 | 孔径0.3 | | T a27 | 1.00 |
| 10 | 搗き臼 | 安山岩 | *23.5 | *14.5 | *8.7 | 粉挽き臼(下臼)転用品 1/4残存 | | T a27 | 2030.00 |
| 11 | 凹石 | 安山岩 | 24.5 | 25.6 | 13.5 | 底部貫通 小凹部2カ所あり | | 井戸 | 5660.00 |
| 12 | 砥石 | 泥岩 | *7.7 | 2.6 | 2.2 | 砥面5 | | 井戸 | 77.88 |
| 13 | 砥石 | 流紋岩 | 4.3 | 3.6 | 1.8 | 砥面5 | | 井戸 | 31.66 |
| 14 | 軽石製品 | 軽石 | *5.5 | *3.0 | *1.7 | 孔径1.5 | | 井戸 | 8.48 |
| 15 | 青磁 | 碗 | | | | 口クロナデ | 口クロナデ 蓮弁文 | 井戸 | 断面実測 |
| 16 | 陶器 | 鉢 | | △7.6 | | 口クロナデ | 口クロナデ | 井戸 | 回転実測 |
| 17 | 須恵質陶器 | 摺鉢 | | △14.8 | *6.4 | 条痕有り ナデ | | 井戸 | 回転実測 |
| 18 | 青磁 | 碗 | | | | 口クロナデ | 口クロナデ 蓮弁文 | D38 | 断面実測 |
| 19 | かわらけ | 皿 | △8.5 | △5.8 | 1.5 | 口クロナデ | 口クロナデ 底部回転糸切り | D47 | 回転実測 |
| 20 | 陶器 | 壺 | △18.6 | | | 口クロナデ | 口クロナデ | D35 | 回転実測 |
| 21 | 須恵質陶器 | 摺鉢 | | | | | ナデ | D27グリッド | 拓本 断面実測 |
| 22 | 須恵質陶器 | 摺鉢 | | | | | ナデ | D89 | 拓本 断面実測 |
| 23 | 凹石 | 安山岩 | 20.9 | 15.5 | 8.1 | | | D36 | 2680.00 |
| 24 | 硯 | 粘板岩 | *5.0 | *4.5 | *1.5 | 線刻模様有り | | P89 | 47.12 |
| 25 | 硯 | 粘板岩 | *5.2 | *5.0 | *1.2 | 破片 | | D28 | |
| 26 | 角釘 | 鉄 | 6.6 | 1.5 | 1.2 | | | D47 | 8.63 |
| 27 | 角釘 | 鉄 | 4.7 | 1.0 | 0.7 | | | D47 | 4.03 |
| 28 | 角釘 | 鉄 | *6.2 | *0.9 | *0.8 | | | P70 | 4.16 |
| 29 | 飾り金具 | 青銅 | 1.3 | 1.3 | 0.4 | 孔径0.15 | | P327 | 0.85 |
| 30 | 古銭 | 銅 | 2.5 | 2.5 | 0.2 | 皇宋通寶 孔 0.7 | | P283 | 3.69 |
| 31 | 未製品 | ホルンフェルス | 9.0 | 4.4 | 2.4 | 石斧 | | M4・1層 | 122.61 |
| 32 | 貝 | 巻き貝 | 7.0 | 3.1 | 2.0 | | | M5・2層 | 20.51 |



白山遺跡群 下原遺跡平成 19 年度調査区全景（北東から）



白山遺跡群 下原遺跡平成 19 年度調査区全景（西から）



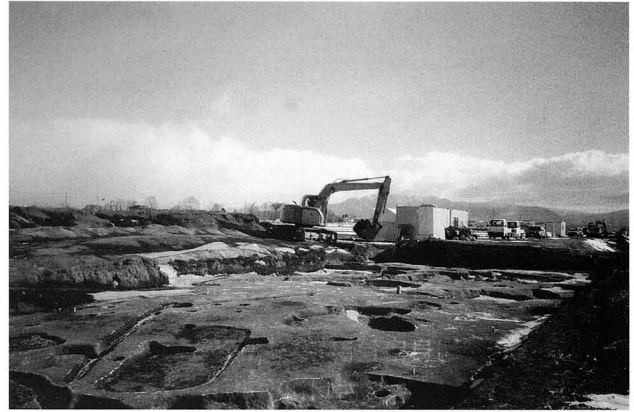
表土除去作業（西から）



調査風景（西から）



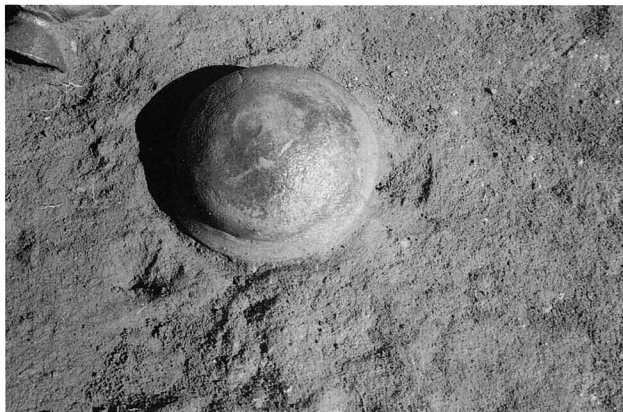
調査風景（南から）



埋め戻し作業



H 1 号住居址全景（西から）



H 1 号住居址遺物出土状況



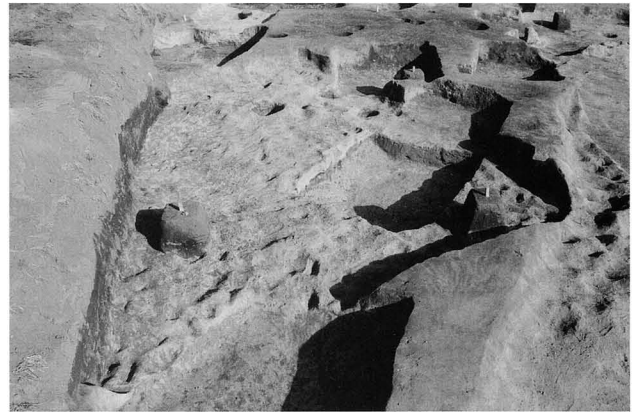
H 1 号住居址遺物出土状況（南西から）



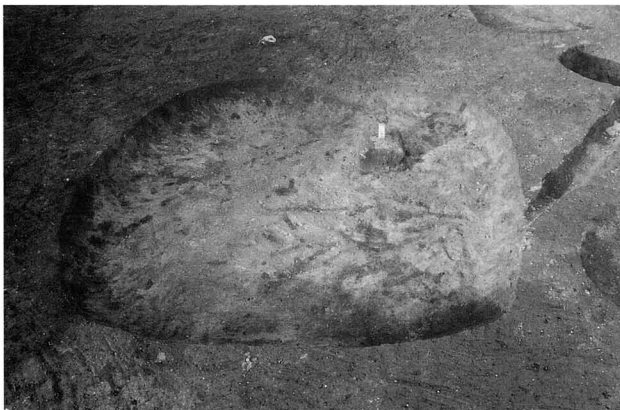
H 1 号住居址遺物出土状況



H 1 号住居址遺物出土状況



H 1 号住居址堀方全景 (西から))



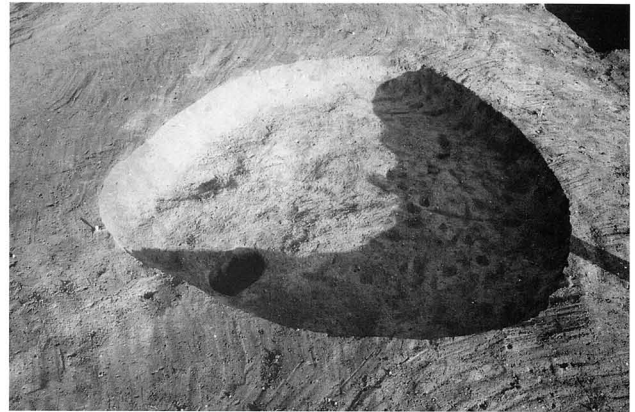
T a 1 号竖穴状遺構全景 (南から)



T a 2 号竖穴状遺構全景 (南東から)



T a 3号竖穴状遺構全景（西から）



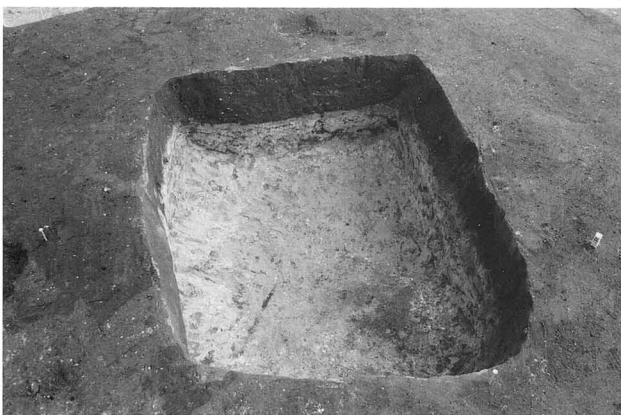
T a 4号竖穴状遺構全景（西から）



T a 5号竖穴状遺構全景（西から）



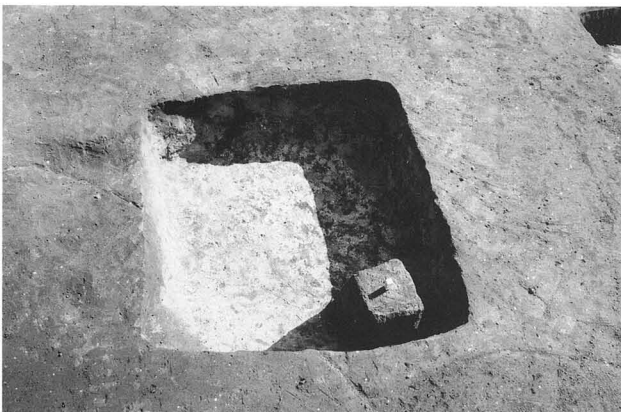
T a 6号竖穴状遺構全景（南西から）



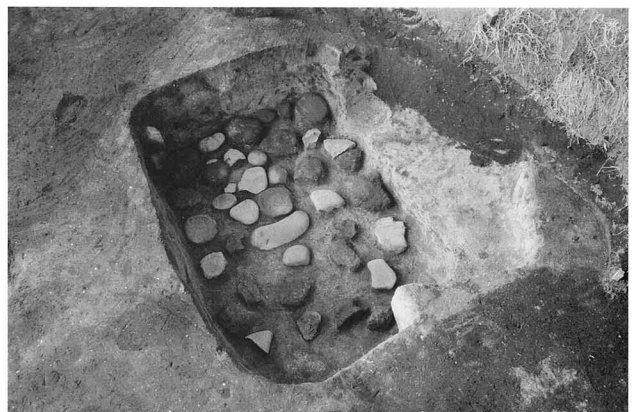
T a 7号竖穴状遺構全景（北西から）



T a 8号竖穴状遺構全景（北から）



T a 9号竖穴状遺構全景（西から）



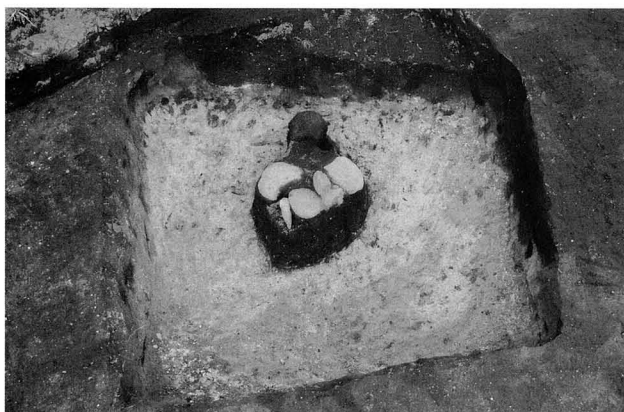
T a 10号竖穴状遺構敷石状況（南東から）



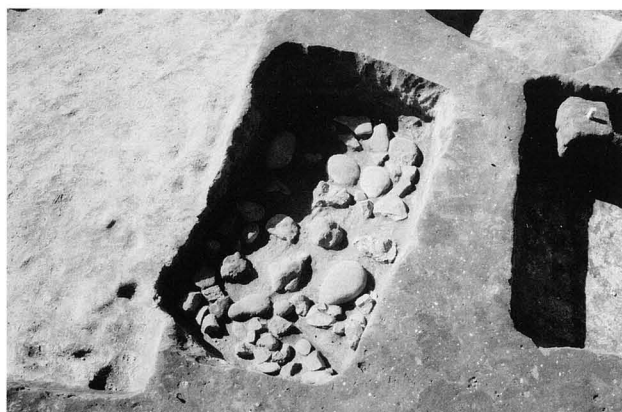
T a 10号竖穴状遺構敷石除去状況 (南東から)



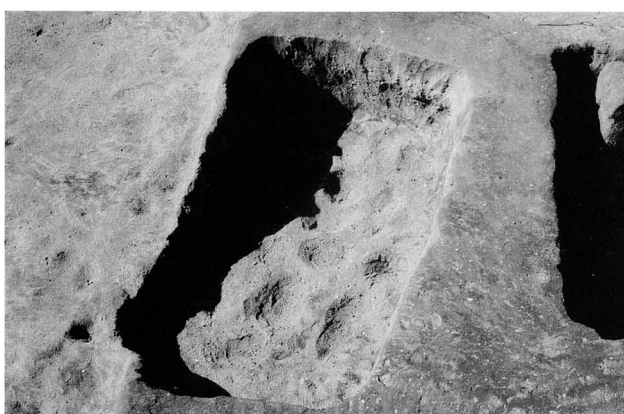
T a 11号竖穴状遺構全景 (西から)



T a 12号竖穴状遺構全景 (南から)



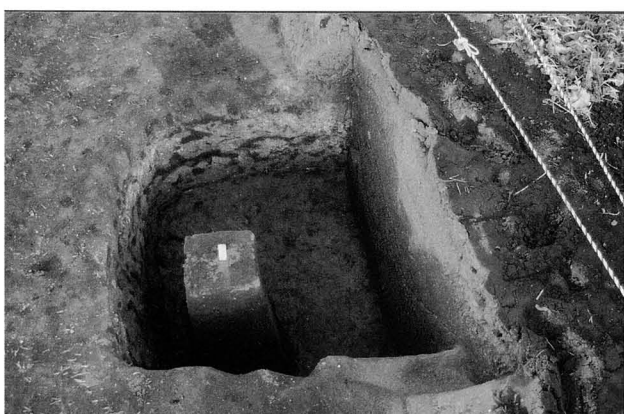
T a 13号竖穴状遺構敷石状況 (東から)



T a 13号竖穴状遺構敷石除去状況 (東から)



T a 14号竖穴状遺構全景 (西から)



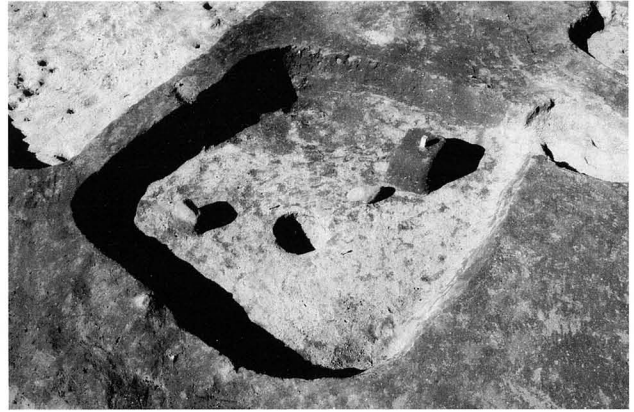
T a 15号竖穴状遺構全景 (西から)



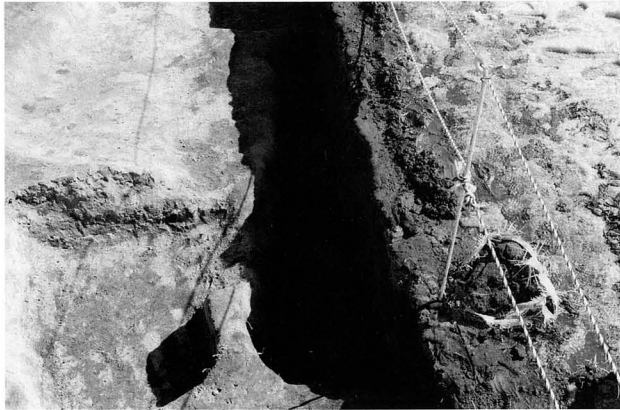
T a 16号竖穴状遺構全景 (北西から)



T a 18・19号竖穴状遺構全景（西から）



T a 20号竖穴状遺構全景（南西から）



T a 21号竖穴状遺構全景（西から）



T a 22号竖穴状遺構全景（北から）



D 1号土坑全景（南西から）



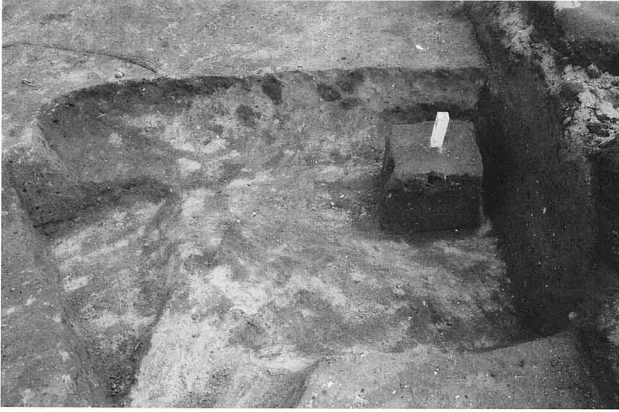
D 2号土坑全景（北西から）



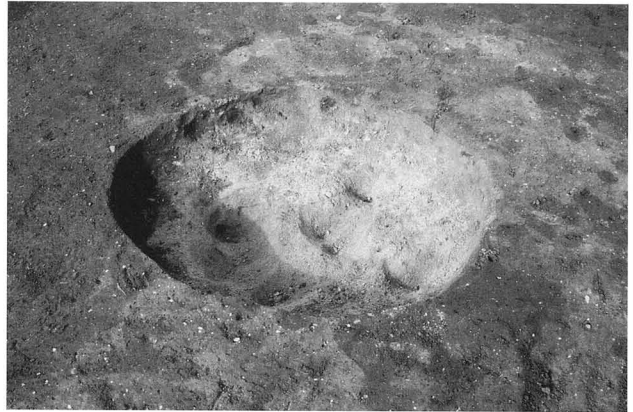
D 3号土坑全景（西から）



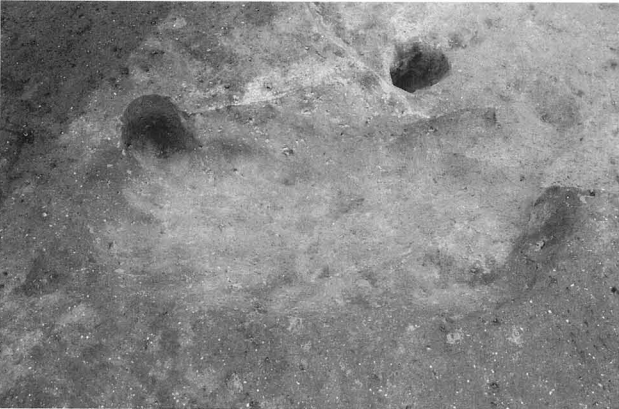
D 4号土坑全景（西から）



D 5号土坑全景（西から）



D 6号土坑全景（南から）



D 7・11号土坑全景（西から）



D 8号土坑全景（北西から）



D 9号土坑全景（南から）



D 10号土坑全景（南東から）



D 12号土坑全景（東から）



D 12号土坑硯出土状況



D 12 号土坑集石除去後全景 (西から)



D 13 号土坑全景 (西から)



D 14 号土坑全景 (南から)



D 15 号土坑全景 (南から)



D 16 号土坑全景 (北西から)



D 17 号土坑全景 (北東から)



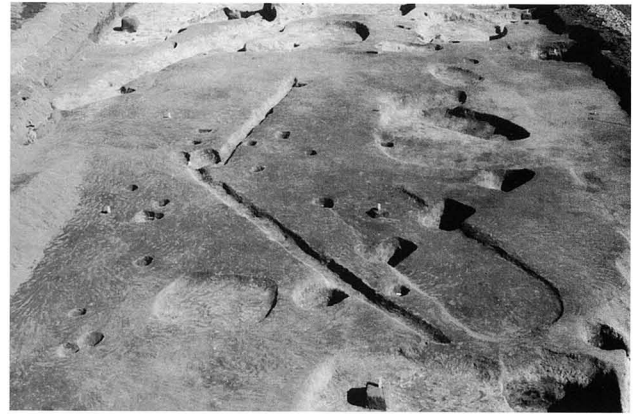
D 18 号土坑全景 (西から)



F 1 号掘立柱建物址全景 (西から)



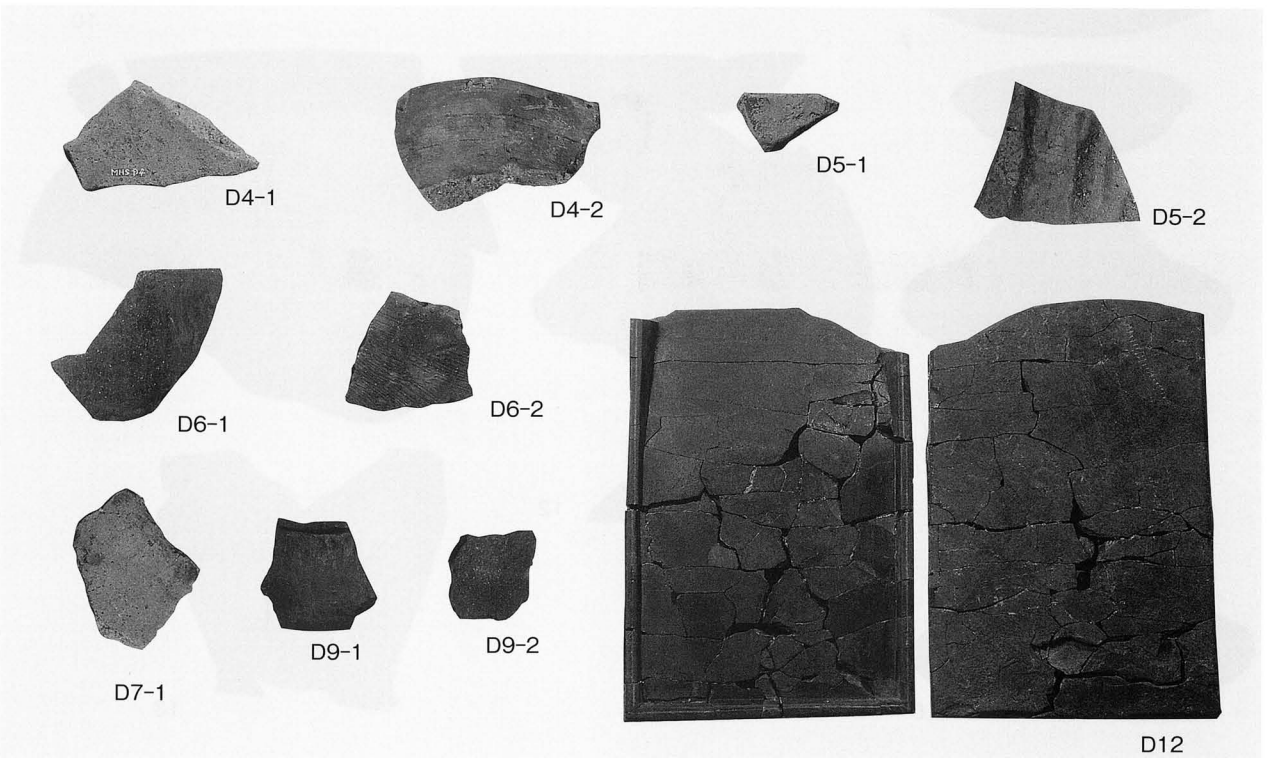
M 3 号溝址全景 (南東から)



M 1・2 号溝址全景 (西から)



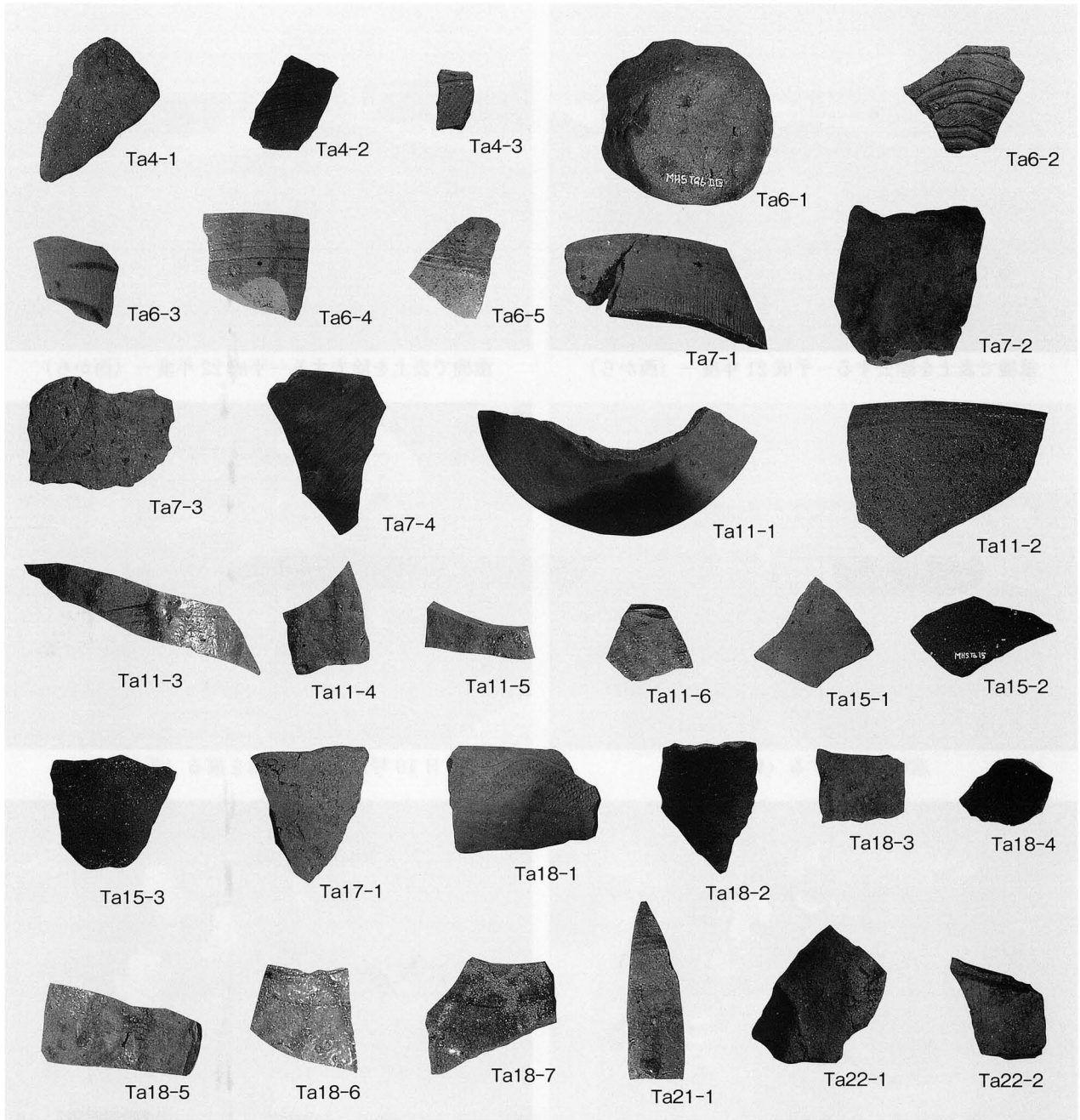
埋め戻し状況



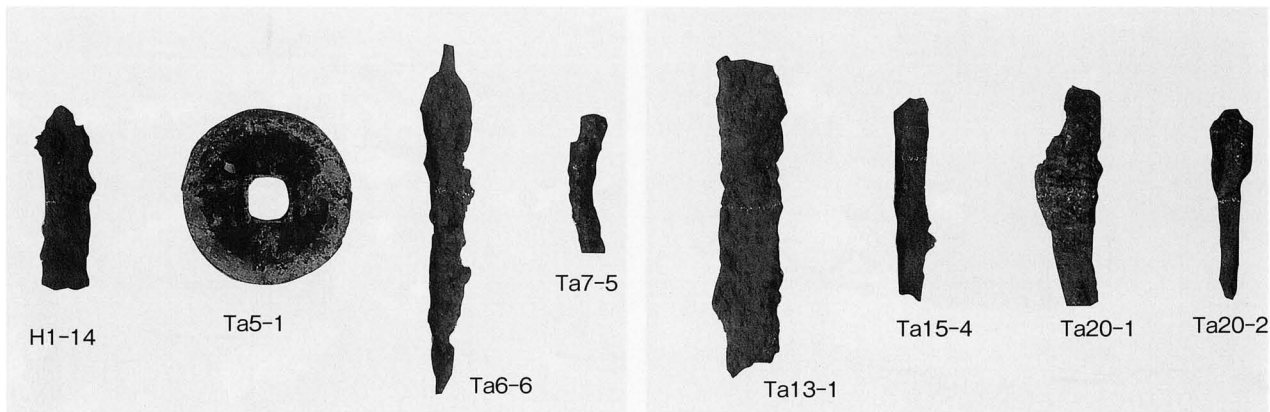
土坑の遺物



H 1 号住居址出土遗物



竪穴状遺構出土遺物



H 1 号住居址・竪穴状遺構の金属器



重機で表土を除去するー平成 21 年度ー (西から)



重機で表土を除去するー平成 22 年度ー (西から)



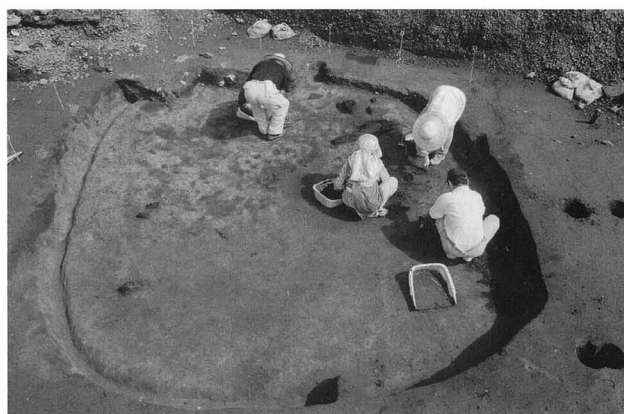
遺構を検出する (東から)



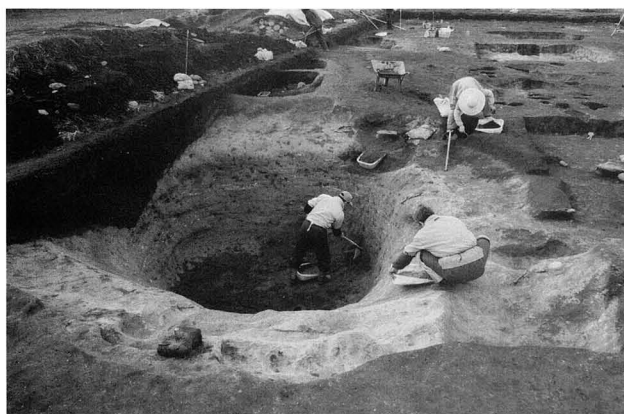
H 10 号住居址の遺物を掘る (西から)



H 7 号住居址を掘る (南から)



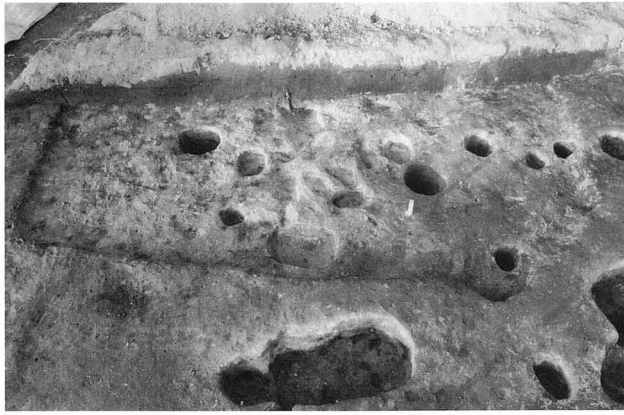
H 10 号住居址を掘る (南から)



井戸址を掘る (東から)



遺構を測る (東南から)



H 2 号住居址 (南から)



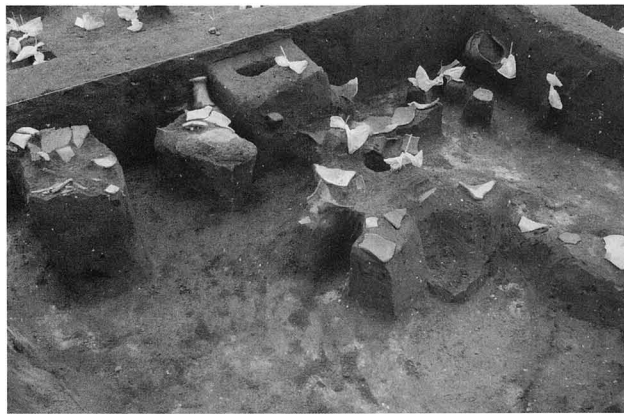
H 6 号住居址 (北から)



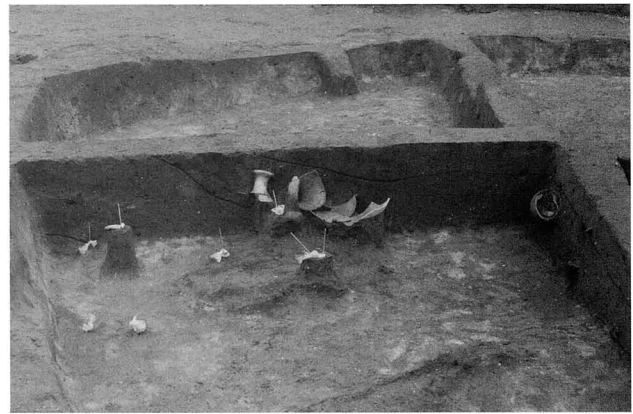
H 8 号住居址 (南から)



H 9 号住居址 (北東から)



H 10 号住居址遺物廃棄状況 (北東から)



H 10 号住居址遺物廃棄状況 (北から)



H 10 号住居址磨製石斧廃棄状況 (東から)



H 10 号住居址土器廃棄状況 (北から)



H 10 号住居址炭化材検出状況 (南から)



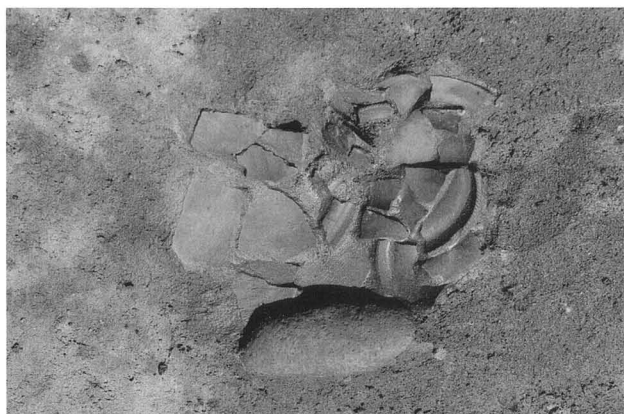
H 10 号住居址の炭化材 (北から)



H 10 号住居址の炭化材 (北から)



H 10 号住居址 (南から)



H 10 号住居址の炉 (南から)



H 10 号住居址堀方 (西から)



H 11 号住居址遺物廃棄状況 (北から)



H 11 号住居址 (南から)



H 15 号住居址 (南から)



H 15 号住居址土器廃棄状況 (北から)



H 15 号住居址の炉 (北から)



H 18 号住居址 (南から)



H 18 号住居址堀方 (東から)



H 19 号住居址 (南から)



H 3 号住居址 (南東から)



H 3 号住居址のカマド (南から)



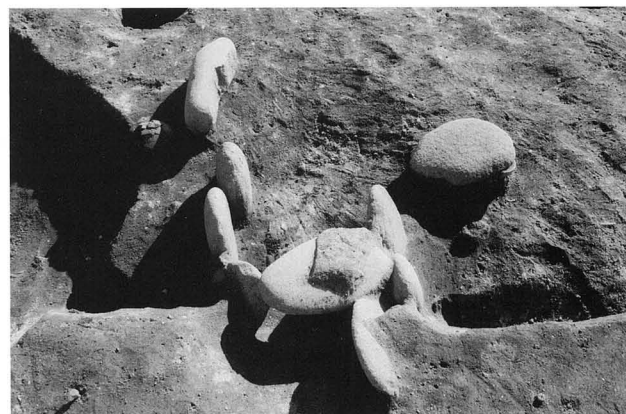
H 3 号住居址堀方 (南東から)



H 7 号住居址 (南から)



H 7 号住居址のカマド (南から)



H 7 号住居址のカマド (北から)



H 12 号住居址遺物廃棄状況 (南から)



H 12 号住居址 (南から)



H 13 号住居址遺物廃棄状況 (東から)



H 13 号住居址編物石廃棄状況 (南から)



H 13 号住居址 (南から)



H 13 号住居址のカマド (南から)



H 13 号住居址 (東から)



H 13 号住居址堀方 (東から)



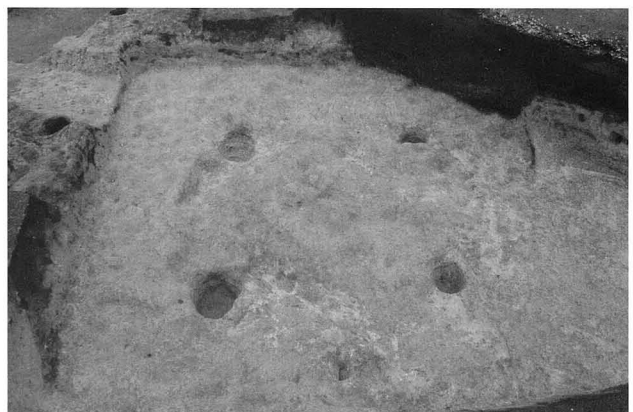
H 16 号住居址遺物廃棄状況 (南から)



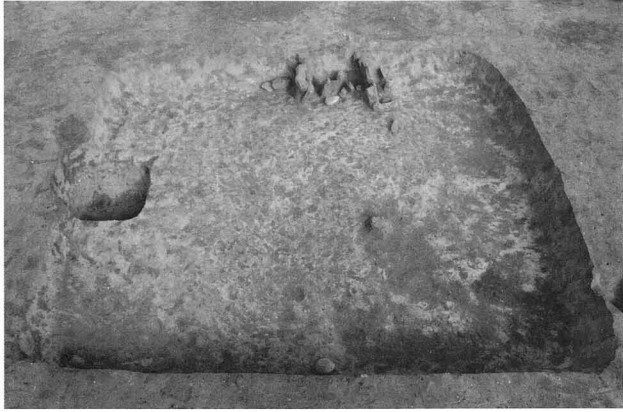
H 16 号住居址遺物廃棄状況 (北から)



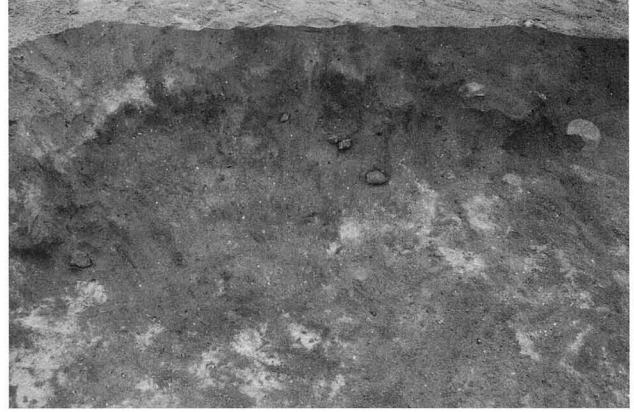
H 16 号住居址のカマド (南から)



H 16 号住居址堀方 (南から)



H 4 号住居址 (南から)



H 4 号住居址の炭化物と鉄滓 (北から)



H 4 号住居址のカマド (南から)



H 4 号住居址のカマド (南から)



H 5 号住居址遺物廃棄状況 (南東から)



H 5 号住居址 (南から)



H 5 号住居址のカマド (南から)



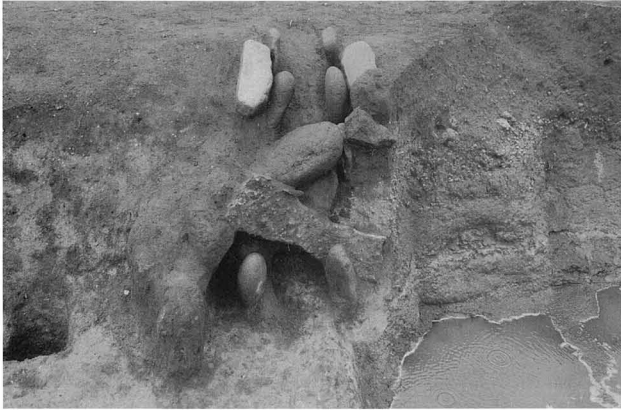
H 5 号住居址のカマド掘方 (北から)



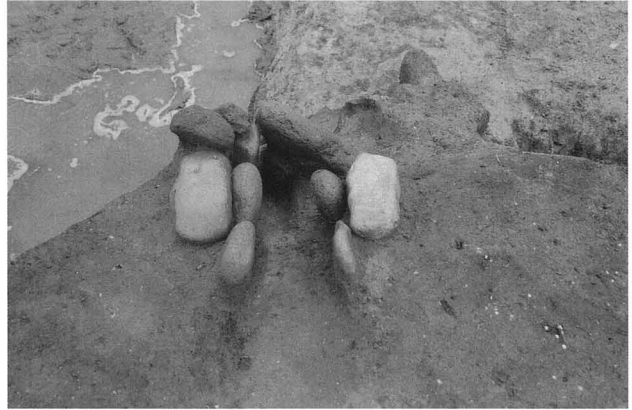
H 14 号住居址 (南から)



H 14 号住居址遺物廃棄状況 (北西から)



H 14 号住居址のカマド (南から)



H 14 号住居址のカマド (北から)



H 14 号住居址堀方 (南から)



H 14 号住居址のカマド堀方 (南から)



T a 23 号竖穴状遺構遺物廃棄状況 (東から)



T a 23 号竖穴状遺構 (東から)



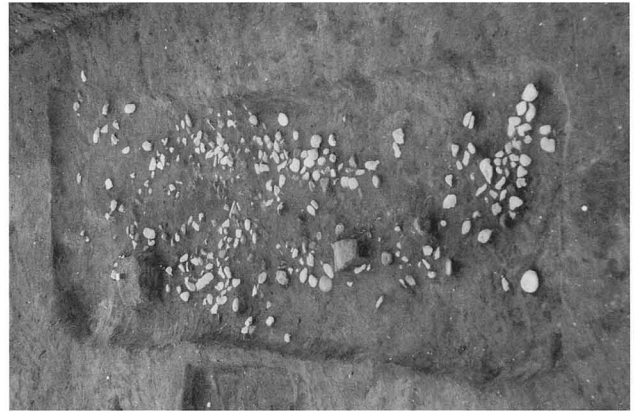
T a 24 号竖穴状遺構 (南から)



T a 25 号竖穴状遺構 (北から)



T a 26 号竖穴状遺構 (南から)



T a 26 号竖穴状遺構 (東から)



T a 27 号竖穴状遺構遺物廃棄状況 (南から)



T a 27 号竖穴状遺構 (南から)



井戸址 (東から)



井戸址 (西から)



F 2号掘立柱建物址 (東から)



F 3号掘立柱建物址 (西から)



F 4号掘立柱建物址 (東から)



F 7号掘立柱建物址 (南から)



F 6号掘立柱建物址 (西から)



F 6号掘立柱建物址 (西から)



M 4号溝址 (南西から)



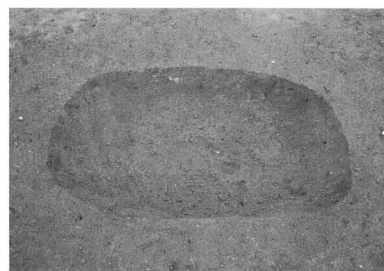
M 4号溝址 (北東から)



D 19号土坑 (南から)



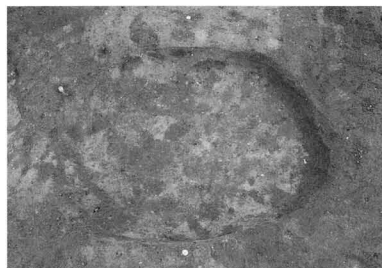
D 20号土坑 (東から)



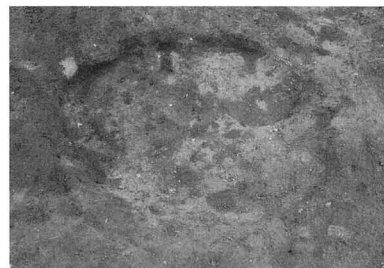
D 21号土坑 (南から)



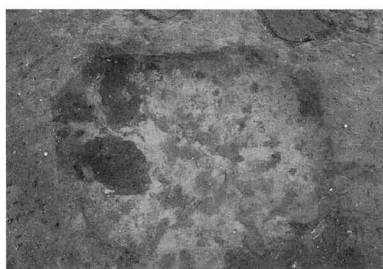
D 22号土坑 (西から)



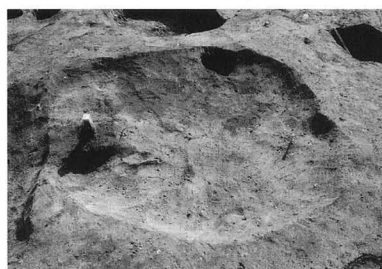
D 23号土坑 (南から)



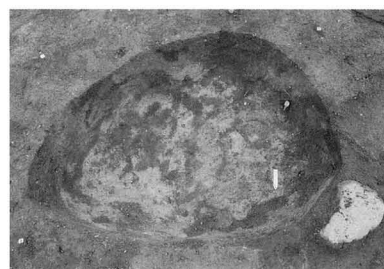
D 24号土坑 (西から)



D 25号土坑 (西から)



D 26号土坑 (北から)



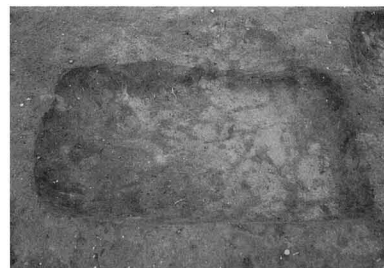
D 27号土坑 (南西から)



D 28号土坑 (西から)



D 29号土坑 (南から)



D 30号土坑 (北から)



D 31号土坑 (北から)



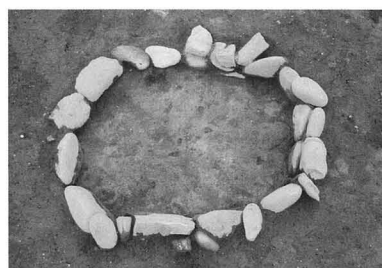
D 32号土坑 (北から)



D 33・34・35号土坑 (西から)



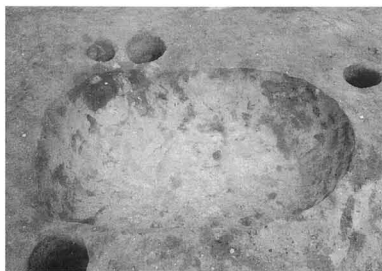
D 36号土坑 (南から)



D 36号土坑 (北から)



D 39号土坑 (南から)



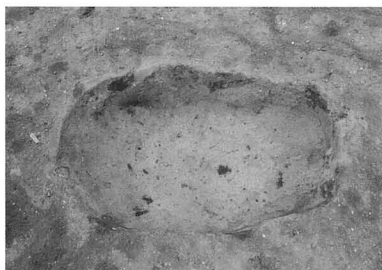
D 40 号土坑 (南から)



D 41 号土坑 (北から)



D 44 号土坑 (西から)



D 45 号土坑 (北から)



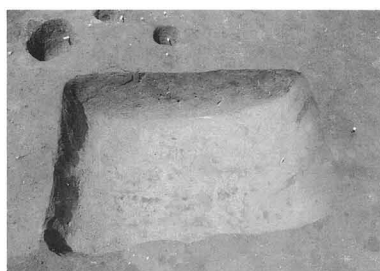
D 46 号土坑 (西南から)



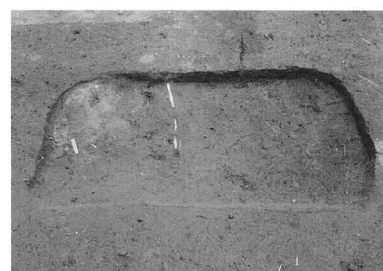
D 47 号土坑 (北から)



D 48 号土坑 (西から)



D 49 号土坑 (南から)



D 50 号土坑 (北東から)



D 51 号土坑 (北東から)



D 52 号土坑 (東から)



D 53 号土坑 (東から)



D 54 号土坑 (東から)



D 55 号土坑 (南西から)



D 56 号土坑 (北東から)



D 57 号土坑 (東から)



D 58 号土坑 (東から)



D 59 号土坑 (東から)



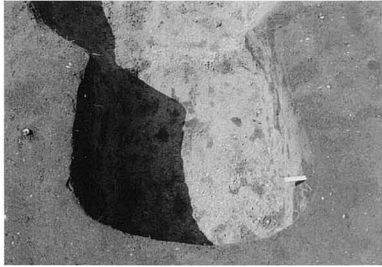
D 60 号土坑 (東から)



D 61 号土坑 (東から)



D 62 号土坑 (南から)



D 63 号土坑 (北から)



D 64 号土坑 (北から)



D 65 号土坑 (北から)



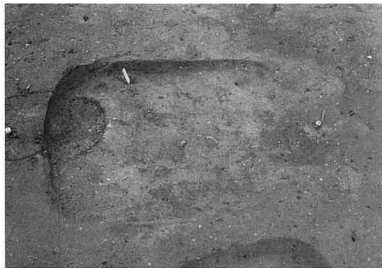
D 66 号土坑 (東から)



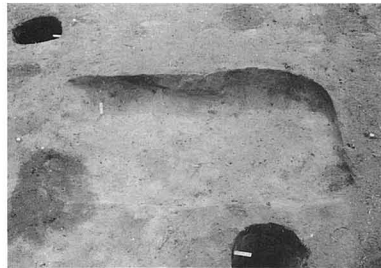
D 67 号土坑 (東から)



D 68 号土坑 (東から)



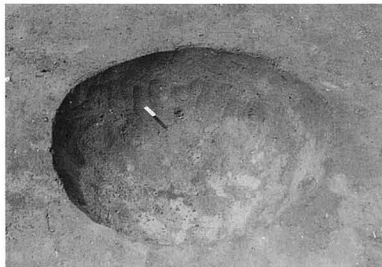
D 69 号土坑 (東から)



D 70 号土坑 (東から)



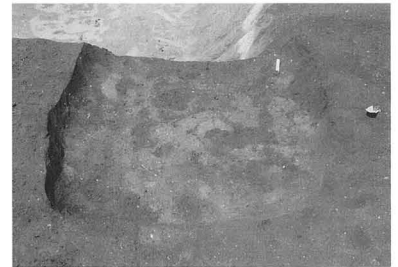
D 71 号土坑 (南から)



D 72 号土坑 (北から)



D 73 号土坑 (東から)



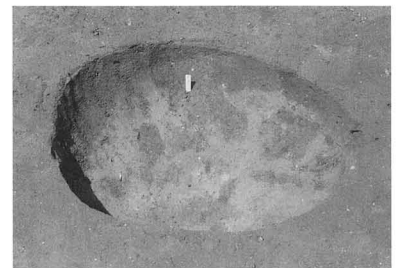
D 74 号土坑 (南から)



D 75 号土坑 (東から)



D 76 号土坑 (東から)



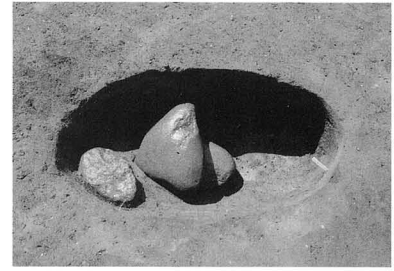
D 77 号土坑 (南から)



D 78 号土坑 (南から)



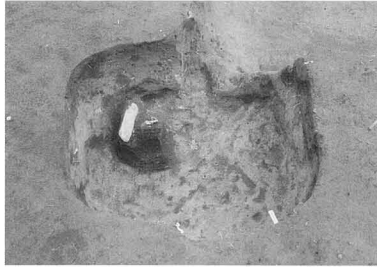
D 79 号土坑 (東から)



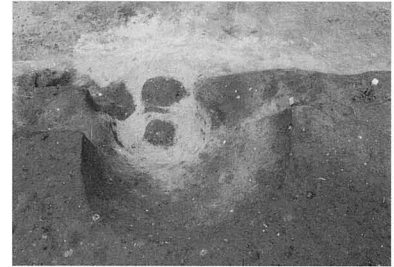
D 80 号土坑 (西から)



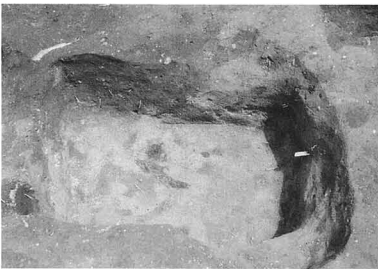
D 82 号土坑 (西から)



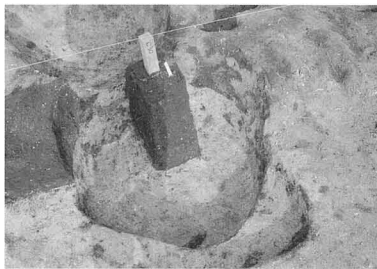
D 85 号土坑 (南から)



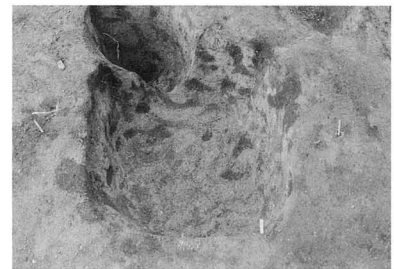
D 86 号土坑 (南から)



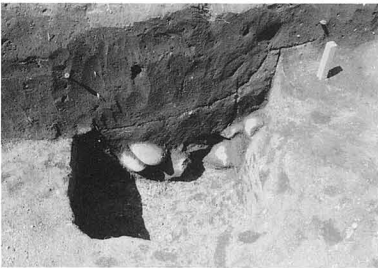
D 87 号土坑 (南から)



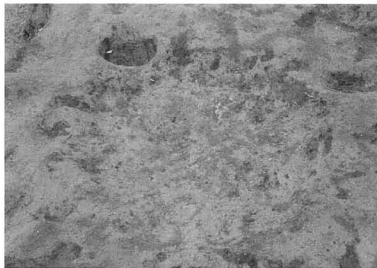
D 89 号土坑 (西から)



D 91 号土坑 (南から)



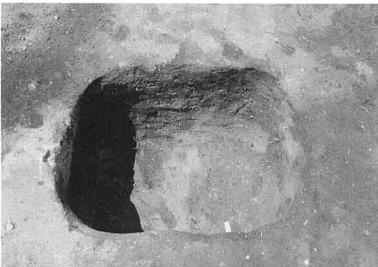
D 92・95 号土坑 (南から)



D 93 号土坑 (北から)



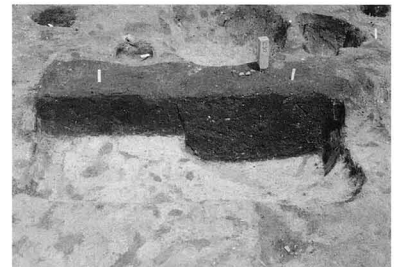
D 96 号土坑 (東から)



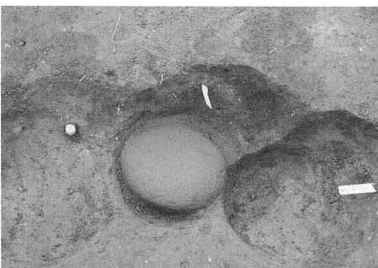
D 97 号土坑 (北から)



D 81・83 号土坑 (東から)



D 89・90 号土坑 (西から)



P 275 (東から)



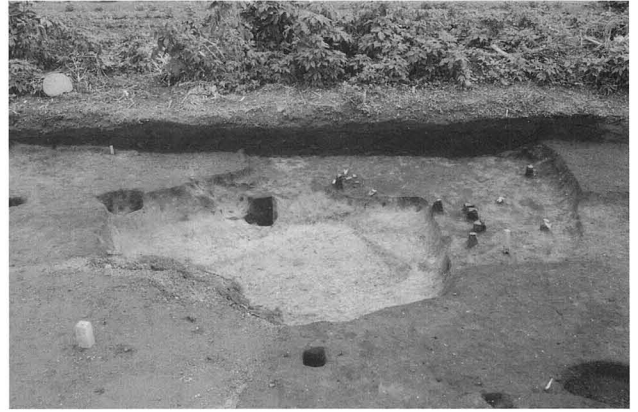
P 282 (南から)



P 362 (南から)



M5号溝址 (北から)



H17号住居址? (北から)



ピット群 (北から)



ピット群 (西から)



ピット群 (西から)



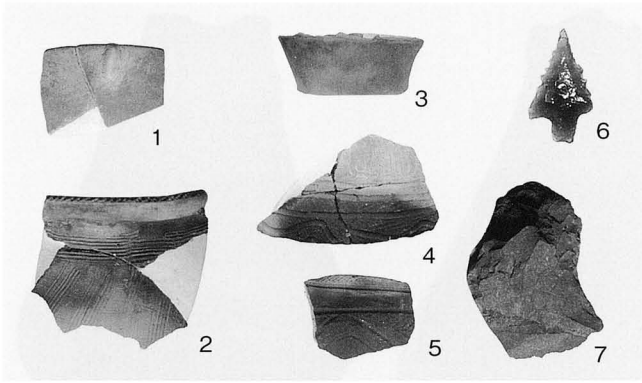
ピット群 (南西から)



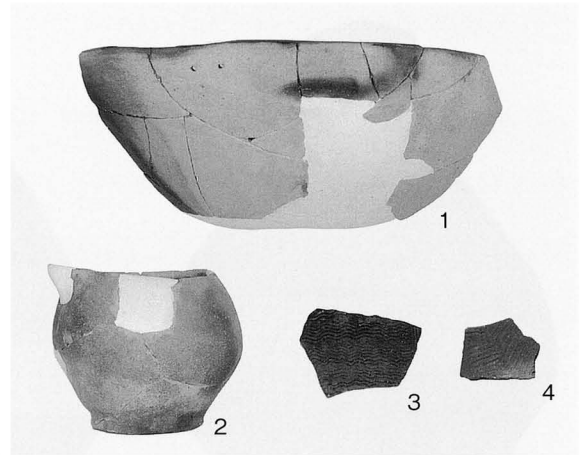
平成21年度調査区 (東から)



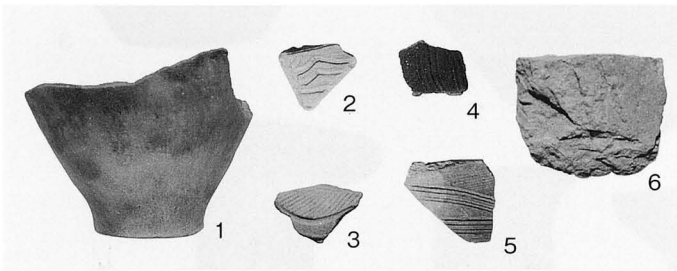
平成22年度調査区 (東から)



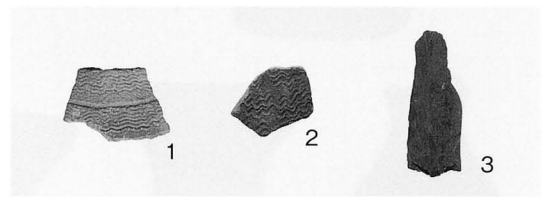
H 2 号住居址の遺物



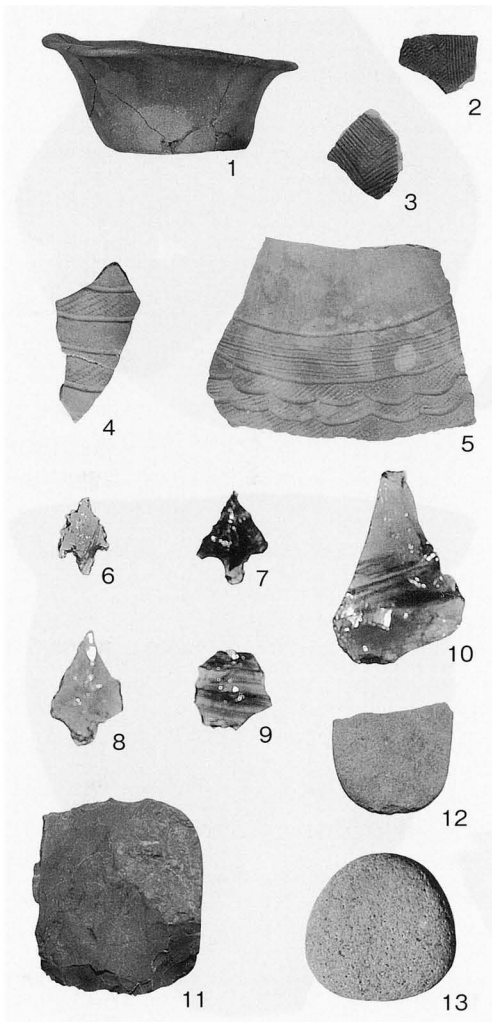
H 6 号住居址の遺物



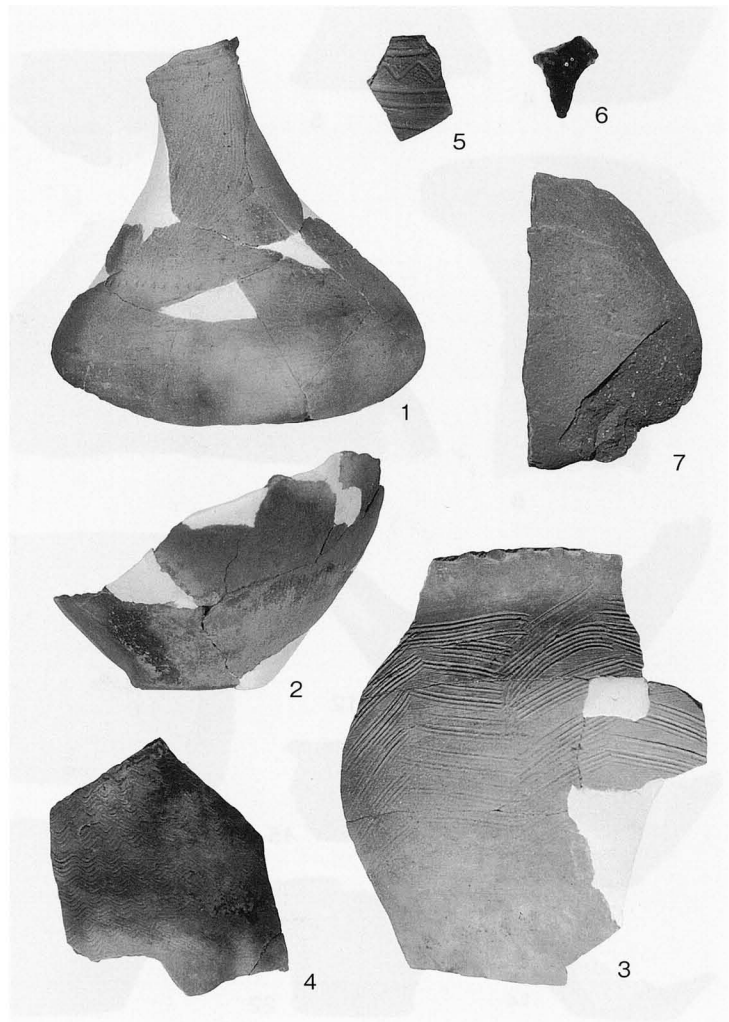
H 9 号住居址の遺物



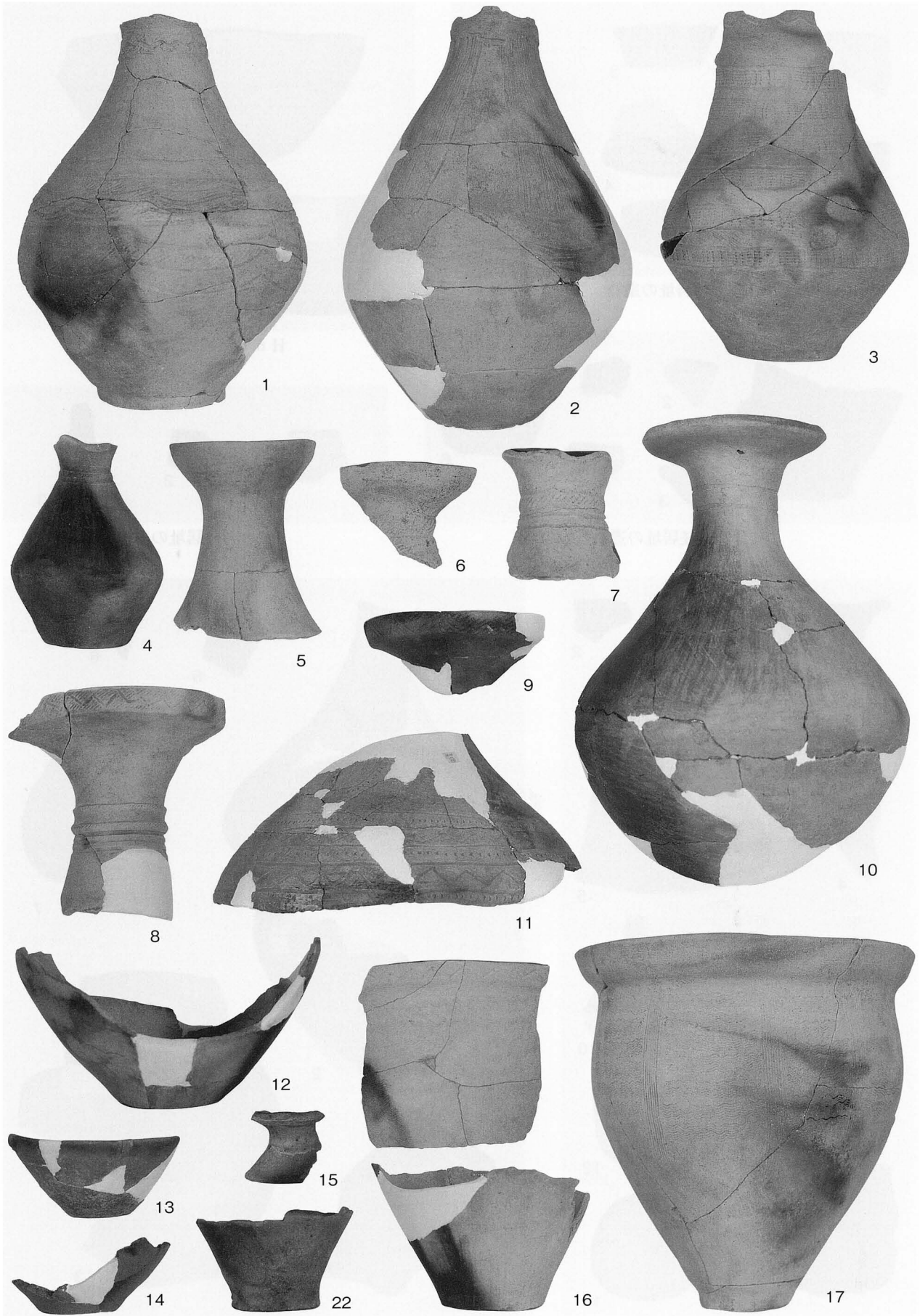
H 8 号住居址の遺物



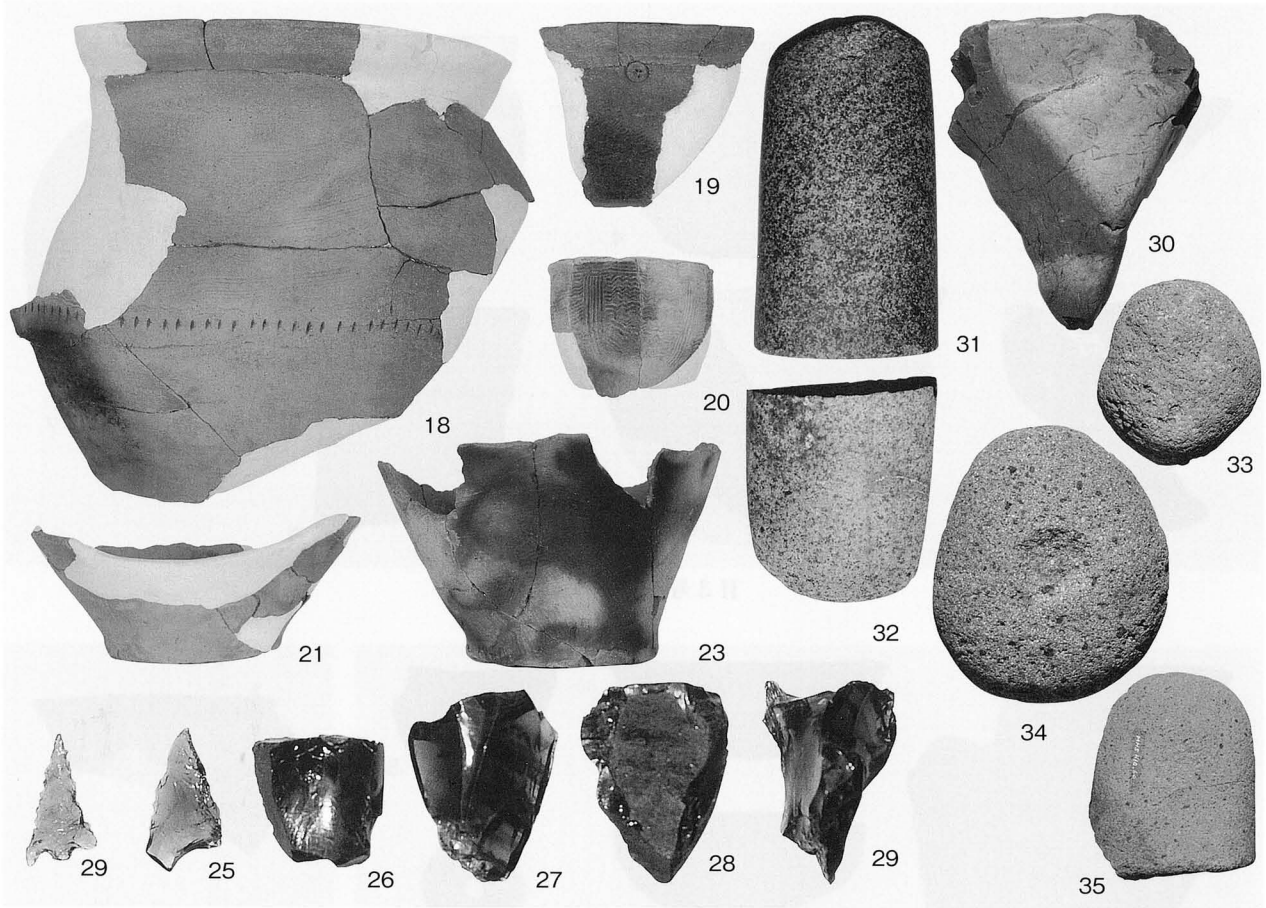
H 11 号住居址の遺物



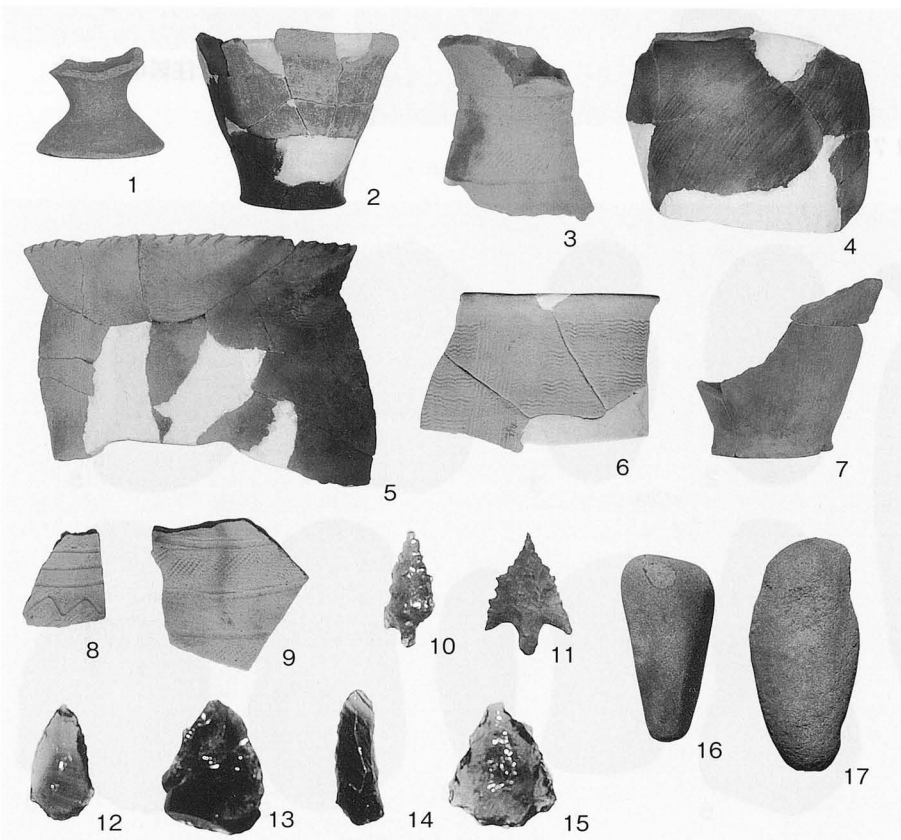
H 15 号住居址の遺物



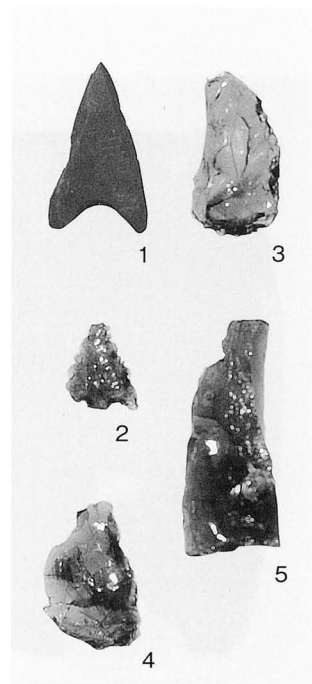
H 10 号住居址の遺物 (1)



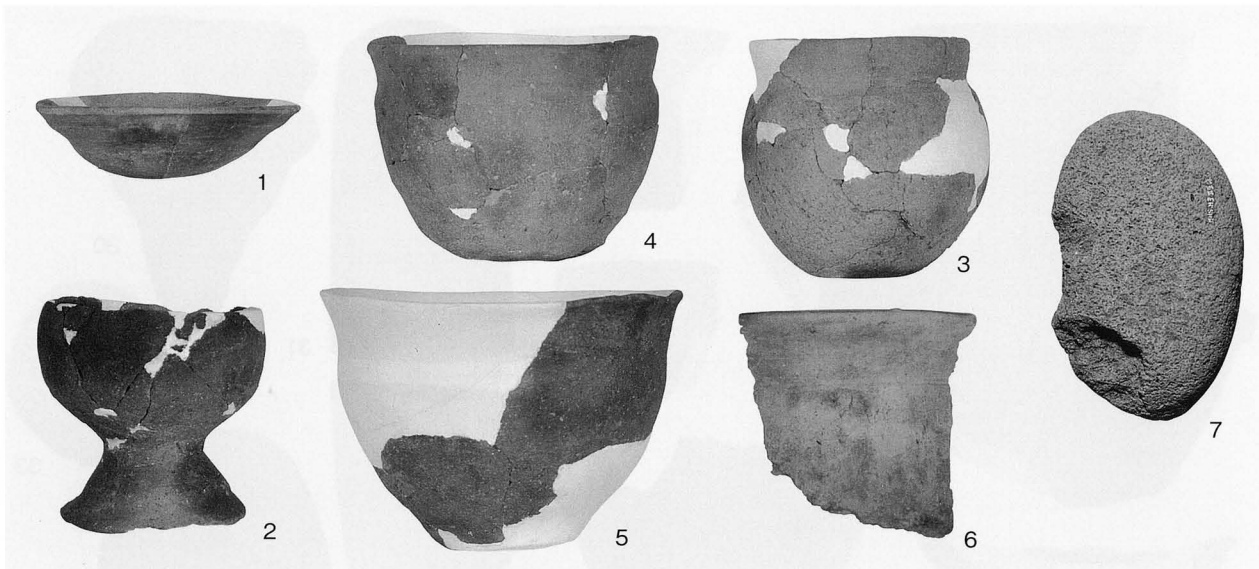
H 10 号住居址の遺物 (2)



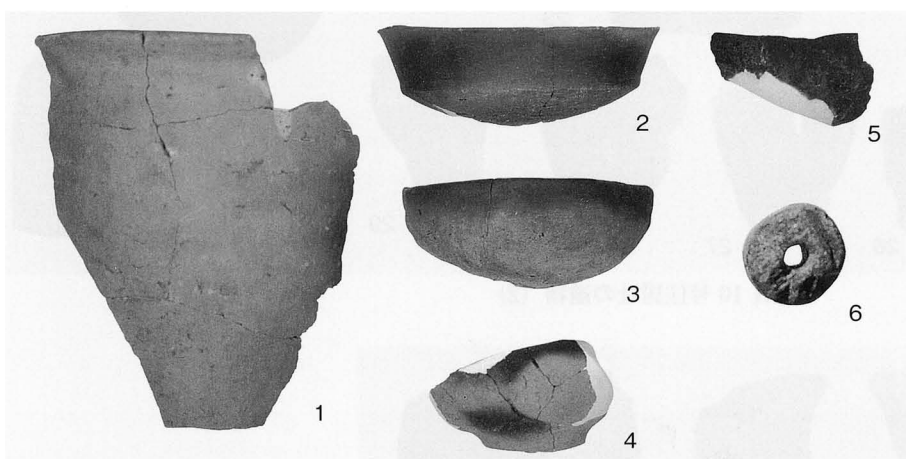
H 18 号住居址の遺物



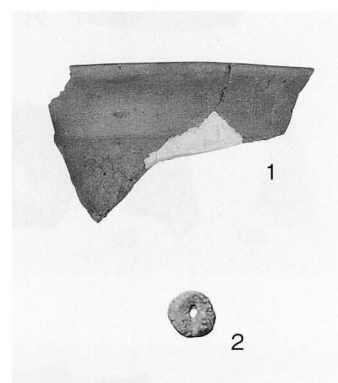
H 19 号住居址の遺物
弥生時代の黒曜石製石器



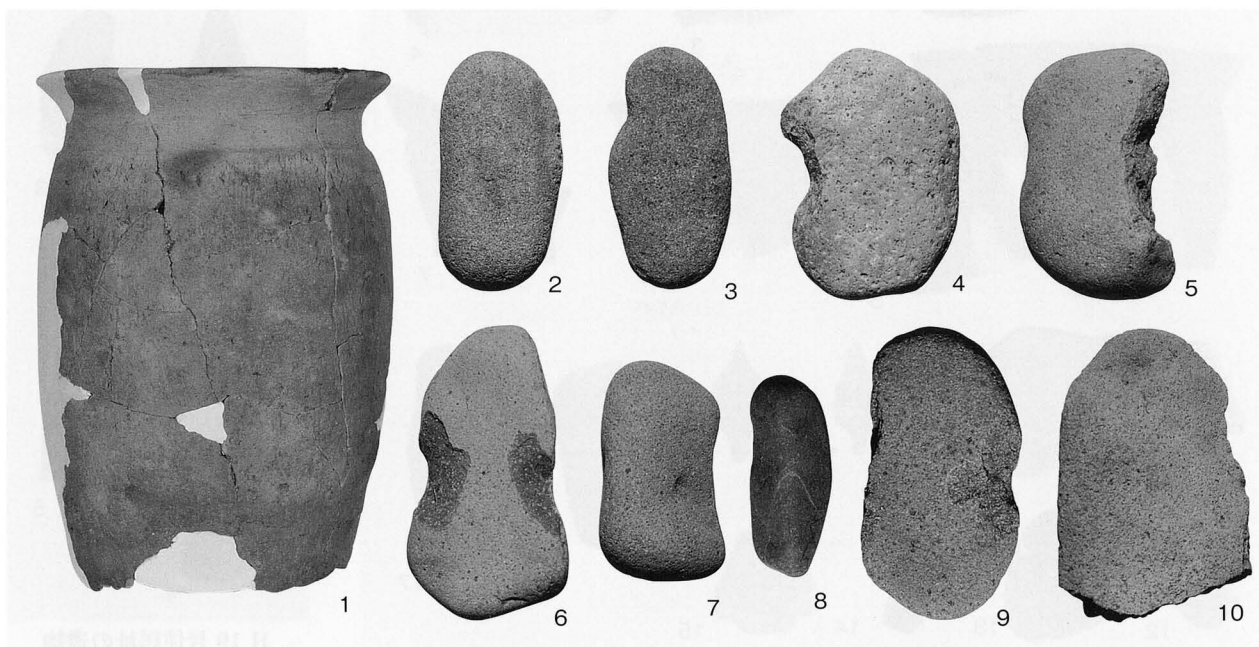
H 3 号住居址の遺物



H 7 号住居址の遺物



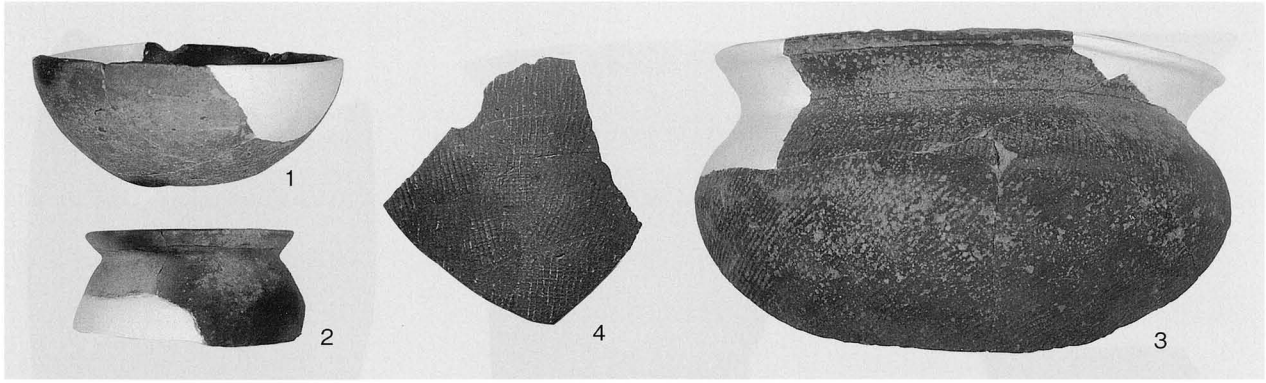
H 12 号住居址の遺物



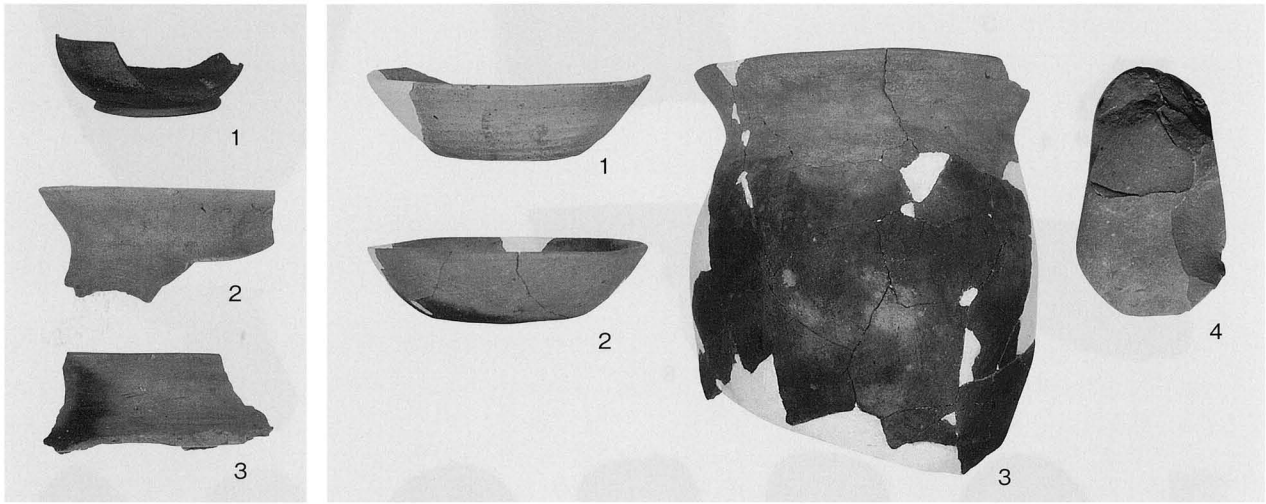
H 16 号住居址の遺物



H 13 号住居址の遺物

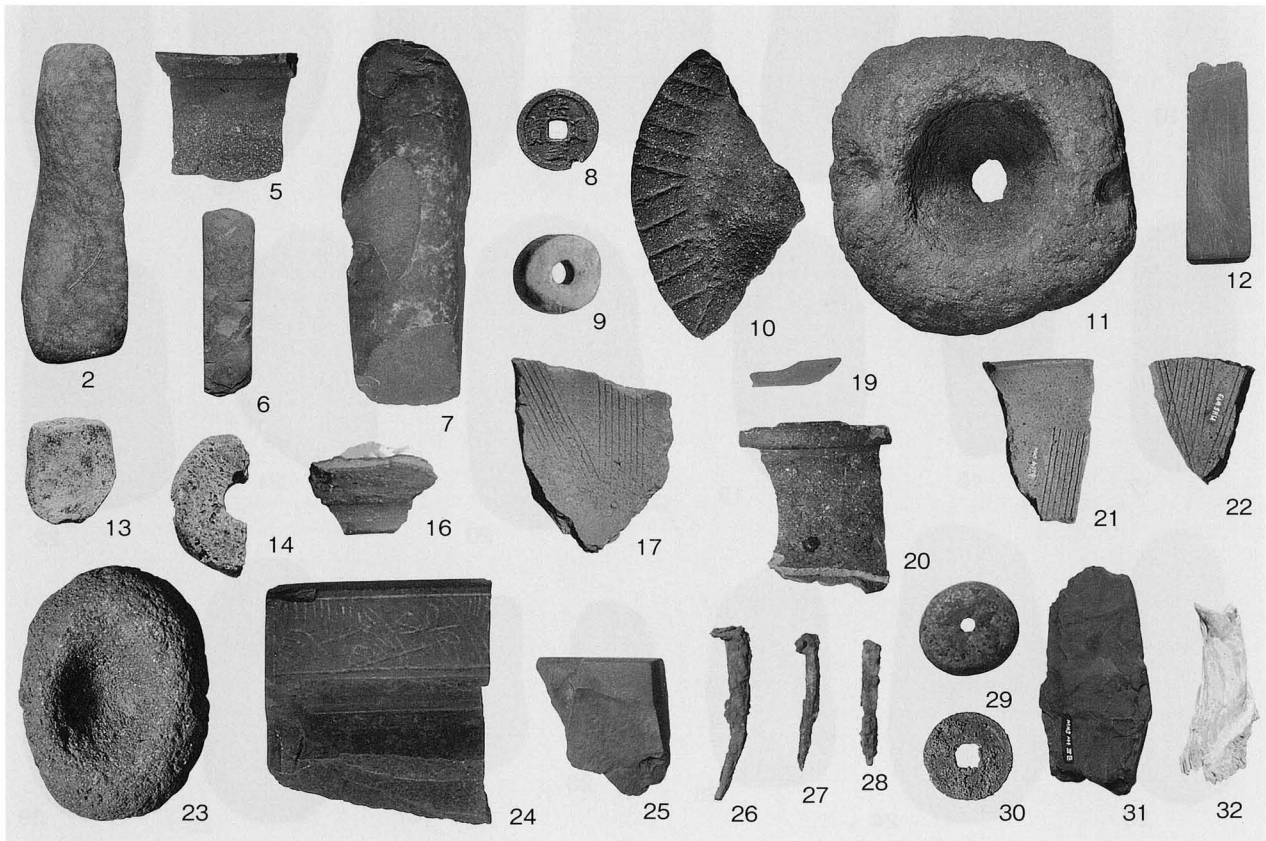


H 14 号住居址の遺物



H 5 号住居址の遺物

H 4 号住居址の遺物



竪穴状遺構・土坑・井戸・ピット・溝址の遺物

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第186集

白山遺跡群 下原遺跡

長野県佐久市三河田・横和下原遺跡発掘調査報告書

2011年3月25日

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社 佐久印刷所

報 告 書 抄 録

| | |
|-------------|--|
| ふりがな 書名 | はくさんいせきぐん しもはらいせき 白山遺跡群 下原遺跡 |
| シリーズ名 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第186集 |
| 編著者名 | 上原 学 須藤隆司 |
| 編集・発行機関 | 佐久市教育委員会 社会教育部 文化財課 |
| 発行年月日 | 2011.3.25 |
| 郵便番号 | 385-0006 |
| 電話番号 | 0267-68-7321 |
| ふりがな 住所 | ながのけんさくししが 長野県佐久市志賀5953 |
| ふりがな 遺跡名 | しもはらいせき 下原遺跡 |
| 遺跡所在地 | 佐久市三河田字下原454-1、569-1、569-2、568-2 佐久市横和字下原1011-1、1011-4、1012-9、1012-10 |
| 遺跡番号 | 佐久市 230 |
| 北緯 | 36度15分08秒 |
| 東経 | 138度26分39秒 |
| 調査期間 | 平成20年1月25日～平成23年3月25日 |
| 調査面積 | 1,733.42㎡ |
| 調査原因 | 市道S14-18号線(今井北)改良 |
| 種別 | 集落跡 |
| 主な時代 | 弥生～奈良・中世 |
| 遺跡概要 | 竪穴住居址:弥生時代中期、古墳時代前期・後期、奈良時代 竪穴状遺構・土坑群・柱穴群・井戸:中世 |
| 特記事項 | 弥生時代中期後半の集落、古墳時代前期の土器群、中世の遺構群 |

